



LOCATION RECORDER  
Model **PD606**



---

取扱説明書

---

**Fostex**<sup>®</sup>

# 安全上のご注意

ここでは、本機をご使用になる上での安全に関する項目を記載してあります。あなたや他の人々へ与える危害や、財産などへの損害を未然に防止するため、ここに記載されている事項をお守りいただくものです。本機をご使用前には必ずお読みください。



## 警告

この表示の欄に記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



## 注意

この表示の欄に記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示について

本書、および製品の表示には、あなたや他の人々へ与える危害や財産の損害を未然に防ぎ、本機を安全にご使用いただくために、警告または注意を促す絵表示を使用しています。これらの絵表示の意味をよく理解してから本書をお読みください。

### 絵表示の例



記号は、注意しなければならない内容（警告も含まれます）を示しています。具体的な注意事項は の中や近くに絵や文章で示しています（上図の例は「感電注意」を示しています）。



＼記号は、禁止内容（してはいけないこと）を示しています。具体的な禁止事項は＼の中や近くに絵や文章で示しています（上図の例は「分解禁止」を示しています）。



記号は、強制内容（必ずすること）を示しています。具体的な強制事項は の中や近くに絵や文章で示しています（上図の例は「電源プラグをコンセントから抜く」を示しています）。



## 警告

異常が発生した場合	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>万一、煙りが出ている、変なにおいや音があるなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常がなくなったことを確認して販売店または当社営業窓口へ修理の依頼をしてください。お客様ご自身での修理は大変危険ですので、絶対にお止めください。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>万一、機器内部に水や異物が入った場合には、すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて販売店または当社営業窓口へ修理の依頼をしてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>ACアダプタの電源コードの断線、芯線の露出など、コードが傷んだ場合には、販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>万一、機器を落としたり、カバーを破損した場合には、すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。</p> </div> <div style="background-color: #eee; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <h3 style="margin: 0;">設置する場合</h3> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>機器本体に直接水のかかる場所には置かないでください。火災・感電の原因になります。特に屋外での使用（雨天、降雪時、海岸、水辺）にはご注意ください。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>製品本体の上に花瓶、コップや水などの入った容器、または小さな金属物類を置かないでください。何らかの理由で水がこぼれたり、中に金属物が入ったりした場合、火災・感電の原因になります。</p> </div>

使用する場合	
	本機の分解・修理・改造は絶対にしないでください。また、本体カバーは絶対に外したりしないでください。火災・感電の原因になります。
	雷が鳴り出したら、ACアダプタの電源プラグには絶対手を触れないでください。感電の原因になります。
	ACアダプタの電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードが傷付いて火災・感電の原因になります。
	ディスク・トレイを開けると、可視または不可視レーザー光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないでください。
	ACアダプタの電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、あるいは加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因になります。
	機器本体または取扱説明書に記載されている電源電圧以外の電圧では使用しないでください。なお、ACアダプタの電源プラグは電源コンセントに確実に差し込んでご使用ください。火災・感電の原因になります。
	

## ⚠ 注意

設置する場合	
	油煙や湯気の当たるような場所、あるいは湿気やホコリの多いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
	ACアダプタの電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	本機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
	窓を閉め切った車の中や、直射日光が長時間当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。
	この製品は精密な部品でできています。製品を運ぶときなどは、必ず二人以上で慎重に行ってください。
	本機を移動する場合には、電源スイッチを切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて、接続されている外部機器の接続ケーブルを外してから行ってください。コードが傷付き、火災・感電の原因となることがあります。
使用する場合	
	本機に他のオーディオ機器を接続する場合には、必ず本機および接続する機器の電源を切り、接続する機器の説明書をよく読んで、説明に従って正しく接続してください。また、接続に使用するケーブルなどは指定されたケーブルを使用してください。
	本機の電源を入れる前には音量（ボリュームなど）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害の原因となることがあります。
	本機を長期間（一ヶ月以上）使用しない場合には、安全のため必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。接続したままにしておくと、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手でACアダプタの電源プラグの抜き差しはしないでください。感電の原因となることがあります。
	電源が入った状態で、本機を布やふとんなどで被ったりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。
	大きなモニター音を長時間ヘッドフォンでモニターするのはお止め下さい。聴力障害の原因となることがあります。
製品をお手入れする場合	
	本機をお手入れする場合には、安全のためACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグを差し込んだまま行くと、感電の原因となることがあります。
	5年に一度位は、機器内部の清掃が必要です。販売店または当社営業窓口へご相談ください。長期間掃除しないと内部にホコリがたまり、そのまま使用すると火災・感電の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨時期の前に行うと、より効果的です。
その他のご注意	
	本機の近くで携帯電話を使用すると、機器にノイズが入ることがあります。携帯電話のご使用は、本機から離れた場所で行ってください。
	この製品をラジオやテレビの近くで使用すると、ノイズや雑音が生じることがあります。このような場合には、本機をラジオやテレビから離してご使用ください。

# 目次

はじめに.....	11
ご使用になる前の注意.....	11
設置上のご注意.....	13
アフターサービスについて.....	14

## 第1章 製品の概要.....15

製品の主な特徴 / 機能.....	16
梱包内容.....	19
専用オプションと関連機器.....	19

## 第2章 ご使用になる前に.....21

電源の準備.....	22
バッテリーの取り付け.....	23
バッテリー使用時の重要な設定.....	24
バッテリーの消費順位を設定(複数バッテリー使用時に設定が必須です).....	24
ワーニング電圧の設定.....	24
メイン電源の消費順位を設定(バッテリーとDC-IN双方の使用時に必須).....	25
プロテクターの調整.....	25
バッテリーの消耗を抑えるために.....	26
バッテリーの残量表示.....	26
バッテリーの取り外し.....	27
DC-INの使用(ACアダプタの接続).....	28
DC-IN使用時の重要な設定.....	28
ワーニング電圧の設定.....	28
メイン電源の消費順位を設定(DC-INとバッテリー双方の使用時に必須).....	28
パワー・オン.....	29
ディスプレイのバックライト点灯 / コントラスト調整.....	30
バックライトの点灯.....	30
コントラストの調整.....	30
パワー・オフ.....	30
内蔵時計の設定.....	31
DVD-RAMディスクの準備.....	33
ディスクの挿入.....	33
DVD-RAMディスクの初期フォーマット.....	34
内蔵HDDの交換.....	37

<b>第3章 各部の名称と機能</b> .....	<b>39</b>
左サイド・パネル部(入出力).....	40
右サイド・パネル部(入出力).....	42
フロント・パネル部.....	45
トップ・パネル部.....	53
リア・パネル部.....	55
LCDディスプレイ部の詳細.....	56
Home画面.....	56
その他の表示例.....	59
<b>第4章 基本接続</b> .....	<b>61</b>
<b>入力信号の接続</b> .....	<b>62</b>
アナログ・オーディオ信号の接続.....	62
デジタル・オーディオ信号の接続.....	63
外部タイムコードの接続.....	63
外部同期信号の接続.....	63
<b>出力信号の接続</b> .....	<b>64</b>
アナログ出力信号の接続.....	65
デジタル出力信号の接続.....	65
タイムコード出力の接続.....	65
同期出力信号の接続.....	65
STEREO BUS出力の接続.....	65
<b>その他の接続</b> .....	<b>66</b>
USBキーボードの接続.....	66
PCの接続.....	68
外部コントローラの接続.....	68
電源の接続.....	69
<b>接続応用例</b> .....	<b>70</b>
収録時の接続列(1).....	70
収録時の接続列(2).....	71

<b>第5章 記録 / 再生</b> .....	<b>73</b>
<b>記録前の準備</b> .....	<b>74</b>
クイック・セットアップ・モードの設定.....	74
クイック・セットアップ・モードの設定手順.....	74
LTC(または外部TC)のフレーム・レート設定(“ <b>FRAME</b> ”表示部).....	75
システムの動作クロック設定(“ <b>CLK</b> ”表示部).....	75
サンプリング周波数 / 量子化ビット数の設定(“ <b>FS/BIT</b> ”表示部).....	76
TCの記録モード設定(“ <b>TC/EM</b> ”表示部).....	76
クロックのプルアップ / ダウン設定(“ <b>UP/DW</b> ”表示部).....	76
メイン電源の設定(“ <b>POWER</b> ”表示部).....	77
MENUモードの設定.....	77
記録ソースの設定.....	77
プリ・フェーダー / ポスト・フェーダーの設定.....	77
デフォルト・ファイルネームの設定.....	78
ファイルの最大記録容量の設定.....	78
パーティションへの連続記録機能の設定.....	78
エラー・トーン出力の設定.....	78
ミキサー部の設定.....	79
入力信号の選択.....	79
ハイパス・フィルターの設定.....	80
リミッターの設定.....	80
チャンネル1 ~ 6の入力ゲインの調整.....	81
位相の切り換え.....	83
ステレオ・バスL/Rの調整.....	83
録音信号のモニタリング.....	84
入力チャンネルのSAFE/READY(記録トラックの選択).....	85
記録するドライブの選択.....	86
<b>アナログ・オーディオ信号の記録</b> .....	<b>87</b>
記録の開始.....	87
記録中のオーバー・ロードについて.....	88
記録のやり直し (FALSE STARTの実行).....	88
PRE RECモード“ ON ”による記録.....	89
スレート・トーン / スレート・マイクの記録.....	90
<b>デジタル・オーディオ信号の記録</b> .....	<b>91</b>
記録ソースの設定.....	91
サンプリング周波数 / BITレートの設定.....	91
システム・クロックの設定.....	91

<b>タイムコードの記録</b> .....	<b>92</b>
TCフレーム・レートの設定.....	92
TCジェネレート・モード( TCの記録モード )の設定.....	92
外部TC入力による自動記録機能の設定.....	93
TC出力の設定.....	93
<b>外部TCへのフォース・ジャム</b> .....	<b>94</b>
<b>CUEポイントの記録</b> .....	<b>95</b>
記録中、リアルタイムにCUEポイントを記録.....	95
記録したCUEポイントの確認.....	95
CUEポイントの編集.....	96
CUEラベルのエディット.....	96
CUEポイントのタイム・データをエディット.....	96
不要なCUEポイントの削除.....	97
CUEポイント・リストに新たなCUEポイントを記録.....	97
<b>再 生</b> .....	<b>98</b>
通常の再生.....	98
キュー・モードによる再生.....	99
タイムコードの再生.....	99
<b>スキップ/ロケート機能</b> .....	<b>100</b>
ファイル単位のスキップ.....	100
CUEポイントのスキップ.....	100
ファイルの先頭( ABS 0 )へロケート.....	101
ファイルの最終記録位置( REC END )へロケート.....	101
一番最後にロケートした位置へ再ロケート.....	101
任意のタイム・データを入力してロケート.....	102
任意のCUEポイントを選択してロケート.....	103

## **第6章 応用編**..... **105**

<b>オート・コピー</b> .....	<b>106</b>
パーティションの選択.....	106
オート・コピー・モードの設定.....	107
オート・コピーの実行.....	108
<b>ディスク・コピー</b> .....	<b>109</b>
コピー元のドライブ選択.....	109
ディスク・コピーの実行.....	110

<b>ファイル・コピー</b> .....	<b>112</b>
コピー元のドライブ選択.....	112
ファイル・コピーの実行.....	113
<b>デュアル・ドライブ・レコーディング機能</b> .....	<b>115</b>
“DDR”モードのフォーマット.....	115
デュアル・ドライブ・レコーディングの実行.....	117
<b>パソコンへのインポート</b> .....	<b>118</b>
パソコンとの接続方法.....	119
取り外し方法.....	119
ハードディスクへのコピー例.....	120
コンピュータ・ソフトへのインポート例.....	120

## **第7章 ALEファイルの作成と編集..... 123**

<b>新たなALEファイルの作成</b> .....	<b>124</b>
<b>ALEファイルにオーディオ・ファイルをエントリー</b> .....	<b>127</b>
<b>エントリーしたオーディオ・ファイルの確認 / 編集</b> .....	<b>129</b>
エントリーしたオーディオ・ファイルの確認.....	129
オーディオ・ファイルの追加エントリー.....	130
不要なオーディオ・ファイルの削除.....	130
<b>ALEファイルの編集</b> .....	<b>131</b>
ALEファイルのファイル・ネームをエディット.....	131
ALEファイルのリメイク.....	132
不要になったALEファイルの削除.....	133

## **第8章 MENUモード..... 135**

<b>MENUモードについて</b> .....	<b>136</b>
<b>SYS SETUPメニュー</b> .....	<b>138</b>
プロジェクト・ネームの設定( Set project name ).....	139
デフォルト・ファイル・ネームの設定( Default file name ).....	140
デフォルト・トラック・ネームの設定( Default TrkName ).....	142
NEXTイベント・ナンバーの設定( Next event No ).....	143
記録時のFS/BITレートの設定( Record FS&Bit ).....	144
クロックのPull Up/Downの設定( Pull up/down ).....	145
記録ソースの設定( Rec source sel ).....	146

デジタル出力信号のフォーマット設定( Digital out ).....	147
DiagnosesのOn/Off設定( Diagnoses ).....	148
ピーク・ホールド時間の設定( Peak hold ).....	149
スレート・トーン / ポップ・トーンの記録設定( Tone rec mode ).....	150
ポーズ時間の設定( Pause time ).....	152
USBキーボード・タイプの設定( Keyboard sel ).....	153
プリ・レコーディング時間の設定( Pre rec time ).....	154
ファイルの最大記録容量設定( Max file length ).....	155
連続記録機能のOn/Off設定( Auto part. link ).....	156
False Start機能の設定( False start ).....	158
リミッターのパラメータ設定( Limiter parameter ).....	159
ST BUS OUTの基準出力レベル設定( Stereo out level ).....	161
モニター信号のアサイン( Monitor custom ).....	162
モニター・スピーカのミュートOn/Off設定( Speaker mute ).....	164
エラー・トーン出力の設定( Error tone ).....	165
チェーンプレイ・モードの設定( Chain play ).....	168
プリ・フェーダー / ポスト・フェーダーの設定( Disk Feed ).....	169
システム・バージョンの確認( Version ).....	170
<b>BATTERY SETUPメニュー.....</b>	<b>171</b>
バッテリーのワーニング電圧設定( BATT. warning ).....	172
DC-INのワーニング電圧設定( DC-IN warning ).....	173
電源の消費優先順位を設定( POWER priority ).....	174
バッテリーの消費順を設定( Active BATT ).....	175
バッテリーの運用例.....	176
ワーニング電圧に達するまでの残時間を表示( BATT. Remain ).....	178
バッテリーの各種情報を表示( BATT. status ).....	179
<b>TC SETUPメニュー.....</b>	<b>180</b>
システムの動作クロック設定( Sync clock ).....	181
TCフレーム・レートの設定( Frame rate ).....	182
内蔵TCジェネレータのジェネレート・モード設定( Gen mode ).....	183
内蔵TCジェネレータのエディット( Set Gen TC ).....	184
出力TCのUBIT設定( Set Gen Ubit ).....	186
ジャム・モードの設定( JAM mode ).....	188
出力TCのソース設定( Sel. TC Out ).....	189
デフォルトLTCスタート時間の設定( Default LTC start ).....	190
LTCスタート時間のエディット( Edit LTC start ).....	191

再生TCのUBIT設定( Rep TC Ubit ).....	192
ポーズ時のTC出力設定( Rep pause TC ).....	193
外部TCによる自動記録のOn/Off設定( Recln via ExtTc ).....	194
内蔵TCジェネレータのOFFタイマー設定( TC PWR Timer ).....	195
<b>DISK UTILITYメニュー.....</b>	<b>196</b>
ファイル・ネームのエディット( Edit file name ).....	197
ファイル情報の確認とエディット( File info. ).....	198
Sound Sequence情報の編集.....	200
Sound Sequence情報の追加.....	200
Sound Sequence情報の削除.....	200
iXLM Chunkデータ情報の確認.....	201
iXLM Chunkデータ情報の編集.....	201
不要なオーディオ・ファイルの削除( Delete file ).....	202
削除したオーディオ・ファイルの復活( Restore Del. file ).....	203
ディスク(またはパーティション)のフォーマット( Format ).....	204
リール・ナンバーのエディット( Reel No ).....	208
記録禁止のOn/Off設定( Rec protect ).....	209
レジューム機能のOn/Off設定( Resume ).....	210
パーティションのプロテクト設定( Part. protect ).....	211
内蔵HDDのオペレーション時間表示( HDD Ope. Time ).....	212
<b>LOAD SETUPメニュー.....</b>	<b>213</b>
<b>SAVE SETUPメニュー.....</b>	<b>214</b>
<b>第9章 製品の主な仕様.....</b>	<b>215</b>
入出力.....	216
記録 / 再生.....	217
一 般.....	217
外観図.....	218
ブロック・ダイヤグラム.....	219
索 引.....	220

## はじめに

この取扱説明書は、フォステクス Location Recorder Model PD606 をご使用いただくためのガイド・ブックです。

本書の記載内容は、業務用デジタル・レコーダの使用経験と基礎知識がおりになる方々を対象に書かれています。したがって、本書の「第1章 製品の概要」および「第3章 各部の名称と機能」をお読みいただければ、PD606のおおよその使用方法がお分かりいただけるよう、簡潔にまとめてあります。

特に、「第3章 各部の名称と機能」では、各部の説明とともに参照ページを記載してありますので、詳細な説明を必要とするインデックスとしてもご利用いただけます。

また、「第2章 ご使用になる前の準備」には、PD606を初めてご使用になるために必要な「電源に関する事項」、「DVD-RAMディスクの初期フォーマット」などについて記載しています。

## ご使用になる前の注意 (冒頭記載の「安全上のご注意」と、併せてお読みください)

本機の電源をACコンセントから供給する場合には、必ず当社指定のACアダプタをご使用ください。指定以外のACアダプタをご使用になった場合、本機の十分な性能が得られないばかりか、本機を壊す恐れがありますのでご注意ください。

ACアダプタは、日本国内(AC100V電源仕様)でのみ使用できます。電源電圧の異なる地域でご使用になる場合は、弊社サービス部門(042-546-3151、FAX. 042-546-3198)へご相談ください。なお、ACアダプタは電源周波数50Hz、60Hzいずれの地域でもご使用になれます。

本機には、定格以外の電源電圧を供給しないでください。

バッテリーは、IDXのエンデューラ・バッテリーをご使用ください。

\*IDX、IDX(ロゴ)、ENDURA、V-Mount、V-Plate、Digi-View、i-Traxは、アイ・ディー・エクス社の登録商標です。

バッテリーの取り付け/交換や、ACアダプタの電源プラグを抜き差しする前には、必ず本機の主電源をオフにしてください。電源がオンになっている状態では、常にデータのやり取りを行っているため、メモリ内容を壊す恐れがあります。

記録中などDVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのアクセス中は、絶対に電源を切らないでください。電源をオフするときは、DVD-RAMディスクまたは内蔵HDDが完全に停止していることを確認してください。

記録したデータを失うことはもとより、内蔵HDDおよびDVDドライブの故障の原因となります。

**< 注意 >** : 本機を使用中に生じるあらゆるデータの消失に関しては、当社では一切の責任を負えませんのでご注意ください。

**< 注意 >** : 本機を使用して生じる「直接的損害」、「間接的損害」については、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご承知置きください。

本機の内部(特にトレイ内部)に水などの液体や可燃物、あるいはピンなどの金属類を入れないでください。万一、水などが入った場合にはすぐに電源を切り、ACアダプタの電源コードを抜いて、弊社サービス部門へご相談ください。

本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。内部回路やディスプレイ/パネルなどが破損することがあります。本機は精密機器のため、取り扱いには充分ご注意ください。

本機外装カバーを取り外したり、本機の内部に手を触れないでください。故障の原因となります。

LCDディスプレイには強い衝撃を与えないでください。LCD内部の液体は有害物質です。万一、破損流失した液晶は、なめたり吸い込んだりしないでください。手など他の皮膚に液晶が付着した場合には、速やかに水などで完全に洗い流してください。

本機は主に屋外での使用を考慮して設計されていますが、防水タイプではありません。本機に直接水のかかる場所では使用しないでください。

**<リチウム・バッテリーの交換について>**

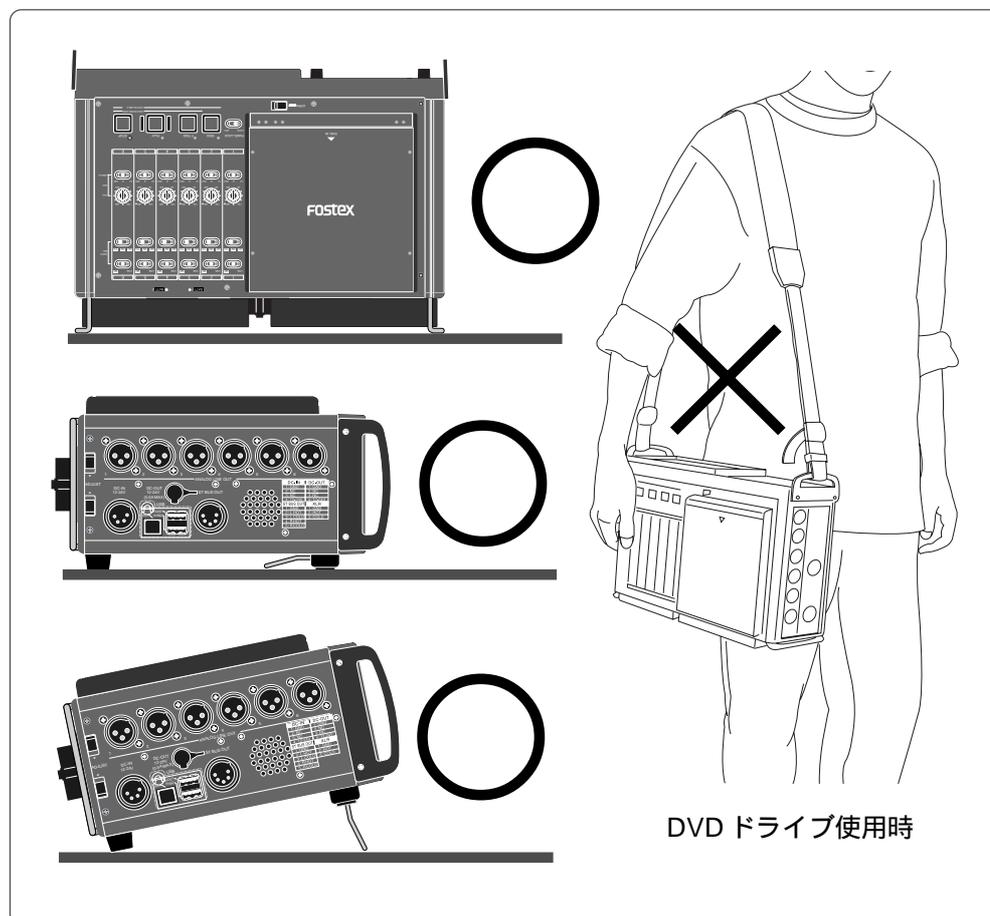
本機には内蔵時計を駆動するためのリチウム・バッテリーが内蔵されています。リチウム・バッテリーは5年を目安として交換するようにしてください。  
なお、バッテリーの交換は弊社サービス部門で行いますので、サービス部門へ依頼してください。バッテリーの交換が正常に行われないと、爆発などの危険を生じる場合がありますので、ご注意ください

**<重要>**

本機の機種名、電気定格、およびシリアル・ナンバーなどは、製品の底部に表示されています。



DVD-RAMディスクを使って記録/再生を行う場合は、本体を肩掛けベルトで吊り下げて使用しないでください(\*内蔵HDDのパーティーションに記録する場合は除きます)。DVDドライブの故障の原因となりますので、下図のように水平な場所で横または縦置きするか、高さ調整アームを使用する程度の角度でご使用ください。



## 設置上のご注意

本機を下記のような条件下では、使用しないでください。

- \* 極端に暑いところや、寒いところなど、気温の変化の激しい場所。
- \* 湿気の多い場所。
- \* 激しく振動する場所。
- \* ホコリの多い場所。
- \* 強い磁気を発生する場所、あるいは磁気を発生させる機器の傍。
- \* 長時間直射日光が当たる場所。
- \* 直接雨などの水が当たる場所。

### 結露について

極端に寒いところから急に暖かい部屋などへ本機を移動すると、結露が生じてドライブ部をはじめ、ディスプレイ/パネルなどに水滴が付くことがあります。このような場合には、移動した場所の温度になじむまで本機をしばらく放置することをお勧めします。

## アフターサービスについて

**この製品には、製品保証書は添付されていません。**

取扱説明書などと同梱されている「ユーザー登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社営業窓口へお送りください。

弊社でユーザー登録終了後、お客様へ保証書をお送りさせていただきます。

お手数ですが下記登録カードに必要事項をご記入の上、できるだけ速やかにポストへ投函いただくようお願い致します。

FOSTEX	
<p>重 要</p> <p>『ユーザー登録カード』ご記入のお願い</p> <p>本製品に保証書は同梱されておりません。本はがきをご返送頂戴。ユーザー登録を完了することで保証書が発行されるシステムになっております。 お手数ですが、下記事項（太枠内）にもれなくご記入の上なるべく早くご投函頂きますようお願い申し上げます。</p> <p><small>*ご注意 （保証書が発行されませんと、期間内の無償修理は受けられません。） この資料はコンピューターに登録され、今後のサービスフォローアップのために活用させていただきます。</small></p>	
機 種 名	シリアルNo.
ご 購 入 日	
貴 社 名	
所属部署名	
ご担当者名	
住 所	〒 _____ -----
TEL	FAX
使用目的	

保証期間中は保証書の記載内容に基づき、弊社サービス部門で修理致します。その他詳細については、お送りする保証書をご覧ください。

保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理についてご不明な点はお買い上げいただいた販売店、もしくは弊社営業窓口（ 042-546-6355, FAX. 042-546-6067 ）へご相談ください。

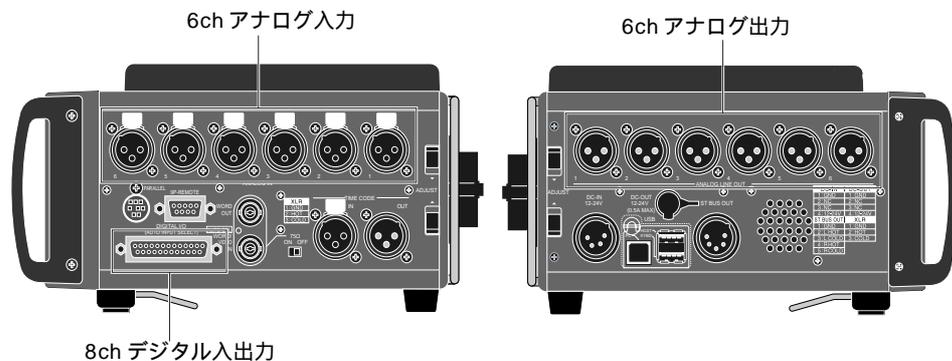
保証期間経過後でも、修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理致します。修理費用 / 期間などについては、弊社サービス部門（ 042-546-3151, FAX. 042-546-3198 ）へお問い合わせください。

この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後 6 年です。

# 第1章 製品の概要

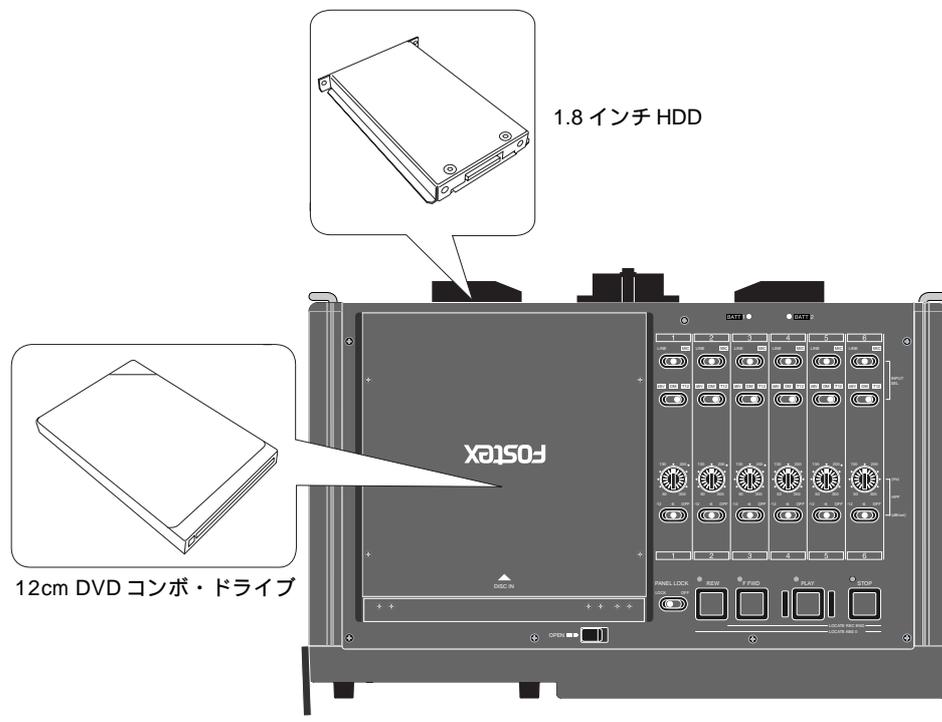
## 製品の主な特長 / 機能

6ch アナログ I/O (XLR)、8ch デジタル I/O (AES/EBU、D-sub 25pin) を搭載し、1 ~ 6 モノ・トラックの記録に加え、6 モノ・トラック + ステレオバス・トラックの最大 8 トラック同時記録が可能です (8 トラック・ポリファイル、44.1/48kHz 時)。



標準で 1.8 インチの HDD (80GB) と、12cm DVD マルチ・ドライブを搭載し、HDD のパーティションまたは DVD-RAM ディスクへの直接記録が可能。さらには、DVD-RAM ディスクと HDD のパーティション間で「オート・コピー」、「ファイル・コピー」、「ディスク・コピー」、さらには「デュアルドライブ・レコーディング」が行なえます。

内蔵 HDD は、オプションのエクスターナルHDユニット (Model EX-HD1) を使ってユーザーが交換可能。DVD マルチ・ドライブは、スロット・ローディング式を採用し、DVD-RAM、DVD-R、DVD-RW の 4.7GB カートリッジ無しタイプの使用が可能 (直接記録は DVD-RAM のみに対応) です。



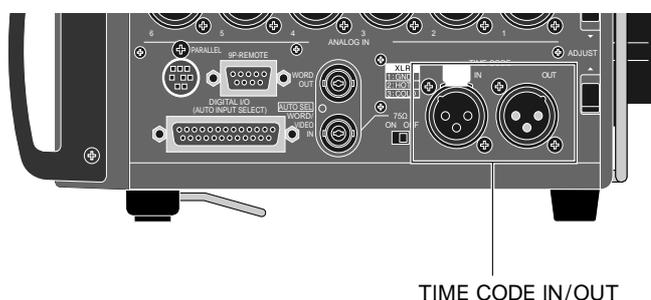
オプションの交換用エクスターナルHDユニットについては、当社営業窓口へお問い合わせください。

DVD-RAM ディスクのフォーマットには“UDF Rev1.5”を採用し、パソコンとの互換性を高次元で確保しています。

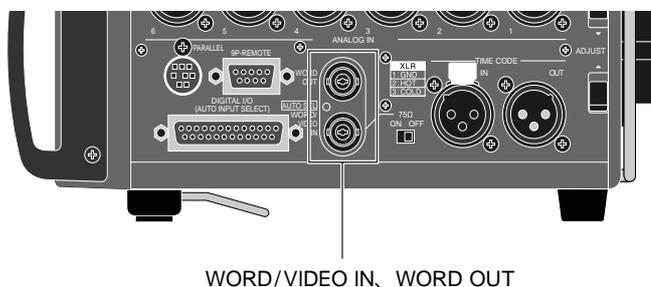
記録ファイルのフォーマットには、汎用性の高い“BWF”を採用。  
BWF 対応アプリケーションでは TC を含めたファイル・インポートが可能です。

電源には当社指定の AC アダプタ、または IDX 社製エンデューラ・バッテリー（V マウント型）に対応。バッテリーのスタック使用時では最大 4 個装着が可能です、長時間の記録に対応します。

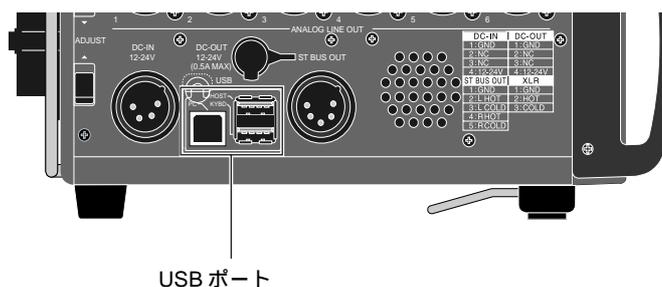
JAM 機能付内蔵ジェネレータを搭載し、内蔵ジェネレータが生成するタイムコードの記録はもとより、外部タイムコードの記録も可能にする TIME CODE 入出力コネクタ（XLR）を装備しています。



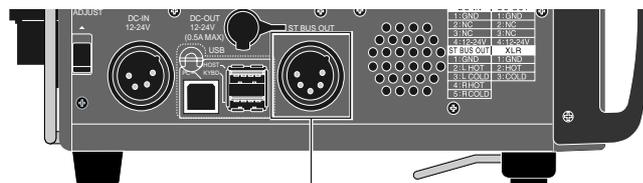
標準で WORD SYNC 機能を搭載し、外部デジタル機器との外部同期が可能です。



パソコン接続専用の [USB] ポート（USB 2.0）を装備し、ダイレクトにパソコンと接続して内蔵 HDD および DVD ドライブを PC ヘマウントが可能になります。  
また、将来拡張用の [USB HOST] ポートも標準装備しています。  
さらには、USB キーボード接続専用の [USB] ポート（USB 1.1）も装備し、ファイル・ネームやボリューム・ラベルの入力などが、USB キーボードで行なえます。



ステレオ・バス出力端子 (XLR 5pin) を装備し、1 ~ 6ch 出力 (XLR) と合わせて合計 8ch 分のアナログ出力が可能です。



ステレオ・バス出力

アナログ感覚で操作可能な 6 チャンネルのデジタル・ミキサーを搭載。  
アナログ/デジタル・オーディオ入力信号 (1 ~ 6) をステレオ・バス L, R へミックスする機能を備えています。



ミキサー・セクション

記録したオーディオ・ファイルを ALE ファイルにエンタリーすることで、AVID システムへのインポートが可能です。

オーディオ信号の記録中に、マーカーを付加する MARK/CUE 機能を搭載。  
付加した CUE ポイントを基に、速やかなロケート/スキップが実現します。

失敗した記録を速やかにキャンセルできる、「FALSE START 機能」を搭載しています。

あらかじめオーディオ・データをバッファに蓄え、記録開始と同時にそのバッファ・データから記録する「プリ・レコード機能」を搭載。記録開始時の記録漏れを防ぐことが可能です。

記録中は、一分毎にファイル・セーブをバック・グラウンドで自動的に実行します。

24bit/48kHz / 6トラックで約 85 分、8トラックでは約 64 分の記録が可能です。

\* 上記記録時間は、DVD-RAM x 1 (4.7GB)、HDD の 1 パーティション (4.5GB) 当たりの時間です。

24bit時は 44.1/48kHz (最大 8トラック)、88.2/96kHz (最大 4トラック)、および 176.2/192kHz (最大 2トラック) の記録に対応し、16bit時は 44.1/48kHz (最大 8トラック) の記録に対応しています。

## 梱包内容

本製品には、レコーダ本体と以下の付属品が梱包されています。  
開梱後、全ての品が揃っているかご確認ください。万一、欠品や損傷があった場合には、お手数でもお買い求めいただいた取扱代理店、または当社営業窓口へご連絡ください。

PD606 本体	1
肩掛け用ベルト	1
AC アダプタ	1
取扱説明書（本書）	1
ユーザー登録カード（返送用ハガキ）	1
ドライバー・ソフト（CD）	1

## 専用オプションと関連機器

PD606 で使用するオプションや関連機器には、以下の製品が用意されています。  
価格その他製品に関する詳細は、お買い上げいただきました取扱代理店、もしくは弊社営業部門へお問い合わせください。  
また、弊社ホームページでも製品の情報が得られます。ホームページへのアクセスは、下記 URL をご利用ください。

<http://www.fostex.jp>

### 別売オプション

エクスターナルHDユニット	Model EX-HD1
ソフト・ケース	Model ZP-62

### 関連機器

ロケーション・レコーダ	Model PD204（近日発売予定）
DVD マルチトラック・レコーダ	Model DV824
ポータブル・ロケーション・レコーダ	Model FR-2LE
アンプ内蔵パーソナル・モニター	Model 6301B/BX/BE
ステレオ・ヘッドホン	Model T20RPMkII/T-5/T-7/T40RPMkII/T50RP



## 第2章 ご使用になる前に

ここでは、PD606をご使用になる前に必要な「電源の準備」、「内蔵時計の設定」、「DVD-RAMディスクの準備」さらには「内蔵HDDの交換」などについて記載しています。

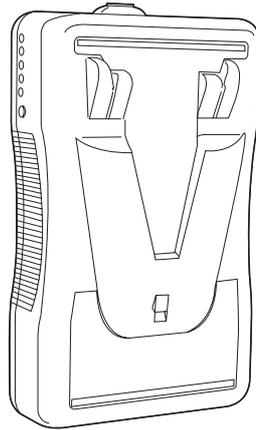
### < 第2章 目次 >

<b>電源の準備</b> .....	<b>22</b>
バッテリーの取り付け.....	23
バッテリー使用時の重要な設定.....	24
バッテリーの消費順位を設定(複数のバッテリー使用時に必須).....	24
ワーニング電圧の設定.....	24
メイン電源の消費順位を設定(バッテリーとDC-IN双方の使用時に必須).....	25
プロテクターの調整.....	25
バッテリーの消耗を抑えるために.....	26
バッテリーの残量表示.....	26
バッテリーの取り外し.....	27
DC-INの使用(ACアダプタの接続).....	28
DC-IN使用時の重要な設定.....	28
ワーニング電圧の設定.....	28
メイン電源の消費順位を設定(DC-INとバッテリー双方の使用時に必須).....	28
パワー・オン.....	29
ディスプレイのバックライト点灯/コントラスト調整.....	30
バックライトの点灯.....	30
コントラストの調整.....	30
パワー・オフ.....	30
<b>内蔵時計の設定</b> .....	<b>31</b>
<b>DVD-RAMディスクの準備</b> .....	<b>33</b>
ディスクの挿入.....	33
DVD-RAMディスクの初期フォーマット.....	34
<b>内蔵HDDの交換</b> .....	<b>37</b>

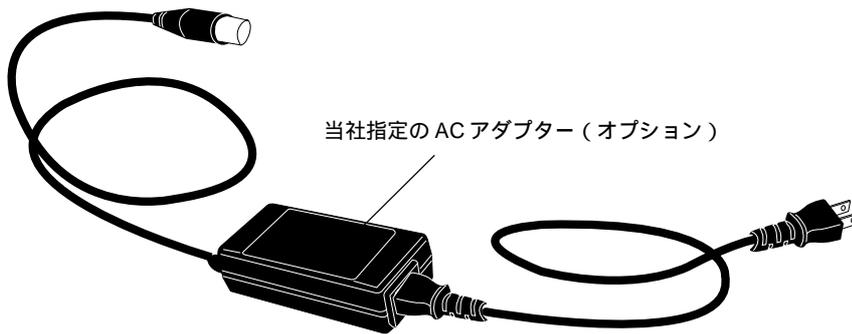
## 電源の準備

本機を駆動する電源には、ポータブルの機動性を発揮するIDXのエンデューラ・バッテリーと、弊社指定のACアダプターが使用できます。

I・D・E  
IDXのエンデューラ・バッテリー



当社指定のACアダプター（オプション）



<注意>：上記IDXのエンデューラ・バッテリーは、本機に付属しておりません。別途お買い求めください。なお、ACアダプターは必ず当社指定のACアダプターをご使用ください。

<注意>：通常、バッテリーは工場出荷時には充電されておりません。ご使用前には充電が必要です。お買い求めいただいたバッテリーの取扱説明書に基づいて、フル充電を実行してください（**注意：本機には、充電機能を搭載しておりません**）。なお、バッテリーの取り扱い、取扱説明書の記述に沿って正しく行ってください。

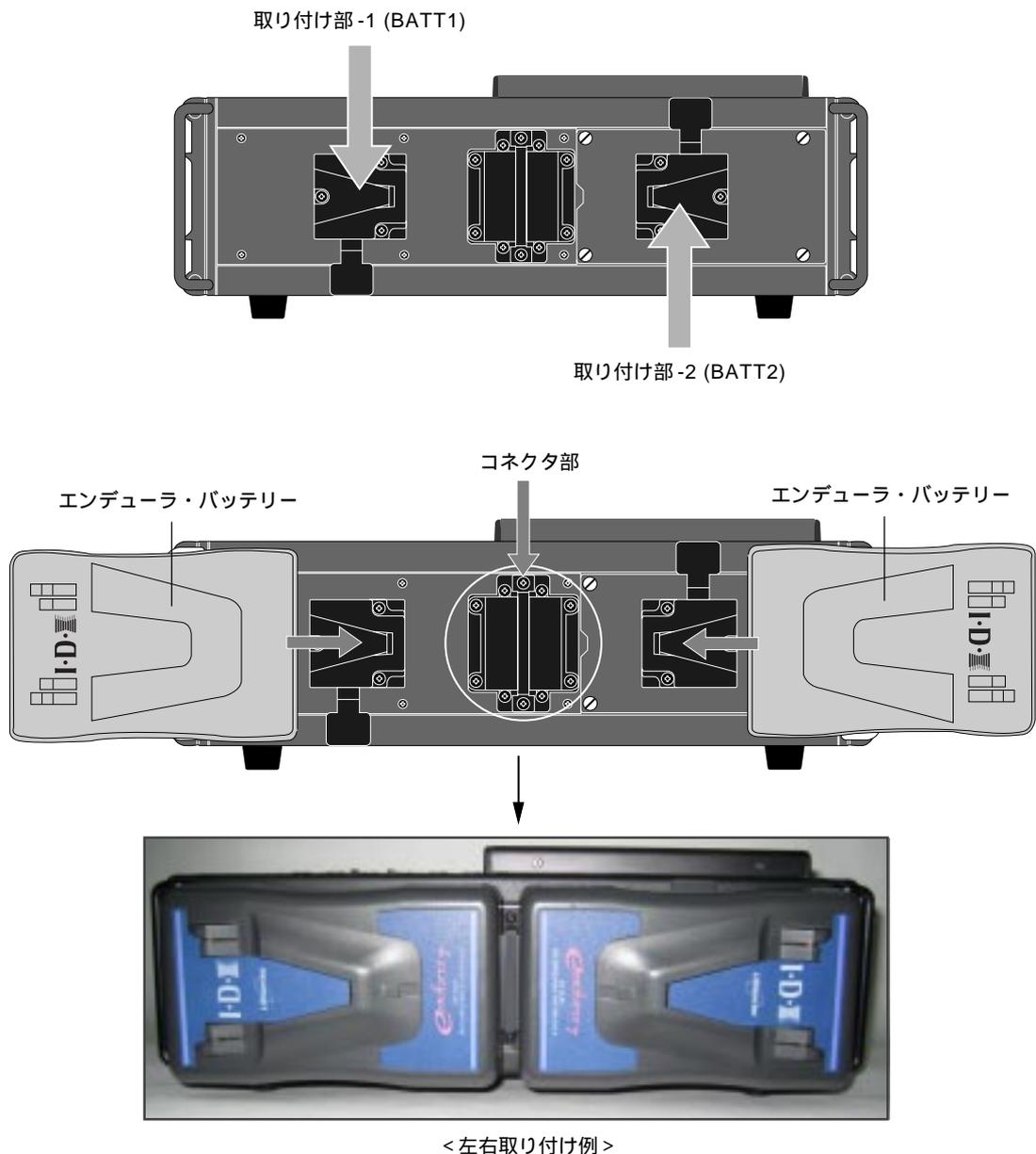
\* IDX、IDX（ロゴ）、ENDURA、V-Mount、V-LOCK、V-Plate、Digi-View、i-Traxは、アイ・ディー・エクス社の登録商標です。

## バッテリーの取り付け

IDXのエンデューラ・バッテリーは、PD606のリア部に取り付けて使用します。バッテリーの取り付け部は2箇所あり、バッテリーがPower Link非対応であれば左右に1個ずつ取り付けができ、Power Link対応であれば左右に2個ずつ最大4個まで取り付けが可能です。

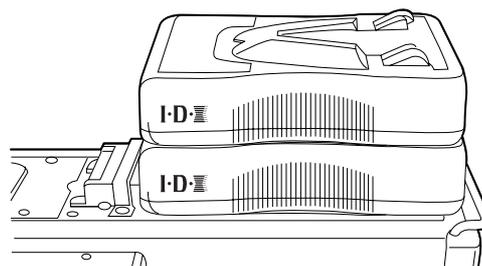
**<注意>**：バッテリーの取り付けや交換は、必ず本機の電源が“OFF”の状態で行ってください。電源が“ON”の状態ではデータのやり取りを行っているため、突然電源が切られるとメモリー内容がリセットされたり、故障の原因となります。ただし、2個のバッテリーを使用して連続動作中に、消費していない方のバッテリー交換は可能です。

**<注意>**：IDXのエンデューラ・バッテリーを使用する場合は、バッテリーに付属の「取扱説明書」に従い、正しく取り扱ってください。なお、本機にはバッテリーの充電機能は搭載されていません。バッテリーの充電は、必ずバッテリーの取扱説明書に記載されている方法で、正しく行ってください。



Power Link 対応のバッテリーを使用する場合は、右図例のように左右取り付け部にそれぞれ2個まで取り付けでき、最大4個のバッテリーが使用できます。

**<注意> :最大4個のバッテリーを使用した場合、ボトム部にあるプロテクターは使用できませんので、本機を水平にご使用ください。**



**< Power Link 対応バッテリー使用時の注意 >**

Power Link で使用する場合は、必ず同じ充電状態のバッテリーを組み合わせてください。充電状態が極端に異なったバッテリーを組み合わせると、バッテリーの Power Link が正しく動作せず、PD606 の電源が OFF になる場合があります。

バッテリーは3個以上接続できません。片方の取り付け部には最大2個のバッテリーが取り付け可能です。

## バッテリー使用時の重要な設定

### バッテリーの消費順位を設定（複数のバッテリー使用時に必須）

バッテリーを2個、あるいはPower Link機能のバッテリーを4個使用時は、バッテリーの消費順位を設定します。これは、BATT1またはBATT2に取り付けたどちらのバッテリーを先に消費するかを設定します。消費順位を設定しておくこと、先に設定されたバッテリーの残量がなくなる時点で、ディスプレイにポップアップ表示が現れ、自動的に次のバッテリーに切り替わります（176、177ページ参照）。

消費順の設定は、クイック・セットアップ・モード、またはMENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ Active battery ”で行なえます（77ページ / 175ページ参照）。

### ワーニング電圧の設定

BMS (Battery Management System) 機能付き、または機能無しのバッテリーを使って電源を供給する場合、バッテリーのワーニング電圧を設定します。

ワーニング電圧を設定しておくこと、ご使用中のバッテリー残量が設定電圧に達する時点でヘッドホンから警告音を出力します。

バッテリーのワーニング電圧は初期設定で13.2V (BMS機能付き) および13.0V (BMS機能無し) に設定されていますが、MENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ BATT warning ”で任意の電圧に設定できます（172ページ参照）。

**<注意> :BMS (Battery Management System) 機能付きのバッテリーを使用する場合は、MENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ BATT status ”でバッテリーの各種情報が確認できます（179ページ参照）。**

**<注意> : BMS (Battery Management System) 機能付きのバッテリーを使用した場合、設定したワーニング電圧になるまでの残時間が、1分単位で表示されます。残時間はMENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ BATT. Remain ”で確認できます（178ページ参照）。**

**<注意> : 放電中の動作電圧は13 ~ 15Vで安定していますが、バッテリーの容量が無くなると、急激にバッテリーの電圧が低下します。そのため、余裕のあるバッテリー交換を行うためには、ワーニング電圧を13V付近に設定することをお勧めします。**

### メイン電源の消費順位を設定（バッテリーと [DC-IN] 双方の使用時に必須）

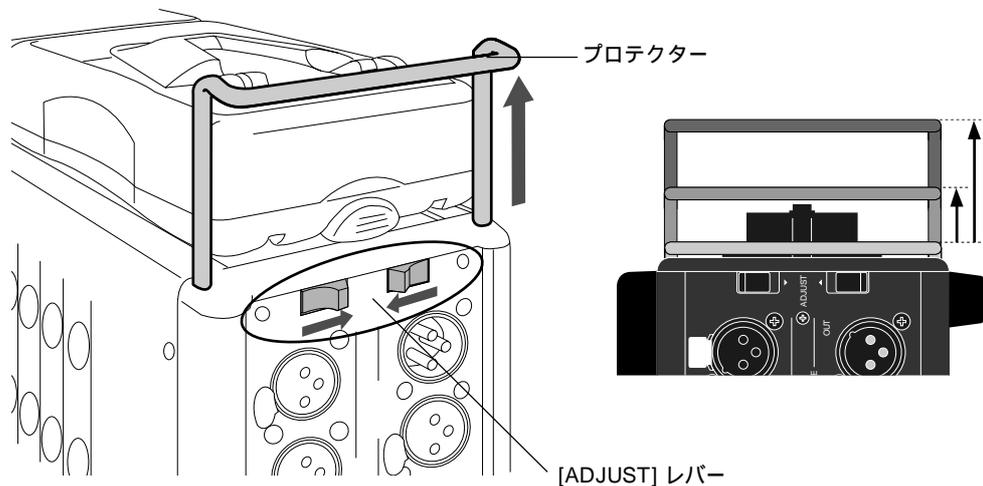
バッテリーと [DC-IN] の双方を接続して使用する場合、メイン電源の優先順位を“ DC-IN ”または“ BATT ”に設定します。例えば、優先順位を“ DC-IN ”に設定しておくこと、[DC-IN] が外れたり停電になったときディスプレイにポップアップ表示が現れ、自動的にバッテリーへ切り替わり継続して使用することができます（176/177 ページ参照）。

なお、バッテリーのみ接続しているときは、設定の必要はありません。

設定は MENU モードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ Power priority ”で行なえますので、詳細は 174 ページを参照してください。

### プロテクターの調整

バッテリーを本機に装着したときは、下図のように左右にあるプロテクターを伸ばしてバッテリーを保護してください。左右のサイドパネルにある [ADJUST] レバーを矢印方向へスライドさせたまま、手でプロテクターを引き出します。伸縮は2段階で調整できますので、最適な位置にロックさせてご使用ください。なお、バッテリー交換時は収納してください。



**<注意>**：プロテクターで保護できるのは、IDX バッテリーの ENDURA-7 および ENDURA-7S 使用時です。ENDURA-10、ENDURA-10S および Power Link 機能で使用時は、PD606 本体を水平にしてご使用頂くことをお勧めします。

## バッテリーの消耗を抑えるために

本機では、搭載するバッテリーの消耗を抑えるため下記のような対策がなされています。

- 1) [STOP] キーを押すとディスクの回転を停止させ、電力の消費を抑えます。  
また、本機 MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Pause time”で、PAUSE を解除する時間を任意に設定できます（工場出荷時の設定は、3分で解除されるようになっています）。
- 2) 内蔵モニター・スピーカーを使用していないとき、および [PHONES] ジャックにヘッドホンが接続されているときは、スピーカー・アンプへの給電を停止しています。

このような機能を上手に利用することで、少しでもバッテリーの消費を軽減することができます。なお、下記事項を実行することでもバッテリーの消耗を抑えることができます。

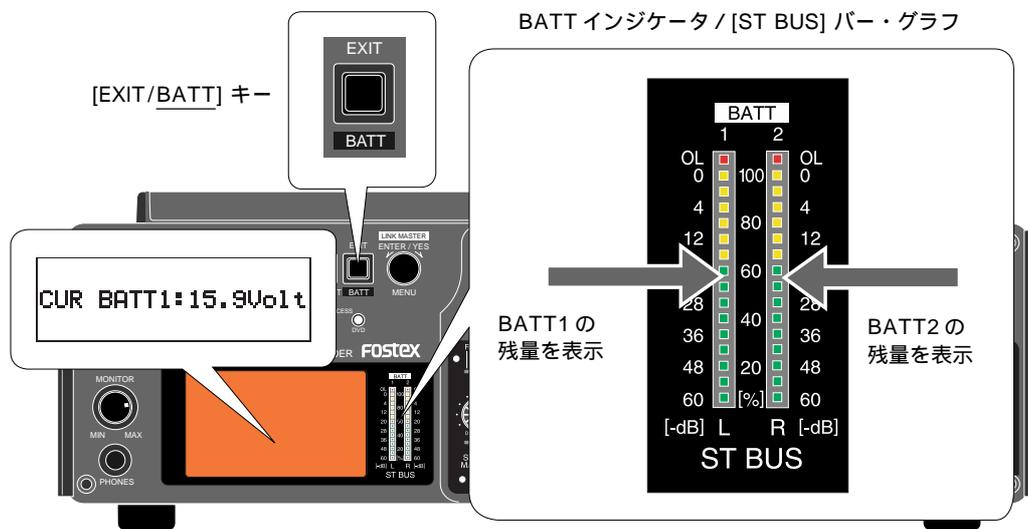
- \* 長時間本機を使用しないときは、装着したバッテリーを外す。  
[POWER] スイッチが“OFF”になっていても、微小電流を消費しています。
- \* ヘッドホンや内蔵モニター・スピーカーの音量は、なるべく少量に抑える。
- \* バックライトの使用を抑える。
- \* DVD-RAM ディスクを使用しない場合は、ディスクを取り出しておく。
- \* 全ての出力コネクタに接続する負荷は、10k 以上とする。
- \* バランス出力をアンバランス出力に変換する場合、使用しない端子をグランドに落とさず、オープンのまま使用する。出力レベルは6dB 低下しますが、特性に影響はありません。

本機使用中のバッテリー残量は、下記記載の操作でリアルタイムに確認できます。

## バッテリーの残量表示

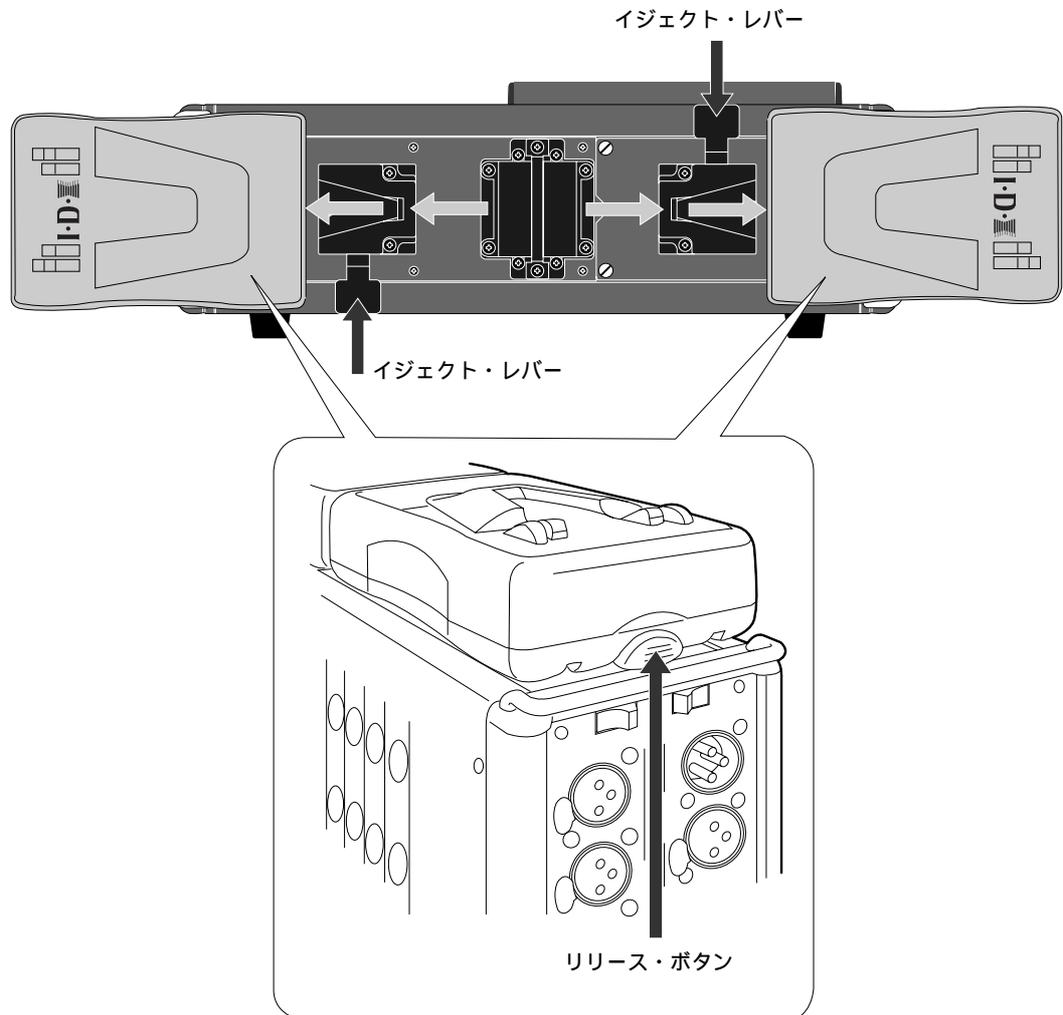
接続したバッテリーの残量は、フロント・パネル部のLCDディスプレイ横にあるBATTインジケータ（[ST BUS] バー・グラフと共用）でリアルタイムに確認することができます。

BMS対応のバッテリー使用時は、本機のディスプレイがHome画面を表示している状態（STOP、PLAY、REC など）で [EXIT/BATT] キーを押している間、[ST BUS] バー・グラフがバッテリーの残量表示になると同時に、ディスプレイにポップアップ表示が現れます（バー・グラフは残量を%で表示し、ポップアップ表示では電圧値を表示します）。なお、BMS非対応のバッテリー使用時はポップアップ表示のみで確認できます（キーを離すとポップアップ表示は消え、レベル・メータも通常の表示に戻ります）。



## バッテリーの取り外し

バッテリーを取り外すときは、電源がOFFになっていることを確認して、IDXのエンデューラ・バッテリー側のリリース・ボタンを押しながらバッテリー本体を外すか、PD606本体のイジェクト・レバーを押して外します。

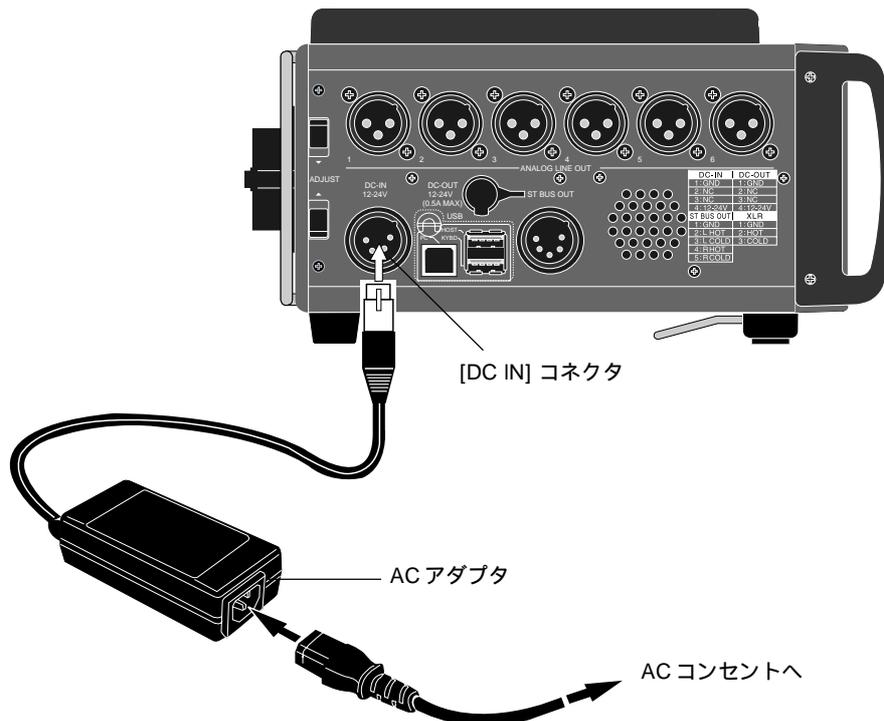


**<注意>**：使用不可能になったバッテリーを廃棄するときは、環境汚染に悪影響を与えないよう定められた方法で処分してください（バッテリーの取扱説明書を参照）。特に、取り外したバッテリーは、小さな子供達が手の届くような場所に放置しないよう、取り扱いには充分ご注意ください。

## DC-IN の使用 ( AC アダプタの接続 )

ACアダプタなどの外部電源は、本機左サイド・パネル部にある [DC IN] コネクタに接続します。例としてACアダプタを接続する場合は、ACアダプタの二次側コネクタ(XLR-4-32タイプ)をロックされるまで差し込み、その後一次側のプラグを電源コンセントへ接続します。

**<注意>** :コネクタの抜き差しは、必ず電源をOFFにした状態で行ってください(バッテリー駆動時は除く)。なお、ACアダプタは必ず当社指定の製品をご使用ください。指定以外のACアダプタを使用した場合、電圧の違いやDC出力の極性の違いなどによって本機が破損することがあります。



## [DC-IN] 使用時の重要な設定

### ワーニング電圧の設定

ACアダプタなど [DC-IN] を使って電源を供給する場合、DC-INのワーニング電圧を設定します。ワーニング電圧を設定しておくこと、何らかの原因でDC-INの電圧が設定電圧に達した時点でヘッドホンから警告音を出力します。

DC-INのワーニング電圧は初期設定で13.0Vに設定されていますが、MENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ DC-IN warning ”で任意に設定できます ( 173 ページ参照 )。

### メイン電源の消費順位を設定 ( [DC-IN] とバッテリー双方の使用時に必須 )

[DC-IN] とバッテリーの双方を接続して使用する場合、メイン電源の優先順位を“ DC-IN ”または“ BATT ”に設定します。例えば、優先順位を“ DC-IN ”に設定しておくこと [DC-IN] が外れたり停電になったとき、ディスプレイにポップアップ表示が現れ、自動的にバッテリーへ切り替って継続して使用することができます ( 176/177 ページ参照 )。

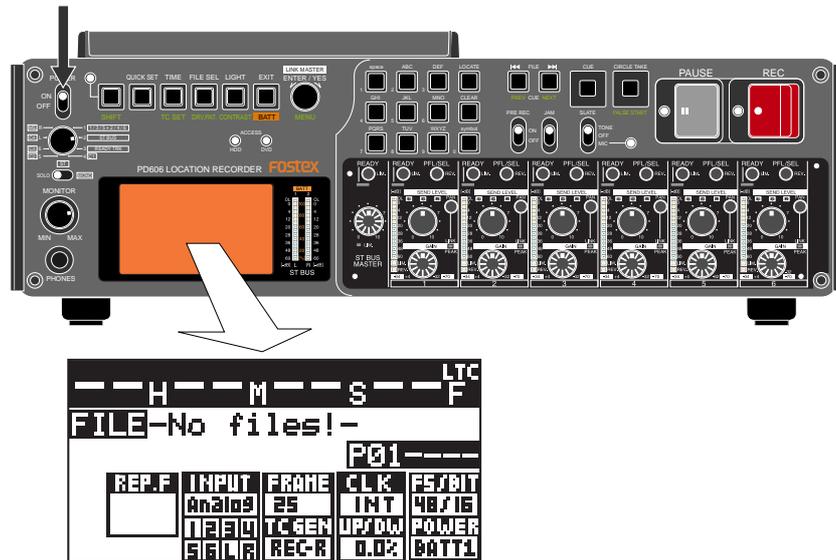
なお、[DC-IN] のみ接続しているときは、設定の必要はありません。

設定はMENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ Power priority ”で行なえますので、詳細は 174 ページを参照してください。

## パワー・オン

バッテリーを装着、あるいはACアダプタなどを接続した後本機の電源を投入すると、本機が立ち上がり下記ディスプレイが表示されます（下記画面は、工場出荷後はじめて電源を投入したときに表示されます）。

[POWER] スイッチ



この表示は内蔵HDDのパーティション1が立ち上がり、パーティションには何も記録されていないことを示しています。

内蔵HDDは工場出荷時すでにフォーマットされていますので、上記画面の状態からパーティションへ記録することができます。なお、HDDは内部的に16のパーティション（1パーティション/約4.5GB）に区切られていますので、他のパーティションへ記録するときは「ドライブのセレクト機能」で、希望のパーティションへ切り換えます（86ページ参照）。

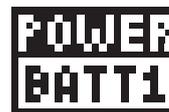
**<注意>** :DVD-RAMディスクへ記録する場合は、この後34ページを参照してディスクをフォーマットした後、ドライブを切り換えます。

**<注意>** : バッテリーから電源が供給されているときは、トップ・パネルにある“ BATT1 ”または“ BATT2 ”のインジケータが点灯するとともに、ディスプレイの“ POWER ”表示部にも“ BATT1 ”または“ BATT2 ” が点灯します。

これは、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードの“ BATTERY SETUP ”メニューにある“ Active battery ”、および“ Power priority ”の設定に基づいて、消費されているバッテリーを示しています。



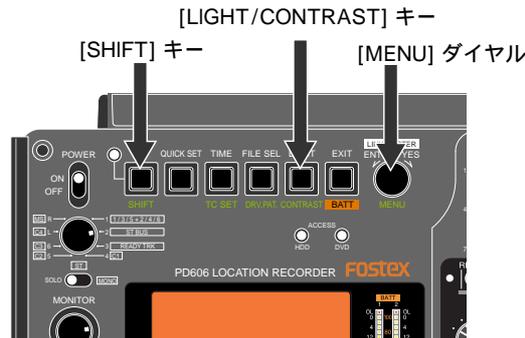
[BATT] インジケータ



なお、DC-INから電源が供給されているときは、双方のインジケータが消灯し、“ POWER ”表示部には“ DC-IN ” が点灯します。



## ディスプレイのバックライト点灯/コントラスト調整



### バックライトの点灯

[LIGHT/CONTRAST] キーを押すと、ディスプレイのバックライトが約3秒程度点灯した後消灯します。また、[LIGHT/CONTRAST] キーを約3秒長押しするとディスプレイに“Light on hold”が表示され、連続点灯になります。再度 [LIGHT/CONTRAST] キーを押すと、バックライトが消灯します。

**<注意>**：バッテリーで駆動時は、バッテリーの消費を抑えるためバックライトの使用は控えることをお勧めします。

### ディスプレイのコントラスト調整

本機ディスプレイのコントラストは、工場出荷時に最適なレベルに調整してあります。電源投入後、下記操作で好みのコントラストに調整してご使用いただけます。

- 1) **[SHIFT] キーを押した後、[LIGHT/CONTRAST] キーを押します。**  
ディスプレイに下記ポップアップ表示が現れ、コントラストの調整が可能になります。



- 2) **[MENU] ダイアルを回して、ディスプレイのコントラストを調整します。**  
[MENU] ダイアルを時計方向に回すとコントラストが弱くなり、逆方向へ回すと強くなります。
- 3) **コントラストの調整後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。**  
コントラストが決定すると同時に、ポップアップ表示が消えて調整モードから抜け出します。

## パワー・オフ

電源をオフするときはドライブのアクセスが停止している状態で行います。

電源をオフすると、ディスプレイのバック・ライトが薄く点灯しながらゆっくり点滅します。これは、本機の電源をオフしても、内蔵されているTCジェネレータがまだ機能していることを表しています。つまり、本体の電源をオフしてもTCジェネレータの電源は切れず、省電力で機能するようになっています。

TCジェネレータの電源がオフになる時間は初期設定で5分に設定されていますが、MENUモードの“TC SETUP”メニューにある“TC PWR Timer”で任意に設定できます（195ページ参照）。

## 内蔵時計の設定

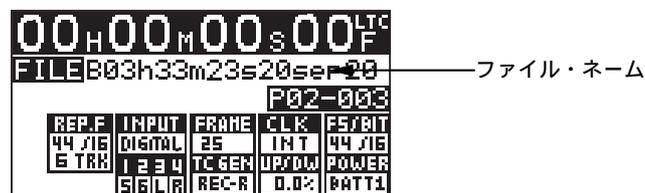
本機には、リアルタイム・クロック機能を搭載しています。

リアルタイム・クロックのデータは、ディスク上に新たなオーディオ・ファイルを作成するときのファイル・ネーム、ファイル作成日時や、インターナルTCジェネレータのTCを記録する際の、スタート・タイムなどに利用されます(下記<注意>を参照)。

製品の開封後は、工場出荷時の年月日/時刻に設定されて駆動していますが、下記操作方法で正しい年月日/時刻に設定し直してください。

<注意>：リアルタイム・クロックのデータがファイル・ネームなどに反映されるのは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Default File name”の「ファイル・ネーム・モード」を“DATE”に設定した状態で記録を実行した場合です(140ページ参照)。

下記画面は、ファイル・ネーム・モードを“DATE”に設定した状態で記録したファイルのHome画面の例です。Home画面のファイル・ネーム部分にリアルタイム・クロックのデータがファイル・ネームとして登録されます。

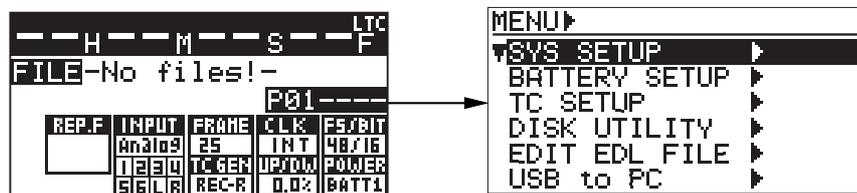


<注意>：リアルタイム・クロックのデータがTCのスタート・タイムとして記録できるのは、TC GENモードが“24H RUN”に設定されているときのみです(TC GENモードについては後述76ページまたは183ページを参照してください)。

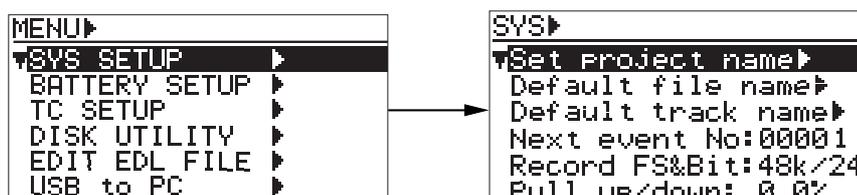
下記操作は、何も記録されていないパーティション1(PT01)が立ち上がっていることを前提にしています。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES.] キーを押します。

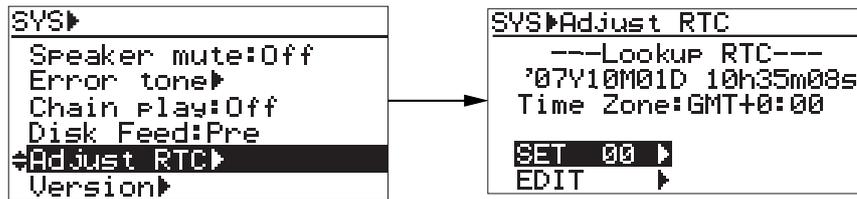
MENUモードへ入り、メイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) “SYS SETUP”メニューが反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。SYS SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

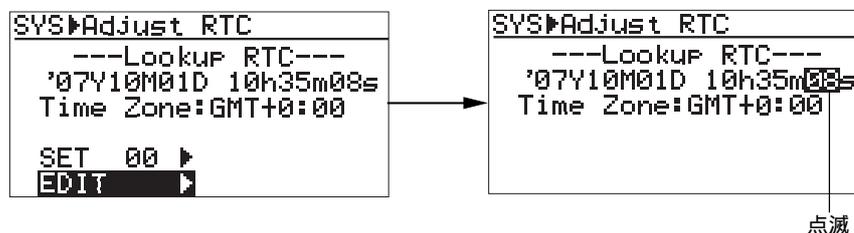


- 3) [MENU] ダイヤルで “ Adjust RTC ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
内蔵時計の時刻がリアルタイムに刻まれ、現在設定されている時刻が確認できます。



上記画面の状態 (SET 00 > が反転) で [ENTER/YES] キーを押すと、秒の値が 00 にリセットできます。秒の値が 30 秒以上のときリセットすると、分の桁に 1 分足されて 00 にリセットされます。また、29 秒以下でリセットしたときは秒の値のみが 00 にリセットされます。

- 4) [MENU] ダイヤルでカーソルを “ EDIT > ” に移動して、[ENTER/YES] キーを押します。  
キーを押した時刻がホールドされ、編集が可能になります (秒の値が点滅します)



- 5) 任意のクロック・データを入力します。  
[MENU] ダイヤル (または 10 キー) でカーソル位置に数値を入力します。  
カーソル位置は、[◀◀] / [▶▶] キーで移動できます。
- 6) 時刻の入力後、[▶▶] キーを押してカーソルを Time Zone のオフセット時間 (“ +0:00 ”) に移動して、使用する国に合わせたオフセット時間を入力します。  
[MENU] ダイヤルを回すと、-12:00 ~ +13:00 の範囲で希望のオフセット時間が選択できます。  
設定例: ロンドン +0:00、東京 +9:00、ロサンゼルス -8:00 (-7:00)



- 7) すべての入力後、時報などに合わせて [ENTER/YES] キーを押します。  
入力した時刻が設定され、リアルタイムに刻む画面に変わります。
- 8) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

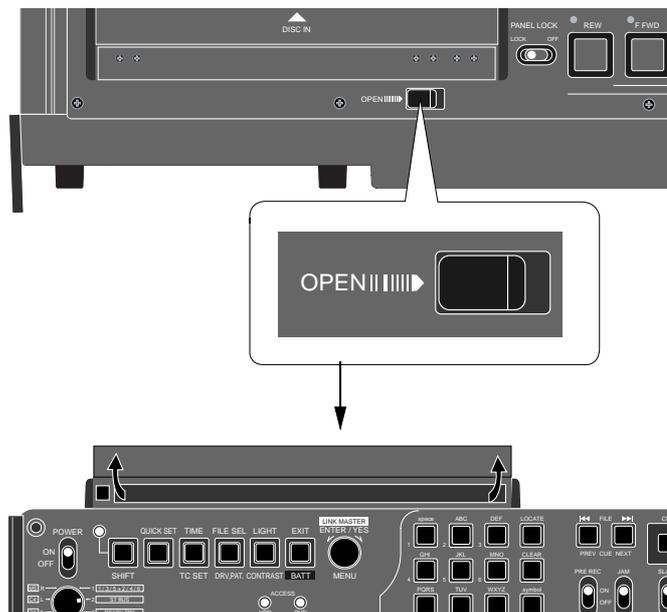
## DVD-RAM ディスクの準備

本機のDVDマルチ・ドライブは12cmのスリム・ドライブを採用し、カートリッジ無しタイプのDVD-RAMディスク(4.7GB / 2-3倍速または3倍速以上)を使って記録できます。なお、未使用のDVD-RAMディスクは、UDF 1.5で初期フォーマットが必要です。

### ディスクの挿入

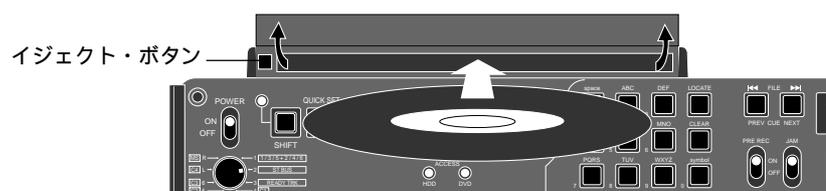
下記操作は、内蔵HDDのパーティション1(PT01)が立ち上がっていることを前提にしています。

- 1) **[OPEN] レバーを右にスライドさせます。**  
ディスク・トレイ部の蓋が少し開きますので、手で蓋を開きます。



- 2) **ディスクをドライブのスロットに挿入します。**  
ディスクをロードした後、ディスク情報を読み込みます。  
工場出荷時の状態ではカレント・ドライブが内蔵HDDになっているため、ディスクをロードしてもディスプレイはパーティションのHome画面に変わりはありません。  
ディスクを取り出すときは、スロット左にあるイジェクト・ボタンを押してください。

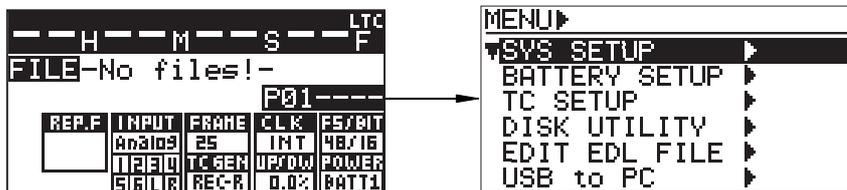
**<注意>** : カレント・ドライブがDVDドライブに設定されているとき、ディスク・トレイからディスクを取り出す場合には、必ず本機が停止状態( PAUSEインジケータが消灯している状態)で、ドライブのイジェクト・ボタンを押してください( カレント・ドライブがパーティションに設定されているときは除く )。また、ディスクがイジェクトされるまで若干時間がかかりますが、その間に [PLAY] キーや [F FWD]/[REW] キーを操作しないでください。



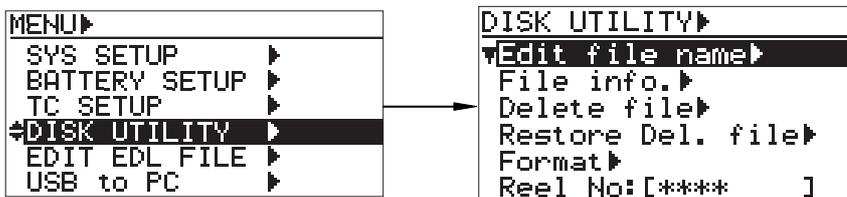
- 3) **手でトレイ部の蓋を閉め、ロックさせます。**  
次項の操作手順で、セットしたDVD-RAMディスクを初期フォーマットします。

## DVD-RAM ディスクの初期フォーマット

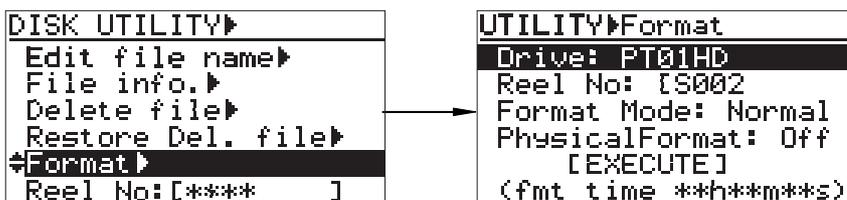
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [MENU] ダイヤルで “ DISK UTILITY ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“ DISK UTILITY ” メニューへ入り、サブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで “ Format ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
フォーマットの設定画面に変わります。



フォーマットの設定画面では用途に応じた下記表に記載した4項目の設定が行なえますが、ここではドライブをDVD-RAMに選択して、リール・ナンバーおよび物理フォーマットは初期設定のままDVD-RAMディスクのフォーマットを実行します。

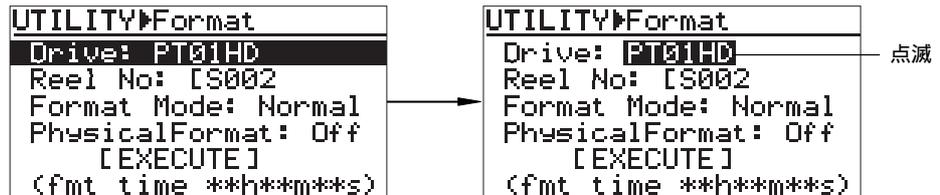
<b>Drive</b>	フォーマットするドライブを選択します。 ドライブは“ DVD-RAM ”以外にHDDのパーティーション(PT01HD ~ PT16HD)がセレクトできます。
<b>Reel No</b>	フォーマットするDVD-RAMディスクまたはパーティーションの、Reel Numberを設定します。DVD-RAMおよびパーティーションの初期値は、以下の番号が表示されます。  DVD-RAM : S001 パーティーション : S002 ~ S017  Reel Number は、初期設定のままフォーマットしてもMENUモードの“ DISK UTILITY ”メニューにある“ Reel No ”で変更することができます(208ページ参照)。
<b>Format Mode</b>	フォーマット・モードを選択します。 DVD-RAMディスクをフォーマットするときは“ Normal ”のみ選択可能です。 パーティーションをフォーマットするときは“ Normal ”以外に“ DDR ”が選択できます。“ DDR ”は後述の「デュアル・ドライブ・レコーディング」を実行する際に使用します(115ページ参照)。
<b>Physical Format</b>	DVD-RAMディスクまたはパーティーションを、物理フォーマットするかしないかを選択します。 物理フォーマットOffでは簡易フォーマットのため、極めて短い時間でフォーマットできますが、Onにしたときは多少時間が必要です(次ページ<注意>を参照)。

**<注意>** :使い込んだディスクをフォーマットする場合は、必ず物理フォーマットを実行してください。なお、物理フォーマット OnまたはOffでフォーマットしたときの所要時間は、おおよそ下記時間が必要です。

物理フォーマット Off : おおよそ 1分 30 秒  
物理フォーマット On : おおよそ 1時間 10分

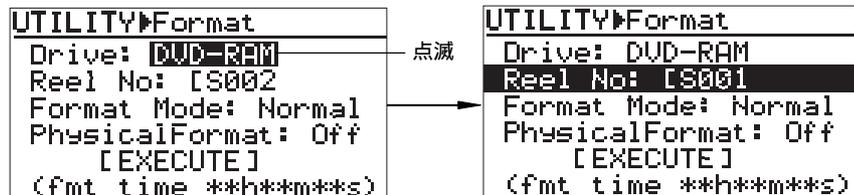
4) [ENTER/YES] キーを押します。

任意のドライブ (またはパーティション) が選択可能になります。



5) [MENU] ダイアルで“DVD-RAM”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

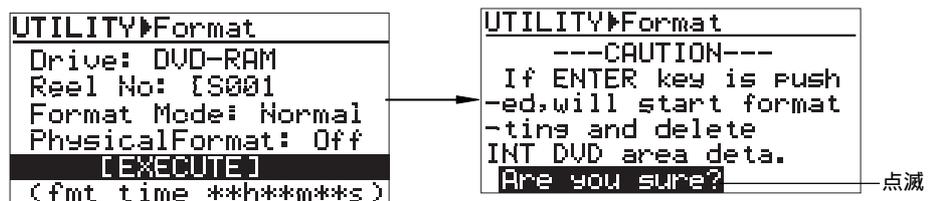
ドライブが“DVD-RAM”に設定され、“Reel No: [S001”が反転します。



ここで任意の Reel Number を設定するには、次ページの手順を参照してください。

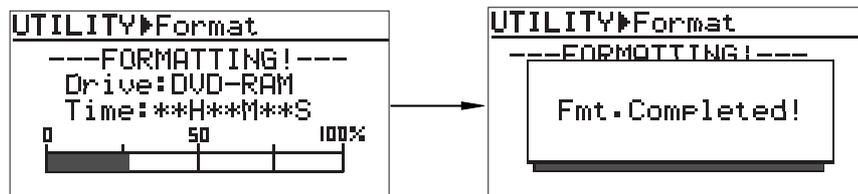
6) [MENU] ダイアルで“[EXECUTE]”を反転させ、[ENTER/YES] キーを押します。

警告表示に変わり“Are you sure?”が点滅します。



7) “Are you sure?”が点滅している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。

フォーマットが開始され、おおまかな時間とバー・グラフで進行状態を表示します。フォーマットが終了すると同時に“Fmt. Completed!”が点灯します。



**<注意>** :進行状況を示すバーグラフや、タイムカウントは、あくまでも目安として動作しています。必ず“Fmt. Completed!”の点灯を確認してから、つぎの操作へ進んでください。

**<注意>** :フォーマット後、“ Disk error! ”を表示してディスクのロックを解除することがまれに発生することがあります。このような場合には、“ 物理フォーマット ”をONにして再度フォーマットをやり直してください。なお、物理フォーマットを実行しても “ Disk error! ” が表示される場合は、そのディスクは使用しないでください。

- 8) 終了後、[EXIT] キーを押して、MENUモードから抜け出します。  
フォーマットに入る前のHome画面に変わります。



DVD-RAMディスクへ記録するには、ドライブのセレクト・モードでDVDドライブへ切り換えま  
す（詳細は86ページを参照してください）。

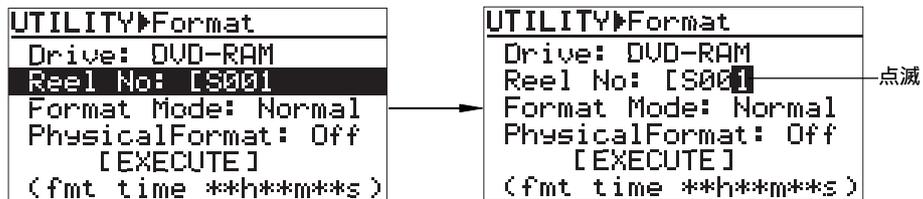
**<注意>** :パーティションが立ち上がっている状態でDVD-RAMディスクをフォーマットし  
ても、フォーマット後DVDドライブが立ち上がることはありません。そのため、DVD-RAM  
ディスクへ記録するには、ドライブをパーティションからDVDドライブへ切り替えてくだ  
さい。なお、DVDドライブが立ち上がっている状態で任意のパーティションをフォーマット  
した場合は、フォーマット終了後自動的にパーティションが立ち上がります。

**Reel Number を設定するには :**

初期フォーマットの段階で任意の Reel Number を入力するには、下記操作手順で行なえます。

- 1) “ Reel No: [S001 ] ”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。

Reel No 入力部の一桁目が点滅して、Reel No が入力可能になります。



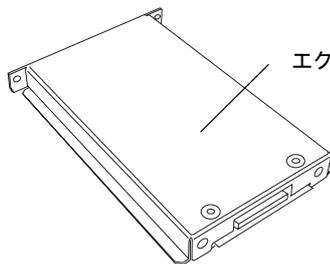
- 2) [MENU] ダイヤル (または10キー) で、Reel No を入力します。  
[MENU] ダイヤルで入力するときの桁移動は [◀◀] / [▶▶] キーを押し、10キーで入力する  
ときは異なったキーを押すごとに桁が移動します。  
[CLEAR] キーを押すと、カーソル位置の文字がクリアできます。
- 3) Reel No の入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

## 内蔵 HDD の交換

本機内蔵のHDDをオプションのエクスターナルHDDユニット ( Model EX-HD1 ) と交換するには、以下の手順で行います。

**<注意>** : HDDの交換作業は、電源を切り、本機に接続しているACアダプタ (またはバッテリー) を取り外してから行ってください。なお、オプションのHDDおよび搭載されているHDDは精密部品で構成されています。取り扱いにはご注意ください。

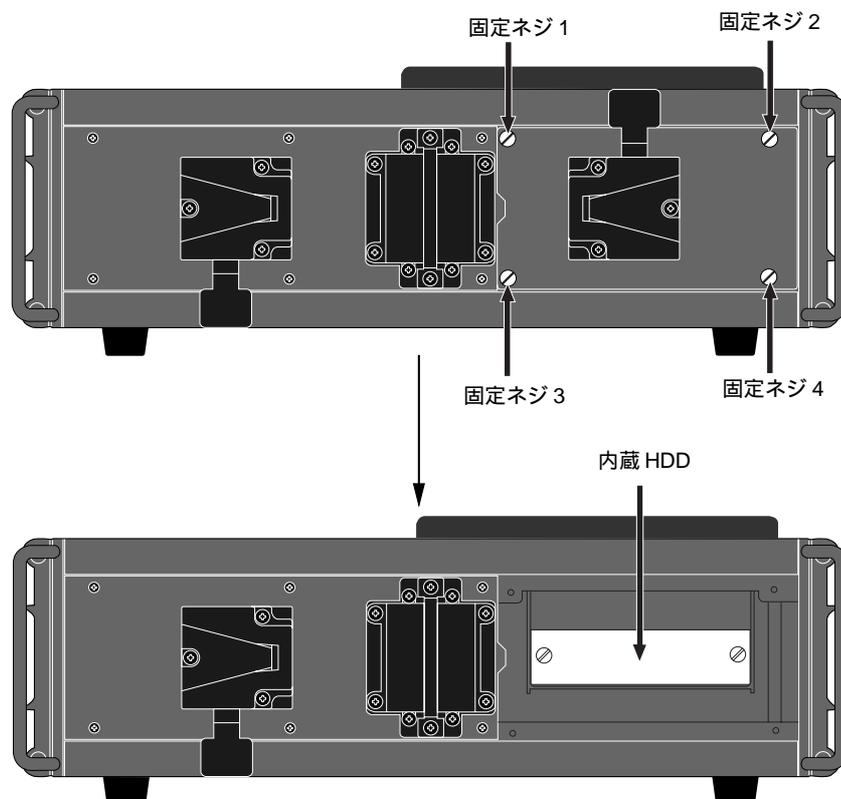
**<注意>** : 本体フロント部を下にして縦置きで作業する場合には、機器が破損したりしないよう柔らかい布などを敷き、本体が倒れないよう固定してください。



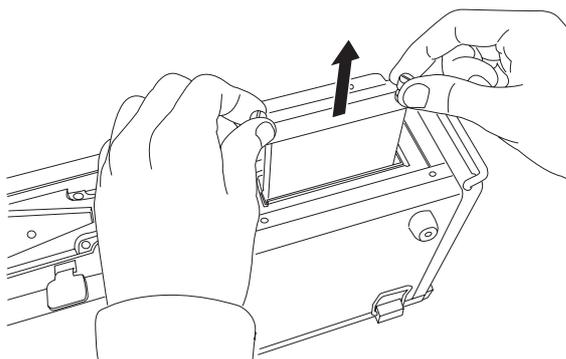
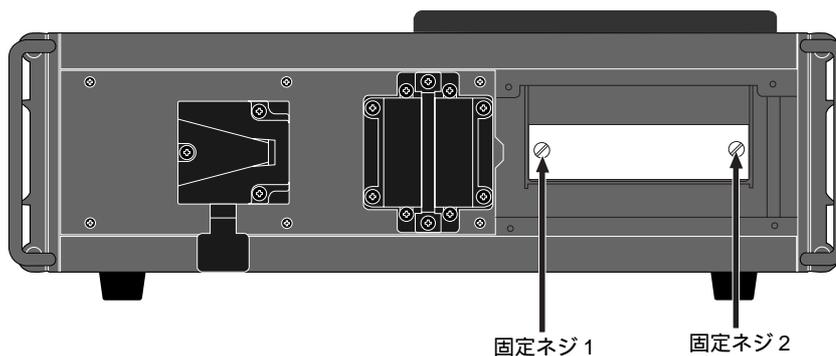
エクスターナルHDDユニット ( Model EX-HD1 )

**<注意>** : オプションのHDDユニットは、工場出荷時既にフォーマットされています。そのため、本機に搭載した後フォーマットの必要はありません。なお、オプションのお求めは、取扱販売店または弊社営業窓口へお問い合わせください。

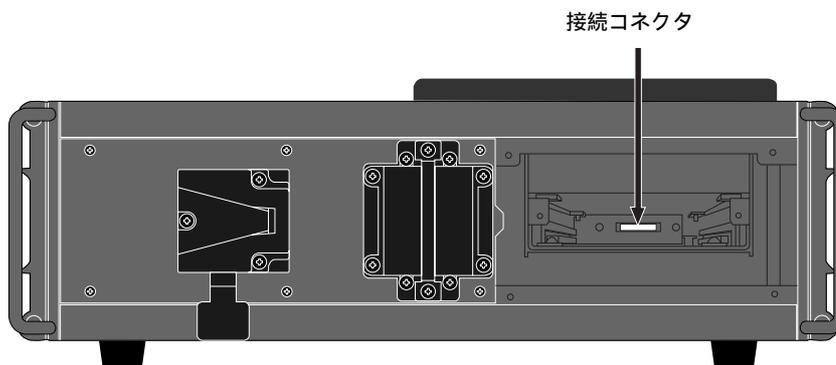
- 1) 本機の底部にあるバッテリー取付部1のパネル固定ネジ (4箇所) を緩め、パネルを外します。パネルを外すと、下の図のように内蔵されているHDDが現れます (矢印部分)。



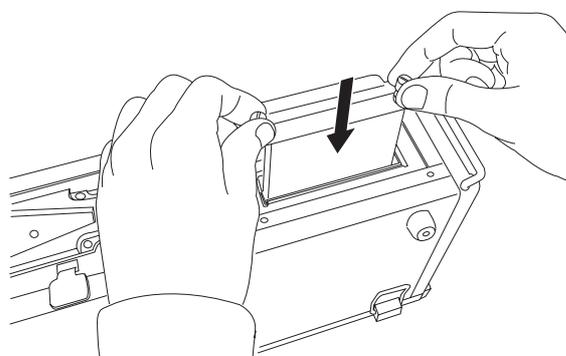
- 2) HDDを固定しているネジ (2箇所) を緩め、HDDを取り出します。固定ネジは外れない構造になっていますので、ネジ頭部分を手でつまんでHDD本体を抜き出します。HDDは奥にあるコネクタに接続されていますので、慎重に取り出してください。



HDD を抜き出すと、取り付け部奥に HDD を接続するコネクタが見えます。



- 3) オプションの HDD ユニットをスロット部に差し込んで取り付けます。  
奥のコネクタにしっかり接続するよう差し込み、ネジ (2 箇所) で固定します。



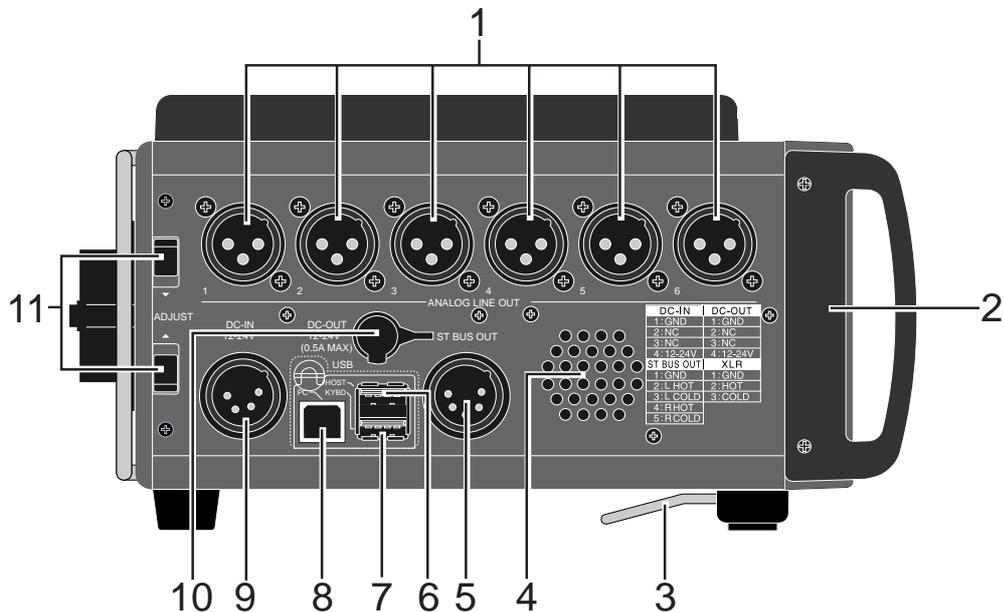
- 4) 取り付け部 1 のパネルを被せ、ネジ (4 箇所) で固定します。  
以上で HDD の交換作業が終了です。

## 第3章 各部の名称と機能

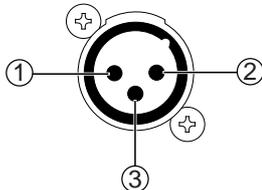
### < 第3章 目次 >

左サイド・パネル部.....	40
右サイド・パネル部.....	42
フロント・パネル部.....	45
トップ・パネル部.....	53
リア・パネル部.....	55
LCDディスプレイ部の詳細.....	56

# 左サイド・パネル部（入出力）

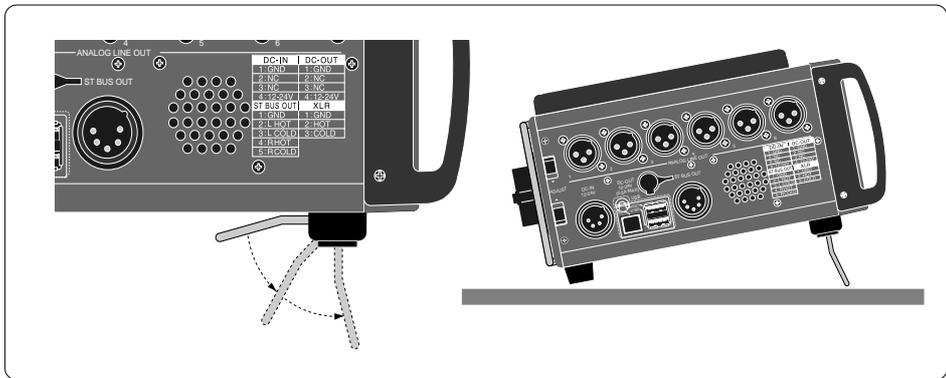


1. **[ANALOG LINE OUT] コネクタ** (XLR-3-32 タイプ/バランス)  
トラック 1 ~ 6 のアナログ・オーディオ信号を出力します。



1	GND
2	HOT
3	COLD

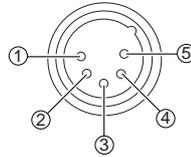
2. **把手**  
付属の肩掛けベルトを使用するとき、把手に固定します。
3. **傾斜調整アーム**  
据え置きで使用する際の、角度調整に使用します。



4. **内蔵モニター・スピーカ**  
トラック 1 ~ 6 のアナログ・オーディオ信号、およびエラー・トーンなどを出力します。  
[PHONES] ジャックにヘッドホン差し込むと同時に、内蔵スピーカーは遮断されます。

5. **[ST BUSS OUT] コネクタ (XLR-5-32 タイプ/バランス)**

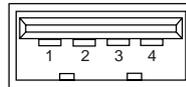
ステレオ・バス L/R の信号を出力します。外部機器との接続に使用します。基準出力は初期設定で +4dBu になっていますが、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Stereo out level” で、-10dBu または -60dBu に設定可能です (161 ページ参照)。



1	GND
2	L HOT
3	L COLD
4	R HOT
5	R COLD

6. **[USB HOST] コネクタ (Series A Receptacle/USB 2.0 ハイスピード)**

将来拡張用のコネクタです。

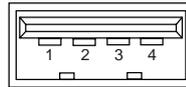


1	VBUS	3	D +
2	D -	4	GND

<注意> : [USB PC] コネクタを使って本機と PC が接続されているときは、[USB HOST] コネクタには何も接続しないでください。

7. **[USB KYBD] コネクタ (Series A Receptacle/USB 1.1)**

USB キーボード接続専用のコネクタです。接続したキーボードで、PD606 の操作が可能になります (66 ページ「USB キーボードの接続例」を参照してください)。



1	VBUS	3	D +
2	D -	4	GND

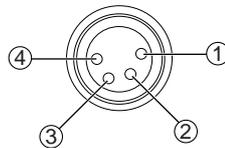
8. **[USB PC] コネクタ (Series B Receptacle)**

PC 接続専用のコネクタです。本機と PC を接続することでオーディオ・ファイルのやり取りが可能になります (68/118 ページを参照してください)。

<注意> : [USB PC] コネクタを使って本機と PC が接続されているときは、[USB HOST] コネクタには何も接続しないでください。

9. **[DC IN 12-24V] コネクタ (XLR-4-32 タイプ/オス)**

オプションの AC アダプタ、または外部バッテリーを接続します。



1	GND	3	NC
2	NC	4	12-24V

10. **[DC OUT] コネクタ (Hirose 4 ピン, HR10A-7R-4S タイプ/メス)**

DC12V ~ 24/0.5A の電圧を出力します。外部機器への電源供給に使用できます (本体の電源オン/オフと連動します)。

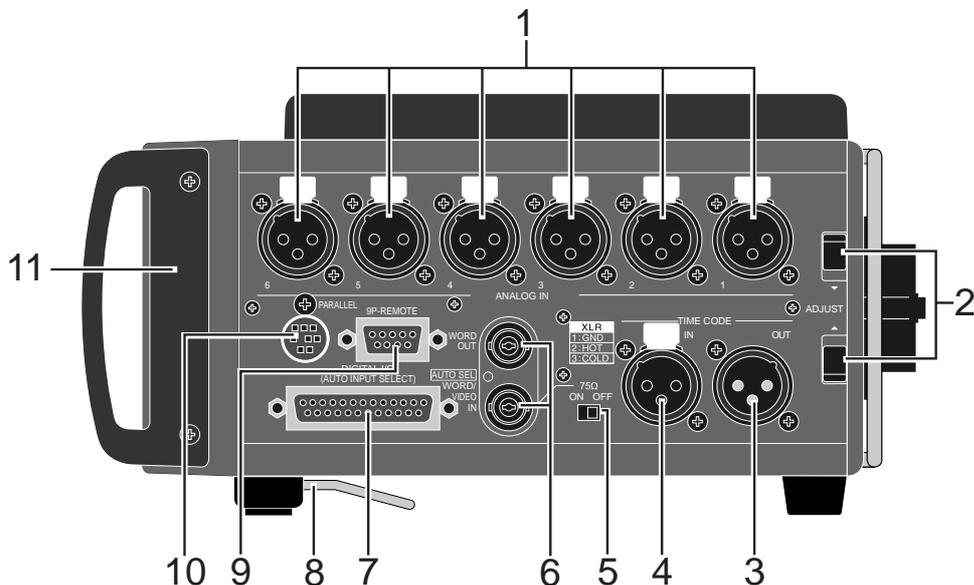


1	GND	3	NC
2	NC	4	12-24V

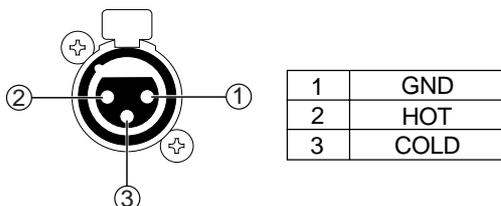
11. **[ADJUST] レバー**

リア・パネル部左側のプロテクターを調整するとき使用します (25 ページを参照)。

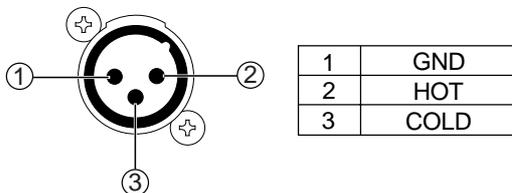
## 右サイド・パネル部（入出力）



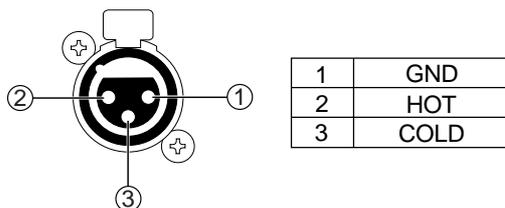
1. **[ANALOG MIC/LINE IN] コネクタ** (XLR-3-31 タイプ/バランス)  
チャンネル1～6のアナログ・オーディオ信号（ライン/マイク）を入力します。



2. **[ADJUST] レバー**  
リア・パネル部右側のプロテクターを調整するとき使用します（25ページを参照）。
3. **[TIME CODE OUT] コネクタ** (XLR-3-32 タイプ/バランス)  
タイムコードを出力します。



4. **[TIME CODE IN] コネクタ** (XLR-3-31 タイプ/バランス)  
外部タイムコードを入力します。



5. **[WORD IN] ターミネート・スイッチ**

[WORD IN] を終端させるとき ON に切り替えます。

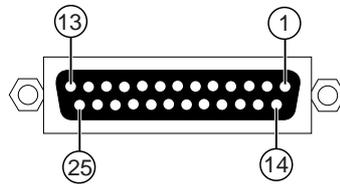
6. **[WORD/VIDEO IN], [WORD OUT] コネクタ (BNC タイプ)**

[WORD IN/VIDEO] 端子は、WORD クロック (または VIDEO クロック) を自動選別して入力します。[WORD OUT] 端子からは WORD クロックを出力します。

7. **[DIGITAL I/O] コネクタ (D-sub 25 ピン / メス)**

AES/EBU または S/P DIF のデジタル信号を入出力します。

デジタル入力信号のフォーマット (AES/EBU、SP/DIF) は自動選択で、デジタル出力信号のフォーマットは MENU モードの “ SYS SETUP ” メニューにある “ Digital out ” で設定します。



Signal	Hot	Cold	端子処理
Input 1/2	1	14	Open
Input 3/4	2	15	
Input 5/6	3	16	
Input 7/8	4	17	
Output 1/2	5	18	GND
Output 3/4	6	19	
Output 5/6	7	20	
Output 7/8	8	21	GND
Frame GND	10, 12, 13, 22, 23, 24, 25		
Open	9, 11		

\* FOSTEX 8350 および YAMAHA D-sub 25pin との互換性あり。

\* 推奨接続ケーブル

DBK-258、DB-25 (M)、TO 4XLR (M)、AND 4XLR (F)、5M (16.5FT.)  
 AES/EBU DIGITAL AUDIO TRANSFER CABLE  
 HOSA TECHNOLOGY, INC.

8. **傾斜調整アーム**

9. **[9P-REMOTE] コネクタ (D-sub 9 ピン / メス)**

将来拡張用のコネクタで、本バージョンでは機能していません。

10. **[PARALLEL] コネクタ (MINI DIN 8 ピン / メス)**

パラレル・リモート端子で、外部から PD606 をコントロールします。

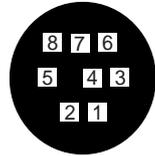
コネクタ：MINI DIN 8pin

この端子を利用することで、下記 9 種類の操作がリモート・コントロールできます。

1	PLAY	6	CUE ポイントの記録
2	STOP	7	PAUSE
3	RECORD	8	FILE ◀◀
4	REWIND	9	FILE ▶▶
5	F. FORWARD		

<具体的な使用方法>

それぞれの端子を GND に接続すると Active になります。  
 なお、PD606 本体の [PANEL LOCK] キーとは無関係で、パネル・ロックが ON になっていてもリモート・コントロールできます。



1	PLAY
2	STOP
3	REC
4	GND
5	SHIFT
6	REW
7	DC-OUT
8	FF

SHIFT + STOP	CUE
SHIFT + REC	PAUSE
SHIFT + REW	FILE ◀◀
SHIFT + FF	FILE ▶▶

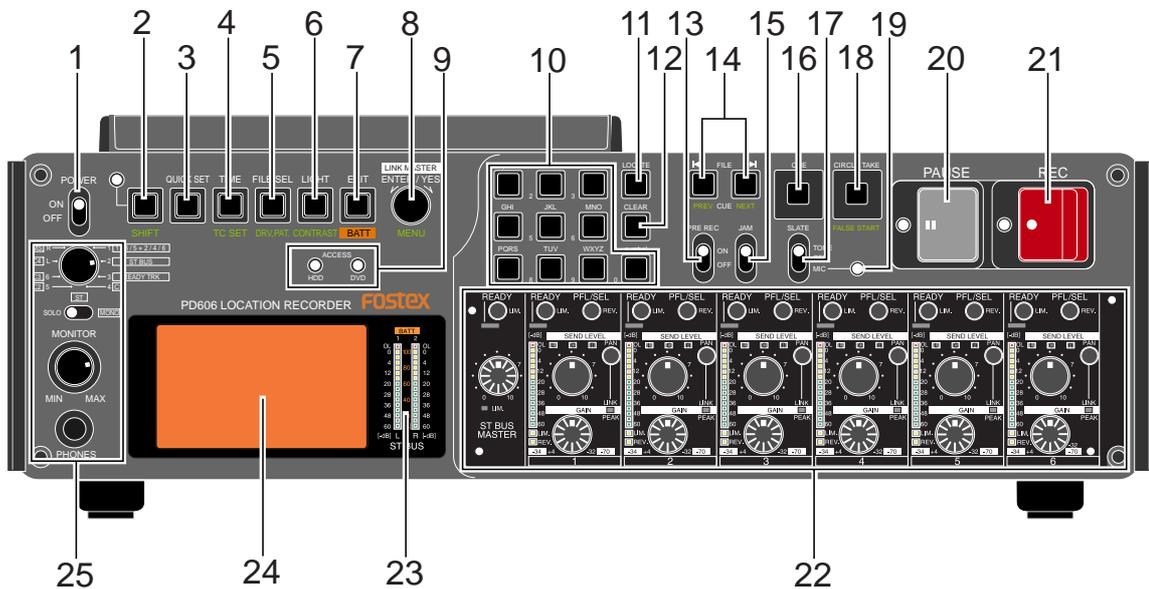
(\* ) 接続する電源によって可変 , Max 500mA。  
 POWER OFF 時にも出力されます。

<注意> : 7pin はメインの電源と共通です。GND とショートさせたり、重い負荷で使用すると、PD606 本体の電池寿命が短くなったり、異常に発熱する恐れがあります。したがって、ご使用の際は負荷をできるだけ小さくし、決してショートさせないようにご注意ください。本体がシャット・ダウンする危険性があります。

11. 把手

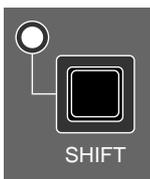
付属の肩掛けベルトを使用するときは、把手にベルトを固定します。

## フロント・パネル部



### 1. [POWER] スイッチ

本機の主電源をON-OFFします。  
電源スイッチは、誤って触れたりしないよう本体凹部に配置されています。



### 2. [SHIFT] キー / LED

Shiftモード（LED点灯）とNon-Shiftモード（LED消灯）を切り替えます。

#### < Non-ShiftモードとShiftモード >

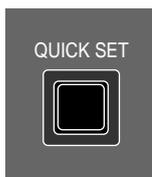
**Non-Shiftモード：** [SHIFT] LEDが消灯している状態を“ Non-Shiftモード”と呼んでいます。電源投入後は、常にNon-Shiftモードで立ち上がります。

**Shiftモード：** [SHIFT] LEDが点灯している状態を“ Shiftモード”と呼んでいます。本機が“ Shiftモード”の状態ではSHIFT機能を兼備したキーを押すと、本機がShiftモードで機能するようになります。

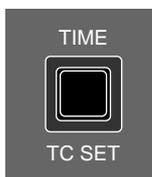
#### < SHIFT機能を兼備したキー >



例として、左記 [LIGHT/CONTRAST] キーのように、キーの下に機能の名前が印刷されているキー（黄色文字）を指しています。このキーの場合は“ Non-Shiftモード”ではディスプレイのライトを点灯させる機能で、“ Shiftモード”ではLCDディスプレイのコントラストを調整する機能に変わります。



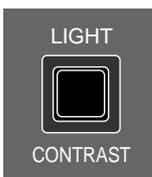
3. **[QUICK SET] キー**  
 キーを押すと「クイック・セットアップ・モード」へ入り、Home画面のステータス表示部にあるセットアップ項目が、ダイレクトに設定可能になります(74ページ参照)。クイック・セットアップ・モードをキャンセルするには、[EXIT] キーを押します。



4. **[TIME / TC SET] キー**  
 Non-SHIFT モードまたは SHIFT モードにおいて、下記の機能を果たします。
- < Non-SHIFT モード時 > :  
 ディスプレイの時間表示(ABS, LTC, TC IN, GEN)を切り替えます(56ページ参照)。
- < SHIFT モード時 > :  
 タイムコードの記録/再生に必要な設定を行う、MENUモードのTC SETUPメニューへ入ります(180ページ参照)。TC SETUPメニューから抜け出すには、[EXIT] キーを押します。



5. **[FILE SEL / DRV/PAT.] キー**  
 Non-SHIFT モードまたは SHIFT モードにおいて、下記の機能を果たします。
- < Non-SHIFT モード時 > :  
 カレント・ディスク(またはHDDのパーティション)に記録されているオーディオ・ファイルが選択できます(98ページ参照)。  
 [MENU]ダイヤルで希望のファイルを選択し、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- < SHIFT モード時 > :  
 記録/再生可能なドライブを選択するモードへ入ります(86ページ参照)。選択モードから抜け出すには、[EXIT] キーを押します。



6. **[LIGHT / CONTRAST] キー**  
 Non-SHIFT モードまたは SHIFT モードにおいて、下記の機能を果たします。
- < Non-SHIFT モード時 > :  
 ディスプレイのバックライトを点灯するとき押します(30ページ参照)。キーを一度押すと、ディスプレイのバックライトが約3秒間点灯して自動的に消灯します。また、キーを3秒以上押し続けると、バックライトは常時点灯します。消灯させるには、もう一度[LIGHT] キーを押します。
- < SHIFT モード時 > :  
 ディスプレイのコントラストを調整するモードに入り、[MENU]ダイヤルでコントラストが調整できます。調整したコントラストは、[ENTER/YES] キーを押すと保存されます(30ページ参照)。



7. **[EXIT / BATT] キー**  
 編集をキャンセルしたり、SETUPモードやUTILITYモードから抜け出すときに押します。また、Home画面が表示されている状態でこのキーを押すと、STEREO BUSのバーグラフをバッテリーの残量表示に切り替えることができます(26ページ参照)。



8. **[MENU] / [LINK MASTER] ダイアル / [ENTER/YES] キー**

このつまみは、下記ダイアル機能とキー機能を兼備しています。

**[MENU] ダイアル機能：**

MENU モードや各種編集モードにおいて、メニューの選択や文字 / 数字が入力できます。

**[LINK MASTER] ダイアル機能：**

リンクしたチャンネルのマスター・ゲインがコントロールできます。

**[ENTER/YES] キー機能：**

SHIFT モードでこのキーを押すと、MENU モードへ入ります。  
メニューの確定や実行するときに押します。

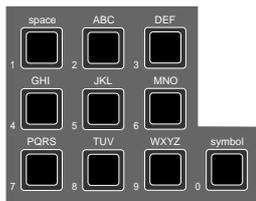


9. **[ACCESS] LED (HDD/DVD)**

DVD-RAM ドライブおよび内蔵 HDD のアクセス状態を表示します。

緑	選択されたドライブが停止状態のとき点灯します。
オレンジ	選択されたドライブがデータを読み込み中のとき点灯します。
赤	選択されたドライブがデータを書き込み中のとき点灯します。

\*DVD ドライブにディスクがセットされていないときは、DVD LED のみ消灯します。



10. **10 キー**

Home 画面が表示されている状態でいずれかのキーを押すと、タイム・データの編集・モードに入り、編集した後 [LOCATE] キーを押すと、編集したタイム・ポジションへロケートできます(102ページ参照)。また、各種編集・モードにおいては、時間の入力やラベルの入力が可能です。

<例> : 10 キーの“3”では、数字=3、文字=d/e/f/D/E/Fの入力が可能です。



11. **[LOCATE] キー**

本機が下記条件下においてこのキーを押すと、次のロケート動作を実行します。

**CUE ポイントのセレクト時：**

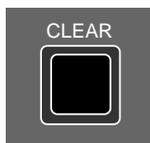
選択した CUE ポイントへロケートします(103ページ参照)。

**タイム・エディット時：**

エディットした時間へロケートします(102ページ参照)。

**Home 画面を表示している時：**

一番最後にロケートした位置へロケートします(初期設定：ABS 0)(101ページ参照)。



12. **[CLEAR] キー**

本機が下記条件下においてこのキーを押すと、次の機能を果たします。

**文字入力時：**

キーを押すごとに、カーソル位置にある文字を消去していきます。

**タイム・エディット時：**

タイム・データを“00h 00m 00s 00f 00sf”にクリアします。

**MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Peak hold”が“ ”に設定されている時：**

レベル・メータの PEAK LEVEL 値をリセットします。

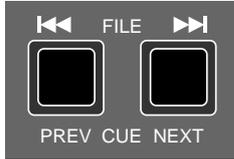
**ワーニングのポップアップが表示されている時：**

ポップアップ表示が消えます。



13. [PRE REC] ON/OFF スイッチ

このスイッチをONにして録音を開始すると、バッファに貯えられている音声データから録音を開始します(89ページを参照)。バッファに記録する時間は、本機 MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Pre rec time”メニューで任意に設定できます(154ページを参照)。



14. [◀◀/PREV] / [▶▶/NEXT] キー

Non-SHIFT モードまたは SHIFT モードにおいて、下記の機能を果たします。

< Non-SHIFT モード時 > :

現在立ち上がっているオーディオ・ファイルより前(または後)にエン트리されているオーディオ・ファイルのABS 0へスキップし、キーを押す回数だけ前(または後)のオーディオ・ファイルへスキップします(100ページを参照)。また、エディット・モードにおけるタイム/ラベル・エディット時では、カーソルの位置を左右へ移動します。

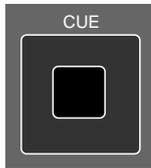
< SHIFT モード時 > :

現在位置より前(または後)にエントリされているCUEポイントへスキップします。キーの押す回数だけ前(または後)のCUEポイントへスキップします(100ページを参照)。



15. [JAM] スイッチ

ジャム機能を行うとき使用します(94ページを参照)。外部TCを入力し、その外部TCのタイム・データ/タイミングをINT GENで継続して、本機を自走させるときこのスイッチをONにします。ジャム機能は、[TC GEN] モードが“FREE RUN”に設定されているときのみ有効です。また、MENUモードのTC SETUPメニューにある“JAM mode”の設定によって、TCのみならずUBITをジャムすることができます(188ページを参照)。



16. [CUE] キー

本機が下記条件下にあるときこのキーを押すと、つぎの機能を果たします。

録音時 :

RECORD時にこのキーを押すと、オン・ザ・フライでCUEポイントを記録します。既にCUEポイントが存在するときは、現在登録されているCUEポイントの最後尾に記録されます(95ページを参照)。

録音以外の時 :

キーを押すとCUEポイントのリスト表示に変わり、登録されているCUEポイントが確認できます。さらには任意のCUEポイントへロケート、CUEポイント・データのエディット、CUEポイントのエントリも可能になります(95ページを参照)。



17. [SLATE] スイッチ

スイッチを“TONE”ポジションへ押し続けている間スレート・トーンが出力でき、“MIC”ポジションへ押し続けている間スレート・マイクが機能します(90ページを参照)。

<b>TONE</b>	このポジションに押されている間、全チャンネルへ SLATE TONE (1kHz、基準レベル)を出力します。記録時では、スレート・トーンが記録できます。  <注意> : 3秒以上押し続けると出力機能がホールドされ、連続出力となります。再度 TONE 側へ押しすとホールドは解除されます。
<b>MIC</b>	このポジションに押されている間、全チャンネルへスレート・マイクの音声が入力されます。記録時では、スレート・マイクの音声も録音できます。



## 18. [CIRCLE TAKE/FALSE START] キー

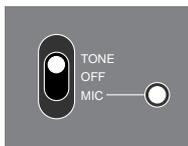
Non-SHIFT モードまたは SHIFT モードにおいて、下記の機能を果たします。

### < Non-SHIFT モード時 > :

現在立ち上がっているオーディオ・ファイルのファイル・ネーム先頭に、“@” を付加したり削除できます (128 ページを参照)。

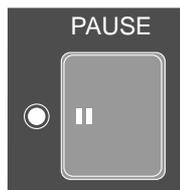
### < SHIFT モード時 > :

一番最後に実行した記録をキャンセルします (FALSE START 機能) (88 ページを参照)。キャンセルしたファイルはディスク (またはパーティション) に保存したり、削除することができます。保存するか削除するかは、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “False start” で設定できます (158 ページを参照)。



## 19. スレート・マイク

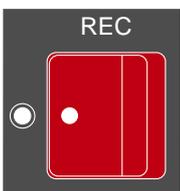
内蔵スレート・マイクで、[SLATE] セレクト・スイッチを “MIC” ポジションに押し続ける間機能します。マイク・レベルは過大入力を抑えるための保護回路付きです (AGC) (90 ページを参照)。



## 20. [PAUSE] キー / インジケータ (緑)

このキーを押すとインジケータが点灯し、本機がポーズ (STANDBY) モードになります。録音中の停止は、この [PAUSE] キーのみで行なえ、他のキーでは録音を停止できません。

ポーズの解除時間は、本機 MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Pause time” において、任意に設定することができます (152 ページを参照)。



## 21. [REC] キー / インジケータ (赤)

キーを右側へ押すと録音を開始します。

なお、“PRE REC モード” の ON/OFF 状況によって、つぎのように動作します。

### “PRE REC モード” が “OFF” で録音時 :

キーを押すと、自動的にニュー・ファイルをディスク上に作成して、オーディオおよびタイムコードの記録を開始します。このとき、記録開始 1 秒後のタイムコードと ABS のオフセットを記録します。

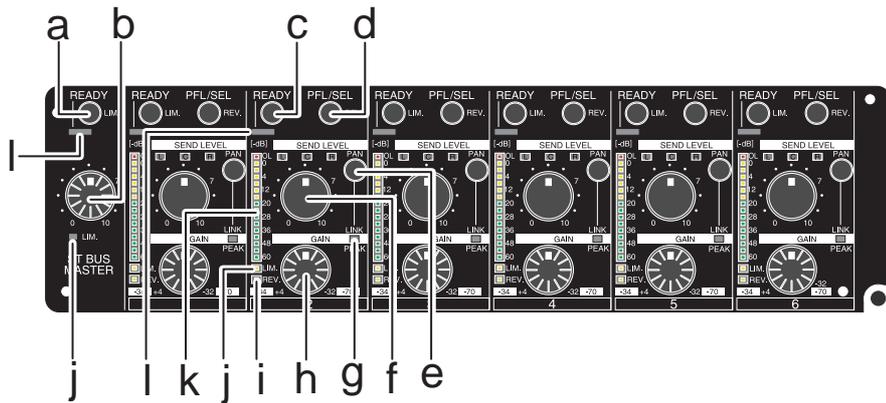
### “PRE REC モード” が “ON” で録音時 :

バッファに貯えられているオーディオ・データから記録を開始します (88 ページを参照)。このとき、記録開始 1 秒後のタイムコードと ABS のオフセットを記録します。

バッファに貯えるデータの時間は、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Pre rec time” で 1 秒 ~ 10 秒間で任意に設定できます (初期設定 : 10 秒) (154 ページを参照)。

<注意> : 記録するタイムコードは、クイック・セットアップ・モードまたは MENU モードの “TC SETUP” メニューにある “TC GEN” の設定に準じます。“TC GEN” の詳細については 76、183 ページを参照してください。

## 22. ミキサー・セクション



### a. [ST BUS READY] キー

Non-SHIFTモードまたはSHIFTモードにおいて、下記の機能を果たしません。

#### < Non-SHIFTモード時 > :

ステレオ・バストラックの Safe/Ready を切り換えます。  
Ready を On にすると ST BUS の [READY] インジケータが点滅し、記録を開始すると点灯に変わります (85 ページを参照)。

#### < SHIFTモード時 > :

ステレオ・バス L/R のリミッターを On/Off します。  
リミッター機能を On にすると、[ST BUS MASTER] コントロールつまみ下にある [LIM.] インジケータが点灯し、実際にリミッターが働いているときは早く点滅します (80 ページを参照)。  
リミッターのパラメータは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Limiter parameter”で設定できます (159 ページを参照)。

### b. [ST BUS MASTER] コントロールつまみ

ステレオ・バストラックへ送る、マスター・レベルをコントロールします (83 ページを参照)。

### c. [CH1-6 READY] キー

Non-SHIFTモードまたはSHIFTモードにおいて、下記の機能を果たしません。

#### < Non-SHIFTモード時 > :

CH1 ~ CH6 の Safe/Ready を切り換えます。  
Ready を On にしたチャンネルの [READY] インジケータが点滅し、記録を開始すると点灯に変わります (85 ページを参照)。

#### < SHIFTモード時 > :

CH1 ~ CH6 のリミッターを On/Off します。  
リミッター機能を On にしたチャンネルは、パーグラフの [LIM.] インジケータが点灯し、実際にリミッターが働いているときは早く点滅します (80 ページを参照)。  
リミッターのパラメータは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Limiter parameter”で設定できます (159 ページを参照)。

### d. [CH1-6 PFL/SEL] キー

Non-SHIFTモードまたはSHIFTモードにおいて、下記の機能を果たしません。

#### < Non-SHIFTモード時 > :

CH1 ~ CH6 の PFL (Pre Fader Listen) On/Off を切り換えます。  
PFL を On にしたチャンネルの入力信号が、単独でモニターすることができます (モノ) (84 ページを参照)。

## &lt; SHIFT モード時 &gt; :

CH1 ~ CH6 の位相が反転できます。

位相の反転したチャンネルは、バーグラフの [REV.] インジケータが点灯します (83 ページを参照)。

## e. [CH1 6 PAN] キー

Non-SHIFTモードまたはSHIFTモードにおいて、下記の機能を果たします。

## &lt; Non-SHIFT モード時 &gt; :

CH1 ~ CH6 の信号をステレオ・バスへ送る際の、パンを切り換えます。キーを押すごとに “C (Center)” -> “R (Right)” -> “OFF” -> “L (Left)” -> “C” ... の順に切り替り、それぞれのインジケータが点灯します (83 ページを参照)。

## &lt; SHIFT モード時 &gt; :

CH ~ CH6 のリンク機能を ON/OFF します。

リンク機能を On にしたチャンネルは、それぞれの [LINK] インジケータが点灯し、リンクされたチャンネルのマスター・ゲインは [LINK MASTER] ダイアルでコントロールできます (82 ページを参照)。

## f. [CH1 6 SEND LEVEL] コントロールつまみ

ステレオ・バスへ送る CH1 ~ CH6 の信号レベルをコントロールします (83 ページを参照)。

なお、MENUモードの “SYS SETUP” メニューにある “Disk Feed” を “Post” に設定したときは、ステレオ・バスへのレベル・コントロールとトラック 1 ~ 6 へ記録するときのレベルがコントロールできます (169 ページ参照)。

## g. [PEAK/LINK] インジケータ

リンクが設定されてたとき緑色に点灯し、入力ゲインのピーク時は赤く点灯 (または点滅) します。

## h. [CH1 6 GAIN] コントロールつまみ

CH1 ~ CH6 のインプット・ゲインをコントロールします (81 ページを参照)。トップ・パネルにある [INPUT SEL] スイッチの設定によって、下記範囲がコントロールできます。

[INPUT SEL] -> “LINE” 設定時 : +4dBu ~ -32dBu

[INPUT SEL] -> “MIC” 設定時 : -34dBu ~ -70dBu

## i. [REV.] インジケータ

位相が反転しているとき点灯します。

## j. [LIM.] インジケータ

リミッターがオンになっているとき点灯し、実際にリミッターが働くと点滅に変わります。

## k. CH1 6 バーグラフ

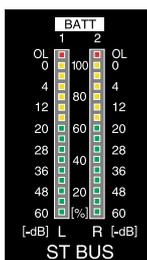
CH1 ~ CH6 の入出力レベルを表示します。

## l. [READY] インジケータ

CH1 ~ CH6 および ST BUS チャンネルが READY の時点滅し、記録開始と同時に点灯に変わります。

## 23. ST BUS バーグラフ

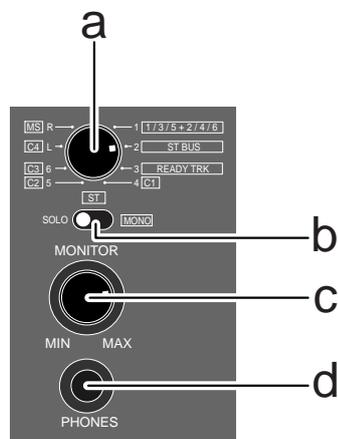
ステレオ・バス L/R の入出力レベルや、バッテリーの残容量を表示します。表示モードは、[EXIT] キーで切り換えます (26 ページを参照)。



## 24. LCD ディスプレイ

タイム情報、ファイル情報や各種設定情報など、多彩な情報を表示します（56ページを参照）。

## 25. モニター・セクション



### a. モニター・セレクトスイッチ

モニターするトラック/インプットを選択します（下記表を参照）。

### b. モニターモード・セレクトスイッチ

モニター・モードを切り替えます。

<b>SOLO</b>	単独トラック/インプット・チャンネルを、モノラルでモニターするモードです。
<b>ST</b>	複数トラック/インプット・チャンネル（固定：4個、カスタム：4個）を、ステレオでモニターするモードです
<b>MONO</b>	複数トラック/インプット・チャンネル（固定：4個、カスタム：4個）を、モノラル・ミックスでモニターするモードです。

モニター可能な信号は、モニターモード・セレクトスイッチとモニター・セレクトスイッチのポジションによって、以下のようになっています。

	SOLO		ST		MONO	
	INPUT	再生	INPUT	再生	INPUT	再生
1 <b>1/3/5+2/4/6</b>	CH1		L: CH1+3+5, R: CH2+4+6		CH1+2+3+4+5+6	
2 <b>ST BUS</b>	CH2		L: BUS L, R: BUS R		BUS L+R	
3 <b>READY TRK</b>	CH3		Ready Track	ファイル中に記録されている Ready Track	Ready Track	ファイル中に記録されている Ready Track
4 <b>C1</b>	CH4		CUSTOM 1		CUSTOM 1	
5 <b>C2</b>	CH5		CUSTOM 2		CUSTOM 2	
6 <b>C3</b>	CH6		CUSTOM 3		CUSTOM 3	
L <b>C4</b>	BUS L		CUSTOM 4		CUSTOM 4	
R <b>MS</b>	BUS R		L: MS L, R: MS R		MS L	

\*CUSTOM 1 ~ CUSTOM 4は、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Monitor Custom”で、ユーザーが任意に設定可能です（162ページを参照）。

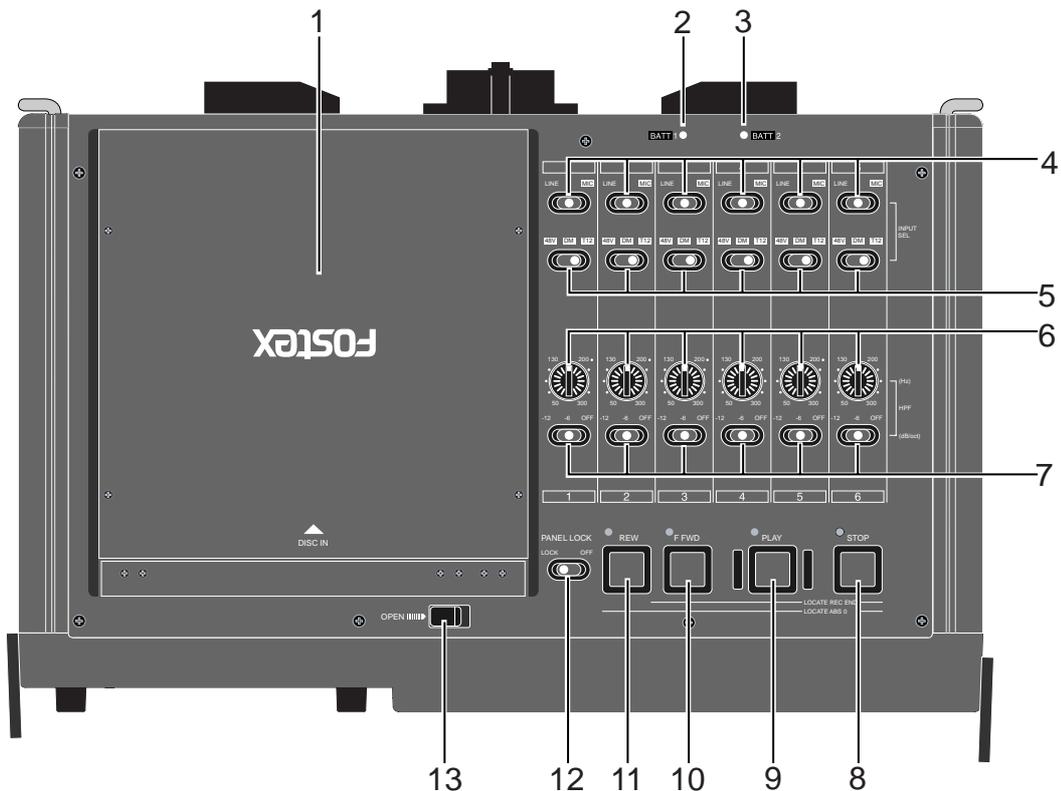
## c. [MONITOR] コントロールつまみ

ヘッドホン（または内蔵スピーカー）のモニター音量を調整します。  
つまみを押しすとパネル面とフラット位置に収納され、もう一度押しとつまみが出てきます。

## d. [PHONES] ジャック

ヘッドホンを接続します。  
このジャックはスイッチング方式になっており、ヘッドホンを差し込むと自動的に内蔵スピーカはオフになります。

## トップ・パネル部



## 1. ディスク・トレイ部

DVD-RAM ディスクをセットします。  
[OPEN] レバーを操作して保護カバーのロックを解除し、カバーを開けてディスクをセットします（33 ページを参照）。

**<注意>**: カレント・ドライブがDVDドライブに設定されているとき、ディスク・トレイからディスクを取り出す場合には、必ず本機が停止状態（PAUSEインジケータが消灯している状態）で、ドライブのイジェクト・ボタンを押ししてください（カレント・ドライブがパーティションに設定されているときは除く）。また、ディスクがイジェクトされるまで若干時間がかかりますが、その間に [PLAY] キーや [F FWD]/[REW] キーを操作しないでください。

## 2. [BATT1] インジケータ

リア・パネルの取付部-1にマウントしたバッテリーから、電源が供給されているとき点灯します（29 ページを参照）。

3. **[BATT2] インジケータ**  
リア・パネルの取付部-2にマウントしたバッテリーから、電源が供給されているとき点灯します（29ページを参照）。

4. **[INPUT SEL] スイッチ**  
アナログ・オーディオ入力（ライン/マイク）を切り換えます（79ページを参照）。

5. **マイク給電スイッチ**  
使用するマイクに合わせて、マイク電源を切り換えます（79ページを参照）。

<b>DM</b>	電源 OFF（ダイナミック・マイク使用時）
<b>48V</b>	+48VDC の電源を供給します（ファンタム給電方式）
<b>T12</b>	+12VDC の電源を供給します（A-B 給電方式）

6. **[HPF] コントロールつまみ**  
ハイ・パス・フィルターのカットオフ周波数を調整します（80ページを参照）。  
調整範囲：50Hz ~ 300Hz

7. **[HPF] 切り換えスイッチ**  
ハイ・パス・フィルターのレスポンスを切り替えます（80ページを参照）。  
設定範囲：OFF、-6dB/oct、-12dB/oct

8. **[STOP] キー / インジケータ（緑）**  
ドライブの動作を停止するとともに、ディスクの回転を停止します。  
また、MENU モードなどからも抜け出すことができます。

<注意>：バッテリーで本機を駆動しているとき、電力の消費を抑えたい場合は [STOP] キーを押して停止させてください。

[STOP] キーを押しながら [REW] キーまたは [F FWD] キーを押すことで、下記の動作を実行します。

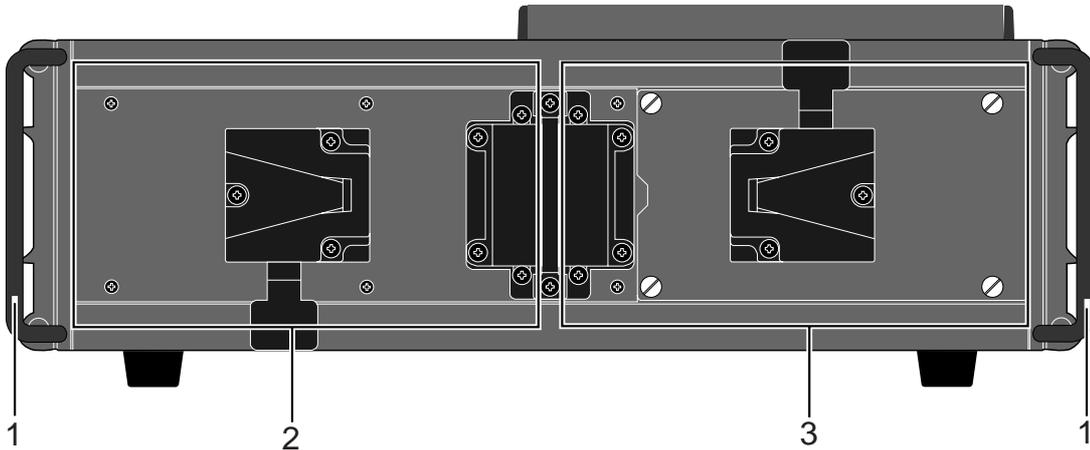
<b>[STOP] + [REW]</b>	現在立ち上がっているファイルの先頭（ABS 0）へ、速やかにロケートします。
<b>[STOP] + [F FWD]</b>	現在立ち上がっているファイルの最終記録位置（REC END）へ、速やかにロケートします。

9. **[PLAY] キー / インジケータ（緑）**  
ディスクの再生を開始します。
10. **[F FWD] キー / インジケータ（緑）**  
停止状態で押すと最大30倍速でファースト・フォワード走行となり、再生中に押すと最大2倍速でフォワード方向へキューイングを実行します。  
また、[STOP] キーを押しながらこのキーを押すと、ファイルの最終記録位置（REC END）へ速やかにロケートします。
11. **[REW] キー / インジケータ（緑）**  
停止状態で押すと最大30倍速でファースト・リワインド走行となり、再生中に押すと最大2倍速でリワインド方向へキューイングを実行します。  
また、[STOP] キーを押しながらこのキーを押すと、ファイルの先頭（ABS 0）へ速やかにロケートします。
12. **[PANEL LOCK] スイッチ**  
本体キーのパネル・ロックをオン（LOCK）/ オフ（OFF）します。  
パネル・ロックがオン（LOCK）になっているときは、[REC] キー、[PAUSE] キー、[EXIT/BATT] キー以外の操作キーは機能しません。

### 13. [OPEN] レバー

トレイ部保護カバーのロックを解除します（33 ページを参照）。  
閉めるときは、手で保護カバーを押してロックさせます。

## リア・パネル部



### 1. プロテクター

本機を縦置きするとき、リア・パネル部の保護に使用します。  
特にバッテリーを装着した場合、プロテクターを伸縮させて使用します。  
プロテクターの高さは、サイド・パネル左右にある [ADJUST] レバーをスライドしながら手で調整します（25 ページを参照）。



バッテリー未装着時でも、リア・パネル部の突起物を保護することができます。

**<注意>**：プロテクターを伸ばして縦置きするときは、必ず水平で安定した場所に置いてください。転倒しやすいため取り扱いには注意が必要です。

### 2. バッテリー取り付け部-2

IDX\* のエンデューラ・バッテリーをマウントします（23 ページを参照）。

### 3. バッテリー取り付け部-1

IDX のエンデューラ・バッテリーをマウントします（23 ページを参照）。  
また、取り付け部-1 のカバーを開けて内蔵 HDD の交換が可能です（37 ページを参照）。

\* IDX、IDX（ロゴ）、ENDURA、V-Mount、V-LOCK、V-Plate、Digi-View、i-Trax は、アイ・ディー・エクス社の登録商標です。

# LCDディスプレイ部の詳細

## Home 画面

下記図は、DVD-RAMディスク、または内蔵HDDのパーティションに記録されているオーディオ・ファイルが立ち上がったときの画面で、本書ではこの画面を「Home 画面」と呼んでいます。このHome画面は、任意チャンネルのSafe/ReadyがOnまたはOffによって、以下の表示例となります。

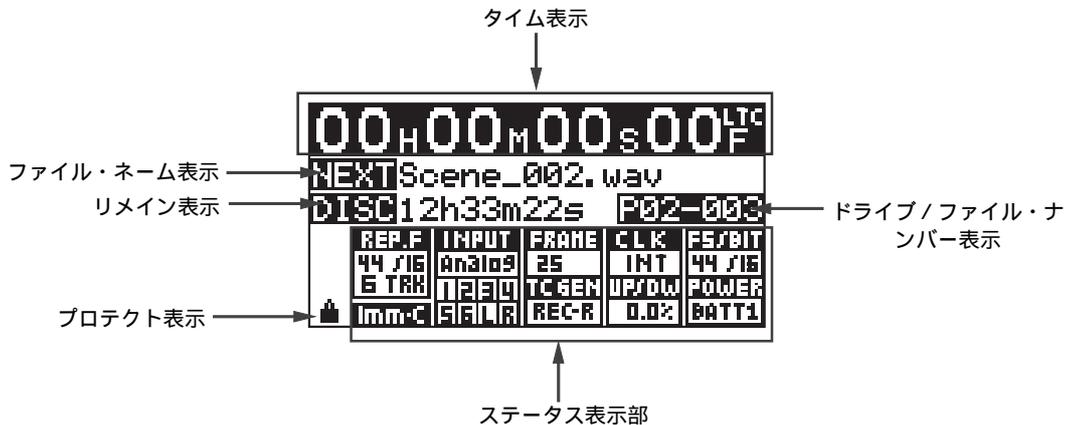


全チャンネルの Safe/Ready が Off のとき



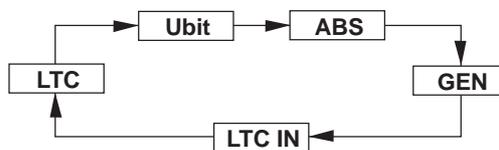
あるチャンネルの Safe/Ready が On のとき

このHome画面は下記表示部に分類され、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの情報や、各種設定状況を表示します。



### タイム表示

ファイルの現在位置を ABS 時間または LTC 時間で表示し、さらには外部 TC 時間または INT GEN TC 時間も表示します。Non-SHIFT モードで [TIME] キーを押していくと、ディスプレイのタイム表示部が下記順に切り替わります。



LTC	ディスク上に記録されている LTC を表示します。記録する LTC のスタート時間は、MENU モードの TC SETUP メニューで任意に設定が可能です。
Ubit	再生タイムコードの User Bit 情報を表示します。
LTC IN	外部 LTC 入力の TC 値とフレームレートを表示します。入力がないときは “-----” を表示します。
ABS	ファイル先頭を “00H00M00S00F” とした絶対時間を表示します。
GEN	内蔵 TC ジェネレータが生成する TC を表示します。MENU モードの TC SETUP メニューにある “Gen mode” の設定によって、表示する TC 値は異なります。

ステータス表示

再生ファイルのFS/BIT情報や、各種設定状況を表示します。また、クイック・セットアップ・モードを使うと、ステータス表示部でダイレクトに設定することができます。

	<p>再生するオーディオ・ファイルのFS/BITおよびトラック・モードが点灯します。ファイルの再生時では各設定メニューの設定より優先されるため、再生しているオーディオ・ファイルのステータスが表示されます。左記例は、44.1kHz/16Bitの6トラックで記録されたファイルを示しています。</p>
	<p>現在入力されている信号（アナログまたはデジタル）と、チャンネルが点灯します。デジタル信号が [DIGITAL IN] に入力されていないときは“Analog”が点灯し、全チャンネルはアナログ入力となります。</p> <p>また、1つのチャンネルでもデジタル・インにロックしていると“DIGITAL”が点灯し、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Rec source sel”でデジタル入力に設定したチャンネルは、白黒反転になります（右図は“Rec source sel”が初期設定時の表示です）。なお、本機ではデジタル/アナログを自動判別しています（146ページを参照）。</p> 
	<p>現在設定されているTCのフレーム値が点灯します（初期設定：25）。TCのフレーム値は、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのTC SETUPメニューにある“Frame rate”で設定可能です（75/182ページを参照）。</p>
	<p>現在設定されている本機の動作クロックが点灯します（初期設定：INT）。動作クロックは、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのTC SETUPメニューにある“Sync clock”で設定可能です（75/181ページを参照）。外部クロック信号にロックしていないときは、枠内の設定値が早く点滅します。</p>
	<p>現在設定されているFS/BITレートが点灯します（初期設定：48/24）。FS/BITレートは、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのSYS SETUPメニューにある“Record FS/BIT”で設定可能です（76/144ページを参照）。</p>
	<p>現在消費している電源を表示します。複数バッテリー（BATT1とBATT2）およびDC-INが接続されているときは、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのBATTERY SETUPメニューにある“Active battery”で給電する電源が設定できます（77/175ページを参照）。DC-INまたは1つのバッテリーから給電しているときは、設定に関わらず“DC-IN”、“BATT1”または“BATT2”が点灯します。</p>
	<p>現在設定されている内部クロック（INT）動作時の、クロックPull Up/Down値が点灯します（初期設定：0.0%）。Pull Up/Down値は、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのSYS SETUPメニューにある“Pul Up/Down”で設定可能です（76/145ページを参照）。</p>
	<p>現在設定されているTCの記録モードが点灯します（初期設定：REC RUN）。TCの記録モードは、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのTC SETUPメニューにある“Gen mode”で設定可能です（76/183ページを参照）。</p>
	<p>オート・コピーの実行時では、現在設定されているAuto Copyの記録モードが点灯します（初期設定：Offで点灯無し）。記録モードがImmediatelyモードのときは“Imm-C”が点灯し、Backgroundモードのときは“BGR-C”が点灯します。Auto Copyの記録モードは、MENUモードのSYS SETUPメニューにある“Auto Copy”で設定可能です（106ページを参照）。また、デュアル・ドライブ・レコーディングの実行時では、“DOR-m”が点灯します（115ページを参照）。</p>

### ファイル・ネーム / NEXT ファイル・ネーム表示

現在再生中 / 記録中のファイル・ネーム、または Safe/Ready が ON 時における、次に作成されるオーディオ・ファイルのファイル・ネームを表示します。

	
<p>現在再生（停止も含む）中、または記録中のファイル・ネームを表示します（記録中はリメインも表示します）。</p>	<p>Safe/Ready が On になっているチャンネルがある場合、NEXT ファイル・ネームが表示されます（同時にリメインも表示します）。</p>

ファイル・ネームは、MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Default file name”の設定によって、以下のネームを表示します（初期設定では、“Default file name”が“Take”設定時のネームになります）。“Default file name”については 140 ページを参照してください。

“Take” 設定時	Scene name + Take number がファイル・ネームになります。 Scene name および Take number は、MENU モードで任意に設定可能です。
“Date” 設定時	記録開始時のリアルタイムクロック情報がファイル・ネームになります。
“Reel” 設定時	ディスク（またはパーティション）のボリューム・ラベル（Reel No）+ ファイル・ナンバーがファイル・ネームになります。

### ディスク・リメイン表示

ディスクまたはパーティションの、記録可能な領域を時間で表示します。  
リメインは、いずれかチャンネルの Safe/Ready を ON したとき表示され、Safe/Ready ON のチャンネルが増減するごとにリメイン値も変化していきます。

### カレント・ドライブ / ファイル・ナンバー表示

カレント・ドライブ名とオーディオ・ファイルの、ファイル番号を表示します。  
DVD-RAM ディスクまたは HDD のパーティションに記録されているオーディオ・ファイルが立ち上がっているとき、下記例の表示になります。

	
<p>カレント・ドライブが DVD ドライブで、ファイル・ナンバー 002 のオーディオ・ファイルが立ち上がっていることを示しています。</p>	<p>カレント・ドライブがパーティション 1 で、ファイル・ナンバー 001 のオーディオ・ファイルが立ち上がっていることを示しています。</p>

### プロテクト表示

DVD-RAM ディスク（または HDD のパーティション）にプロテクトがかかっているかどうかを表示します。プロテクトがかかっているときは“”アイコンが点灯します。

プロテクトの設定 / 解除は、MENU モードの“DISK UTILITY”メニューで行います（211 ページ参照）。

## その他の表示例

### MENU モード画面

SHIFTモードの状態です [ENTER/YES] キーを押すと、MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。MENUモードには、PD606の動作環境を設定する各種メイン・メニューが搭載されています (136 ページを参照)。

```
MENU▶
▼SYS SETUP ▶
  BATTERY SETUP ▶
  TC SETUP
  DISK UTILITY ▶
  EDIT EDL FILE ▶
  USB to PC ▶
```

### SYS SETUP メニュー画面

MENUモードのメイン・メニューから“SYS SETUP”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、“SYS SETUP”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。“SYS SETUP”メニューには、PD606の動作に関連した設定や実行メニューが搭載されています (138 ページを参照)。

```
SYS▶
▼Set project name▶
  Default file name▶
  Default Trk Name▶
  Next event No:00001
  Record FS&Bit:48k/24
  Pull up/down: 0.0%
```

### BATTERY SETUP メニュー画面

MENUモードのメイン・メニューから“BATTERY SETUP”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、“BATTERY SETUP”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。“BATTERY SETUP”メニューには、PD606を駆動するバッテリーに関連した設定メニューなどが搭載されています (171 ページを参照)。

```
BATTERY▶
▼BATT. warning :13.2V
  DC-IN warning :13.0V
  Power Priority:DC-IN
  Active battery:BATT1
  BATT. Remain:***h**m
  BATT. status ▶
```

### TC SETUP メニュー画面

SHIFTモードの状態です [FILE SEL] キーを押すか、MENUモードのメイン・メニューから“TC SETUP”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、“TC SETUP”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。“TC SETUP”メニューには、タイムコードの記録/再生に関連した設定メニューが搭載されています (180 ページを参照)。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
  Frame rate:25
  Gen mode:Rec Run
  Set Gen.TC▶
  Set Gen.Ubit▶
  JAM mode:BOTH
```

### DISK UTILITY メニュー画面

MENUモードのメイン・メニューから“DISK UTILITY”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、“DISK UTILITY”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。“DISK UTILITY”メニューには、DVD-RAMディスク(またはパーティション)に関連した設定や実行メニューが搭載されています (196 ページを参照)。

```
DISK UTILITY▶
▼Edit file name▶
  File info.▶
  Delete file▶
  Restore Del. file▶
  Format▶
  Reel No:[***** ]
```

### USB to PC メニュー画面

MENUモードのメイン・メニューから“USB to PC”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、“USB to PC”メニューの第二階層画面に変わります。“USB to PC”メニューはPD606とパソコンを接続するためのメニューで、オーディオ・ファイルのやり取りを実行する際に使用します (119 ページを参照)。

```
MENU▶USB to PC
  Connect USB?
  Sel. Partiton PT01
  [S002 ]
  Yes :ENTER key
  No :EXIT key
```

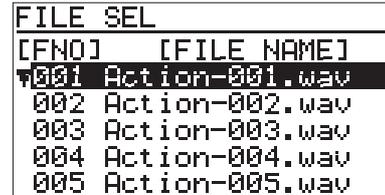
### EDIT EDL FILE メニュー画面

MENUモードのメイン・メニューから“EDIT EDL FILE”メニューを選択して[ENTER/YES]キーを押すと、“EDIT EDL FILE”メニューの第二階層画面に変わります。初期設定では、右記表示のように新たなALEファイルを作成する“<New file>”を表示します。“EDIT EDL FILE”メニューでは、AVIDシステムにオーディオ・ファイルを取り込むためのEDL (Edit Decision List) ファイル (ALEファイル) の作成や編集を実行することができます (123 ページを参照)。



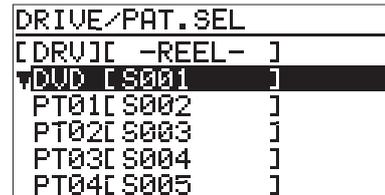
### オーディオ・ファイルのセレクト画面

Non-SHIFTモードの状態では[FILE SEL]キーを押すか、MENUモードのメイン・メニューから“FILE SEL”メニューを選択して[ENTER/YES]キーを押すと、カレント・ディスク (またはパーティション) に記録されているオーディオ・ファイルのリストが表示されます。[MENU]ダイヤルで任意のファイルを選択して[ENTER/YES]キーを押すと、選択したオーディオ・ファイルが立ち上がります (98 ページを参照)。



### ドライブのセレクト画面

SHIFTモードの状態では[FILE SEL]キーを押すか、MENUモードのメイン・メニューから“DRV/PAT SEL”メニューを選択して[ENTER/YES]キーを押すと、ドライブ (DVDまたはパーティション) が選択可能になります。[MENU]ダイヤルで任意のドライブを選択して[ENTER/YES]キーを押すと、選択したドライブが立ち上がります (86 ページを参照)。



### CUE ポイントのリスト画面

Non-SHIFTモードの状態では[CUE]キーを押すか、MENUモードのメイン・メニューから“CUE LIST”メニューを選択して[ENTER/YES]キーを押すと、記録されているCUEポイントのリスト一覧が表示されます。“CUE LIST”メニューでは、任意のCUEポイントの確認 / 編集 / 登録が可能になります (95 ページを参照)。



### コントラストの調整画面

SHIFTモードの状態では[LIGHT / CONTRAST]キーを押すと、ディスプレイのコントラストを調整するモードに変わります。コントラストは[MENU]ダイヤルを回して調整します。時計方向へ回すとコントラストが弱くなり、反時計方向へ回すと強くなります。調整後、[ENTER/YES]キーを押すと確定され、調整モードから抜け出します (30 ページを参照)。



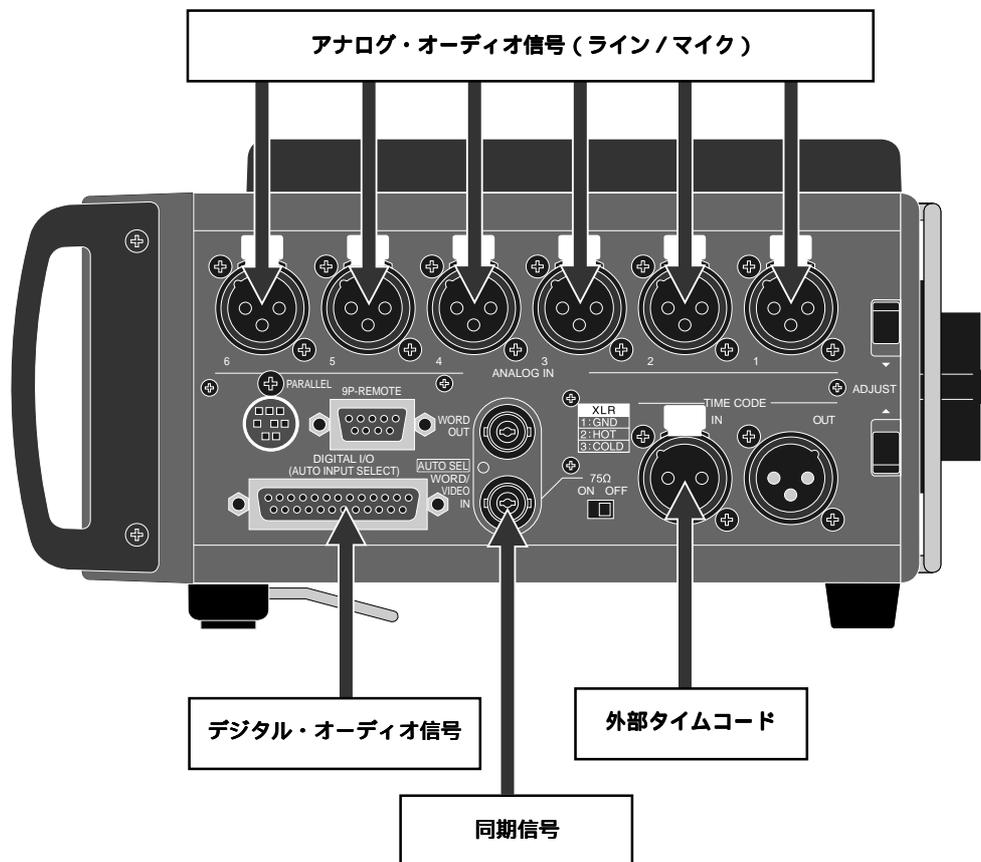
# 第4章 基本接続

ここでは、基本的な PD606 の入出力端子への接続について記載しています。

## < 第4章 目次 >

<b>入力信号の接続</b> .....	<b>62</b>
アナログ・オーディオ信号の接続.....	62
デジタル・オーディオ信号の接続.....	63
外部タイムコードの接続.....	63
同期信号入力への接続.....	63
<b>出力信号の接続</b> .....	<b>64</b>
アナログ出力信号の接続.....	65
デジタル出力信号の接続.....	65
タイムコード出力の接続.....	65
外部同期信号の接続.....	65
STEREO BUS出力の接続.....	65
<b>その他の接続</b> .....	<b>66</b>
USBキーボードの接続.....	66
PCへの接続.....	68
外部コントローラの接続.....	68
電源への接続.....	69
<b>接続応用例</b> .....	<b>70</b>
収録時の接続例(1).....	70
収録時の接続例(2).....	71

## 入力信号の接続



### アナログ・オーディオ信号の接続

本機の [ANALOG IN] には、6チャンネルの入力を装備しています。コネクタは、バランス式のXLR-3-31タイプを採用し、用途に合わせてラインまたはマイクの接続が可能です。

個々のチャンネルにはINPUT SEL (LINE/MIC) の他に独立したマイク電源・リミッター回路・HPF (ハイパス・フィルター) を装備しています。マイク電源はファントム給電方式 (P48) および A-B 給電方式 (T12) を搭載し、各種コンデンサー・マイクの使用に対応します。また、リミッターはスレッシュホールドおよびレシオの設定が可能です。パラメータは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Limiter parameter”で設定します (159ページを参照)。HPFはカットオフ周波数の調整と、減衰量のカーブの切り換えが可能です。

アナログ・オーディオ信号を記録するには、入力するソースに合わせてトップ・パネルの [INPUT SEL] スイッチ (LINEまたはMIC) を切り替え、マイク使用時は用途に合わせたマイク電源を選択し、[ANALOG IN] 端子にアナログ・ソースを接続します (詳細は、この後73ページの「記録/再生」を参照してください)。

## デジタル・オーディオ信号の接続

デジタル入力は、IEC 60958 Part 3 (AES/EBU)フォーマットとIEC 60958 Part 2 (S/P DIF)フォーマットに準拠した、デジタル・オーディオ・データを受け付けます(フォーマットは自動認識します)。コネクタはバランスのD-sub 25pinを採用しています。

デジタル・オーディオ信号を記録するには、[DIGITAL I/O] 端子 (D-sub 25pin) にデジタル・ソースを接続し、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Rec source sel”(146ページ参照)でデジタル入力チャンネルを設定します(1-2、3-4、5-6、L-Rの2チャンネルごとに設定できます)。

デジタル・ソースが設定したチャンネルに入力されると、PLL (Phased-locked loop)がオンになり入力同期信号にロックします。

**<注意>** : デジタル信号を入力するときは、入力するデジタル信号のFSと本機のFS/BIT設定を合わせる必要があります。本機のFS/BITは、クイックセットアップまたはMENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Record FS&Bit”で設定が可能です(76ページまたは144ページを参照)。

## 外部タイムコードの接続

本機の[TIM ECODE IN] 端子はSMPTE/EBUタイムコードを受け付け、コネクタにはバランスのXLR-3-31タイプを採用しています。

外部タイムコードを記録するには、[TC GEN] モードを“EXT (EXT RUN)”に設定します。[TC GEN] モードは初期設定で“REC RUN”になっていますが、クイックセットアップまたはMENUモードの“TC SETUP”メニューにある“Gen mode”で設定できます(76/183ページ参照)。

[TIME CODE IN] 端子に有効な外部タイムコードが入力されている状態でディスプレイのタイム表示を“LTC IN”に切り替えると、入力されているタイムコードの時間とフレーム・レートが確認できます([TIME] キーで切り換えができます)。本機に対する「有効なタイムコード」とは、つぎの条件を満たしているタイムコードを指しています。

- 1) 正方向でタイムコードが連続していること
- 2) SYNC WORDとFRAME RATEが一致していること
- 3) タイムコード信号にドロップ・アウトがないこと

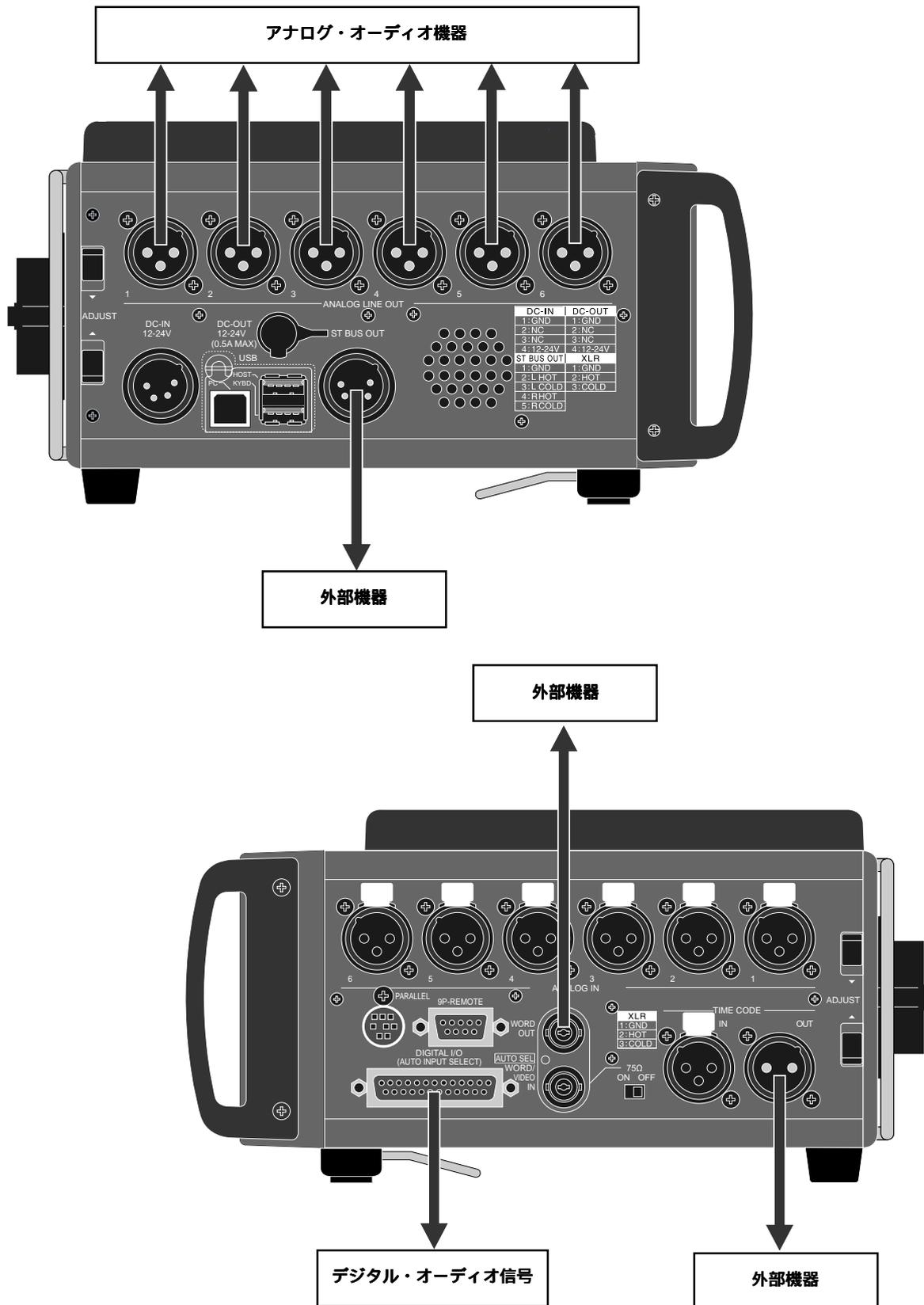
\* 外部タイムコードを接続してJAMするには、この後73ページの「第5章 記録/再生」を参照してください。

## 外部同期信号の接続

本機には、外部機器に同期させて走行させるための[WORD/VIDEO IN] 端子を装備しています。

外部機器からのWORDクロック、またはVIDEOクロックが入力でき、外部機器との同期走行が可能です(入力される同期信号は自動判別されます)。コネクタはBNCタイプを採用しています。

## 出力信号の接続



## アナログ出力信号の接続

[ANALOG OUT] コネクタ 1 ~ 6 は、バランス式 XLR-3-32 タイプを採用しています。出力レベルは +4dBu で、バークラフ・メータの -20dB に相当します。

<注意> : [ANALOG OUT] コネクタからの出力をアンバランス式の入力端子を持つ機器に接続する場合、GND ピンとHOT ピンのみを使用してください。使用しないCOLD ピンをGND ピンに接続すると、クロストークやノイズが増えるので注意してください。また、バッテリーの無駄な消費を抑えるためにも、使用しないCOLD ピンはGND ピンに接続しないでください。出力レベルはバランス式より 6dB 低くなります。

## デジタル出力信号の接続

[DIGITAL I/O] 端子からは、IEC 60958 Part 3 (AES/EBU)、または IEC 60958 Part 2 (S/P DIF)フォーマットに準拠した、デジタル・オーディオ信号を出力します。コネクタはバランス式の D-sub 25pin を採用しています。

DIGITAL OUT のフォーマット (AES/EBU または S/P DIF) は、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Digital out” で設定します (初期設定は “AES/EBU” になっています)。

\* “Digital out” の設定については、147 ページを参照してください。

## タイムコード出力の接続

[TIME CODE OUT] 端子からは、SMPTE/EBU フォーマットのタイムコードを出力します。コネクタは、バランス式の XLR-3-32 タイプを採用しています。

ディスク (またはパーティション) に記録されたタイムコード (REPRO TC) または本機内蔵の TC ジェネレータが生成するタイムコード (INT GEN TC) が出力でき、MENU モードの “TC SETUP” メニューにある “Sel. TC Out” で、出力する TC を選択します (189 ページ参照)。

## 同期出力信号の接続

[WORD OUT] 端子からは、同期信号を必要とする外部機器へ “WORD クロック” が出力できます。コネクタは BNC タイプを採用しています。

## STEREO BUS 出力の接続

[ST BUS OUT] 端子からは、STEREO BUSS L, R の信号が出力できます。コネクタは XLR-5-32 タイプを採用しています。

基準出力レベルは初期設定で “+4dBu” になっていますが、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Stereo out level” で、“-10dBu” または “-60dBu” に設定可能です (161 ページ参照)。

## その他の接続例

### USB キーボードの接続

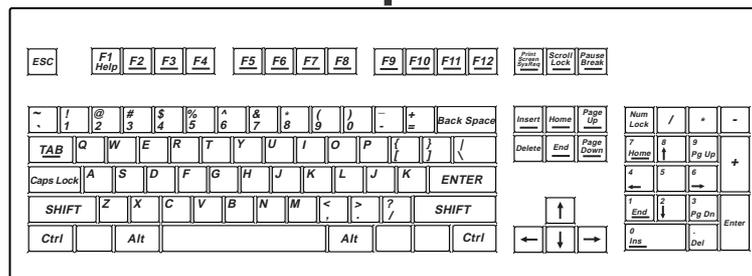
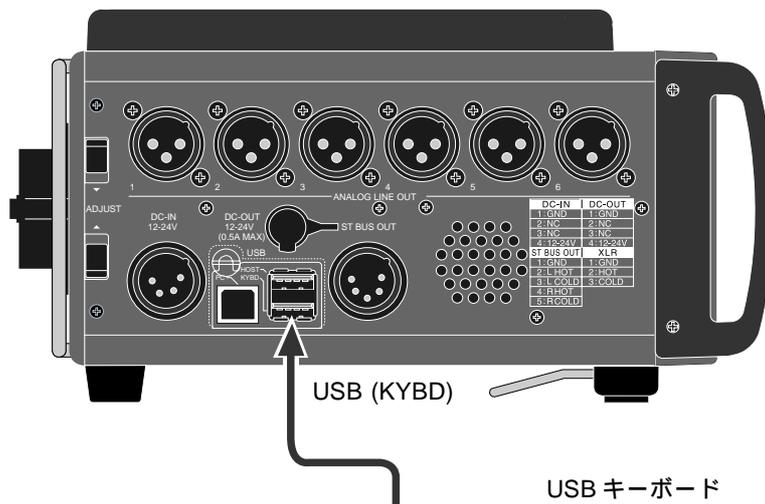
本機にはUSB キーボードを接続するための [USB (KYBD)] 端子を搭載しています。本機にUSB キーボードを接続することで、ファイル・ネーム/ラベル・ネームなどの入力や、MENU モードの設定などをキーボードで操作することができます。

#### < USB キーボード使用時の注意 >

USB キーボードを接続して使用するには、MENU モードのSYS SETUP メニューにある “Keyboard” で、接続するキーボード (“US” または “JAPAN”) の設定が必要です (153 ページを参照)。

一部キーボードによって、接続後キーを押さないとLED が点灯されないものがあります。

キーボードに “USB HUB”、“USB MOUSE”、“PS2 MOUSE” などが内蔵されているものは、動作対象外です。



#### ファンクション・キー

F1 キー	DISK UTILITY モードにある “ Edit file name ” メニューへ入ります。
F2 キー	PD606 本体の [CIRCLE TAKE] キーと同じ機能を果たします。
F3 キー	SYS SETUP モードにある “ Default file name ” メニューへ入ります。
F4 キー	SYS SETUP モードにある “ Default track name ” メニューへ入ります。
F5 キー	TC SETUP モードにある “ Set Gen TC ” メニューへ入ります。

## ショートカット・キー

ALT + F キー	PD606 本体の [FILE SEL] キーと同じ機能を果たします。
ALT + D キー	PD606 本体の [SHIFT] キー + [FILE SEL] キーと同じ機能を果たします。
ALT + C キー	PD606 本体の [CUE] キーと同じ機能を果たします。
ALT + S キー	SYS SETUP モードへ入ります。
ALT + U キー	DISK UTILITY モードへ入ります。
ALT + T キー	TC SETUP モードへ入ります。
ALT + E キー	EDIT EDL FILE モードへ入ります。

## コントロール・キー

CTRL+ L キー	PD606 本体の [LOCATE] キーと同じ機能を果たします。
------------	-----------------------------------

## 固有キー

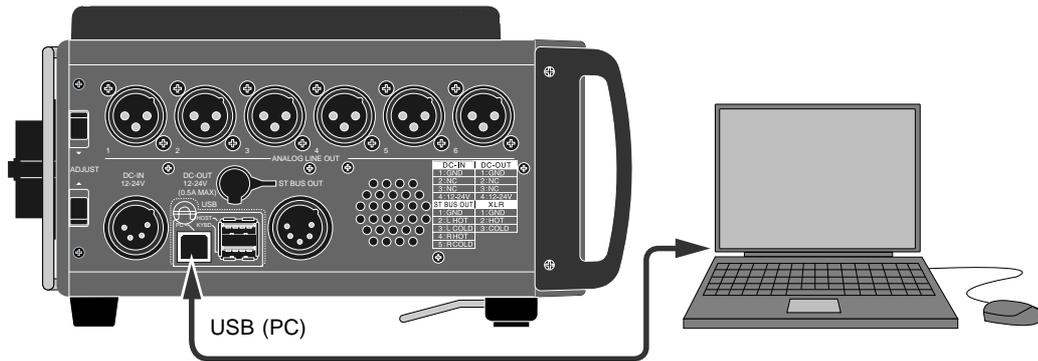
/ / / キー	ラベルの入力 / ファイル・ネームの入力などのエディット・モード、あるいは MENU モードなどに入ったとき、文字の入力やカーソルの移動などが行なえます。
/ キー	PD606 本体の [ <<] / [>> ] キーと同じ機能を果たします。
BS キー	Back Space 機能を果たします。
DEL キー	ラベルの入力 / ファイル・ネームの入力などのエディット・モードで、デリート機能を果たします。
ENTER キー	PD606 本体の [ENTER/YES] キーと同じ機能を果たします。
ESC キー	PD606 本体の [EXIT] キーと同じ機能を果たします。
HOME キー	ダイレクトに Home 画面へ戻ります。

<注意> : USB キーボードの各キーの機能は、改良のため変更することがあります。

## PCの接続

サイド・パネル左には、PC 接続専用の USB 端子を備えています。PC を本機に接続することで PC 側から本機のドライブをコントロールすることができ、パソコンとの間でオーディオ・ファイルのやり取りが行なえます（詳細は 118 ページを参照）。

**<注意>** : PC と接続して使用するには、あらかじめ MENU モードにある“ USB to PC ”メニューを“ CONNECT ” に設定します。詳細は 119 ページを参照してください。



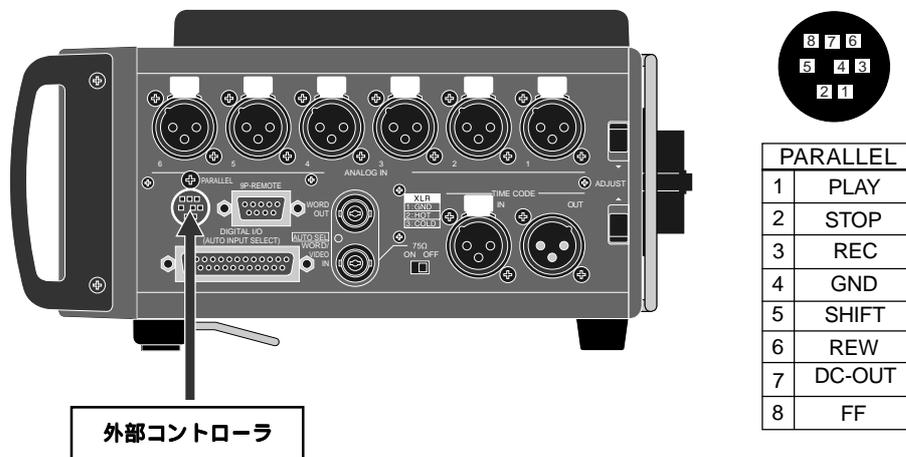
## 外部コントローラの接続

サイド・パネル右にはパラレル・リモート端子（MINI DIN 8-pin）を搭載し、外部コントローラを接続して本機をコントロールすることができます（下記 9 種類の操作が可能です）。

1	PLAY	2	REWIND	3	PAUSE
4	STOP	5	FAST FOWARD	6	◀◀
7	REC	8	CUE ポイントの記録	9	▶▶

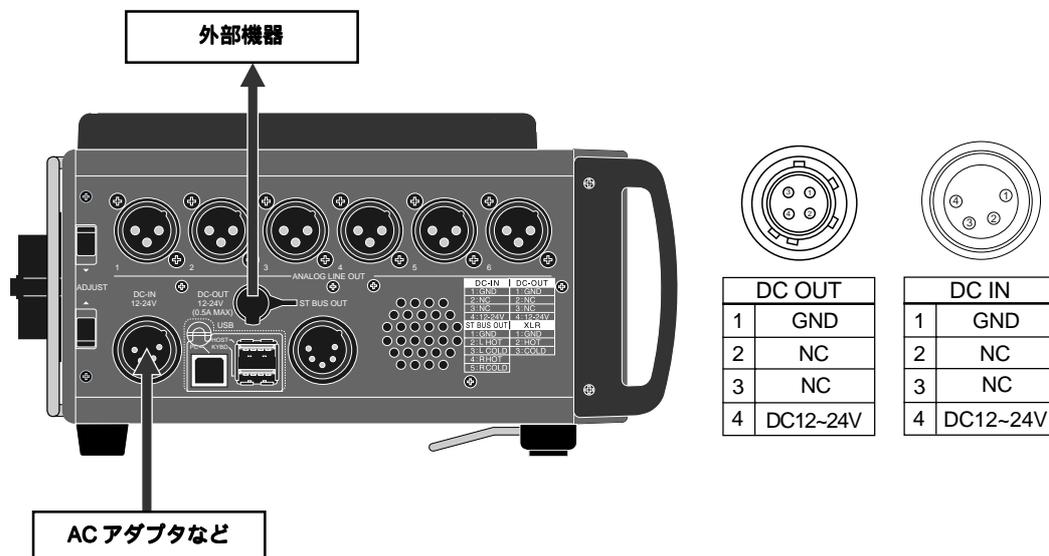
<具体的な使用方法>

各端子を GND に接続することで Active になります（詳細は 44 ページを参照）。



## 電源の接続

サイド・パネル左には [DC IN] 端子 (XLR-4-32 タイプ) を装備し、本機をオプションの AC アダプタなどの外部電源で駆動するとき 사용합니다。また、DC-12V の電源を必要とする外部機器へ電源を供給するための、[DC OUT] 端子も装備しています。



### < [DC OUT] 端子を使用する場合の注意 >

本機の [DC OUT] は、使用する電源の電圧によって最大 0.5A の DC12 ~ 24V が出力可能です。それ以外の電源を必要とする外部機器は接続しないでください。

外部機器への電源供給は、極力本機が外部電源 (AC アダプターなど) を使用しているときに行ってください。本機をバッテリーで駆動しているとき外部機器へ供給すると、バッテリーの消耗が激しくなります。

## 接続応用例

### 収録時の接続例（1）

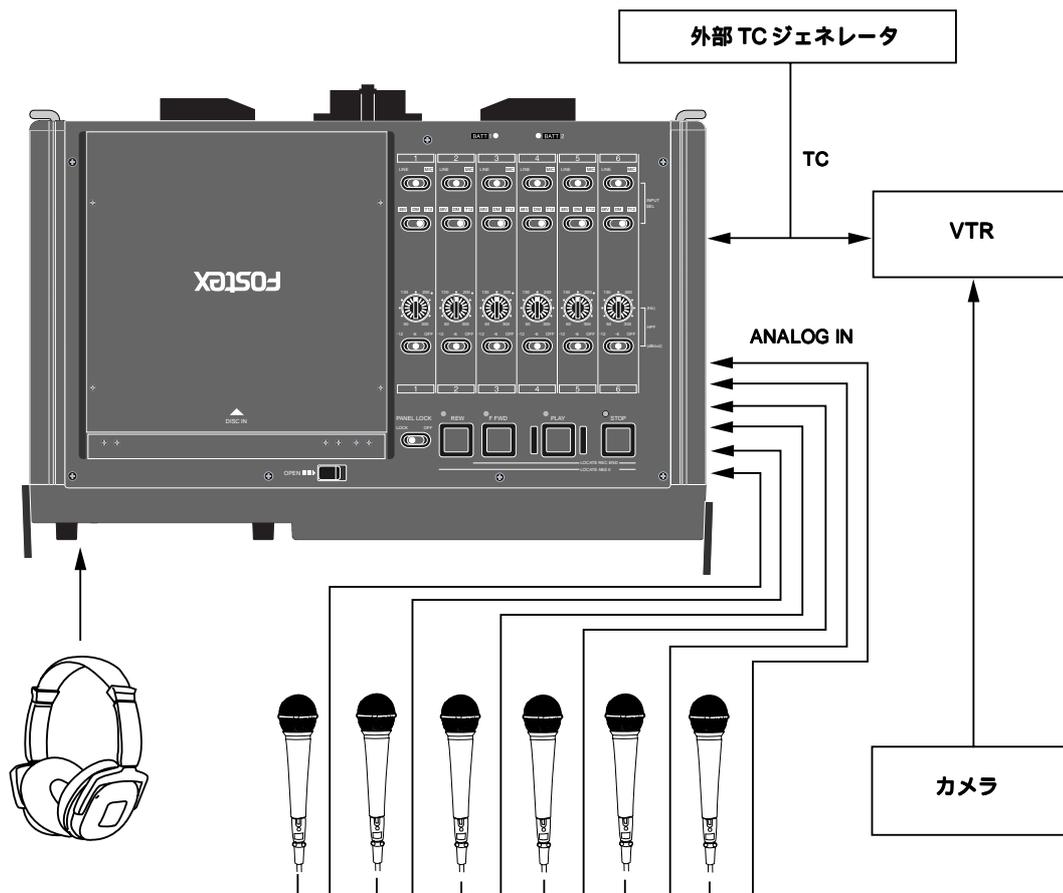
マイクロホンを使った収録は、取材やフィルムの音録りなど、ポータブルの機動性を生かした PD606 の最もベーシックな使用方法です。

下記接続例では、VTRに記録する TC のタイム・データとタイミングに合わせて PD606 を走行させ、マイク収録と TC 記録を同時に実現しています。

PD606 には 6 チャンネルのマイク音源が入力でき、音声の収録 + ステレオ効果音など多彩な収録が可能になります。

VTR に接続された外部 TC ジェネレータの出力を、PD606 の [TIME CODE IN] コネクタにも供給します。ここで本機の JAM 機能を使うと、PD606 の INT TC ジェネレータが外部 TC に同期した後、高精度で自走します。この後、外部 TC ジェネレータからのラインを外しても、VTR との同期を保ったまま VTR から離れた取材活動ができます。外部 TC を外すと、実際には本機が水晶精度で自走します（本機の TC GEN モードが “FREE RUN” 設定時）。

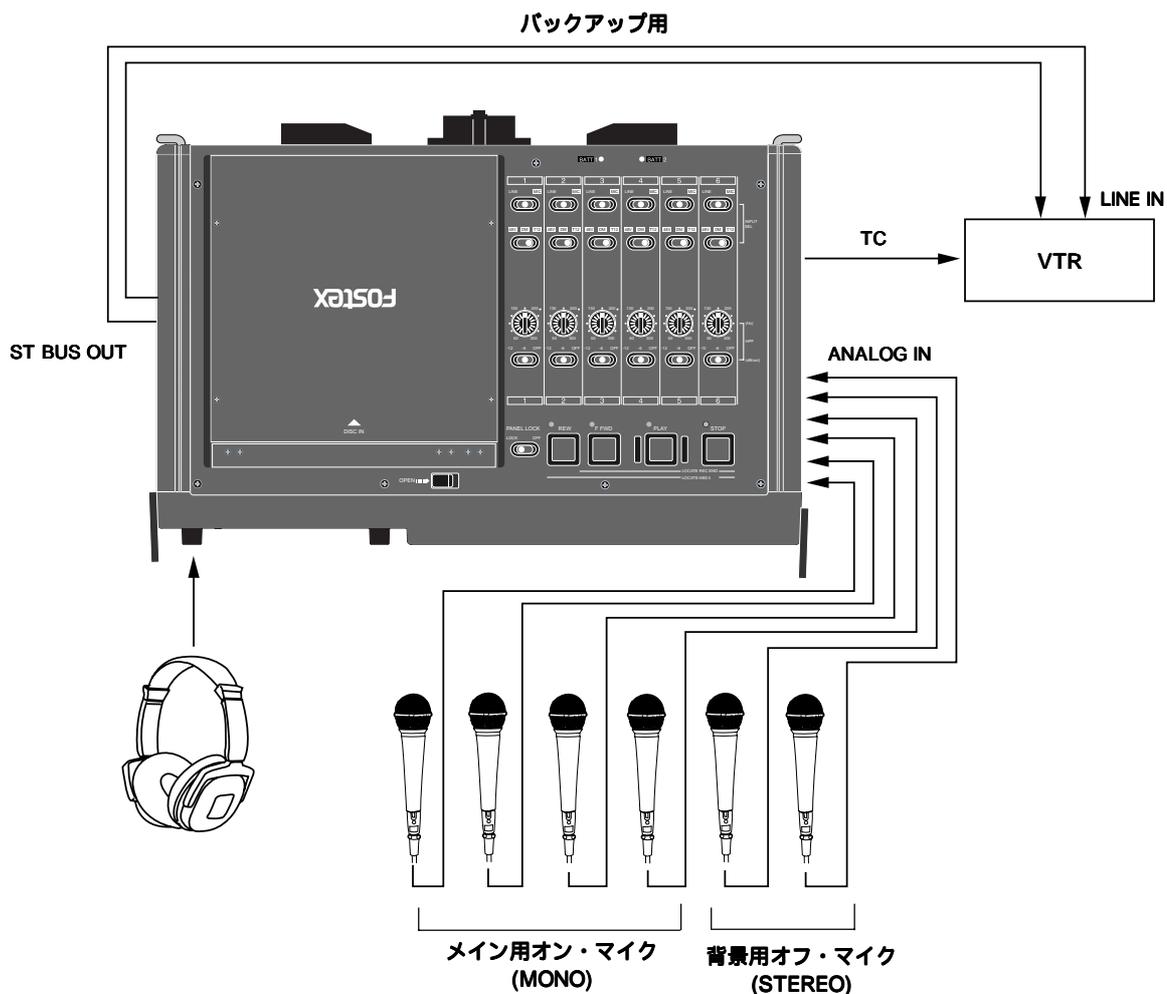
\*JAM 機能については、「第5章 記録 / 再生」の 94/188 ページを参照してください。



## 収録時の接続例(2)

次の例では、6チャンネルのミキサー機能を生かし、メイン用オン・マイク(MONO)と、背景収録用オフ・マイク(STEREO)を接続して、外部ミキサーを使わずに記録が可能です。

ここでは先の例と異なり、本機のINT TCジェネレータで生成するタイムコードをマスターTCとしてVTRへ入力し、本機の[ST BUS OUT]コネクタから出力されるステレオ・バスL/R信号の音声を、バックアップ用としてVTRに録音することが可能です。





# 第5章 記録 / 再生

ここでは、アナログ・オーディオ信号 / デジタル・オーディオ信号の基本的な記録 / 再生、タイムコードの記録 / 再生、さらにはCUEポイントの記録、スキップ / ロケート機能などについて記載しています。

## < 第5章 目次 >

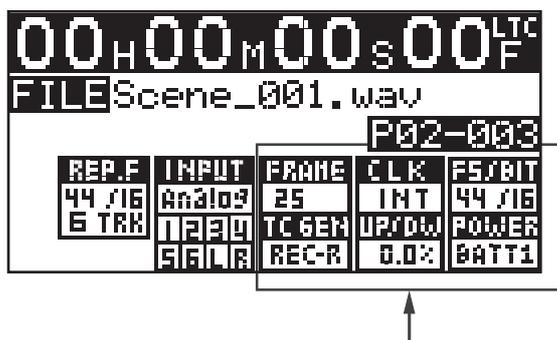
<b>記録前の準備</b> .....	<b>74</b>
クイック・セットアップ・モードの設定.....	74
MENUモードの設定.....	77
ミキサー部の設定.....	79
記録するドライブの選択.....	86
<b>アナログ・オーディオ信号の記録</b> .....	<b>87</b>
記録の開始.....	87
記録のやり直し( FALSE STARTの実行 ).....	88
PRE RECモード <sup>※</sup> ON による記録( プリ・レコーディング ).....	89
スレート・トーン / スレート・マイクの記録.....	90
<b>デジタル・オーディオ信号の記録</b> .....	<b>91</b>
記録ソースの設定.....	91
サンプリング周波数 / BITレートの設定.....	91
システム・クロックの設定.....	91
スレート・トーン / スレート・マイクの記録.....	90
<b>タイムコードの記録</b> .....	<b>92</b>
TCフレーム・レートの設定.....	92
TCジェネレート・モードの設定( TCの記録モード ).....	92
外部TC入力による自動記録機能の設定.....	93
タイムコード出力の設定.....	93
<b>外部TCへのフォース・ジャム( ジャム機能 )</b> .....	<b>94</b>
<b>CUEポイントの記録</b> .....	<b>95</b>
記録中、リアルタイムにCUEポイントを記録.....	95
記録したCUEポイントの確認.....	95
CUEポイントの編集.....	96
CUEポイント・リストに新たなCUEポイントを記録.....	97
<b>再 生</b> .....	<b>98</b>
通常の再生.....	98
キュー・モードによる再生.....	99
タイムコードの再生.....	99
<b>スキップ / ロケート機能</b> .....	<b>100</b>
ファイル単位のスキップ.....	100
CUEポイントのスキップ.....	100
ファイルの先頭( ABS 0 )へロケート.....	101
ファイルの最終記録位置( REC END )へロケート.....	101
一番最後にロケートした位置へ再ロケート.....	101
任意のタイム・データを入力してロケート.....	102
任意のCUEポイントを選択してロケート.....	103

## 記録前の準備

オーディオ信号の記録時は、クイック・セットアップ・モード(またはMENUモード)およびミキサー部において用途に合わせた設定を行います。

### クイック・セットアップ・モードの設定

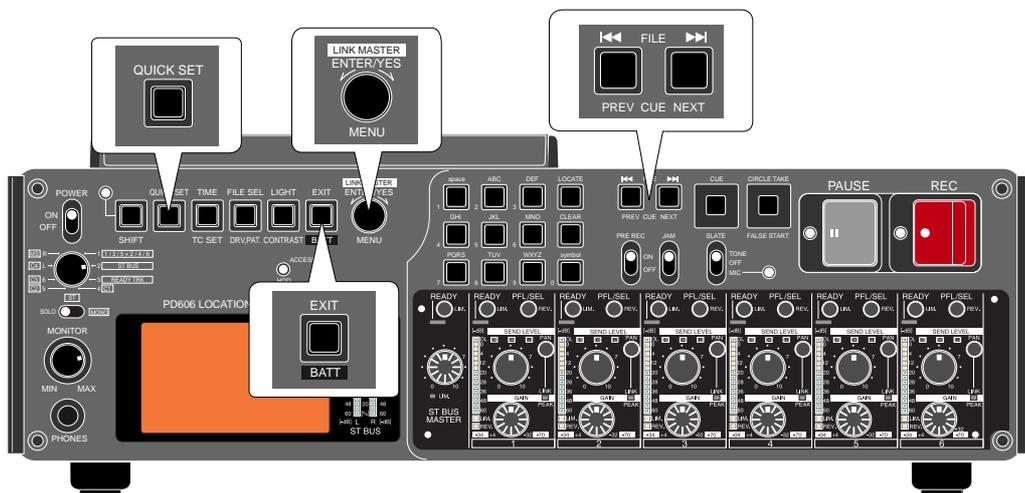
クイック・セットアップ・モードとは、本機の動作に関連した主な設定をHome画面上で素早く行う機能です。本機の動作環境などを設定する多くの項目はMENUモードに搭載されていますが、クイック・セットアップ・モードでは下記項目の設定がHome画面上のステータス表示部(下記矢印部分)を使って行います。



- (1) LTCのフレーム・レート
- (2) システムの動作クロック
- (3) 記録時のFS/BIT
- (4) TCの記録モード
- (5) クロックのPull up/down
- (6) 現在消費されている電源

### クイック・セットアップ・モードの設定手順

クイック・セットアップ・モードの設定は、下記手順で行います。



- 1) Home画面が表示されて停止している状態で、[QUICK SET] キーを押します。ステータス表示部のネーム部分が点滅し、初期設定では“FRAME”が点滅します。



この状態で [MENU] ダイアルを回す（または [←] キー / [→] キーを押す）と、点滅ポジションが以下の順で移動し、設定項目が選択できます。



- 2) 設定するポジションを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 選択したステータス表示枠内の項目が点滅になり、[MENU] ダイアルで選択可能になります。



- 3) [MENU] ダイアルで必要な項目を選択した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
 選択した項目に設定され、ネーム部分の点滅に変わります。  
 同じ要領で必要な設定を実行します。
- 4) 設定後、[EXIT] キーを押して、クイック・セットアップ・モードから抜け出します。  
 クイック・セットアップ・モードで設定する詳細については、この後の説明を参照してください。

## LTC（または外部 TC）のフレーム・レート設定（“ FRAME ” 表示部）

内蔵 TC ジェネレータが生成する LTC、または外部 TC のフレーム・レートを設定します。

選択可能なフレーム・レート（初期設定：25）
23 (23..97)、24、25、29.97DF、29.97ND、30DF、30ND

本機では、オーディオ信号の記録と同時に LTC が記録されます。この LTC は、初期設定で “ 01h 00m 00s 00f (ABS 0 に 1 時間のオフセットを持たせています) ” をスタート・タイムとしてファイルの先頭に記録し、そのスタート・タイムをジャムして記録します。なお、LTC の記録モード (TC GEN モード) は初期設定で “ Rec Run ” になっているため、オーディオ信号を記録するごとに連続した LTC が記録されます。また、外部 TC を記録するときは、入力する外部 TC に合わせて本機のフレーム・レートを設定します。

フレーム・レートの設定、および LTC のスタート・タイムは、MENU モードの “ TC SETUP ” メニューにある “ Frame Rate ” および “ Default LTC Start ” で変更できます。詳細は 182 ページと 190 ページを参照してください。

## システムの動作クロック設定（“ CLK ” 表示部）

本機の動作クロックを設定します。

選択可能な動作クロック（初期設定：INT）
INT、DIGI、WORD、VIDEO

通常、本機内部の動作クロックで記録するときは、初期設定の “ INT ” で使用しますが、外部デジタル・インや Word クロック、さらには Video クロックにロックさせる場合は、“ DIGI ”、“ WORD ” または “ VIDEO ” を選択します。

動作クロックは MENU モードの “ TC SETUP ” メニューにある “ Sync clock ” でも設定できます（詳細は 181 ページを参照）。

**<注意>** :動作クロックを“DIGI”(または“WORD”、“VIDEO”)に設定したとき、枠内の“DIGI”(または“WORD”、“VIDEO”)が早く点滅することがあります。これは、本機に正しいデジタル信号(またはWordクロックなど)が入力されていない、あるいはデジタル信号(またはWordクロックなど)にロックしていない状態を示しています。このような場合には、ケーブルの接続などを確認してください。

**<注意>** :動作クロックが“DIGI”または“WORD”に設定されているとき、再生しようとするファイルのFSと本機のFS設定が異なっていると、正常に再生することができません。このような場合には、本機のFS設定を再生するファイルのFSと同じ値に設定してください。

## サンプリング周波数/量子化ビット数の設定 (“**FS/BIT**”表示部)

記録時のサンプリング周波数/量子化ビット数を設定します。

選択可能なFS/BIT (初期設定 : 48kHz/24Bit)
44.1/16、44.1/24、48/16、48/24、88.2/24、96/24、176.4/24、192/24

サンプリング周波数/量子化ビット数は、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Record FS & BIT”でも設定できます(144ページ参照)。

**<注意>** :デジタル信号の記録時は、入力するデジタル信号のFS/BITと本機のFS/BIT設定を合わせる必要があります。

**<注意>** :記録中はFs/Bitの変更は行なえません。記録中変更したFS/Bitは、記録終了と同時に有効となります。

**<注意>** :本機で記録可能なトラックとFS/BITについては、この後84ページを参照してください。

## TCの記録モード設定 (“**TC/GEN**”表示部)

内蔵TCジェネレータが生成するLTC、または外部TCの記録モードを設定します。

選択可能な記録モード (初期設定 : Rec-Run)
Free Run、Rec-Run、24H-Run、EXT-Run

TCの記録モードはMENUモードの“TC SETUP”メニューにある、“Gen mode”でも設定できます(183ページ参照)。

**<注意>** :Default LTCスタート時間はMENUモードの“TC SETUP”メニューにある“Default LTC start”で設定が可能です(190ページ参照)。

## クロックのプルアップ/プルダウン設定 (“**PU/DN**”表示部)

システムの動作クロックが“INT”設定時の、サンプリング・クロック/内部TCフレーム・レート、プルアップ/ダウンを設定します。

選択可能なプルアップ/ダウン (初期設定 : 0.0%)
+0.1%、0.0%、-0.1%

プルアップ/プルダウンは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Pull up/down”でも設定できます（145ページ参照）。

**<注意>**：25 FPSのプルアップ・ダウンは設定できません。万一設定しても、ステータス表示部の枠内には“+0.1%”または“-0.1%”が表示されます。

## メイン電源の設定（“POWER”表示部）

バッテリーおよびDC-IN双方が接続されている状態における、メイン電源の供給元を設定します。

選択可能な電源（初期設定：BATT1）

BATT1、BATT2、DC-IN

**<注意>**：バッテリーまたはDC-INのみが接続されている場合は、現在接続されている電源が自動的に選択され、他の電源は選択できません。

メイン電源は、MENUモードの“BATTERY SETUP”メニューにある“Active battery”および“Power priority”でも設定できます（174/175ページ参照）。

## MENUモードの設定

MENUモードにはクイックセットアップ・モードで設定する項目以外に、各種設定項目が搭載されています。特に記録時では、下記項目を用途に応じて設定することをお勧めします。

### 記録ソースの設定

この設定は、デジタル・オーディオ信号を記録する、あるいはアナログ・オーディオ信号と同時にデジタル・オーディオ信号を記録する際に設定が必要です。

デジタル信号を記録するには、あらかじめ入力するチャンネルの記録ソースを“Digital”に設定します。初期設定ではチャンネル1～6が“Digital”に設定されており、[DIGITAL I/O]端子に正しいデジタル信号が入力されロックすると、自動的にデジタル信号が記録可能になります（デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力となります）。

記録ソースは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Rec source sel”で設定できます（146ページ参照）。

### プリ・フェーダー/ポスト・フェーダーの設定

この設定は、トラック1～6へダイレクトに記録する場合、記録する信号をプリ・フェーダーにするかポスト・フェーダーにするかを設定します。

初期設定はプリ・フェーダーに設定されており、各チャンネルにある[ST BUS SEND]つまみの影響を受けない入力信号が、ダイレクトにトラック1～6へ記録可能になっています。設定を「ポスト・フェーダー」に設定すると、各チャンネルにある[ST BUS SEND]つまみで入力レベルを調整して記録されます。

プリ・フェーダー/ポスト・フェーダーの設定は、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Disk Feed”で設定できます（169ページ参照）。

## デフォルト・ファイルネームの設定

---

デフォルト・ファイルネームは、記録時に作成されるオーディオ・ファイルに自動的に付加されるファイル・ネームです。初期設定では、SCENE NAME + Take Numberがデフォルト・ファイルネームに設定されているため、はじめて記録するファイル・ネームは“ SCENE\_001.wav ”になります（SCENE NAMEは初期設定の“ SCENE ”以外に、オリジナルのネームが設定可能です）。

デフォルト・ファイルネームは、初期設定以外に“ DATE ”または“ Reel Number + File Number ”が選択できます（140 ページを参照）。

## ファイルの最大記録容量の設定

---

本機では、1 ファイルに記録可能な最大容量があらかじめ設定されており、初期設定では2GB になっています。これは、本機で記録したオーディオ・ファイルをコンピュータへ取り込む際、PC 側の取り込み可能な容量に準じて4GB に設定することができます。

最大記録容量は、MENU モードの“ SYS SETUP ”メニューにある“ Max file length ”で設定できます（155 ページ参照）。

## パーティーションへの連続記録機能の設定

---

この設定は、HDD のパーティーションへ記録するときのみ有効で、記録中パーティーションの記録領域が無くなった時点で、自動的に連続してつぎのパーティーションへ記録するかしないかが設定できます（初期設定は“ Off ”になっています）。

連続記録機能の設定は、MENU モードの“ SYS SETUP ”メニューにある“ Auto part. link ”で設定できます（156 ページ参照）。

## エラー・トーン出力の設定

---

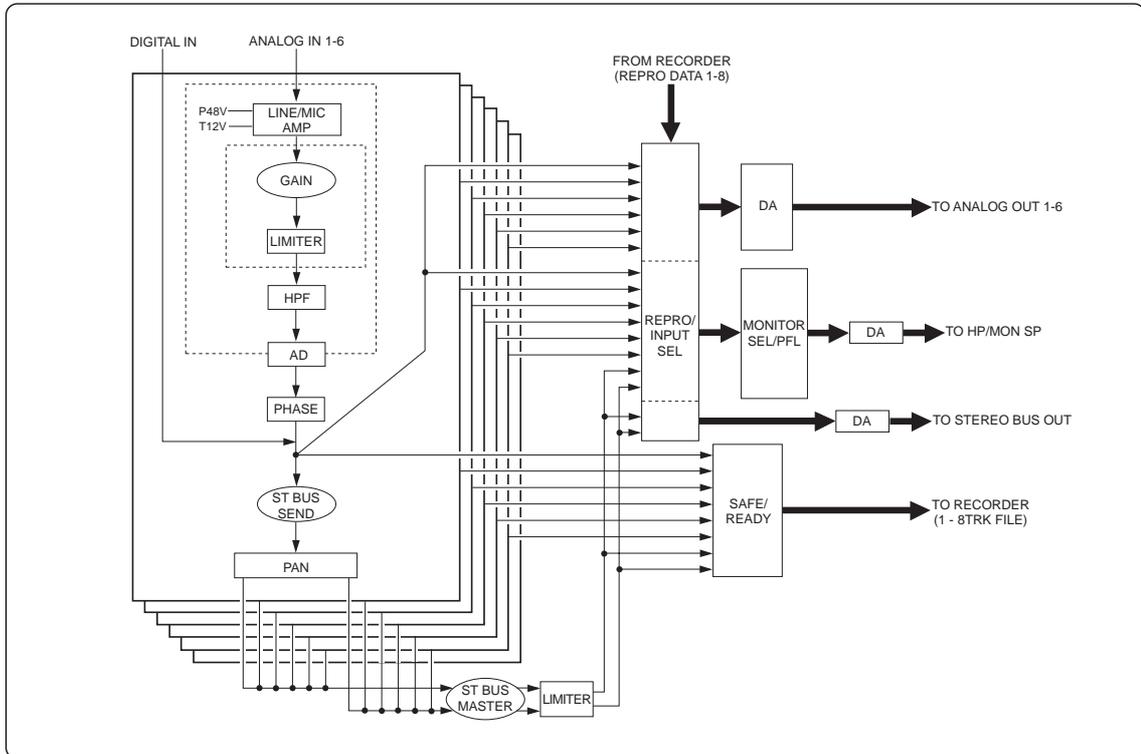
記録中、本機が以下の状態になったとき、エラー・トーンを出力して警告できます。

- 1) 記録中に書き込みエラーが発生したとき
- 2) 記録中にインプット・アンプでクリップしたとき
- 3) バッテリーの残量が設定電圧に達したとき
- 4) 記録中、ディスク（またはパーティーション）の残量が設定未滿に達したとき

エラー・トーンの出力機能は、MENU モードの“ SYS SETUP ”メニューにある“ Error tone ”で設定できます（165 ページ参照）。

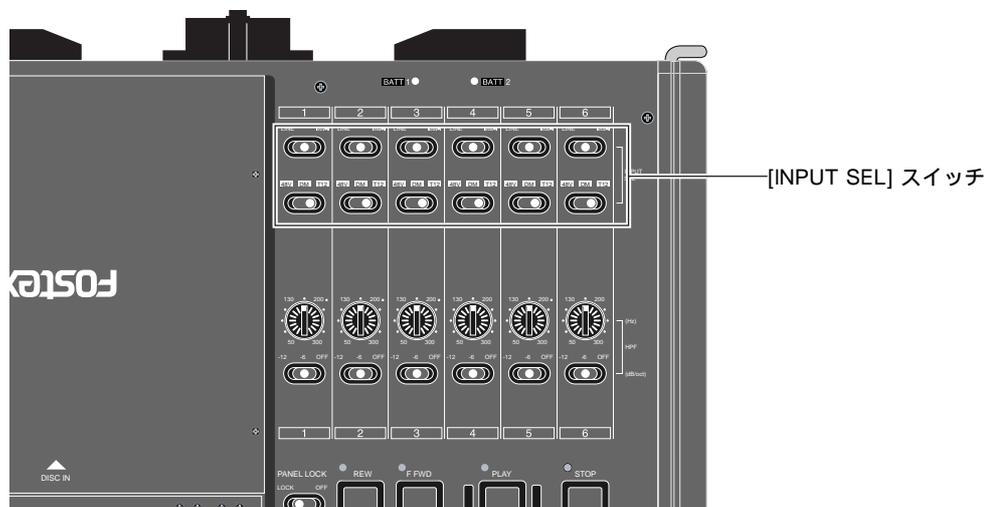
## ミキサー部の設定

本機のミキサー部には、6チャンネルの入力信号（アナログまたはデジタル）をST BUSS L, Rへミキシングする機能を搭載し、トラック1～6への記録をはじめ、ミキシングした信号をステレオ・トラック（L, R）に記録することも可能です（最大8トラック）。また、アナログ信号の記録時に有効な、フィルター機能/リミッタ機能も搭載しています。下記図は、本機搭載の6チャンネル・ミキサーの、おおまかな信号経路を表しています。



## 入力信号の選択

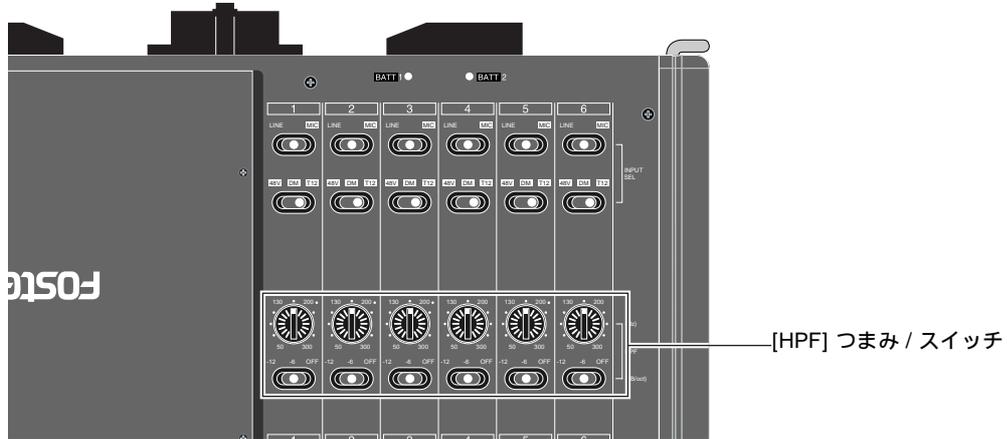
[ANALOG IN] 端子へ入力するアナログ・オーディオ信号（マイク/ライン）に合わせて、入力するチャンネルの [INPUT SEL] スイッチを“LINE”または“MIC”に切り換えます。また、“MIC”ポジションでの使用時は、接続するマイクのタイプに合わせて“48V”/“DM”/“T12”を切り換えます。



## ハイパス・フィルターの設定

本機のフィルター回路は、カット・オフ周波数が 50 ~ 300Hz 連続可変のハイパス・フィルターで、減衰量を -6dB/oct または -12dB/oct に調整できます。

ハイパス・フィルターは、屋外で録音する際に風のノイズを除去したり、音声や音楽を録音するときの不要な低周波ノイズを除去するときなどに効果を発揮し、各チャンネルごと独立して設定できます。

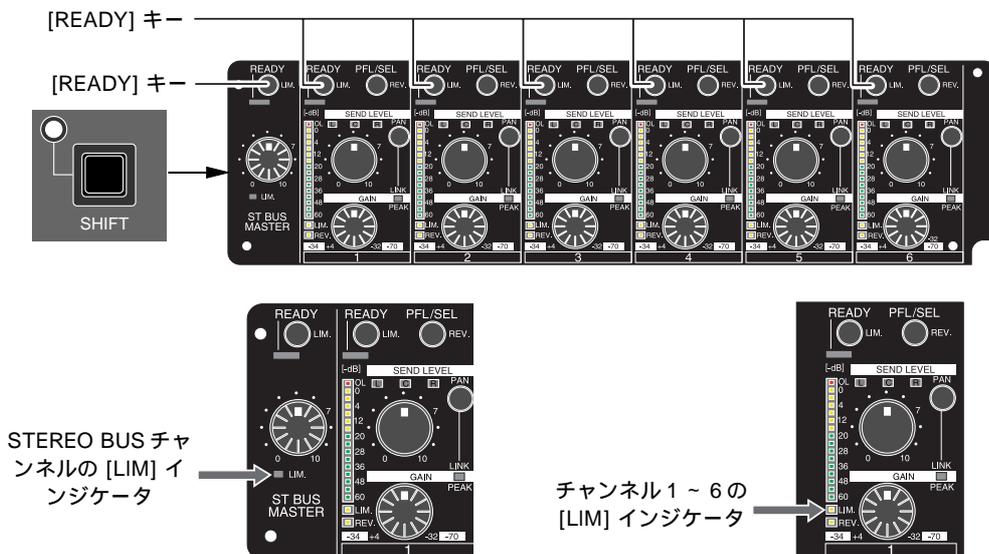


## リミッターの設定

マイクによる録音時などにリミッターを使うと、さらに安定した信号レベルを確保することができます。本機のリミッターは、初期設定では 24 ビットのフル・スケール・レベル (全ビット・オン) から -12dB がスレッシュホールド値になっており、圧縮率 1:5 でスレッシュホールド値より上の信号レベルに機能するようになっています。また、リミッターのアタック・タイムは約 5ms、リリース・タイムは約 150ms の固定になっています。なお、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Limiter parameter” で、リミッターのパラメータが任意に設定できます (159 ページを参照)。

<注意> : リミッター機能を使用する際は、次ページに記載されている「ゲイン調整について」も合わせてお読みください。

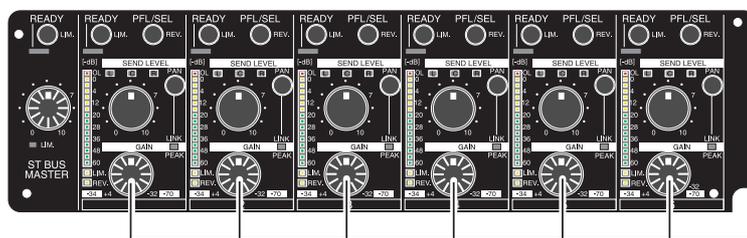
リミッター機能は、[SHIFT] キーを押した後チャンネル 1 ~ 6 またはステレオ・バス・チャンネルにある [READY] キーを押すと ON/OFF でき、ON にしたチャンネルは [LIM] インジケータが点灯し、実際にリミッターが効くと早い点滅に変わります。



## チャンネル1～6の入力ゲインの調整

トラック1～6へ記録するチャンネル1～6の入力ゲインは、各チャンネルの [GAIN] つまみで調整します。基準入力レベルはライン入力時に約+4dBu～-32dBuの範囲で調整でき、マイク入力時では-34dBu～-70dBuの範囲で調整できます。

入力ゲインの調整は、ReadyがONまたはOFFの状態でも可能です。



[GAIN] つまみ

### <ゲイン調整について>

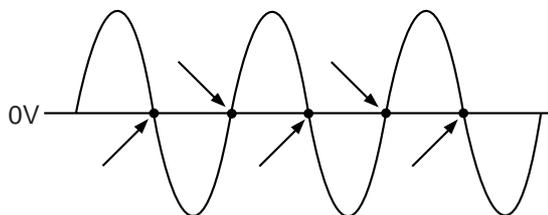
本機のゲイン調整は、最新のデジタル・コントロール・ボリュームで行っています。このボリュームを採用することで、下記のような利点を生み出しています。

- (1) アナログ回路の簡素化による音質向上。
- (2) 入力レベルに対してボリュームをコントロールし、アナログ・リミッターとして機能させることが可能で、従来のVCAでのリミッターと異なり、動作時の音質劣化が無い。

また、このボリュームはゼロクロス・コントロール機能を備えており、不要なステップング・ノイズが発生しない仕組みになっています。

#### <ゼロクロス・コントロール機能>

右図のように、プラスとマイナスに振幅している音声信号が0Vポイント(右図矢印)で音量を変化させることで、デジタル・コントロール・ボリューム特有のステップング・ノイズの発生を抑える機能。



**<ゲイン調整時のご注意>**：無信号入力時やレベルが非常に小さい場合は、ゼロクロスが検出できず僅かですがステップング・ノイズが発生することがあります。

### <リミッター機能について>

チャンネル1～6のリミッターは、各チャンネルに搭載されたデジタル・コントロール・ボリュームを自動的にコントロール(減衰・復帰)することで実現しています(STEREO BUSのリミッターは除く)。

**<リミッター機能使用時のご注意>**：デジタル・コントロール・ボリュームの特性上、下記のような条件において僅かにステップング・ノイズが発生することがあります。

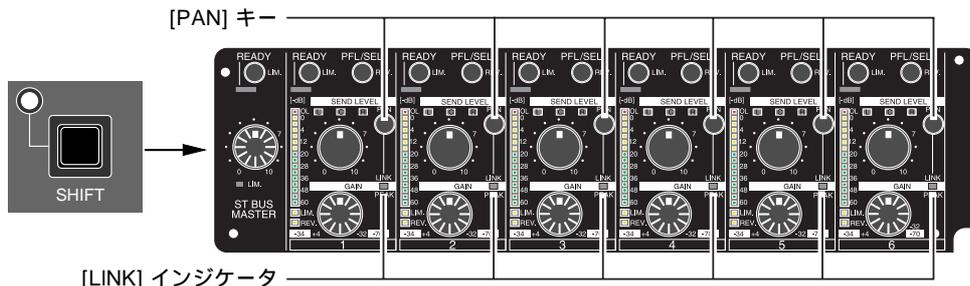
- (1) 入力信号が単一の低い周波数のみのとき。
- (2) チャンネル・リンク動作時に、無信号のチャンネルのリミッターが動作したとき。

このような状態でステップング・ノイズが発生する場合は、本機のリミッターの使用を控えるか、外部リミッターをご使用になることをお勧めします。

**<注意>** : MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Disk Feed”が初期設定で“Pre”に設定されているため、各チャンネルの[GAIN]つまみで入力ゲインを調整した信号が、トラック1～6へダイレクトに記録されます。しかし、“Disk Feed”を“Post”に設定した場合は、[GAIN]つまみで入力ゲインを調整するとともに、各チャンネルの[SEND LEVEL]つまみでトラック1～6へ送る信号を調整します(169ページ参照)。

**<入力チャンネルのリンク>**

[SHIFT] キーを押しながら [PAN] キーを押すと、選択したチャンネルがリンクできます(リンクされたチャンネルは“LINK”インジケータが点灯します)。リンクが設定された複数チャンネルは、[MENU] ダイアルでマスター・ゲインの調整が可能になります。リンクを外すには、再度 [SHIFT] キーを押した後、外したいチャンネルの [PAN] キーを押します。



任意のチャンネルがリンクされた状態で [MENU] ダイアルを操作すると、ディスプレイ上に下記ポップアップ表示が現れ、[MENU] ダイアルを左右に回すことでマスター・ゲインのレベルが変化します。マスター・ゲインのレベルは、“-20.0dB” から “0.0dB” の範囲を “0.5dB” ステップで可変でき、[MENU] ダイアルを時計方向へ回すとゲインが上がり、逆方向へ回すと下がります。

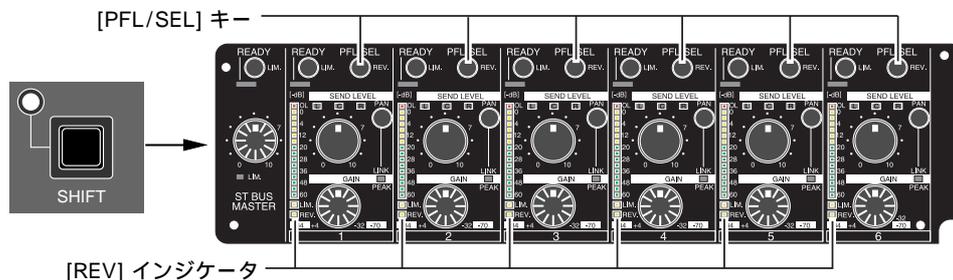


**<注意>**

録音レベルは、レベル・メータが“0dB”を越えないように設定してください。最善のS/Nを実現するため、“0dB”に近く、かつ“0dB”を越えないよう設定することをお勧めします。本機のリファレンス・レベルは“-20dB”になっており、+4dBuで24bitフル・スケール・レベル(0dB)から、-20dBのポイントがリファレンス・マーカーになっています。万一、入力アンプがクリップしたとき、エラー・トーンを出力して警告することが可能です(165ページ参照)。

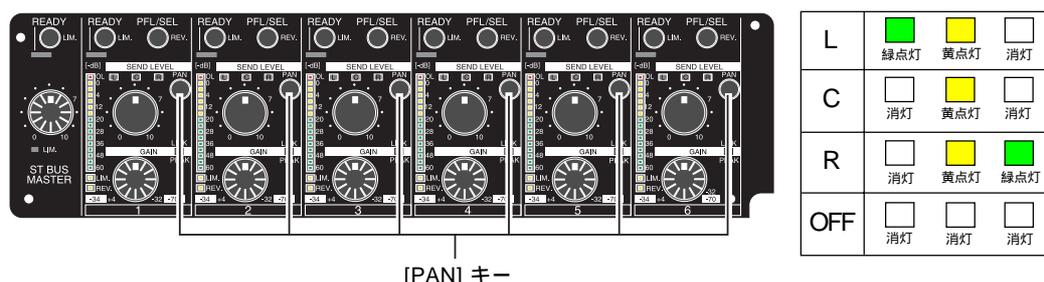
## 位相の切換え

[SHIFT] キーを押しながらチャンネル 1 ~ 6 にある [PFL/SEL] キーを押すと、押したチャンネルの入力が位相反転します。位相の反転したチャンネルは、バー・グラフの“REV”インジケータが点灯します。設定を解除するには、再度 [SHIFT] キーを押した後 [PFL/SEL] キーを押します。

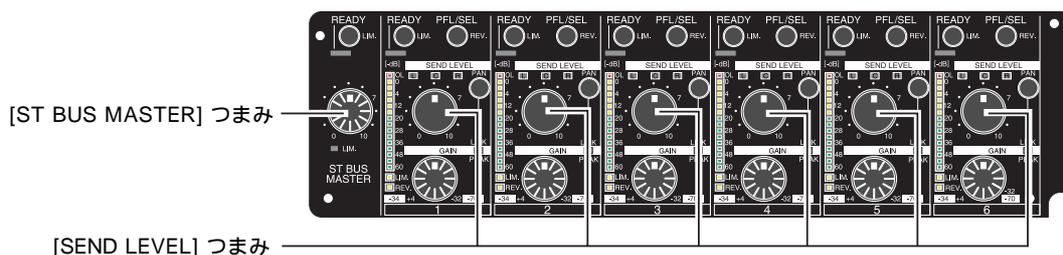


## ステレオ・バス L, R の調整

チャンネル 1 ~ 6 にある [PAN] キーで、ステレオ・バスへ送る信号の定位 (L/C/R) を設定します。[PAN] キーを押すごとに“C”->“R”->“OFF”->“L”の順で切り換わり、それぞれのインジケータが点灯します (注意：“OFF”(消灯)ポジションでは信号がST BUSへ送られません)。



チャンネル 1 ~ 6 にある [SEND LEVEL] つまみでステレオ・バスへ送る信号レベルを調整し、[ST BUS MASTER] つまみでステレオ・バスのマスター・レベルを調整します。



[ST BUS MASTER] の Ready が ON になっているときは、ステレオ・バスに 2 ミックスされた信号が記録できます。注：デジタル信号の記録時は、“Rec source sel”の設定で異なります (91/146 ページを参照)。

**<注意>**：[SEND LEVEL] つまみは、初期設定で各チャンネルの入力信号をステレオ・バスへ送る機能を果たします。しかし、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Disk Feed”を“Post”に設定したときは、ステレオ・バスへ送るレベルの調整とトラック 1 ~ 6 へ記録する入力レベルの調整が可能になります (169 ページ参照)。

## 録音信号のモニタリング

ヘッドホンまたは内蔵スピーカーのいずれかでモニターが可能です。  
 [PHONES] ジャックにヘッドホンを差し込むと、自動的に内蔵スピーカーはOFFとなりヘッドホンでモニターができます。モニターの音量は [MONITOR] つまみで調整します。このつまみはプッシュ・ロック方式になっていますので、つまみの頭部を押すとつまみが飛び出し、もう一度押し込むとつまみはパネル内に収容されます。

**<注意>**：初期設定では、記録時に内蔵スピーカーの出力がミュートされるようになっています。ミュート機能の On/Off は、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Speaker mute” で変更できます（164 ページ参照）。



モニター・セレクト・ダイヤル	モニターモード・スイッチ	[MONITOR] つまみ	[PHONES] ジャック
----------------	--------------	---------------	---------------

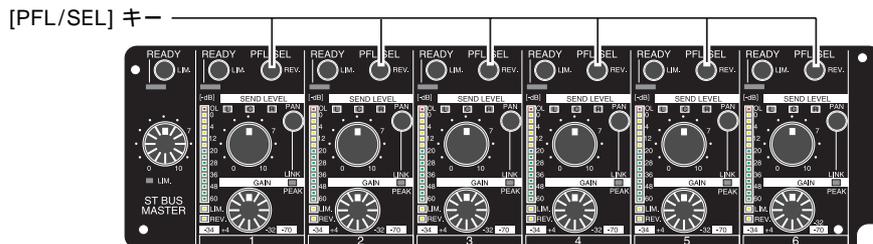
<b>SOLO</b>	単独トラック/インプット・チャンネルをモノラルでモニターします。
<b>ST</b>	複数トラック/インプット・チャンネルをステレオでモニターします（カスタム4個有）。
<b>MONO</b>	複数トラック/インプット・チャンネルをモノラル・ミックスでモニターします（カスタム4個有）。

モニター音は、モニターモード・スイッチとモニター・セレクト・ダイヤルの設定により下記の信号がモニターできます。

	SOLO		ST		MONO	
	INPUT	再生	INPUT	再生	INPUT	再生
1 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">1/3/5+2/4/6</span>	CH1		L: CH1+3+5, R: CH2+4+6		CH1+2+3+4+5+6	
2 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">ST BUS</span>	CH2		L: BUS L, R: BUS R		BUS L+R	
3 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">READY TRK</span>	CH3		Ready Track	ファイル中に記録されている Ready Track	Ready Track	ファイル中に記録されている Ready Track
4 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C1</span>	CH4		CUSTOM 1		CUSTOM 1	
5 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C2</span>	CH5		CUSTOM 2		CUSTOM 2	
6 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C3</span>	CH6		CUSTOM 3		CUSTOM 3	
L <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C4</span>	BUS L		CUSTOM 4		CUSTOM 4	
R <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">MS</span>	BUS R		L: BUS MS L, R: BUS MS R		MS L	

\* CUSTOM 1 ~ CUSTOM 4 は、MENU モードの “SYS SETUP” メニューにある “Monitor Custom” で、ユーザーが任意に設定可能です（162 ページ参照）。

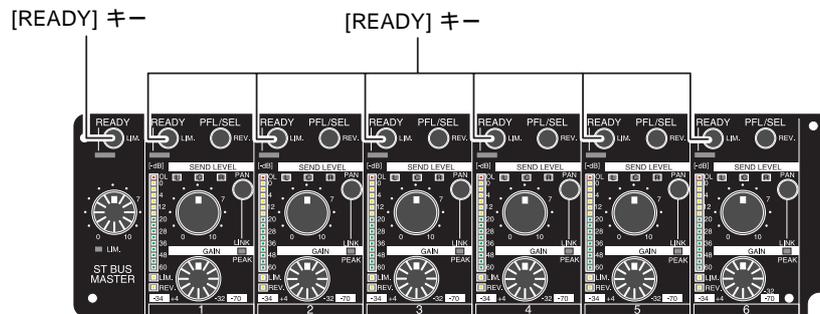
また、チャンネル 1 ~ 6 の [PFL/SEL] キーを押すと、押したチャンネルの Pre Fader Listen がモノラルでモニターできます。



## 入力チャンネルの SAFE/READY (記録トラックの選択)

本機では、ミキサー部にある入力チャンネル(1～6およびST BUS)のREADYをONにすることで、記録するトラックが決まります。

各入力チャンネルにある [READY] キーを押すごとにSAFE/READYが交互に切り替り、READYにしたチャンネルの“READY”インジケータが点滅し、記録を開始すると点灯に変わります。



例えば、チャンネル1～6をREADYにしたときはトラック1～6へ記録が可能になり、ST BUSのチャンネルのみをREADYにしたときは、チャンネル1～6を2MIXしたステレオ・トラックの記録が可能になります。

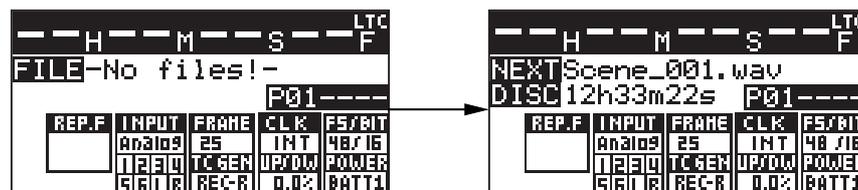
また、チャンネル1～6とST BUSチャンネル全てをREADYにすると、トラック1～6+ST BUSトラックの合計8トラックが記録できます。

<注意> : デジタル信号の記録時、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Rec source sel”において、ST-LRの記録ソースを“Digital”に設定すると、デジタル・インの7と8がダイレクトにST BUSトラックへ記録されるため、1～6をミックスして記録することはできません(146ページ参照)。

いずれかのチャンネルがREADYになると、ディスプレイは以下のように変わります。

下記画面は未記録のパーティション1へ記録する場合の例で、ファイル・ネーム表示部が“NEXT”になり、記録するファイルに付加されるファイル・ネームを表示します。

また、NEXTファイル・ネームの下には、パーティションのリメインが表示されます。



なお、本機で記録可能なトラックとFS/BITは以下のようになっています。

Rec Trk	FS/BIT	Rec Trk	FS/BIT
1TRK	44.1kHz/16Bit, 48kHz/16Bit	ST BUS	44.1kHz/16Bit, 48kHz/16Bit
	44.1kHz/24Bit, 48kHz/24Bit		
2TRK	88.2kHz/24Bit, 96kHz/24Bit	1TRK+ST BUS	44.1kHz/24Bit, 48kHz/24Bit
	176.4kHz/24Bit, 192kHz/24Bit	2TRK+ST BUS	88.2kHz/24Bit, 96kHz/24Bit
3TRK	44.1kHz/16Bit, 48kHz/16Bit	3TRK+ST BUS 4TRK+ST BUS 5TRK+ST BUS 6TRK+ST BUS	44.1, 48kHz/16Bit 44.1, 48kHz/24Bit
4TRK	44.1kHz/24Bit, 48kHz/24Bit		
	88.2kHz/24Bit, 96kHz/24Bit		
5TRK	44.1kHz/16Bit, 48kHz/16Bit		
6TRK	44.1kHz/24Bit, 48kHz/24Bit		

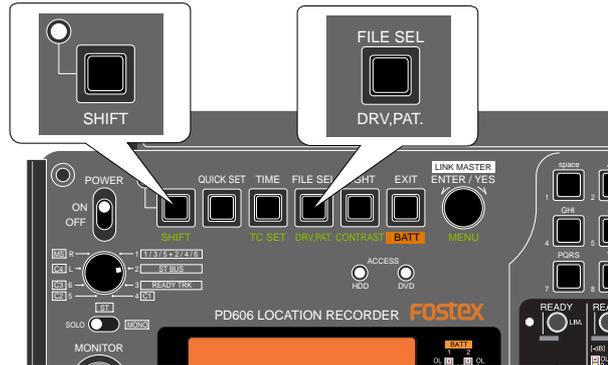
## 記録するドライブの選択

本機には、DVD マルチ・ドライブとHDD が搭載されています。

記録する前に、DVD-RAMディスクに記録するか、HDDのパーティーションへ記録するか、ドライブを選択します。工場出荷時では、カレント・ドライブが「HDDのパーティーション」に設定され、パーティーション1 (PT01) に記録が可能になっています。

DVD-RAMディスク、または他のパーティーションへ記録する場合は、下記操作で目的のドライブ(またはパーティーション)を選択してください。

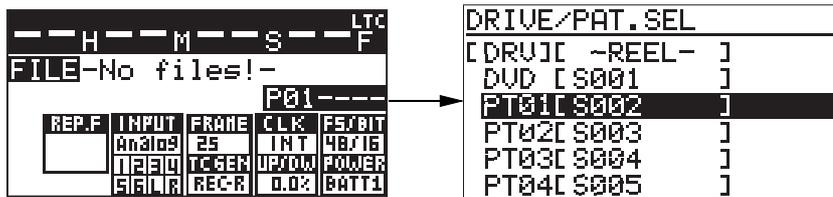
下記操作は、DVDドライブにフォーマット済みのDVD-RAMディスクがセットされていることを前提にしています。



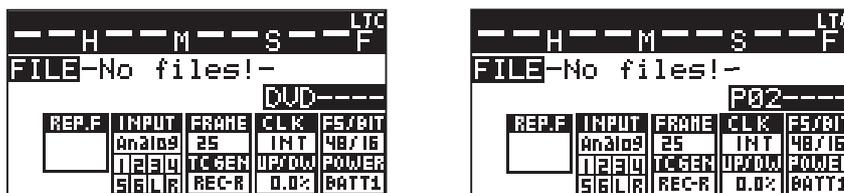
**<注意>** : ドライブの選択画面は、下記操作でも入ることができます。

1. 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押す。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。
2. [MENU] ダイアルで “ DRV/PAT SEL ” メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押す。  
ドライブを選択する画面が表示されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV/PAT.] キーを押します。  
ドライブを選択する画面に変わります。工場出荷の状態ではパーティーション1に設定されているため、下記例の画面が表示されます。



- 2) [MENU] ダイアルでDVDドライブまたはパーティーションを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
選択したドライブに設定され、下記例のHome画面に変わります(下記画面は、いずれも未記録の状態を示しています)。



< DVDドライブ選択時の例 >

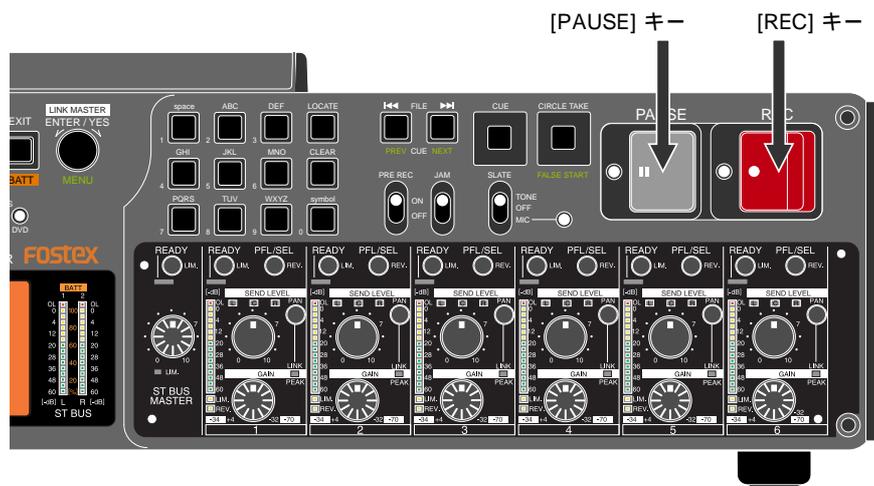
< パーティーション2 選択時の例 >

## アナログ・オーディオ信号の記録

### 記録の開始

音源の接続 / 記録するドライブ、および記録レベルなどの設定などが終了していることを前提としています。

**<注意>**：本機にアナログ信号のみ入力しているときは、常に全チャンネルがアナログ・オーディオ信号の記録が可能です。ただし、[DIGITAL IN] 端子へデジタル信号が入力され、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Rec source sel”でDigitalに設定されたチャンネルがデジタルインにロックした場合は、デジタル優先となります。“Rec source sel”の詳細は146ページを参照してください。



- 1) **記録するチャンネルの [READY] キーを押して、Safe/Ready を ON にします。**  
ONにしたチャンネルの [READY] インジケータ (赤) が点滅します。  
Safe/Ready を ON にしない状態で記録しようとすると、“Select ready!” が表示されます。
- 2) **[REC] キーを横へスライドさせます。**  
自動的に “New File” が作成され、記録が始まります。  
作成されるオーディオ・ファイルのファイル・ネームは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある “Default file name” で設定したネームが付加されます。
- 3) **記録を停止させるには [PAUSE] キーを押します。**  
録音中は [PAUSE] キーしか受け取れませんので、完全に停止させるには [PAUSE] キーを押した後に [STOP] キーを押してください。  
なお、本機では PAUSE (STANDBY) 状態がある一定時間を過ぎると、自動的に STOP になります。この時間は、初期設定で3minに設定されていますが、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある “Pause time” メニューにおいて、0.1min ~ 9.9min を 0.1min ステップ、または (無限) に設定が可能です (152 ページを参照)。  
また、録音を停止した後 [LOCATE] キー (または [STOP] + [REW] キー) を押すと、新しく作成したオーディオ・ファイルの先頭にロケートします。その後 [PLAY] キーを押して、記録した音の確認ができます。

**<注意>**：本機では、停止させた後再度RECすると常に新たなオーディオ・ファイルが作成され、そのファイルの先頭から記録していきます。

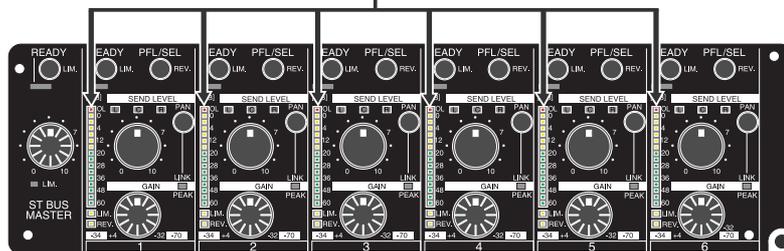
### 記録中のオーバー・ロードについて

アナログ・オーディオ信号の入力時、各入力チャンネルの信号がクリップすると、各入力チャンネルのレベル・メータ部の“OL”インジケータが赤く点灯します。インジケータは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Peak hold”で設定されている時間点灯します(149ページを参照)。

また、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Error tone”にある“Input clip”を“On”にしておくと、ヘッドホンからエラー・トーンを発して警告を促します(165ページを参照)。

<注意> : [MONITOR] つまみが“MIN”になっていると、エラー・トーンが聞こえませんがご注意ください。

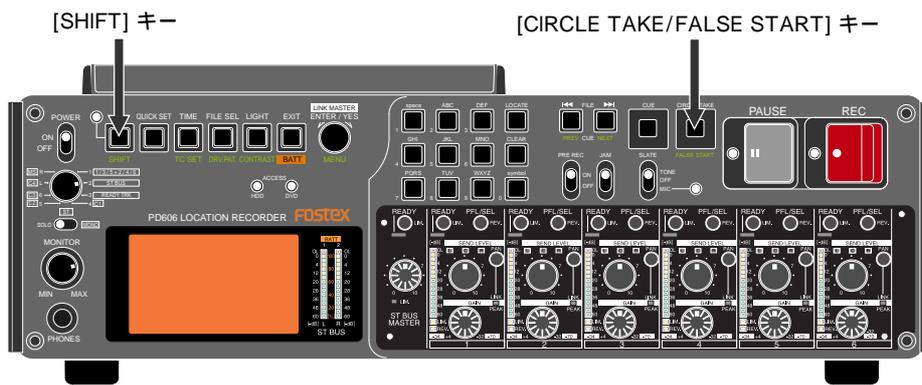
[OL] インジケータ



### 記録のやり直し (FALSE START の実行)

記録終了後、停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [CIRCLE TAKE/FALSE START] キーを押すと、一番最後に実行した記録をキャンセルして「やり直し」することができます。

<注意> : False start は、一番最後に記録を行ったファイルのみに対して有効です。



Shiftモードで [CIRCLE TAKE/FALSE START] キーを押すと下記画面が表示されます。一番最後の記録をキャンセルするには [ENTER/YES] キーを押し、キャンセルしないときは [EXIT] キーを押します。



本機の False start 機能には2つのモード (Rename/Delete) が用意されており、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“False start”で用途に合わせて設定することができます。

“False start”は初期設定で“Rename”に設定されており、False startを実行してもキャンセルしたオーディオ・ファイルがディスク(またはパーティション)に保存されるようになっています。

また、“False start”を“Delete”に設定しておく、False startの実行後自動的にキャンセルしたファイルを消去することが可能です(設定の詳細は158ページを参照してください)

**<注意>**：“False start”が“Rename”の状態ではFalse startを繰り返すと、ディスク(またはパーティション)の記録可能な領域が減っていきます。記録可能な領域を確保したい場合には、“False start”を“Delete”に設定してご使用ください。ただし、False startを実行して削除されたファイルは復活させることができませんのでご注意ください。

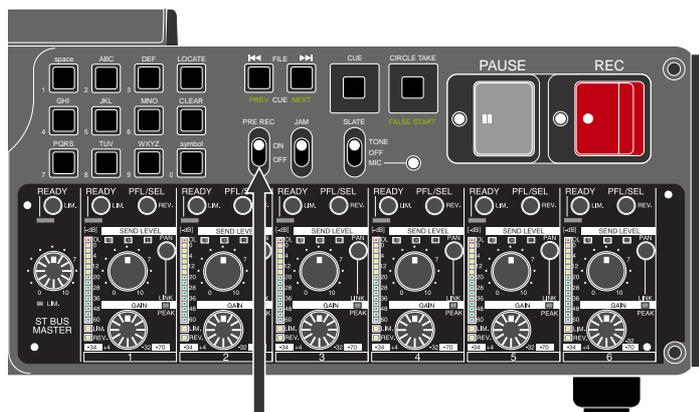
**<覚えておきましょう!>**：本機には、記録中などにエラーが発生した場合、それらの内容をDiagnoses Fileとして記録に残す機能があります。初期設定では記録しない設定になっていますが、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Diagnoses”で、記録するように設定できます(148ページ参照)

## PRE RECモード“ON”による記録(プリ・レコーディング)

[PRE REC]スイッチをONにして録音を実行すると、バッファに貯えられたオーディオ・データも含めて記録されます。これにより、録音開始時の記録漏れなどを防ぐことができます。

バッファに貯えられるオーディオ・データの時間は初期設定で10秒になっていますが、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Pre rec time”で1～10秒間を1秒単位で任意に設定可能です(154ページを参照)

また、PRE RECモードがONでの録音終了時には、録音開始時の遅延分Post recordingを実行してから停止します。



[PRE REC]スイッチ

### <注意>

PRE RECモードが“ON”になっているときのANALOG OUTは、アナログ・オーディオ信号の入力時では遅延しませんが、デジタル・オーディオ信号の入力時では、遅延した信号が出力されます。

PRE RECモード“ON”で記録を始める前にFsを切り替えたときは、10秒以上経過してから記録を開始してください。切り替えてすぐに記録を開始すると、バッファに蓄えられていた分のオーディオ信号の周波数が変化して記録されてしまいます。

## スレート・トーン/スレート・マイクの記録

[SLATE] スイッチを“TONE”または“MIC”側へ押し続けると、1kHz / 基準レベルのスレート・トーン（またはスレート・マイク音）が、全チャンネルに入力されます。したがって、録音中にスレート・トーン（またはスレート・マイク音）を記録することができます。



また、MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Tone rec mode”の設定によって、記録開始時作成されるオーディオ・ファイルの先頭にスレート・トーンを自動的に記録することが可能です。

自動的に記録するスレート・トーンは、連続トーンまたは4ポップ・トーンのいずれかが選択できます。“Tone rec mode”メニューの詳細は150ページを参照してください。

**<注意>**：[SLATE] スイッチを“TONE”ポジションに押し上げている間、[ANALOG LINE OUT] 端子からスレート・トーンが出力されますので、外部機器との調整にも利用できます。ただし、3秒以上押し続けるとディスプレイに“Slate tone hold!”が表示されるとともに出力機能がホールドされ、連続出力となります。再度TONE側へ押しすとホールドは解除されます。

### <覚えておきましょう！>

本機では、DVD-RAM ディスクまたはHDDのパーティションへの記録以外に、下記の記録機能を備えています。用途に合わせてご利用ください。

- (1) HDDのパーティションへ記録すると同時に、DVD-RAM ディスクへ自動的に同一のオーディオ・データを記録する（オート・コピー機能：106ページ参照）
- (2) DVD-RAM ディスクとパーティション間、あるいは異なったパーティション間で、記録されている全ファイルをフル・コピーする（ディスク・コピー機能：109ページ参照）
- (3) DVD-RAM ディスクとパーティション間、あるいは異なったパーティション間で、ファイル単位でコピーする（ファイル・コピー機能：112ページ参照）
- (4) DDRモードでフォーマットしたHDDのパーティションへ記録すると同時に、DDR対象のミラー・ディスクへ記録する（デュアル・ドライブ・レコーディング機能：115ページ参照）

## デジタル・オーディオ信号の記録

デジタル・オーディオ信号の記録には、チャンネルの Safe/Ready 以外に下記の設定が必要です。  
 なお、タイムコードは、[TC GEN] の設定に準じて記録されますので、次項「タイムコードの記録」を参照してください。

### 記録ソースの設定

MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Rec source sel”で、デジタル信号を入力するチャンネルの「記録ソース」を設定します（146 ページ参照）。

“Rec source sel”の初期設定はチャンネル1～6がデジタル信号を受け付けるようになっていて、デジタル・イン1～6をトラック1～6へ記録し、さらには1～6をミックスしてST BUSトラックへの記録も可能になっています（注意：同時記録可能なトラックは、FS/BIT の設定によって異なりますので前述 85 ページを参照してください）。

**<注意>**：“Rec source sel”が初期設定の状態では、正しいデジタル信号が入力されてロックするとディスプレイの“INPUT”表示部は下記左図のようになります（“Digital”が点灯し、1～6が反転表示になります）。なお、本機がデジタル・インにロックしていないときはアナログ優先となり、“INPUT”表示部は下記右図になり、“Analog”が点灯して反転表示もなくなります。



**<注意>**：“Rec source sel”でチャンネル1～6およびST-LRがデジタル信号を受け付けるように設定して、本機がデジタル・インにロックするとディスプレイの“INPUT”表示部は右図のようになります。この設定では、デジタル・インの7と8がダイレクトにST BUSトラックへ記録されるため、1～6をミックスした信号をST BUSトラックへ記録することはできません。



### サンプリング周波数 / BIT レートの設定

記録時のサンプリング周波数 / BIT レートを設定します。

**<注意>**：デジタル信号を入力するときは、入力するデジタル信号のFSと本機のFS/BIT設定を合わせる必要があります。本機のFS/BITは、クイックセットアップまたはMENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Record FS&Bit”で設定が可能です（76 ページまたは 144 ページを参照）。

### システム・クロックの設定

デジタル信号を記録するには、外部デジタル機器と同期させるためのシステム・クロックを“DIGI (Digital)”に設定します（初期設定は“INT (Internal)”）。

正しいデジタル・オーディオ信号が[DIGITAL IN]コネクタに入力されロックすると、ディスプレイの“CLK”表示部は“DIGI”が点灯し、デジタル・インにロックしていないときは“DIGI”が点滅します。

Video信号、またはWordクロックに同期させる場合などには、システムに応じてシステム・クロックを“VIDEO”または“WORD”に設定します。

システム・クロックは、クイック・セットアップ・モード、またはMENUモードの“TC SETUP”メニューにある“Sync clock”で設定します（75 ページ/181 ページを参照）。

## タイムコードの記録

本機には、SMPTEタイムコードのジェネレータ/リーダーが内蔵されており、オーディオ信号と同時に本機自身でタイムコードを記録するときに使用できます。または、[TIME CODE IN] 端子に入力する外部TCを記録したり、外部TCにジャムして内蔵TCジェネレータを自走させて記録することも可能です。

TCを記録するには、クイック・セットアップ・モードおよびMENUモードの“TC SETUP”メニューにおいて以下の設定が必要です。

### TC フレーム・レートの設定

記録するTCのフレーム・レートは、本機の設定に従います。

フレーム・レートは、23.976 / 24 / 25 / 29.97 / 29.97DF / 30DF / 30 から選択でき、クイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのTC SETUPメニューにある“Frame Rate”で設定します(75ページ/182ページ参照)。

**<注意>** : Frame Rate を 29.97 (または 30DF) に設定した場合、実時間と約 3.6sec/h の割り合いでズレていきます。また、これらの Frame Rate を使用したとき、EIAJ フォーマット TC の原理上、24 時を超えると TC の連続性が確保できませんのでご注意ください。

**<注意>** : 外部 TC を記録するときは、[TIME] キーでディスプレイを“LTC IN”表示に切り替えると、外部 TC の時間が確認できます(下記図参照)。このとき、外部 TC のフレーム・レート情報はタイム表示部の右端に点滅して表示します。外部 TC を記録するには TC のジェネレート・モードを“EXT”に切り換えます。



### TC ジェネレート・モード (TC の記録モード) の設定

TCジェネレート・モードは、24H RUN / REC RUN / FREE RUN / EXT RUNから選択でき、用途に合わせて設定できます。ジェネレート・モードはクイック・セットアップ・モードまたはMENUモードのTC SETUPメニューにある“Gen Mode”で設定します(76ページ/183ページ参照)。

24H RUN	INT TCジェネレータは、RTC (Real Time Clock)の時刻をタイムコードのスタート・タイムとして記録します。
REC RUN	New Fileの記録時、前回別ファイルの記録終了時のタイムコードに引続き、連続したタイムコードをスタート・タイムとして記録します。交換したディスクにオーディオ・ファイルが無い場合には、交換する前のディスクに記録されたタイムコードから連続して記録されます。
FREE RUN	INT TCジェネレータのFree Runモードで動作させ、INT TCジェネレータが生成するタイムコードをスタート・タイムとして記録します。
EXT RUN	外部TCをスタート・タイムとして記録します。

## 外部 TC 入力による自動記録機能の設定

本機では、外部 TC が入力されると自動的に記録を開始する機能を搭載しています。

TC入力と同時に記録を開始させるには、MENUモードの“ TC SETUP ”メニューにある“ Recln via ExtTC ”を“ On ”に設定します（初期設定では“ Off ”に設定されています）。詳細は194ページを参照してください。

Off	外部 TC が入力時、自動的に記録を開始しません。手動で記録を実行します。
On	外部 TC が入力時、自動的に記録を開始します。

**<注意>**：外部 TC を入力して自動記録するときは、TC ジェネレート・モードを“ EXT RUN ”に設定します。

**<注意>**：自動記録を開始させるには、本機の TC フレーム設定と、外部 TC のフレーム・レートが一致している必要があります。記録を実行する前にフレーム・レートが一致しているかを確認してください。

## タイムコード出力の設定

本機の [TIME CODE OUT] 端子から出力する TC ソースを、MENUモードの“ TC SETUP ”メニューにある“ Sel TC out ”で“ Repro ”または“ Gen ”に設定します（189ページ参照）。

Repro	ディスク（またはパーティション）に記録された TC を出力します。
Gen	内蔵 TC ジェネレータの TC を出力します。

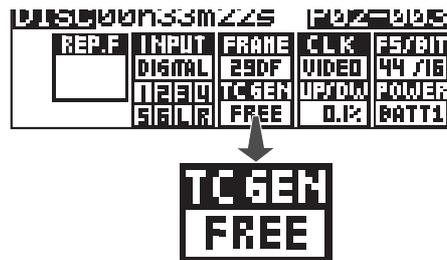
**<注意>**：“ Gen ”設定時の出力可能な TC は、ジェネレート・モードの設定が“ FREE RUN ”および記録時の“ REC RUN ” / “ 24H RUN ” のみになっています。

**<注意>**：LTC スタート・タイム / TC U-BIT のエディット / INT TC ジェネレータのスタート・タイム設定 / ジェネレータの U-BIT 設定などについては、180 ページの“ TC SETUP メニュー ”を参照してください。

## 外部TCへのフォース・ジャム

ジャム機能は、外部TCのタイム・データとタイミングを読み取り、本機のINT TCジェネレータをその外部TCに一旦ロックさせて自走させる機能です。このジャム機能を使うと、外部TCを切り離れた後も本機のINT TCジェネレータはそのタイミングを維持したまま自走するため、VTRとの同期関係（実際には水晶精度で自走）を保ったまま、VTRから離れて取材活動などが可能になります。このようにジャム機能は、VTRと連動する取材現場では必須となり、本機の機能をフルに発揮させることができます。

**<注意>**：ジャム機能は、クイック・セットアップ・モードにある“TC GEN”の設定が“FREE RUN”に設定されているときのみ可能です。それ以外の設定で[JAM]キーを押すと、無効を示す“Void!”が表示されます。



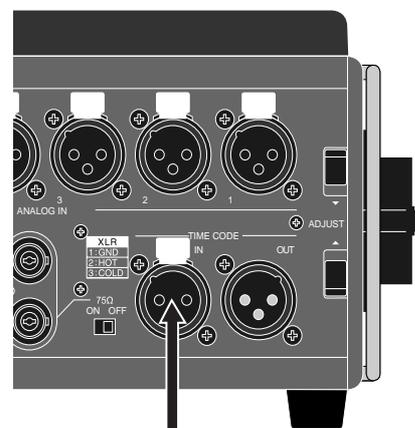
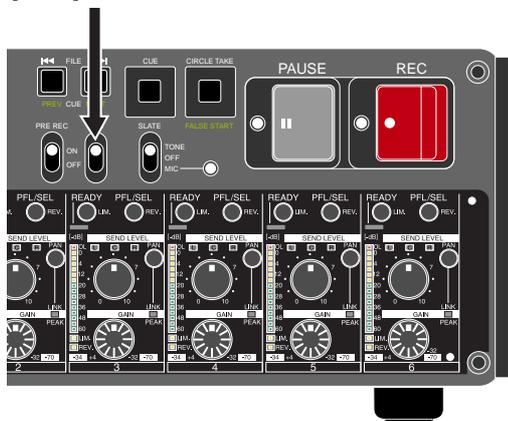
ジャム機能を実行するには、つぎの条件が必要です。

- 1) 外部TCが、本機の [TIME CODE IN] 端子に入力されていること。
- 2) ディスプレイを“LTC IN”表示に切り替え、外部TCの値が表示されていること。
- 3) 外部TCのFrame Rateと、本機の [FRAME] 設定が同じであること。  
異なってもジャムを実行しても、“Illegal Frame!”が点灯して操作は無効となります。

ジャム機能の基本操作は、[JAM]スイッチを使い下記手順でシンプルに行なえます。

- 1) VTRなどからの外部TCを、本機 [TIME CODE IN] 端子へ入力します。  
\* 必要に応じて、TC SETUPメニューにある“JAM mode”でジャムする項目を設定します。初期設定ではTC/U-BITともにジャムされるようになっています（188ページ参照）。
- 2) [JAM]スイッチを押し上げます。  
ディスプレイに“--Force JAM!--”が点灯してジャムされます。
- 3) [TIME CODE IN]端子から、外部TCを切り離します。

[JAM] スイッチ



外部タイムコード

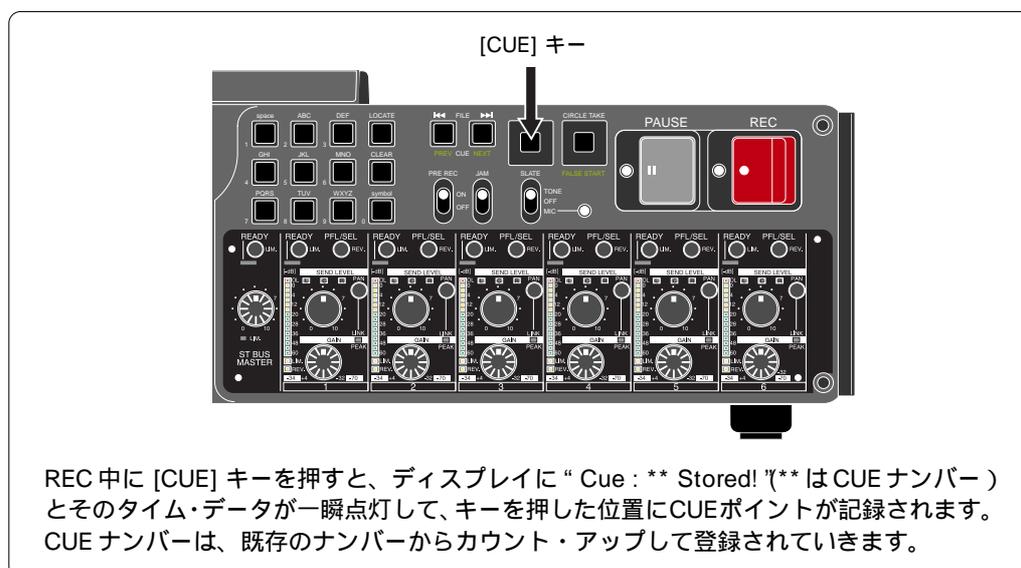
## CUE ポイントの記録

本機では“CUE ポイント”を記録する機能を搭載していて、記録したCUE ポイントはマーカーとして利用できます。CUE ポイントを記録するには、つぎの2つの方法があります。

- 1) オーディオ信号の記録中、任意の位置に手動でCUE ポイントを記録する。
- 2) CUE ポイントのリスト一覧画面上で、新たなCUE ポイントを記録する。

### 記録中、リアルタイムにCUE ポイントを記録

REC中に[CUE]キーを押すことで、押したポイントに“CUE ポイント”を記録します(1つのオーディオ・ファイルに最大99個記録することが可能です)。



記録したCUEポイントは、任意にラベルを付けたり、ポジションをエディットしたり、削除することが可能です。さらには、登録したCUEポイントを利用してロケートを実行したり、スキップ動作も可能になります。

### 記録したCUEポイントの確認

停止状態で[CUE]キーを押すと下記例のような表示に変わり、現在記録されているCUEポイントのリスト一覧を表示します。[MENU]ダイヤルを操作すると、リストがスクロール表示できます。このリスト一覧画面では、記録したCUEポイントの編集や、新たなCUEポイントを記録することができます。

CUE LIST▶ (LTC)		
01	BC#START	00h22m34
02	BC#END	00h51m20
03	Cue 03	01h25m08
04	Cue 04	01h40m11
05		--h--m--
06		--h--m--

上記リスト例は、CUEポイント01～04まで記録済みで、05以後は何も記録されていないことを示しています。また、各CUEポイントの時間表示は、モードに入る前のタイム表示に準じた値が表示されます(上記例は“LTC”)。なお、CUEラベルは上記図のラベルが自動的に付加され、CUE01と02に付加される“BC&START”および“BC&END”は、BWF-J規格で予約されたラベル名です。

## CUE ポイントの編集

CUE ポイントのリスト一覧画面で任意の CUE ポイントを選択して、CUE ポイントのラベルやポジション（時間）をエディットして再登録したり、CUE ポイントを削除することができます。

任意の CUE ポイントを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、選択した CUE ポイントのエディット画面に変わります（初期設定では “Label” が点滅）。

```
CUE LIST▶Edit▶ (LTC)
---CUE No.02 Edit---
Label[BC#END
]
<Position>
00h51m20s10f10sf
<Delete>
```

### CUE ラベルのエディット

ラベルをエディットするには、“Label” が点滅している状態で [ENTER/YES] キーを押します。

現在設定されているラベルの一桁目が点滅して編集可能になります。

```
CUE LIST▶Edit▶ (LTC)
---CUE No.02 Edit---
Label[BC#END
]
<Position>
00h51m20s10f10sf
<Delete>
```

→

```
CUE LIST▶Edit▶ (LTC)
---CUE No.02 Edit---
Label[BC#END
]
<Position>
00h51m20s10f10sf
<Delete>
```

エディット・ポイントは [◀▶] キーで移動し、[MENU] ダイアル（または 10 キー）でラベルを入力し直した後 [ENTER/YES] キーを押して再登録します。

### CUE ポイントのタイム・データをエディット

タイム・データをエディットするには、[MENU] ダイアルで “<Position>” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。

現在設定されているポジション（タイム・データ）のサブフレーム値が点滅し、新たなタイム・データの入力が可能になります。

```
CUE LIST▶Edit▶ (LTC)
---CUE No.02 Edit---
Label[BC#END
]
<Position>
00h51m20s10f10sf
<Delete>
```

→

```
CUE LIST▶Edit▶ (LTC)
---CUE No.02 Edit---
Label[BC#END
]
<Position>
00h51m20s10f10sf
<Delete>
```

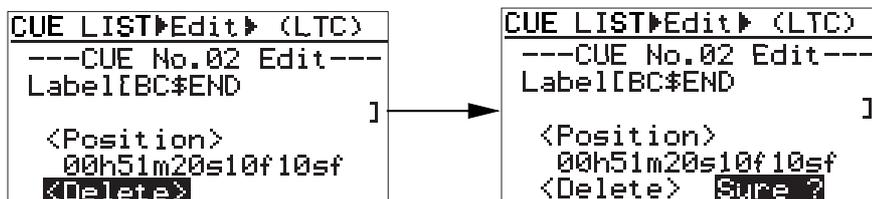
エディット・ポイントは [◀▶] キーで移動し、[MENU] ダイアル（または 10 キー）で入力し直した後、[ENTER/YES] キーを押して再登録します。

#### <ポイント>

[CLEAR] キーを押すと、現在表示されているタイム・データを “0” リセットできます。

### 不要な CUE ポイントの削除

不要な CUE ポイントをリストから削除するには、ディスプレイ下にある “<Delete>” を [MENU] ダイアルで選択して、[ENTER/YES] キーを押します (“ Sure? ” が点滅します)。



“ Sure? ” の点滅を確認して [ENTER/YES] キーを押すと、選択した CUE ポイントがリストから削除され、リスト一覧画面に変わります。

#### <ポイント>

削除した CUE ポイントのリスト表示はラベルが空白になり、タイム表示は “ --h --m --s --f --sf ” となります。

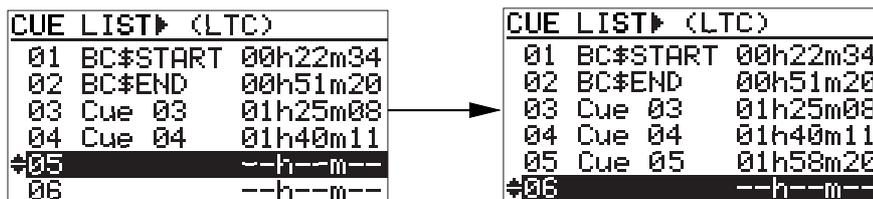
リスト一覧画面から抜け出すには [EXIT] キーを押していきます。

### CUE ポイント・リストに新たな CUE ポイントを記録

CUE ポイントのリスト一覧画面が表示されている状態で、新たな CUE ポイントを記録するには、リスト画面の何も記録されていない番号を選択して [ENTER/YES] キーを押します(未記録の CUE ポイントは “ - -h - -m - - ” が表示されています)。

[ENTER/YES] キーを押すと、現在位置のタイム・データが CUE ポイントとして記録されます。

下記例は、現在位置が LTC 時間 “ 01h 58m 20s \*\*f \*\*sf ” のとき、CUE ナンバー 05 に記録した場合の表示です。



リスト一覧画面から抜け出すには [EXIT] キーを押していきます。

## 再生

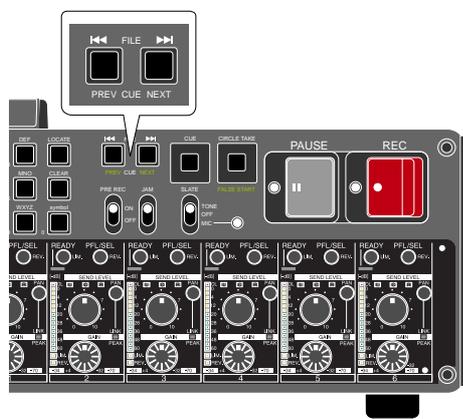
### 通常の再生

下記操作は、DVD-RAMディスクまたはHDDのパーティションにオーディオ・ファイルが記録されていることを前提にしています。

- 1) [SHIFT] キーを押した後 [FILE SEL/DRV./PAT] キーを押して、ドライブのセレクト・モードへ入ります。
- 2) [MENU] ダイアルで希望のドライブを選択して [ENTER/YES] キーを押します。
- 3) 下記いずれかの方法で、再生するオーディオ・ファイルを選択します。

#### < [◀◀ ▶▶] キーでの選択 >

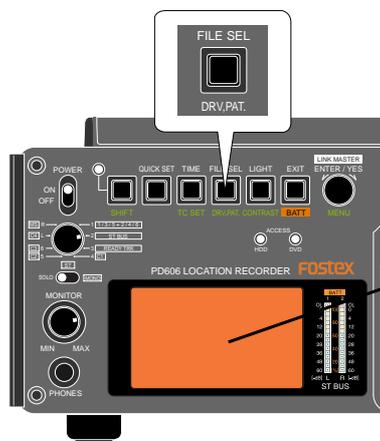
Non-Shift モードで停止しているとき [◀◀] キーまたは [▶▶] キーを押すと、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの前後にエントリーされているオーディオ・ファイルの先頭にスキップし、希望のファイルが選択できます。



この後 100 ページの「スキップ/ロケート機能」を参照してください。

#### < ファイル・セレクト・モードでの選択 >

Non-Shift モードで停止しているとき [FILE SEL] キーを押すと、ファイル・セレクト・モードに入り、選択したドライブに記録されているオーディオ・ファイルのリストを表示します。



[FN0]	[FILE NAME]
001	Action-001.wav
002	Action-002.wav
003	Action-003.wav
004	Action-004.wav
005	Action-005.wav

[MENU] ダイアルで希望のオーディオ・ファイルを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、選択したオーディオ・ファイルの先頭表示に変わります。

- 4) **[PLAY] キーを押すとPLAYインジケータが点灯し、再生が始まります。**  
再生音は、ヘッドホン、内蔵スピーカ、および [ANALOG OUT] から出力されます。
- 5) **再生を停止するには、[STOP] キー（または [PAUSE] キー）を押します。**

**<注意>** :バッテリーで駆動しているときは、バッテリーの消費を押さえるために [STOP] キーで停止させることをお勧めします。

**<注意>** : [PAUSE] キーを押して停止させたときは、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Pause time”で設定されている時間(初期設定:3分)を超えると、自動的にSTANDBYモードからSTOPモードに切り替ります(152ページ参照)。

**<覚えておきましょう！>** :本機には、オーディオ・ファイルの再生が終了した後、つぎのような動作をするか設定する機能を備えています。初期設定では、再生が終了すると自動的に停止しますが、つぎのオーディオ・ファイルの先頭でポーズにしたり、記録されている全ファイルをファイル・ナンバー順に連続再生することも可能です。MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Chain play”で設定が可能です(168ページ参照)。

## キュー・モードによる再生

CUEモードでは、フォワード方向(またはリwind方向)へ最大2倍速のキューイングができます。

再生中、[F FWD] キー(または [REW] キー)を押すとCUEモードに入り、2倍速でモニターすることができます。

CUEモードをキャンセルするには [PLAY] キーを押します。

## タイムコードの再生

記録されているタイムコードはオーディオ信号とともに再生され、[TIME CODE OUT] 端子から出力します。

記録されているタイムコードを [TIME CODE OUT] 端子から出力するには、MENUモードの“TC SETUP”メニューにある“Sel. TC Out”を“Repro”に設定します。

本機が初期設定の状態では、“Sel. TC Out”は“Repro”に設定されています。万一“Sel. TC Out”が“Gen”に設定されている場合は、189ページを参照してTCの出力モードを“Repro”に設定し直してください。

**<注意>** : “Sel. TC Out”が“Gen”に設定されている場合、[TIME CODE OUT] 端子からは常に内蔵TCジェネレータのTCが出力されます。

また、“TC SETUP”メニューにはタイムコードの再生に必要な、下記メニューが搭載されています。用途に合わせて設定してご使用いただけます。

- 1) **LTCスタート・タイムの設定 (“Edit LTC start”メニュー) → 191ページ**
- 2) **ポーズ・モード時のTC出力設定 (“Pause TC”メニュー) → 193ページ**
- 3) **REPRO TCのユーザー・ビット設定 (“Rep TC Ubit”メニュー) → 192ページ**

## スキップ/ロケート機能

本機には多彩なスキップ/ロケート機能を搭載しており、用途に応じて使い分けることができます。

### ファイル単位のスキップ

DVD-RAM ディスク（またはパーティション）に複数のオーディオ・ファイルが作成されているとき、速やかに希望のオーディオ・ファイル先頭（ABS 0）にスキップすることができます。

Non-Shift モードで停止しているとき [◀◀] キーまたは [▶▶] キーを押すと、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの前後にあるオーディオ・ファイルへスキップします。オーディオ・ファイルの選択などに便利です。キーの押す回数分前（または後）にエンターされたオーディオ・ファイルの先頭にスキップします。



### CUE ポイントのスキップ

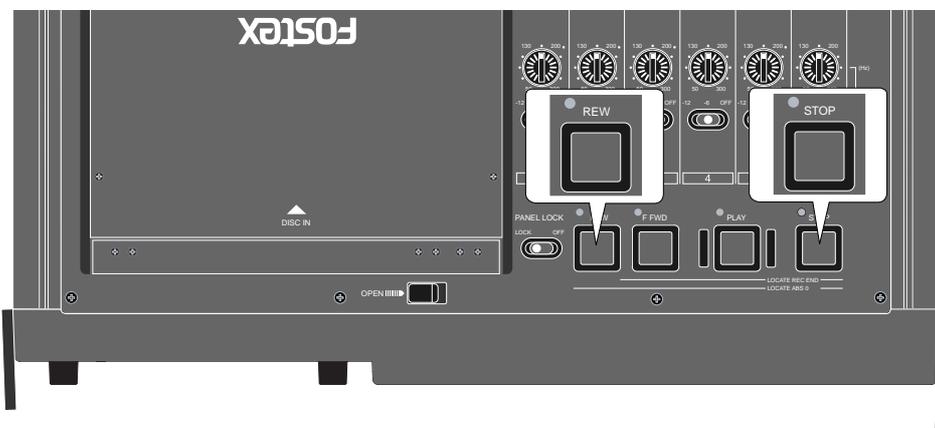
現在立ち上がっているオーディオ・ファイルに記録されている“CUE ポイント”を対象に、CUE ポイントが記録されているポジションへ速やかにスキップすることができます。

停止状態で [SHIFT] キーを押して、Shift モードにした後 [◀◀] キーまたは [▶▶] キーを押すと、現在位置から前後に記録されているCUE ポイントのポジションへスキップします。キーの押す回数分前（または後）に記録されているCUE ポイントへスキップします。



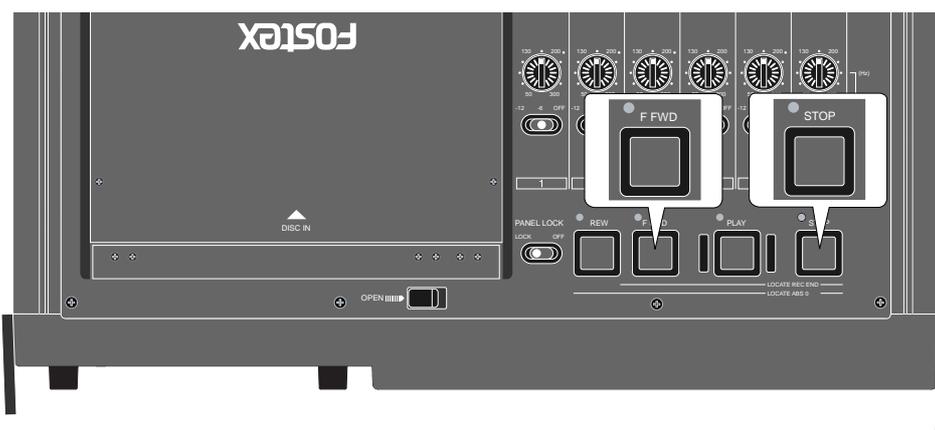
## ファイルの先頭 (ABS 0) へロケート

停止状態で [STOP] キーを押しながら [REW] キーを押すと、現在立ち上がっているオーディオファイルの先頭 (ABS 0) へ速やかにロケートできます。



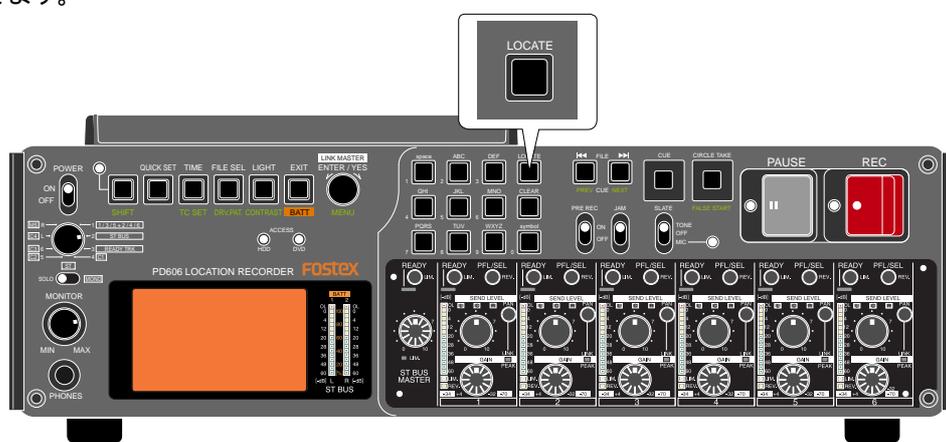
## ファイルの最終記録位置 (REC END) へロケート

停止状態で [STOP] キーを押しながら [F FWD] キーを押すと、現在立ち上がっているオーディオファイルの最終記録位置 (REC END) へ速やかにロケートできます。



## 一番最後にロケートした位置へ再ロケート

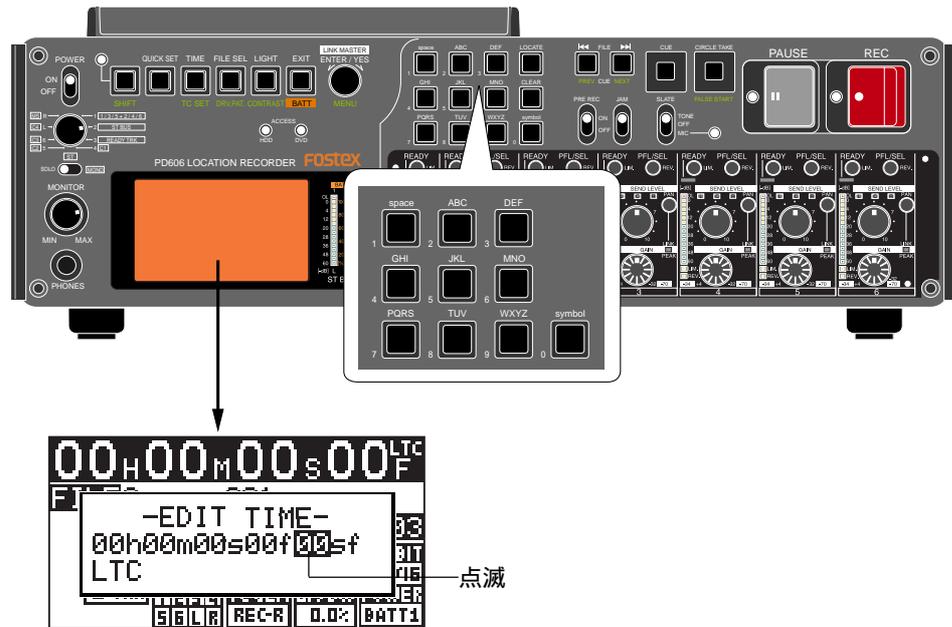
停止状態で [LOCATE] キーを押すと、前回一番最後にロケートを実行した位置へ速やかに再度ロケートできます。



## 任意のタイム・データを入力してロケート

あらかじめ記録されているポジションやファイルの先頭、あるいは最終記録位置に関係なく、任意に指定したタイム・データのポジションへロケートできます。

- 1) 停止状態（または再生）で、任意の10キーを押します。  
タイム・エディット・モードへ入り、タイム・データのエディットが可能な画面に変わります。



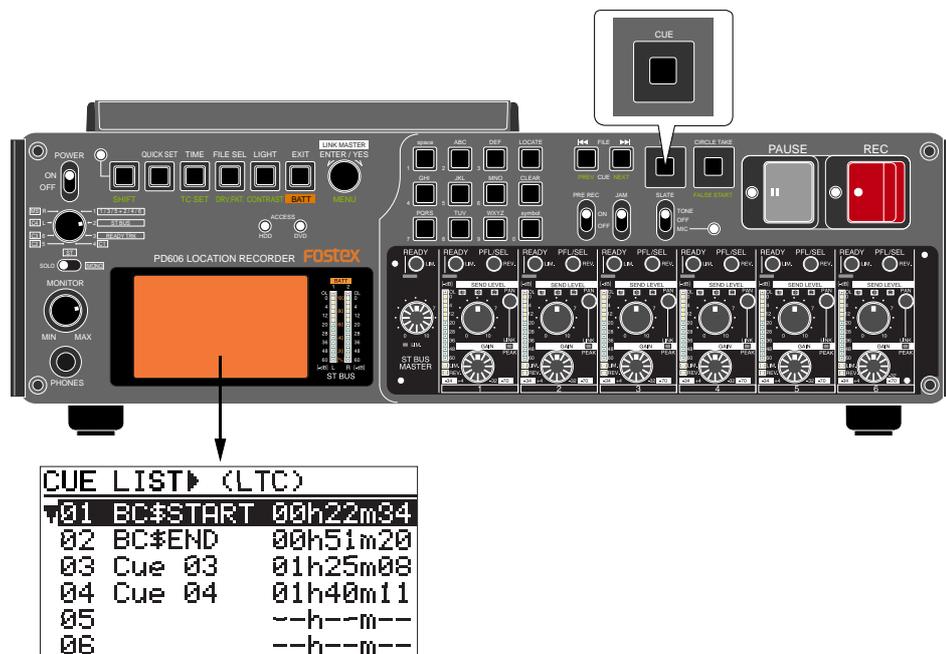
<注意>：入力できるタイム・データは、エディット・モードに入る前に表示されていたタイム表示に準じます。上記例は、タイム表示が“LTC”の状態でもエディット・モードに入った場合です。

- 2) [MENU] ダイヤル（または10キー）で、任意のタイム・データを入力します。  
エディットする桁は [◀◀] キーまたは [▶▶] キーで移動し、[CLEAR] キーを押すとタイム・データが“00h 00m 00s 00sf”にリセットできます。
- 3) タイム・データを入力した後 [LOCATE] キーを押します。  
入力したタイム・データのポジションへ速やかにロケートします。

## 任意の CUE ポイントを選択してロケート

記録されている CUE ポイント・リストから、任意の CUE ポイントを選択して速やかにロケートできます。

- 1) 停止状態(または再生)で、[CUE] キーを押します。  
CUE ポイントのリスト画面に変わり、記録されている CUE ポイントの一覧が表示されます。



- 2) [MENU] ダイヤルで任意の CUE ポイント・リストを選択した後、[LOCATE] キーを押します。  
選択した CUE ポイントが記録されているポジションへ、速やかにロケートします。

<注意> : 前述の「CUE ポイントへのスキップ」と同様の動作になります。



# 第6章 応用編

## < 第6章 目次 >

<b>オート・コピー</b> .....	<b>106</b>
パーティションの選択.....	106
オート・コピー・モードの設定.....	107
オート・コピーの実行.....	108
<b>ディスク・コピー</b> .....	<b>109</b>
コピー元のドライブ選択.....	109
ディスク・コピーの実行.....	110
<b>ファイル・コピー</b> .....	<b>112</b>
コピー元のドライブ選択.....	112
ファイル・コピーの実行.....	113
<b>デュアル・ドライブ・レコーディング</b> .....	<b>115</b>
DDRモードのフォーマット.....	115
デュアル・ドライブ・レコーディングの実行.....	117
<b>パソコンへのインポート</b> .....	<b>118</b>
パソコンとの接続方法.....	119
取り外し方法.....	119
ハードディスクへのコピー例.....	120
コンピュータ・ソフトへのインポート例.....	120

## オート・コピー

オート・コピーとは、内蔵HDDのパーティションへ記録するとき、記録しているオーディオ・データと同様のファイルを、DVD-RAMディスクへ自動的にコピーする機能です。オート・コピーを実行するには以下の2つのモードがあり、用途に合わせて設定します。

Immediately モード	<p>HDDのパーティションへの記録と同時に、リアルタイムにDVD-RAMディスクへコピーを実行します。1回のテイクで記録できる容量は、パーティションとコピー先DVD-RAMディスクの、どちらか少ない容量に制約されます。</p> <p><b>&lt;注意&gt; : このモードでは、コピー先にDVD-RAMディスクがセットされていないと Auto Copy モードは解除され、通常の記録モードになってしまいます。</b></p>
Back ground モード	<p>HDDのパーティションへの記録が終了し、PD606本体がSTOPモードになった時点からDVD-RAMディスクへコピーを実行します。このモードでは、コピー先のDVD-RAMディスクがセットされていなくても、空きディスクをセットすることでコピーを開始します。</p> <p><b>&lt;注意&gt; : このモードでは、コピー先に空きディスクをセットする前に電源をオフすると、コピーされるべきデータは削除されてしまいます。</b></p>

**<注意> : オート・コピーを実行しようとするパーティションに、デュアル・ドライブ・レコーディングを行うための“DDR”が設定されていて、コピー先のDVDドライブにミラー・ディスクがセットされている場合には、オート・コピーを設定しても、「デュアル・ドライブ・レコーディング」が優先されます。**

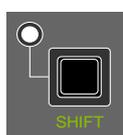
**<注意> : オート・コピーにおいて記録する、パーティション側ファイルのリネームやメタ・データの変更などを行っても、DVD-RAMディスク側のデータは変更されません。**

**<注意> : オート・コピーのキャンセル (FALSE START) は実行できません。**

## パーティションの選択

最初に、記録するパーティションを選択します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。  
ドライブのセレクト画面に変わります。“DVD”はDVD-RAMドライブを指し、“PT01”～“PT16”がHDDのパーティションを指しています。



DRIVE SEL	
[ DRV ]	[ ~REEL~ ]
DVD	[ S001 ]
#PT01	[ S002 ]
PT02	[ S003 ]
PT03	[ S004 ]
PT04	[ S005 ]

**<注意> : 上記ドライブの選択画面は、下記操作でも入ることができます。**

1. 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押す。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。
2. [MENU] ダイアルで“DRV/PAT SEL”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押す。  
上記同様、ドライブを選択する画面が表示されます。

- 2) [MENU] ダイアルで希望のパーティションを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 選択したパーティションの Home 画面に変わります (下記画面は、未記録のパーティション 2 を選択した例です)。



## オート・コピー・モードの設定

オート・コピー・モードは、MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Auto copy”で設定します。下記操作は、現在記録可能なドライブが内蔵 HDD のパーティションにセレクトされ、コピー先の DVD ドライブには未記録の DVD-RAM ディスクがセットされていることを前提にしています。

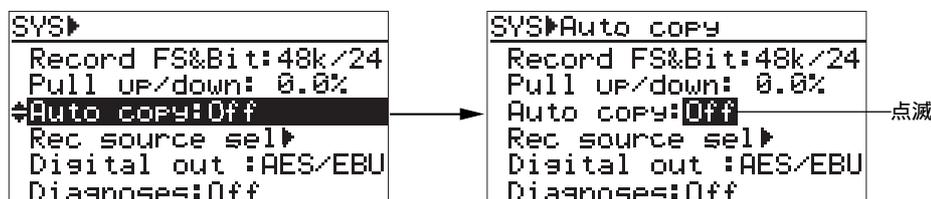
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
 MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押します。  
 “SYS SETUP” メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



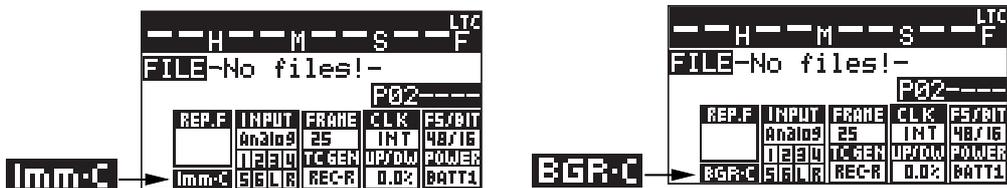
- 3) [MENU] ダイアルで“Auto copy”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 現在の設定が点滅し、変更可能になります (初期設定では“Off”が点滅)。



設定項目は、初期設定の“Off”以外に、前述の“BGRD (Back ground)”または“IMME (Immediately)”が選択できます (前ページの表を参照)。

- 4) [MENU] ダイアルで希望のコピー・モードを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 “Setup auto copy” -> “Ready auto copy” のポップアップ表示が点灯した後、選択したモードに設定されます。ここでは例として“IMME (Immediately)”に設定します。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。  
 パーティションの Home 画面に変わり、IMME 設定時は “Imm.C” マークがステータス表示部左下に点灯します (BGRD 設定時は “BGR.C” マークが点灯します)。



### オート・コピーの実行

- 1) 記録するチャンネルの [READY] キーを押して、SAFE/READY を ON にします (LED 点滅)。  
 オート・コピー・モードが設定されている状態でSAFE/READYをONにすると、コピー元(パーティション)のリメイン表示と、コピー先(DVD-RAMディスク)のリメイン表示が、交互に点滅します。



- 2) [REC] キーをスライドして、パーティションへの記録を開始します。  
 オート・コピー・モード“IMME”で実行したときは、パーティションへの記録と同時にDVD-RAMディスクへコピーが実行されます。
- 3) [PAUSE] キーを押して、記録を終了します。

オート・コピー・モードを “BGRD” で実行したときは、[STOP] キーを押してPD606を停止させた時点からオート・コピーを開始します。  
 コピー開始時には、ディスプレイに “Backup copy Start!” が数秒点灯し、コピー終了と同時に “Backup copy Finished!” が点灯した後 Home 画面に変わります。

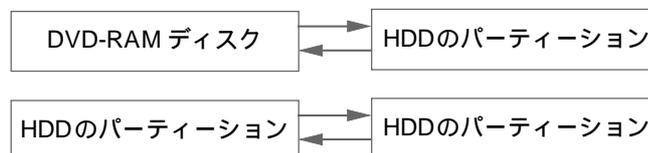
“BGRD (Back ground)” モードでは、万が一コピー先のDVD-RAMディスクがセットされていなくとも、パーティションへの記録は行います。このとき、コピーすべき情報は内部に保存されたままになっていますので、空きディスクをセットした時点から、自動的にオート・コピーを実行します。

<注意> : コピー先にディスクをセットしないままオート・コピーを実行したときは、PD606の電源を切らない限り情報は残っています。しかし、ディスクをセットする前に電源を切ってしまうと、内部に保存されたコピーすべき情報が消滅してしまい、オート・コピーは行いません。

<注意> : オート・コピーを必要としない場合には、前述の “Auto copy” メニューを “Off” に設定し直してください。

## ディスク・コピー

ディスク・コピーとは、DVD-RAMディスクまたはHDDのパーティションに記録されている全ファイルを、DVD-RAMディスクとパーティション間または異なるパーティション間で、フル・コピーする機能です。ディスク・コピーは、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Disk copy”で実行します。



<注意>：ディスク・コピーには、DVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RW ディスクは使用できません。

### コピー元のドライブ選択

ディスク・コピーを実行する前に、コピー元となる「カレント・ドライブ (DVDドライブまたはHDDのパーティション)」を選択します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。  
ドライブのセレクト画面に変わります。



<注意>：上記ドライブ選択画面は、下記操作でも入ることができます。

1. 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押す。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。
2. [MENU] ダイヤルで“DRV/PAT SEL”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押す。  
上記同様、ドライブを選択する画面が表示されます。

- 2) [MENU] ダイヤルで、希望のドライブを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
選択したドライブに記録されているオーディオ・ファイルのHome画面に変わります。

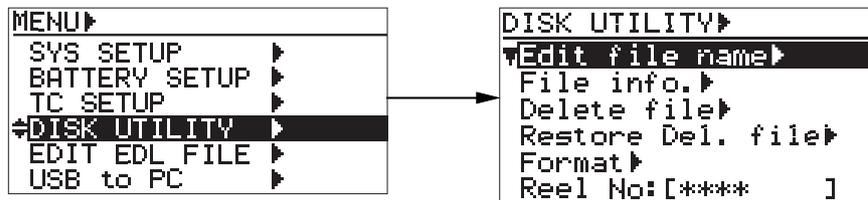
## ディスク・コピーの実行

下記操作は、パーティション1 (PT01) をカレント・ドライブに選択し、パーティション1 に記録されているオーディオ・データをDVD-RAM ディスクへコピーすることを前提にしています。

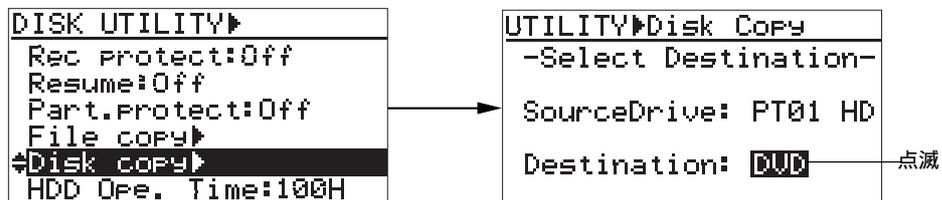
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



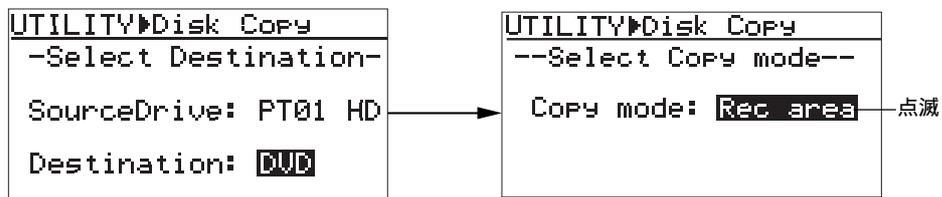
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“DISK UTILITY”メニューの、サブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Disk copy”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
コピー先のドライブを選択する画面に変わります。初期設定では“DVD”が点滅します。



- 4) “DVD”が点滅している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
コピー・モードを選択する画面に変わり、用途に合わせてコピー・モードを選択します。



選択可能なコピー・モード	
Rec area	記録されている範囲のみを高速でコピーします (初期設定)。
Full area	UDF フォーマットされた領域全てをコピーします。

- 5) [MENU] ダイアルでコピー・モードを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 下記例のような警告メッセージに変わり、“Are you sure?”が点滅します。警告メッセージの下には、ディスク・コピーに要する大まかな時間も表示されます。

```

---CAUTION---
If ENTER key is push
-ed,will start Disk
Copying and delete
DVD-RAM area data.
Are you sure?
Finish time:01M13S
  
```

点滅

<注意> :コピー先に、コピー元と同じドライブ(またはパーティション)を選択しても、ディスク・コピーは実行できません (“Void!” が表示されます)。

- 6) 警告メッセージを確認後、[ENTER/YES] キーを押します。  
 DVD-RAM ディスクへ、ディスク・コピーを開始します。  
 実行中は、コピーが終了するまでの予想時間と未処理の容量が表示され、進行とともに減少していきます。ディスク・コピーが終了すると “Completed!” が点灯してアクセスは停止します。

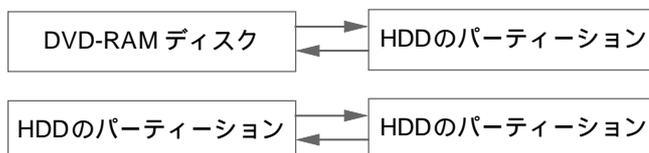
```

UTILITY▶Disk Copy
PT01HD >>> DVD
Finish: ***M**S
Remain: **** Mbyte
0          50        100%
|-----|-----|
|██████|-----|-----|
  
```

- 7) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## ファイル・コピー

ファイル・コピーとは、DVD-RAM ディスクまたはHDDのパーティーションに記録されているオーディオ・ファイルを選択し、DVD-RAMディスクとパーティーション間(または異なるパーティーション間)で、ファイル単位でコピーする機能です。ファイル・コピーは、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“File copy”で実行します。



**<注意>**：ファイル・コピーには、DVD-RAM ディスク以外にDVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RW ディスクが使用できます。ただし、DVD-R/RW、CD-R/RW ディスクは通常の記録には使用できません。あくまでも、HDDのパーティーションに記録されたオーディオ・データをファイル・コピーするときのみ使用できます。なお、DVD-R/RW、CD-R/RW ディスクへの書き込みは「At Once方式」で行われるため、既にオーディオ・データが記録されているディスクへの追記録は行なえません。

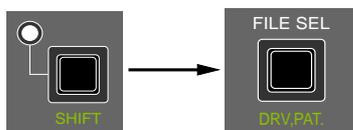
**<注意>**：コピー先にHDDのパーティーションを選択したときは、DVD-R/RWおよびCD-R/RW ディスクからパーティーションへのファイル・コピーは実行できません。パーティーションへのファイル・コピーが実行できるのは、DVD-RAM ディスクに記録されたデータのみです。

### コピー元のドライブ選択

ファイル・コピーを実行する前に、コピー元となる「カレント・ドライブ (DVDドライブまたはHDDのパーティーション)」を選択します。

**<注意 (必須事項)>**：DVD-R/RWまたはCD-R/RW ディスクへファイル・コピーを実行するときは、ディスクをセットする前にコピー元のパーティーションをカレント・ドライブに選択しておく必要があります。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。  
ドライブのセレクト画面に変わります。



DRIVE SEL	
[DRV]	[ -REEL- ]
DVD	[ S001 ]
*PT01	[ S002 ]
PT02	[ S003 ]
PT03	[ S004 ]
PT04	[ S005 ]

**<注意>**：上記ドライブ選択画面は、下記操作でも入ることができます。

1. 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押す。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。
2. [MENU] ダイアルで“DRV/PAT SEL”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押す。  
上記同様、ドライブを選択する画面が表示されます。

- 2) [MENU] ダイアルで、希望のドライブを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
選択したドライブに記録されているオーディオ・ファイルのHome画面に変わります。

## ファイル・コピーの実行

下記操作は、パーティション1 (PT01) をカレント・ドライブに選択し、パーティション1 に記録されているオーディオ・データをDVD-RAM ディスクへコピーすることを前提としています。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
▼SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
  
```

- 2) [MENU] ダイアルで “DISK UTILITY” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
“DISK UTILITY” メニューの、サブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
▼DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
  
```

→

```

DISK UTILITY▶
▼Edit file name▶
File info.▶
Delete file▶
Restore Del. file▶
Format▶
Reel No:[***** ]
  
```

- 3) [MENU] ダイアルで “File copy” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
コピー先のドライブを選択する画面に変わります。初期設定では “DVD” が点滅します。

```

DISK UTILITY▶
Reel No:[S001 ]
Rec protect:Off
Resume:Off
Part. protect:Off
▼File copy▶
Disk copy▶
  
```

→

```

UTILITY▶File Copy
-Select Destination-
SourceDrive: PT01 HD
Destination: DVD
  
```

点滅

- 4) “DVD” が点滅している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
パーティションに記録されている、オーディオ・ファイルを選択する画面に変わります。

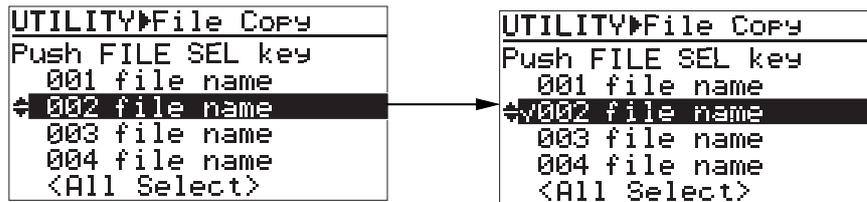
```

UTILITY▶File Copy
Push FILE SEL key
▼001 file name
002 file name
003 file name
004 file name
<All Select>
  
```

**<注意>** : コピー先に、コピー元と同じドライブ(またはパーティション)を選択しても、ファイル・コピーは実行できません (“Void!” が表示されます)。

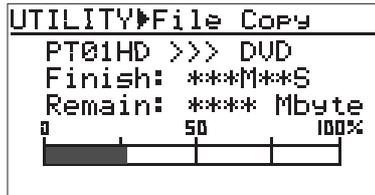
- 5) [MENU] ダイアルでコピーするファイルを選択して、[FILE SEL] キーを押します。  
選択したオーディオ・ファイルのネーム先頭にチェック・マークが付加され、そのファイルがコピーの対象に設定されます (複数のファイルにマークを付加するには、同様の操作を繰り返します)。  
コピーの対象を解除するには、再度チェック・マークのファイルを選択して [FILE SEL] キーを押してください。

また、表示されているオーディオ・ファイルの一番最後にある “<All Select>” を選択して [FILE SEL] キーを押すと、全てのオーディオ・ファイルに「チェック・マーク」が付加できます。



6) チェック・マークを付加した後、[ENTER/YES] キーを押します。

DVD-RAM ディスクへ、ファイル・コピーを開始します。  
 コピー実行中は、コピーの終了する予想時間と、未処理の容量が表示され、進行とともに減少していきます。ファイル・コピーが終了すると“Completed!” が点灯してアクセスは停止 します。



**<注意>** : コピー先の記録可能な領域が不足している場合は、“Over copy size!” が点灯して、オーディオ・ファイルを選択する画面に戻ります。

**<注意>** : DVD-R/RW または CD-R/RW ディスクへのファイル・コピー終了後は、ファイナライズ処理が行われ処理中は下記ポップアップが表示されます。  
 特に、1GB 以下のオーディオ・ファイルを DVD-R/RW ディスクへコピーした場合、ディスクの中心から直径 70mm に達するまでリード・アウト・エリアの書き込みが必要なため、ファイナライズ処理が長くなりますのでご注意ください。なお、650MB 以下のオーディオ・ファイルをコピーするには、CD-R/RW ディスクをご使用になることをお勧めします。

Please wait  
 Finalizing...

7) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

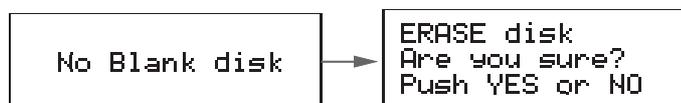
**<注意>** : コピー先に、記録済みの DVD-R または DVD-RW ディスクがセットされている場合は、それぞれ次の動作となります。

**記録済みの DVD-R または CD-R ディスクの場合 :**

“Write protected!” が表示され、第一階層画面に変わります。ディスクを入れ替えてやり直ししてください。

**記録済みの DVD-RW または CD-RW ディスクの場合 :**

“No Blank disk” 表示に続いて、下記ポップアップが表示されます。  
 これは、既存データのイレースを実行するかどうかを示しています。イレースするには [ENTER/YES] キーを押し、イレースしないときは [EXIT] キーを押します。  
 イレースを実行したときは、ディスクのデータをイレースした後、自動的にファイル・コピーを開始します。



## デュアル・ドライブ・レコーディング

デュアル・ドライブ・レコーディングとは、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Format”において、“DDR”モードでフォーマットしたHDDのパーティションへ記録すると同時に、“DDR”の対象となるDVD-RAMディスク(\*)へ同じデータを記録する機能です。デュアル・ドライブ・レコーディングでは、同じディスクを2枚作成する・・・というイメージで記録が実行されるため、パーティションに記録したオーディオ・ファイルのメタ・データ変更、あるいはディスクのボリューム・ラベル(Reel No)を変更すると、変更内容は“DDR”対象のDVD-RAMディスクに対しても反映されます。

### (\*)“DDR”対象のDVD-RAMディスクについて：

“DDR”の対象ディスクとは、リアルタイムに記録を行うパーティションと対になるDVD-RAMディスクを指して、“ミラー・ディスク”と呼んでいます。つまり、任意のパーティションを“DDR”モードでフォーマットしたとき、DVD-RAMドライブにセットされているDVD-RAMディスクが自動的に“ミラー・ディスク”として設定されます。そのため、デュアル・ドライブ・レコーディングを実行するためには、必ず“ミラー・ディスク”がドライブにセットされていなければなりません。

**<注意>**：“ミラー・ディスク”に設定されたDVD-RAMディスクには、単独で記録することはできません。“ミラー・ディスク”に単独で記録可能にするには、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューにある“Format”において、“Normal”モードで再フォーマットしてください。

**<注意>**：デュアル・ドライブ・レコーディングは、FS=96kHzでは4トラックまでの記録が可能で、FS=192kHzでは2トラックまでの記録が可能です。

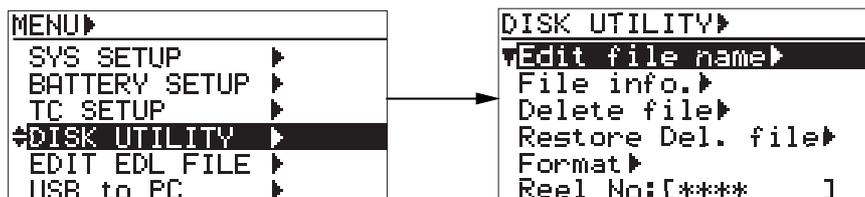
### “DDR”モードのフォーマット

デュアル・ドライブ・レコーディングを実行するには、記録するパーティションを“DDR”モードでフォーマットします。下記操作は、未記録のパーティション2 (PT02HD) が立ち上がり、DVDドライブにはミラー・ディスクがセットされていることを前提にしています。

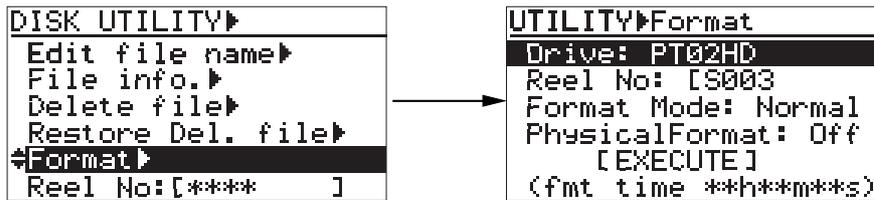
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Format”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
フォーマットに必要な設定画面変わります。

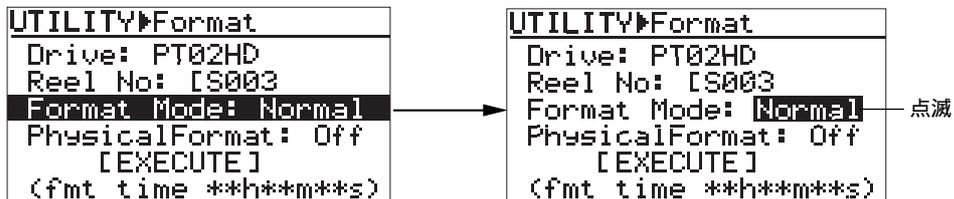


ここでは、例として現在立ち上がっているパーティーション2 (PT02HD) を“DDR”モードでフォーマットしますが、他のパーティーションをフォーマットするには“Drive: PT02HD”が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押した後、希望のパーティーションを選択します。

なお、“Reel No (ボリューム・ラベル)”は初期設定 (S003) のままフォーマット・モードの設定へ進みます (ボリューム・ラベルは、フォーマット後でも MENU モードの“DISK UTILITY”メニューにある“Reel No”で設定可能です)。

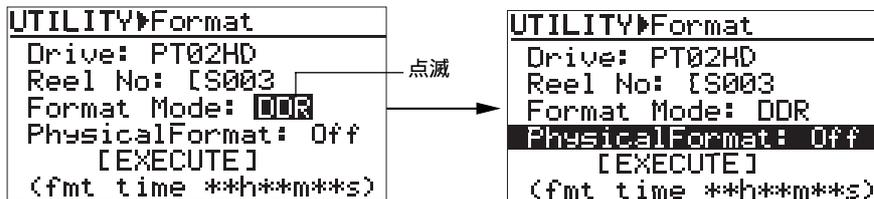
4) [MENU] ダイアルで “Format Mode” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定 (Normal) が点滅し、選択可能になります。



5) [MENU] ダイアルで “DDR” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。

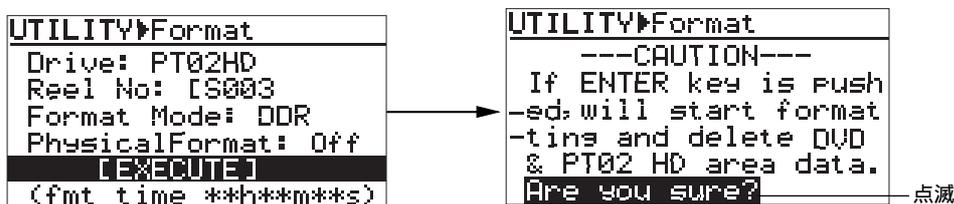
フォーマット・モードが“DDR”に設定され下記画面に変わります。ここでは、物理フォーマットはOFFのままフォーマットします。



6) [MENU] ダイアルで “[EXECUTE]” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。

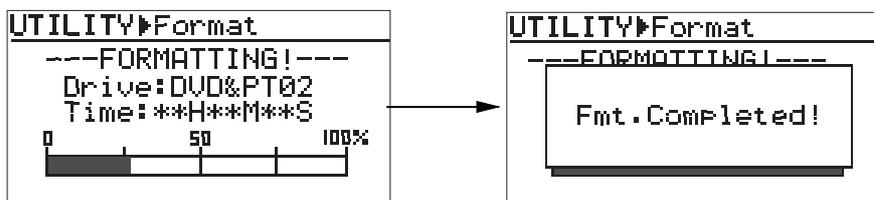
フォーマットを実行する前の「警告表示」に変わります。

パーティーション (PT02) を DDR モードでフォーマットすると、ミラー・ディスクとなる DVD-RAM ディスクも同時にフォーマットされ、双方の既存データが消去されることを警告しています。



7) [ENTER/YES] キーを押して、フォーマットを実行します。

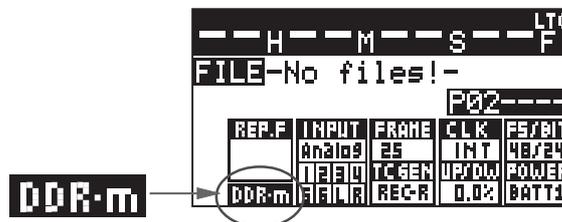
フォーマットの進行状況を示す画面に変わり、フォーマット終了後 “Completed!” が点灯します。



## 8) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

MENU モードから抜け出すと、“ミラー・ディスク”をスキャンしながらパーティション (PT02) のHome画面に変わります(他のパーティションを選択してフォーマットした場合は、自動的にフォーマットしたパーティションのHome画面に変わります)。

パーティションがMirrorモードでフォーマットされると、Home画面上に“**DDR.m**”マークが点滅して表示されます。

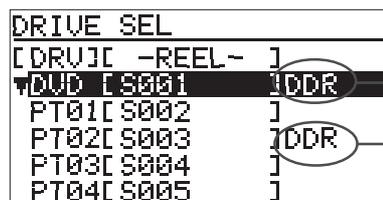


## デュアル・ドライブ・レコーディングの実行

下記操作は、“DDR”モードでフォーマットされたパーティション(ここではPT02)が立ち上がり、DVDドライブには“ミラー・ディスク”がセットされていることを前提にしています。

**<注意>**：デュアル・ドライブ・レコーディングは、DVDドライブに“ミラー・ディスク”がセットされていないと実行できません。異なったディスクがセットされていたり、何もセットされていない場合には、“ミラー・ディスク”をスキャンしたときにエラーが発生して、警告メッセージが表示されます(“Difference! DDR mirror disk”など)。正しい“ミラー・ディスク”をスキャンしたときは“Presence! DDR mirror disk”を表示します。

**<注意>**：デュアル・ドライブ・レコーディングの実行前に、“DDR”モードでフォーマットしていないパーティションが選択されている場合は、必ず“DDR”モードでフォーマットしたパーティションを選択し、DVDドライブには“ミラー・ディスク”をセットしてください。  
“DDR”モードでフォーマットしたパーティションを選択する際、ドライブ/パーティションの選択モードに入ったとき、下記例のようにパーティションの名前の後に“DDR”が表示されますので、容易に選択できます。



## 1) 記録するチャンネルのSAFE/READYをONにした後、[REC] キーをスライドしてパーティションへの記録を開始します。

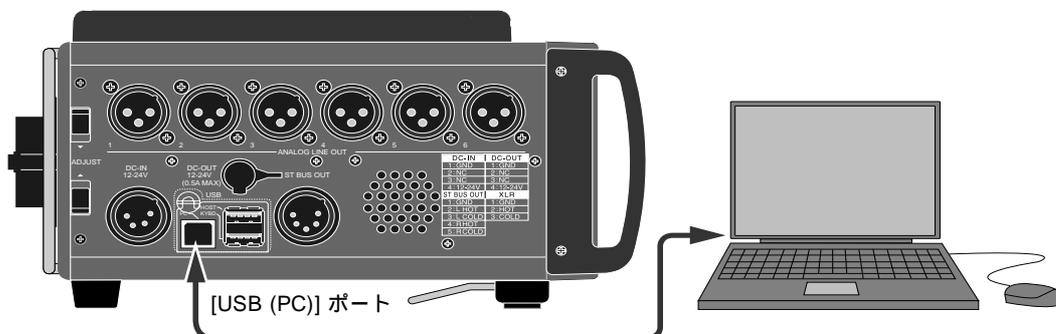
パーティション (PT02) へリアルタイムに記録されると同時に“ミラー・ディスク”へも記録され、デュアル・ドライブ・レコーディングを開始します。

## 2) 記録終了後、[PAUSE] キーを押して停止させます。

記録に失敗したときは、速やかに“FALSE START”機能を使ってキャンセルし、再度やり直してください。

## パソコンへのインポート

本機の [USB (PC)] ポートとパソコンを接続することで、本機とパソコン間でオーディオ・ファイルの転送が可能になります。本機で記録したオーディオ・ファイルのデータをパソコンのハードディスクへコピーしたり、Digidesign Pro Tools などのコンピュータ・ソフトへインポートすることができます。



**<注意！重要です>**：本機とPCとの接続は、安定した動作を確保するため3m以内のUSBケーブルをご使用ください。3m以上のケーブルを使用した場合、正常なPCへの取り込みは保証できません。

**<注意！重要です>**：[USB (PC)] ポートを使って本機とPCが接続されているときは、[USB HOST] ポートへは何も接続しないでください。

**<注意>**：ご使用いただいているパソコンのOSによっては、動作状況が異なりますので、ご注意ください。

Windows XP、2000、Vista	Readのみが可能（ドライバー・ソフトや市販ライティング・ソフトは不要）。ただし、DVD-RAMディスクへの書き込みは可能。
Macintosh OS 9.2.2	Readのみが可能（ドライバー・ソフトや市販ライティング・ソフトは不要）
Macintosh OS X	Readのみが可能（ドライバー・ソフトや市販ライティング・ソフトは不要）

\* 本書に記載されている会社名および製品名などは、一般的に各社の商標または登録商標となっています。

**<注意>**：DVD-RAM および内蔵HDDへのアクセスは、接続するポートやPCのOSによって動作が異なります。なお、内蔵HDDは読み取りのみが可能で、PCからの書き込みは行なえません。また、市販のライティング・ソフトによっては、HDDからのファイル転送がDVD-RAMに比べて極端に遅くなることがあります。

このような場合には、ライティング・ソフトの「パケットライト機能」を無効にすることで転送スピードが改善されることがあります（パケットライト機能については、ライティング・ソフトの取扱説明書などを参照してください）。

**<注意>**：主なPCアプリケーションは、インターリーブ・ファイルをそのままインポート可能ですが、もしPCアプリケーションにインポートできない場合は、フォステクス BWF Manager を使ってモノラル・ファイルに変換した後、インポートしてみてください。

BWF Manager でモノラル・ファイルに変換した BWF ファイルは、アプリケーション・ソフトへインポートして編集が可能になります。また、モノラル・ファイルからインターリーブ・ファイルに変換した BWF ファイルは、PD606 や DV824 などでも再生することができます。なお、“BWF Manager” は当社ホームページ（<http://www.fostex.jp>）からダウンロードしてご利用いただけます。

## パソコンとの接続方法

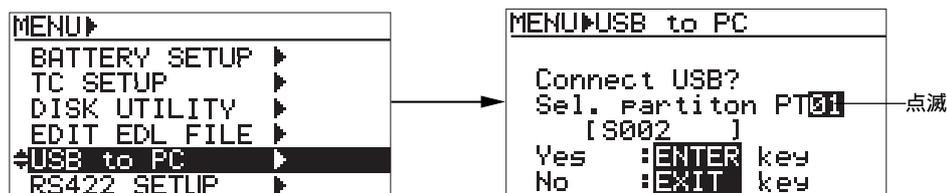
USB ケーブルで本機と PC を接続した後、MENU モードにある “USB to PC” メニューを実行します。

**<注意>** :DVDドライブに記録済みディスクがセットされている状態で本機とPC間でUSB接続を実行すると、PC上にはDVD-RAMドライブと任意に選択するパーティーションの2つのアイコンが表示されます。ただし、DVDドライブにディスクがセットされていない場合は、パーティーションのみのアイコンが表示されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

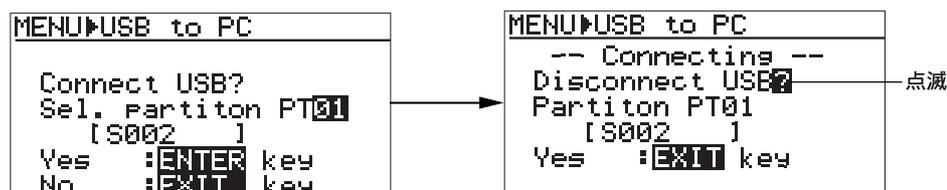


- 2) [MENU] ダイアルで “USB to PC” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
USB 接続の設定画面になり、パーティーションの選択が可能になります。



- 3) [MENU] ダイアルでマウントしたいパーティーションを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

本機と PC 間で USB 接続が行われ、下記例の画面に変わります。接続が完了すると、PC 上には DVD-RAM ドライブと選択したパーティーションの 2 つのアイコンが表示されます。



PC とのやり取りは、上記画面が表示されている状態で可能になります。

## 取り外し方法

本機を PC から取り外すには、PC 上で取り外し可能な状態に設定した後 USB ケーブルを抜き、上記接続画面の状態から [EXIT] キーを押して接続を解除します。なお、PC 上における取り外し可能な設定は、ご使用いただいている PC の OS によって異なります。ご使用いただいている PC の取扱説明書を参照してください。

**<注意>** :ご使用いただいている OS によっては、アン・マウントしてもすぐに再度マウントされてしまうことがあります。USB の使用を止める場合には、アン・マウント後速やかにケーブルを抜くようにしてください。

## ハードディスクへのコピー例

下記操作は、本機とPCが接続され、MENUモードの“USB to PC”メニューが“Connect”に設定されていることを前提にしています。

**<注意>**：“USB to PC”メニューが“Connect”に設定されている状態では、PD606本体の操作キー/ダイヤルなどは機能しなくなります。キーなどを操作すると、右図のポップアップ画面が表示され、操作が無効であることを警告します。

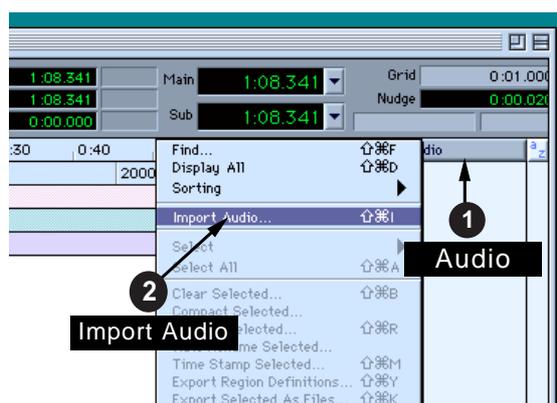
-Connected USB-

- 1) パソコンのデスクトップに、PD606のドライブを示すアイコンが表示されていることを確認します（アイコン表示は、ご使用になるパソコンによって異なります）。
- 2) パソコン側のエクスプローラなどを立ち上げて、PD606ドライブのファイルからオーディオ・データをハードディスクへコピーします。

## コンピュータ・ソフトへのインポート例

ここでは、コンピュータ・ソフトのDigidesign Pro Toolsへオーディオ・データをインポートする例を記載しています。下記操作は、例としてMacintosh版のPro Toolsを使い、DVD-RAMディスクまたはパーティションに記録されたオーディオ・データをインポートすることを前提にしています。Pro Toolsの操作については、ソフト・ウェアに付属されている説明書を参照してください（下記表示例は、実際と異なることがあります）。

- 1) パソコン側のコンピュータ・ソフトを立ち上げます。
- 2) Pro Toolsの画面内にある“Audio”部分をクリックして、オーディオ・リージョン・リストのポップアップ・メニューを表示させます（矢印1）。
- 3) ポップアップ・メニューから“Import Audio”メニューを選択して、クリックします（矢印2）。

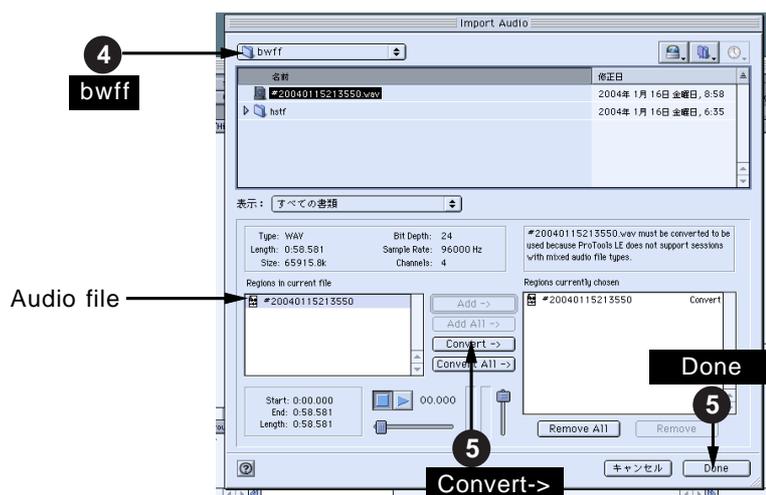


- 4) デスクトップ上にあるDVDドライブ、またはパーティションのアイコンを選択して、クリックします（矢印3）。

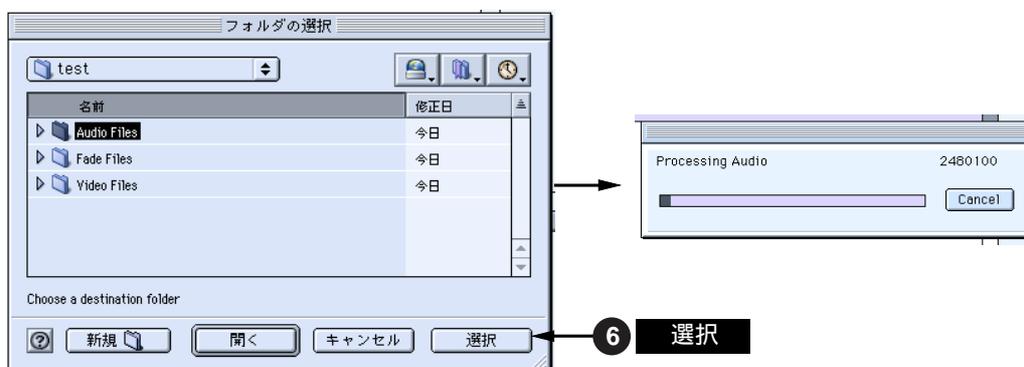
次ページ例のディスク・ボリューム・ラベルは、初期設定における仮ネームを表示しています。ディスクをフォーマットする過程で、ボリューム・ネーム（Reel Number）を任意にエディットしている場合は、そのボリューム・ネームが表示されます。



- 5) ディスク内の“bwff”ディレクトリにあるオーディオ・ファイルを選択して、クリックします (矢印4)  
 “Region in current file” に、選択したオーディオ・ファイルが表示されます。
- 6) “Convert ->” をクリックした後、“Done” をクリックします (矢印5)  
 保存ファイルを選択する表示に変わります。



- 7) 保存ファイルを選択して“選択”をクリックします (矢印6)  
 選択したファイルへの保存が始まります。

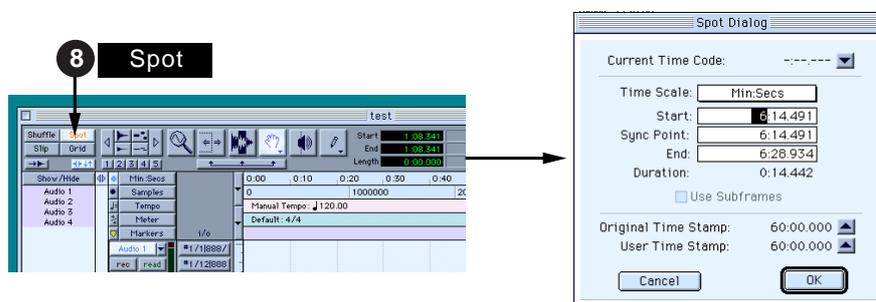


保存したファイルは、オーディオ・リージョン・リストに表示されます。



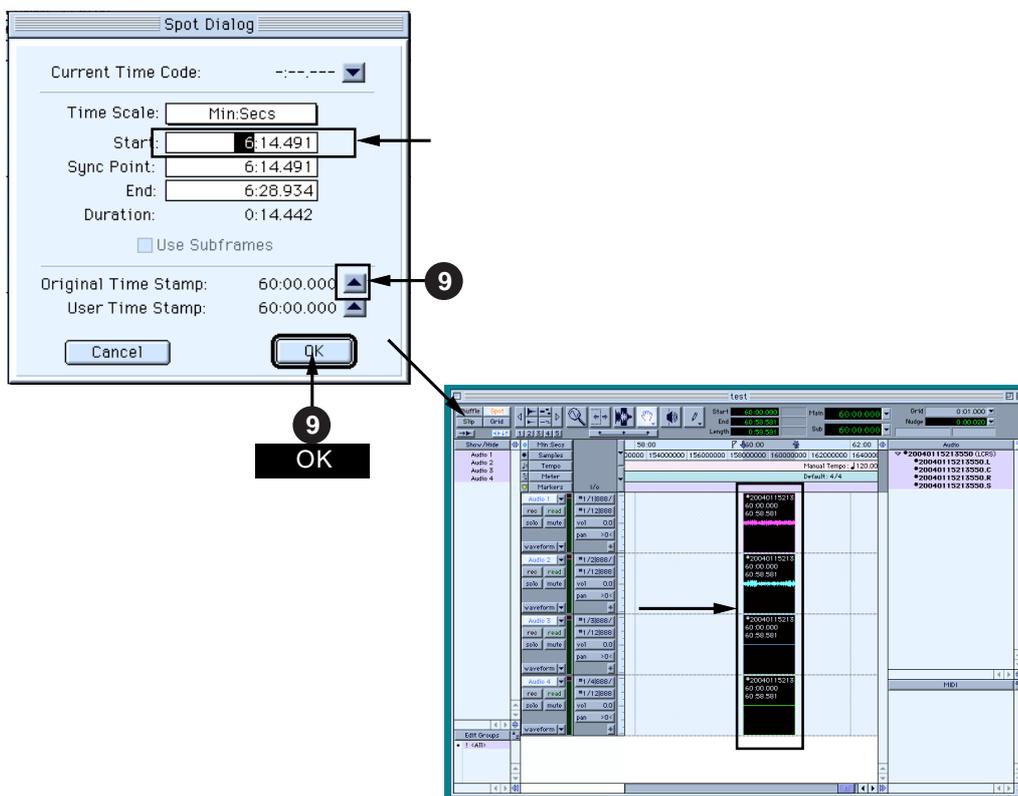
- 8) “Spot” を有効にした後、オーディオ・リージョン・リストをトラック・エリアにドラッグ&ダウンします (矢印 8)

ドラッグ&ダウンすると、スポット・ダイアログ設定画面が表示されます。



- 9) スポット・ダイアログの “OK” をクリックして、“OK” をクリックします (矢印 9)

“OK” をクリックすると、現在表示されている Original Time Stamp の時間が “Start” 時間に設定されます。その後、“OK” をクリックすると、指定した位置からオーディオ・データがインポートされます。



## 第7章 ALE ファイルの作成 / 編集 (EDIT EDL FILE メニュー)

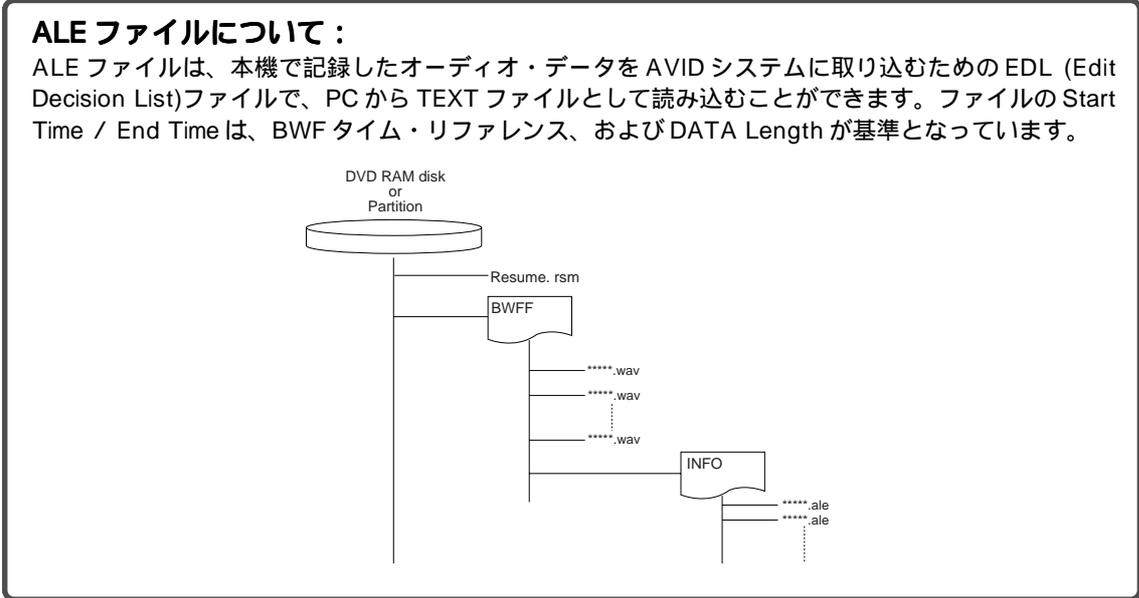
ここでは、本機で記録したオーディオ・データをAVIDシステムへ取り込むための、ALE (Avid Log Exchange) ファイルをディスク上に作成したり、作成済みのALE ファイルを編集します。

ALE ファイルの作成 / 編集は、MENU モードにある“EDIT EDL FILE”メニューで実行します。

### < 第7章 目次 >

新たなALEファイルを作成.....	124
ALEファイルにオーディオ・ファイルをエン트리.....	127
エントリーしたオーディオ・ファイルの確認 / 編集.....	129
エントリーしたオーディオ・ファイルの確認.....	129
オーディオ・ファイルの追加エントリー.....	130
不要なオーディオ・ファイルを削除.....	130
ALEファイルの編集.....	131
ALEファイルのファイル・ネームをエディット.....	131
ALEファイルのリメイク.....	132
不要になったALEファイルを削除.....	133

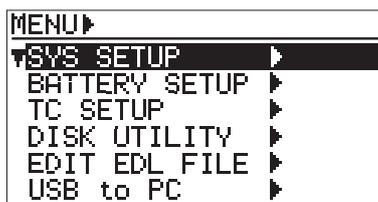
本機では、記録時に DVD-RAM ディスク (または HDD のパーティション) 上に作成される “bwff” フォルダのサブ・フォルダとして、下記図のように “Info” フォルダを設け、ALE (Avid Log Exchange) ファイル、および Diagnoses ファイルなどの各種情報ファイルが、この “Info” フォルダに格納されるようになっていきます。



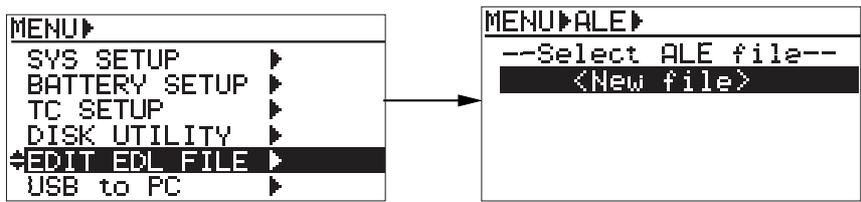
## 新たな ALE ファイルの作成

記録済みの DVD-RAM ディスク上 (または HDD のパーティション) に、新たな ALE ファイルを作成します。ここからの操作は、現在本機にセットされている DVD-RAM ディスク (または HDD のパーティション) に、複数のオーディオ・ファイル (BWF) が記録されていることを前提としています。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



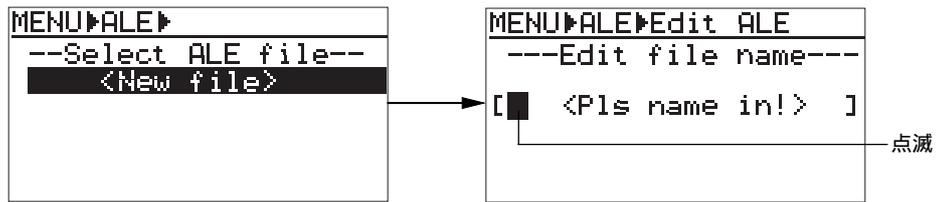
- 2) [MENU] ダイアルで “EDIT EDL FILE” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“EDIT EDL FILE” メニューの第二階層画面に変わり、“<New file>” が反転する画面が表示されます。



**<注意>** : ディスク上 (またはパーティション) に ALE ファイルが存在しないときは、上記 “<New file>” のみが表示され、ALE ファイルが既に存在するときは、既存のファイル名が表示されます。

- 3) “<New file>”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。

新たに作成する、ALE ファイルのファイル・ネームを入力する画面に変わります。



<注意> : 新規にALEファイルを作成するときは、上記ファイル・ネームの入力画面になります  
が、既存のALEファイルを選択して編集するときは“Remake ALE”が反転する画面に変わ  
ります(127ページを参照)

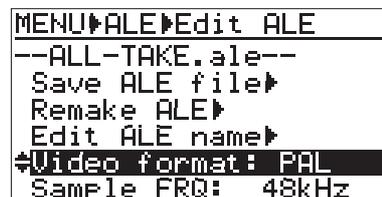
- 4) [MENU] ダイヤル(または10キー)で、希望のファイル・ネームを入力します。

例として、新たなALEファイルのネームに“ALL-TAKE”を入力します。



- 5) ネーム入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

入力したファイル・ネームが登録されると同時に、ALEファイルの編集画面に変わり、“Video format”が反転します。



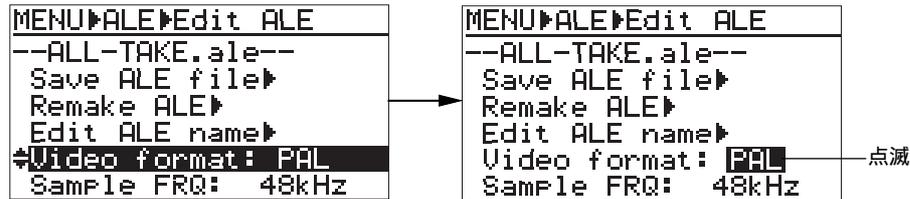
[MENU] ダイヤルを回すと、編集メニューが選択できます。

通常、新たなALEファイルを作成する過程では、“Video format” “Sample FRQ” “TAPE” “TC frame” “Drop frame”の順に設定していきます。各編集メニューでは、下記の編集が実行できます。

メニュー	編集内容
Delete ALE file	ALE ファイルを削除します。
Save ALE file	ALE ファイルを再保存します。
Remake ALE	ALE ファイルをリメイクします。
Edit ALE name	ALE ファイルのネームを再入力します。
Video format	ALE ファイルのビデオ・フォーマットを設定します。
Sample FRQ	ALE ファイルのサンプリング周波数を設定します。
TAPE	ALE ファイルの TAPE (Reel No)を設定します。
TC frame	ALE ファイルの TC フレーム・レートを設定します。
Drop frame	TC のドロップ・フレーム ON/OFF を設定します。 TC frame を “ 29.97 ” に設定したときのみ ON に設定します。
Entry files	ALEファイルにオーディオ・ファイルをエントリーしたり、エントリーしたオーディオ・ファイルを削除します。

6) “Video format”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。

ALEファイルのビデオ・フォーマットを選択する画面に変わり、現在の設定が点滅します(初期設定: PAL)



7) [MENU] ダイアルでビデオ・フォーマットを選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

ビデオ・フォーマットは、初期設定の“PAL”以外に“NTSC”または“SECAM”が選択できます。同じ要領で、“Sample FRQ” “TAPE” “TC frame” “Drop frame”の順で、必要なメニューを設定します。各メニューにおける設定項目は下記のようになっています。

メニュー	設定項目
Sample FRQ	44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz から選択可能
TAPE	最大 8 桁までの TAPE ラベル (Reel No)が入力可能
TC frame	23.97, 24, 25, 29.97, 30, から選択可能
Drop frame	On または Off が選択可能 (初期設定 : Off)

Drop frame メニュー以外の初期設定は、EDIT EDL FILE メニューに入る前に立ち上がっている、オーディオ・ファイルのデータが基になっています。

<注意>

TC frame を“29.97”に設定したときは、“Drop frame”を“On”に設定します。  
 TAPE (Reel No) は、[MENU] ダイアル(または10キー)で入力できます。  
 [MENU] ダイアルで入力するときの桁移動は [◀◀▶▶] キーで行ない、10キーで入力するときは異なった10キーを押すごとに桁が移動します。

8) 必要なメニューの設定が終了後、[EXIT] キーを押します。

新規に作成した ALE ファイルをセーブするかどうか尋ねる画面に変わり、“Are you sure?” が点滅します。



<注意> : ALE ファイルのセーブを中止するには、この段階で [EXIT] キーを押してください。

9) [ENTER/YES] キーを押します。

新たな ALE ファイルが作成され、ファイル・リストに追加されます。拡張子 “.ale” は、ファイル作成時自動的に付加されます。



更に新たなALEファイルを作成するには、“<New file>”を選択して前述同様の操作を繰り返します。ここで [EXIT] キーを押すと編集モードから抜け出すことができますが、引き続き作成したALEファイルに、ディスク (またはパーティション) に記録されているオーディオ・ファイルをエンタリーします (引き続き次項をお読みください)。

## ALE ファイルにオーディオ・ファイルをエンタリー

作成したALEファイルに、記録済みのオーディオ・ファイルをエンタリーします。例として、前述の操作で作成したALEファイル (“ALL-TAKE.ale”) に、ディスク上 (またはパーティション) に記録されている任意のオーディオ・ファイルをエンタリーします。

### <注意>

ALEファイルにエンタリーできるオーディオ・ファイルは、エンタリー先のALEファイル作成時に設定したFSと、同一のFSで記録されたファイルのみです。

エンタリーしたオーディオ・ファイルをDV824などのLIST PLAYで再生するときのモードは、ALEファイルの設定に関係なく、LIST PLAYを実行する際におけるDV824側の設定に準じています。

- 1) 前述の “ALL-TAKE.ale” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
ALEファイルの編集画面に変わり、“Remake ALE” が反転します。

<pre>MENU▶ALE▶ --Select ALE file-- ▼ALL-TAKE.ale   &lt;New file&gt;</pre>	→	<pre>MENU▶ALE▶Edit ALE --ALL-TAKE.ale Delete ALE file▶ Save ALE file▶ *Remake ALE▶ Edit ALE name▶ Video format: PAL</pre>
---	---	---

- 2) [MENU] ダイアルでメニューの一番最後にある “Entry Files” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
オーディオ・ファイルをエンタリーするための画面に変わり、“<New entry>” が反転します。

<pre>MENU▶ALE▶Edit ALE --ALL-TAKE.ale-- Sample FRQ: 48kHz TAPE: S001 TC frame: 25 Drop frame: Off ▶Entry files▶</pre>	→	<pre>MENU▶ALE▶Edit▶Entry▶ --ALE file entries--   &lt;New entry&gt;</pre>
---	---	--

- 3) “<New entry>” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
“Please wait!” を表示した後、オーディオ・ファイルを選択する画面に変わります。  
“<Entry all>” は、現在本機にセットされているディスク上に存在する、エンタリー可能なオーディオ・ファイルを一括してエンタリーするときには使用します。個々のファイルをエンタリーするには、“<Entry all>” の下に表示されているリストを選択します。

```
MENU▶ALE▶Edit▶Entry▶N
--Sel. new entries--
▼<Entry all>
001 *****.wav
002 *****.wav
003 *****.wav
004 *****.wav
```

<注意> : エントリーするファイルを個々に選択する際、あらかじめエントリーしたいファイルに “Circle Take” を設定しておくで便利です。Circle Take が設定されたファイルでは、ファイル・ネーム先頭に “@” マークが付加され、選択が容易になります (下記設定方法を参照)

**< “ Circle Take ” の設定方法 >**

“ Circle Take ” の設定は、希望のオーディオ・ファイルが立ち上がっている Home 画面の状態、[CIRCLE TAKE] キーを押します。

[CIRCLE TAKE] キーを押すと、Home 画面のファイル・ネーム表示部先頭に “ @ ” が付加されます (再度 [CIRCLE TAKE] キーを押すと、“ Circle take ” は解除されます)。

- 4) “<Entry all>” または個々のファイルを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 “<Entry all>” を選択して [ENTER/YES] キーを押したときは、下記例のようにエントリーされたすべてのファイルが表示されます ([MENU] ダイアルを回していくと、スクロールできます)。

```
MENU▶ALE▶Edit▶Entry▶N
--Sel. new entries--
▶<Entry all>
001 *****.wav
002 *****.wav
003 *****.wav
004 *****.wav
```

個々のファイルを選択して [ENTER/YES] キーを押したときは、1つのファイルのエントリーすることにより “Sel next entry!” が表示され、引き続き他のファイルを選択してエントリーできます。  
 なお、エントリーを重ねるごとに、エントリー可能なファイル・リストからは削除されていきます。  
 エントリー終了後 [EXIT] キーを押すと、下記例の表示に変わります (下記表示は、ファイル 001 をエントリーして [EXIT] キーを押した場合の例です)。

```
MENU▶ALE▶Edit▶Entry▶N
--ALE file entries--
▶001 *****.wav
<New entry>
```

- 5) オーディオ・ファイルのエントリー終了後、[EXIT] キーを押します。  
 編集メニューを選択する画面に変わります。
- 6) 再度 [EXIT] キーを押すか、[MENU] ダイアルで “ Save ALE file ” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 オーディオ・ファイルのエントリーした ALE ファイルを再保存する画面に変わり、“ Are you sure? ” が点滅します。
- 7) [ENTER/YES] キーを押して、再保存を実行します。
- 8) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## エントリーしたオーディオ・ファイルの確認 / 編集

ALEファイルにエントリーしたオーディオ・ファイル情報を確認したり、必要に応じて更にオーディオ・ファイルを追加エントリーしたり、あるいは不要なオーディオ・ファイルを削除します。

### エントリーしたオーディオ・ファイルの確認

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```

MENU▶
▽SYS SETUP ▶
  BATTERY SETUP ▶
  TC SETUP ▶
  DISK UTILITY ▶
  EDIT EDL FILE ▶
  USB to PC ▶
  
```

- 2) [MENU] ダイアルで“EDIT EDL FILE”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“EDIT EDL FILE”メニューへ入り、既に作成されているALEファイルを選択する画面に変わります。  
前述の操作で作成したALEファイル(“ALL-TAKE.ale”)と、“<New File>”が表示されます。

```

MENU▶
  SYS SETUP ▶
  BATTERY SETUP ▶
  TC SETUP ▶
  DISK UTILITY ▶
  ▽EDIT EDL FILE ▶
  USB to PC ▶
  
```

→

```

MENU▶ALE▶
--Select ALE file--
▽ALL-TAKE.ale
  <New file>
  
```

- 3) “ALL-TAKE.ale”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
“Please wait!” を表示した後 ALE ファイルの編集画面に変わり、“Remake ALE” が反転します。

```

MENU▶ALE▶
--Select ALE file--
▽ALL-TAKE.ale
  <New file>
  
```

→

```

MENU▶ALE▶Edit ALE
--ALL-TAKE.ale
Delete ALE file▶
Save ALE file▶
▽Remake ALE▶
Edit ALE name▶
Video format: PAL
  
```

- 4) [MENU] ダイアルで“Entry files”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
既にエントリーされているオーディオ・ファイルのリスト画面に変わり、[MENU] ダイアルを回していくと個々のファイルが確認できます。

```

MENU▶ALE▶Edit ALE
--ALL-TAKE.ale--
Sample FRQ: 48kHz
TAPE: S001
TC frame: 25
Drop frame: Off
▽Entry files▶
  
```

→

```

MENU▶ALE▶Edit▶Entry▶
--ALE file entries--
▽001 *****.wav
  002 *****.wav
  003 *****.wav
  004 *****.wav
  005 *****.wav
  
```

新たなオーディオ・ファイルを更に追加したり、不要なオーディオ・ファイルを削除するには、上記エントリーされたファイル・リスト画面が表示されている状態から行なえます。次ページを参照してください。

なお、ファイル・リストの確認のみで、編集モードから抜け出すには、[EXIT] キーを押していきます。

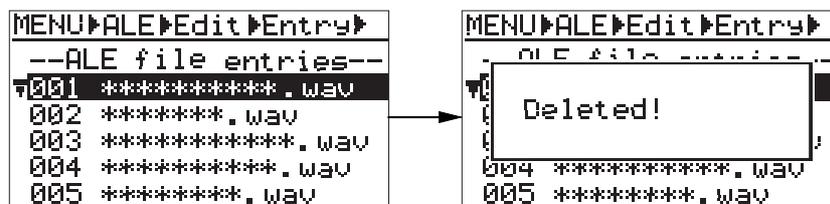
## オーディオ・ファイルの追加エントリー

- 1) エントリーされたオーディオ・ファイルのリスト画面において、[MENU] ダイアルで“ New entry ”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
既にエントリーされているオーディオ・ファイル以外のオーディオ・ファイルと、“ <Entry all> ”が表示されます。
- 2) “ Entry all ”または個々のオーディオ・ファイルを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
前述と同様に、エントリー可能なすべてのオーディオ・ファイル、または個々に選択したオーディオ・ファイルが追加エントリーされます。
- 3) 追加エントリー終了後、[EXIT] キーを押します。  
追加エントリー後の、オーディオ・ファイルを確認する画面に変わります。
- 4) [EXIT] キーを二度続けて押します。  
前述と同様、追加エントリーした ALE ファイルを再保存する画面に変わり、“ Are you sure? ”が点滅します。
- 5) [ENTER/YES] キー を押して、再保存を実行します。

編集モードから抜け出すには、[EXIT] キーを押していきます。

## 不要なオーディオ・ファイルの削除

- 1) エントリーされたオーディオ・ファイルのリスト画面において、[MENU] ダイアルで削除したいオーディオ・ファイルを選択して、[CLEAR] キーを押します。  
“ Deleted! ”を表示した後、速やかに選択したオーディオ・ファイルがリストから削除されます。



- 2) [EXIT] キーを続けて二度押します。  
編集した ALE ファイルを再保存する画面に変わり、“ Are you sure? ”が点滅します。
- 3) [ENTER/YES] キーを押して、編集した ALE ファイルを再保存します。

編集モードから抜け出すには、[EXIT] キーを押していきます。

## ALE ファイルの編集

既に作成済みの ALE ファイルを編集します。

ALE ファイルのファイル・ネームをエディットして再保存、エンタリーしているオーディオ・ファイルの編集などで変更が生じた ALE ファイルをリメイク、さらには不要になった ALE ファイルを削除できます。

### ALE ファイルのファイル・ネームをエディット

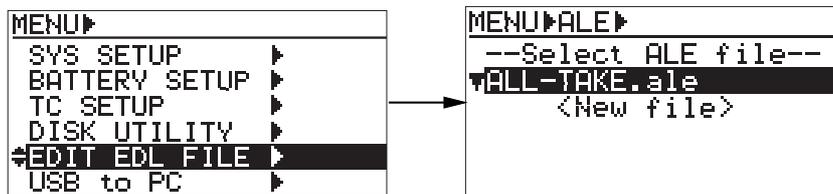
既に作成されている ALE ファイルの、ファイル・ネームをエディットして再保存します。

例として、前述作成した ALE ファイル (“ ALL-TAKE.ale ”) のファイル・ネームをエディットします。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

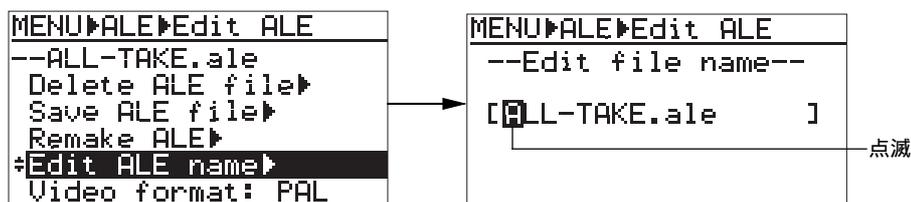


- 2) [MENU] ダイアルで “ EDIT EDL FILE ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“ EDIT EDL FILE ” メニューへ入り、既に作成されている ALE ファイルを選択する画面に変わります。  
前述の操作で作成した ALE ファイル (“ ALL-TAKE.ale ”) と、“ <New File> ” が表示されます。



- 3) “ ALL-TAKE.ale ” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
“ Please wait! ” を表示した後、ALE ファイルの編集画面に変わります。

- 4) [MENU] ダイアルで “ Edit ALE name ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
ファイル・ネームの編集画面に変わり、現在登録されているネームの左端が点滅します。



[←←] / [→→] キーでカーソルを移動し、[MENU] ダイアル (または 10 キー) で、希望のファイル・ネームを入力します。

[CLEAR] キーを押していくと、全てのファイル・ネームが削除できます。なお、ファイル・ネーム末尾の拡張子 (“ .ale ”) は、自動的に付加されるため入力の必要はありません。

- 5) ファイル・ネームのエディット終了後、[ENTER/YES] キーを押します。  
エディットしたファイル・ネームに再登録され、再度編集メニューの選択画面に変わります。
- 6) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## ALE ファイルのリメイク

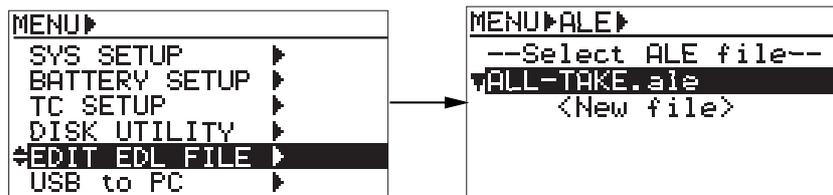
ALEファイルにエントリーされているオーディオ・ファイルに対して編集などを実行し、Start TimeやEnd Timeに変更が生じた場合、あるいはDescriptor情報を編集した場合などに、そのオーディオ・ファイルがエントリーされているALEファイルのリメイクします。

また、Circle Takeが設定されているオーディオ・ファイルのみを選択して、そのALEファイルのリメイクすることができます。ここでは例として、変更の生じたオーディオ・ファイルがエントリーされている、ALEファイル("ALL-TAKE.ale")をリメイクします。

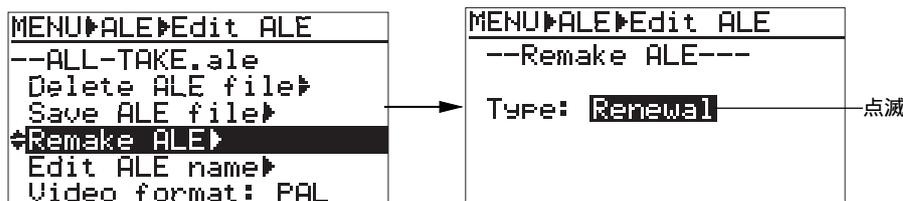
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [MENU] ダイアルで "EDIT EDL FILE" メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
"EDIT EDL FILE" メニューへ入り、ALEファイルの選択画面に変わります。  
ここでは例として、既に登録済みの "ALL-TAKE.ale" が表示されます。



- 3) "ALL-TAKE.ale" が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
"Please wait!" を表示した後 ALEファイルの編集画面に変わり、"Remake ALE" が反転します。
- 4) "Remake ALE" が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
リメイク・タイプを選択する画面に変わり、"Renewal" が点滅します。  
リメイク・タイプは、現在表示されている "Renewal" の他に "Circle Take" が選択できます。



Renewal	Circle Take
編集を実行したオーディオ・ファイルのリストを維持したまま、Start Time/End Timeなど編集した項目のみがリメイクされ、ALEファイルが更新されます。	現在 Circle Take が設定されているオーディオ・ファイルのみがエントリーされた、新しいALEファイルが作成されます。このとき、古いリストは削除されます。

- 5) [MENU] ダイアルでリメイク・タイプを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
"Renewal" を選択した場合は速やかにリメイクが実行され、編集メニューを選択する画面に変わります。  
"Circle Take" を選択した場合は "Sure?" が点滅しますので、再度 [ENTER/YES] キーを押してください。リメイク実行後、編集メニューの選択画面に変わります。

<注意> : “ Circle Take ” を選択して “ Sure? ” が点滅するのは、このまま実行すると古いリストが消えてしまうため確認を促しています。中止するには [EXIT] キーを押してください。

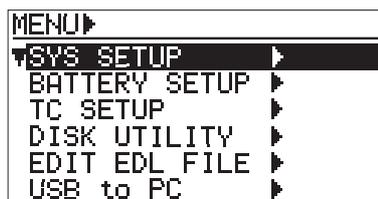
- 6) **実行後、[EXIT] キーを押します。**  
リメイクした ALE ファイルを更新する画面に変わり、“ Are you sure? ” が点滅します。
- 7) **続けて、[ENTER/YES] キーを押します。**  
リメイクした ALE ファイルに更新されると同時に、編集メニューを選択する画面に変わります。
- 8) **[EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。**

### 不要になった ALE ファイルの削除

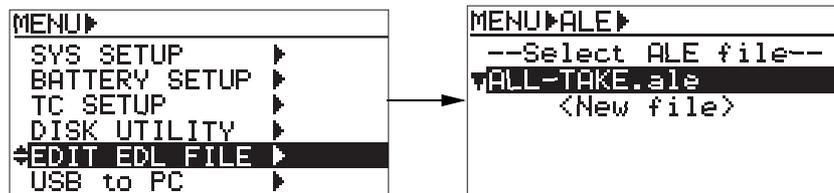
登録されている ALE ファイルを削除します。

例として、先に登録済みの ALE ファイル (“ ALL-TAKE.ale ”) を選択して削除します。

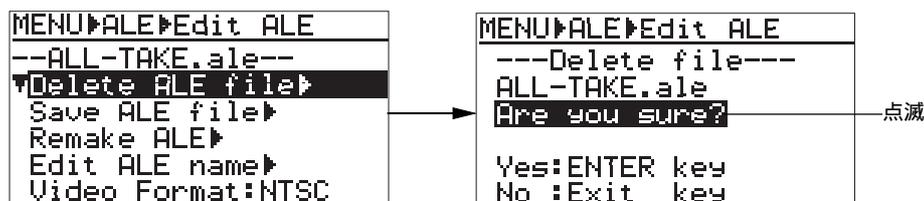
- 1) **停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。**  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[MENU] ダイアルで “ EDIT EDL FILE ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。**  
“ EDIT EDL FILE ” メニューへ入り、ALE ファイルの選択画面に変わります。  
ここでは例として、既に登録済みの “ ALL-TAKE.ale ” が表示されます。



- 3) **“ ALL-TAKE.ale ” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。**  
編集メニューの選択画面に変わり、“ Remake ALE ” が反転します。
- 4) **[MENU] ダイアルで “ Delete ALE file ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。**  
選択した ALE ファイルを削除する画面に変わり、“ Are you sure? ” が点滅します。



- 5) **削除を実行するには [ENTER/YES] キーを押します。**  
選択した ALE ファイルが削除され、速やかに ALE ファイルの選択画面に変わります。
- 6) **[EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。**



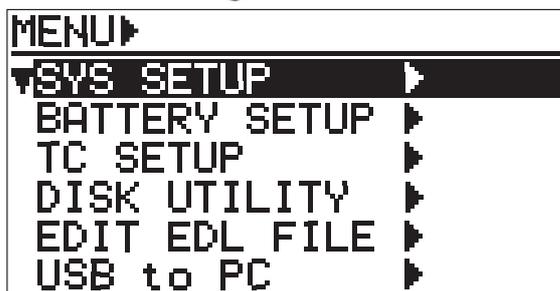
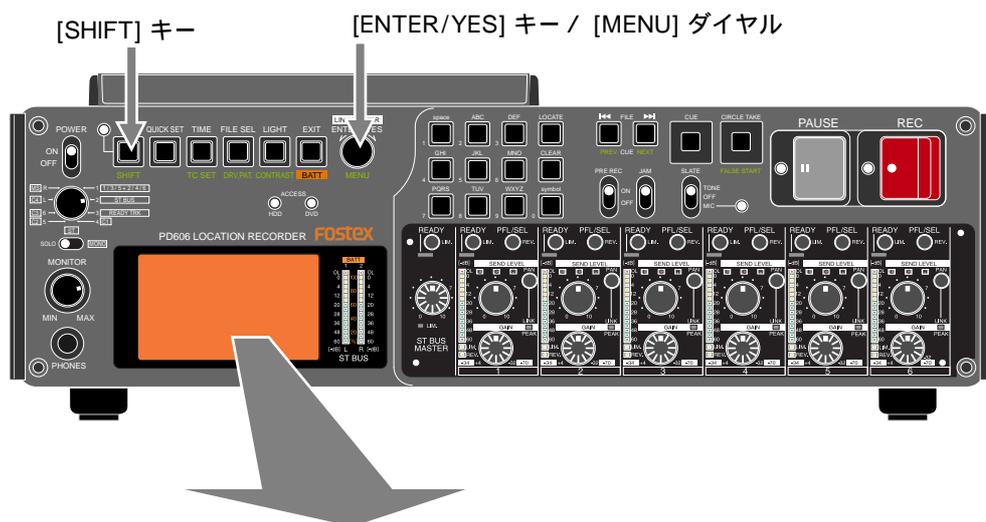
# 第8章 MENUモード

## < 第8章 目次 >

<b>MENUモードについて</b> .....	<b>136</b>
<b>SYS SETUPメニュー</b> .....	<b>138</b>
プロジェクト・ネームの設定.....	139
デフォルト・ファイルネームの設定.....	140
デフォルト・トラックネームの設定.....	142
イベント・ナンバーの設定.....	143
記録時のFS/BITレートの設定.....	144
クロックPULL UP/DOWNの設定.....	145
記録ソースの設定.....	146
デジタル出力信号のフォーマット設定.....	147
DiagnosesのOn/Off設定.....	148
ピーク・ホールド時間の設定.....	149
スレート・トーン / ポップ・トーン記録の設定.....	150
ポーズ解除時間の設定.....	152
USBキーボード・タイプの設定.....	153
プリ・レコーディング時間の設定.....	154
ファイルの最大記録容量の設定.....	155
連続記録機能のOn/Off設定.....	156
False Start機能の設定.....	158
リミッターのパラメータ設定.....	159
ST BUS OUTの基準出力レベルの設定.....	161
モニター信号のアサイン.....	162
モニター・スピーカーのミュートOn/Off設定.....	164
エラー・トーン出力の設定.....	165
チェーンプレイ・モードの設定.....	168
プリ・フェーダー / ポスト・フェーダーの設定.....	169
システム・バージョンの確認.....	170
<b>BATTERY SETUPメニュー</b> .....	<b>171</b>
バッテリーのワーニング電圧の設定.....	172
DC-INのワーニング電圧の設定.....	173
電源の消費優先順位を設定.....	174
バッテリーの消費順を設定.....	175
ワーニング電圧に達するまでの残時間を表示.....	178
バッテリーの各種情報を表示.....	179
<b>TC SETUPメニュー</b> .....	<b>180</b>
システムの動作クロックの設定.....	181
TCフレーム・レートの設定.....	182
内蔵TCジェネレータのジェネレート・モード設定.....	183
内蔵TCジェネレータのエディット.....	184
出力TCのUBIT設定.....	186
ジャム・モードの設定.....	188
出力TCのソース設定.....	189
デフォルトLTCスタート時間の設定.....	190
LTCスタート時間のエディット.....	191
再生TCのUBIT設定.....	192
ポーズ時のTC出力設定.....	193
外部TCによる自動記録のOn/Off設定.....	194
内蔵TCジェネレータのOFFタイマーを設定.....	195
<b>DISK UTILITYメニュー</b> .....	<b>196</b>
ファイル・ネームのエディット.....	197
ファイル情報の確認とエディット.....	198
不要なオーディオ・ファイルの削除.....	202
削除したオーディオ・ファイルの復活.....	203
ディスク(またはパーティーション)のフォーマット.....	204
リール・ナンバーのエディット.....	208
記録禁止のOn/Off設定.....	209
レジューム機能のOn/Off設定.....	210
パーティーションのプロテクト設定.....	211
内蔵HDDのオペレーション時間表示.....	212
<b>LOAD SETUPメニュー</b> .....	<b>213</b>
<b>SAVE SETUPメニュー</b> .....	<b>214</b>

# MENUモードについて

MENUモードには、本機をご使用いただく上で必要な各種設定メニューや実行メニューが登載されています。MENUモードに入るには、本機が停止状態で [SHIFT] キーを押してShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。MENUモードへ入ると下記画面に変わり、[MENU] ダイアルで希望のメイン・メニューが選択できます。メイン・メニューの詳細については次ページ表を参照してください。



<メイン・メニューを選択する画面>



<搭載されているメイン・メニューの一覧>

各メイン・メニューの機能は以下ようになっており、用途に応じて活用できます。  
ここでは、下記表中に“ ”マークのついたメイン・メニューについてのみ記載しています。その他のメイン・メニューについては、下記表の「参照ページ」に記載されていますので、別途参照ページをお読みください。

メイン・メニュー名 (ディスプレイ順)	メニューの内容
SYS SETUP メニュー	本機の動作環境を設定するメニューで、27のサブ・メニューで構成されています。
BATTERY SETUPメニュー	本機をバッテリーで駆動する際に必要な設定メニューで、6つのサブ・メニューで構成されています。
TC SETUP メニュー	タイムコードの記録 / 再生、外部機器との同期に関する設定を行うメニューで、13のサブ・メニューで構成されています。
DISK UTILITY メニュー	DVD-RAMディスク / HDDのパーティションに関する設定や、フォーマットなどを実行するメニューで、12のサブ・メニューで構成されています。
EDIT EDL FILE メニュー	ALEファイルを作成 / 編集するメニューです ( <b>詳細は123ページをお読みください</b> )。
USB to PC メニュー	本機とPCをUSB接続するメニューです ( <b>詳細は118ページをお読みください</b> )。
RS422 SETUPメニュー	将来拡張用のメニューで、本バージョンでは機能しません。
FILE SEL メニュー	オーディオ・ファイルを選択するメニューです。単独で [FILE SEL] キーを押すことでも、直接このメニューに入れます ( <b>詳細は98ページをお読みください</b> )。
DRV/PAT SEL メニュー	ドライブ / パーティションを選択するメニューです。[SHIFT] キー + [FILE SEL] キーの操作でも、直接このメニューに入れます ( <b>詳細は86ページをお読みください</b> )。
CUE LIST メニュー	CUE リストを確認 / 編集するメニューです。単独で [CUE] キーを押すことでも、直接このメニューに入れます ( <b>詳細は95ページをお読みください</b> )。
LOAD SETUP メニュー	SAVE SETUP メニューで保存した設定内容を、一括してロードするメニューです。
SAVE SETUPメニュー	SYS SETUP メニューの設定内容を、一括して保存するメニューです。

# SYS SETUPメニュー

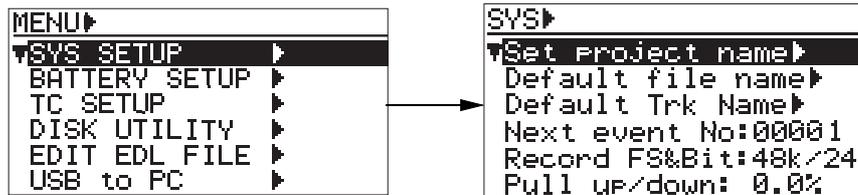
“SYS SETUP”メニューには、記録 / 再生に必要な下記サブ・メニューが搭載されています。  
任意に設定するSETUPデータは、後述記載の“SAVE SETUP”メニューで保存し、“LOAD SETUP”メニューを使って再ロードすることが可能です(213/214ページ参照)。<注意>:「Auto copy」および「Adjust RTC」については、下記参照ページに別途記載しています。

メニュー項目	設定 / 機能の詳細
Set project name	iXML ファイルに記録される、プロジェクト・ネームを設定します。
Default file name	記録時作成されるオーディオ・ファイルのデフォルト・ファイル・ネームを設定します。
Default TrkName	記録時作成される BWF ファイルの、デフォルト・トラック・ネームを設定します。
Next event No	オーディオ・ファイルのDescription情報にある、イベント・ナンバーを設定します。
Record FS & Bit	記録時のFS/BITを設定します。
Pull up/down	Internal Clock 動作時の、クロック Pull Up / Down を設定します。
Auto copy	HDD のパーティションへ記録時、DVD-RAM ディスクへ同時に記録するためのモードを設定します ( <b>106 ページ参照</b> )。
Rec source sel	入力チャンネルの記録ソースを設定します。
Digital out	デジタル出力信号のフォーマット・タイプを設定します。
Diagnoses	記録中のエラー発生などを、Diagnoses Fileとして記録に残すかどうかを設定します。
Peak hold	レベル・メータのピーク・ホールド時間を設定します。
Tone rec mode	スレート・トーンを記録するために必要な、時間 / モードなどを設定します。
Pause time	ポーズ解除の時間を設定します。
Keyboard Sel	本機のUSB端子に接続するUSキーボードのタイプを設定します。
Pre rec time	バッファに貯えるオーディオ・データの時間を設定します。
Max file length	ファイルの最大記録容量を設定します。
Auto part. link	連続したパーティションへの記録機能を設定します。
False start	False start (記録のやり直し) 機能を設定します。
Limiter parameter	リミッター機能のパラメータを設定します。
Stereo out level	STEREO BUS OUT の基準出力レベルを設定します。
Monitor custom	モニター信号のアサインを設定します。
Speaker mute	再生時以外に内蔵スピーカのミュート機能を設定します。
Error tone	エラー・トーンを出力する項目を設定します。
Chain play	オーディオ・ファイル再生終了後の、動作モードを設定します。
Disk Feed	トラック 1 ~ 6 への記録時、記録する信号をプリ・フェーダーにするか、ポスト・フェーダーにするかを設定します。
Adjust RTC	内蔵RTCのタイムデータを設定します ( <b>31 ページ参照</b> )。
Version	システム・バージョンを表示します。

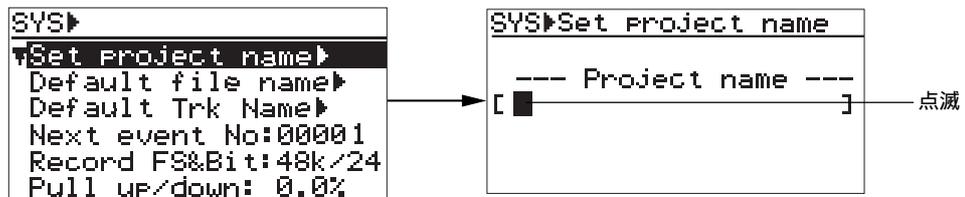
## プロジェクト・ネームの設定 ( Set project name )

iXML ファイルに記録される「プロジェクト・ネーム」を設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Set project name” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
カーソルが点滅してプロジェクト・ネームを入力する画面に変わります。



- 4) [MENU] ダイアルまたは10キーでプロジェクト・ネームを入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

最大 19 文字のプロジェクト・ネームが入力できます。

カーソルは [◀◀▶▶] キーで移動でき、[CLEAR] キーを押すとカーソル位置のネームがクリアできます。

確定したプロジェクト・ネームは本機の Flash ROM に保存され、オーディオ・ファイルの iXML ファイルに記録されます。

### [MENU] ダイアルで入力可能な文字 / 数字 / シンボル

文字 : A ~ Z, a ~ z

数字 : 0 ~ 9

シンボル : !, #, \$, %, &, ' (, ) +, -, ., /, =, @, [, ], ^, \_ , ` , space

### 10 キーで入力可能な文字 / 数字 / シンボル

文字 : A ~ Z, a ~ z

数字 : 0 ~ 9

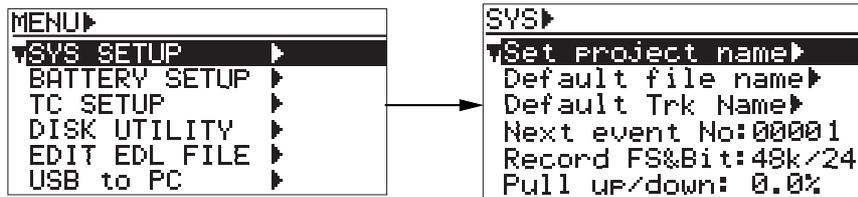
シンボル : !, #, \$, %, &, ' (, ) +, -, ., /, =, @, [, ], ^, \_ , space

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

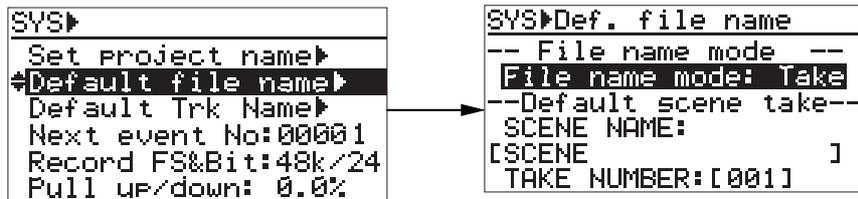
## デフォルト・ファイル・ネームの設定 ( Default file name )

本機で記録を開始したとき、自動的に作成されるオーディオ・ファイルのデフォルト・ファイル・ネームを設定します。ファイル・ネームは、日付のネーム ( 内蔵RTCのデータ ) SCENE NAME に TAKE NUMBER を付加したネーム、または Reel Number に File Number を付加したネームに設定できます。

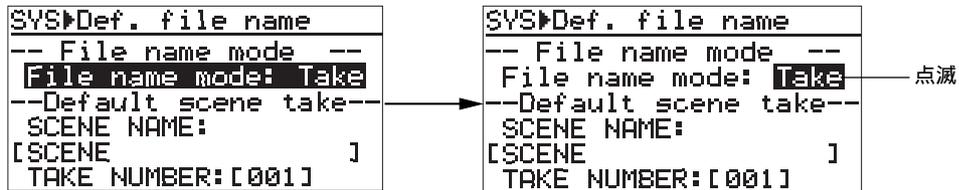
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Default file name” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。



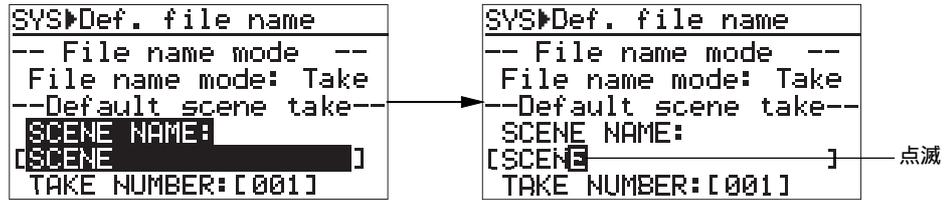
- 4) [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定項目が点滅し、File name mode の選択が可能になります ( 初期設定では “Take” が点滅 )。



- 5) [MENU] ダイアルで File name mode を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
“Take” に設定したときは、続けて画面下にある “SCENE NAME” と “TAKE NUMBER” を設定します。なお、“Date” または “Reel” に設定した場合でも、現在設定されている SCENE NAME と TAKE NUMBER は、メタ・データの SCENE データとして使用されます。

選択可能な File name mode	
Date、Take または Reel が選択可能 ( 初期設定 : Take )	
<b>Date</b>	内蔵リアルタイム・クロックのデータがファイル・ネームになります。 例 : B05h 05m 06s 10may 2004. wav..... など。
<b>Take</b>	この後 Default file name で設定する、SCENE NAME + TAKE NUMBER がファイル・ネームになります。記録を繰り返すごとに、TAKE NUMBER が加算されていきます。 例 : SCENE_001.wav、SCENE_002.wav..... など。
<b>Reel</b>	現在記録可能なドライブ ( または HDD のパーティション ) の Reel Number + 次に作成されるファイルの番号がファイル・ネームになります。 例 : S001_005.wav、S002_008.wav..... など。

- 6) [MENU] ダイアルで “ SCENE NAME ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 現在設定されている SCENE NAME の左端が点滅して、入力可能になります。



- 7) [MENU] ダイアルまたは 10 キーで名前を入力します。  
 カーソルは [◀◀ ▶▶] キーで移動し、[CLEAR] キーを押すとカーソル位置の文字がクリアできます。

**入力可能なシーン・ネーム**

アルファベットで始まる ASCII 文字で、最大 247 文字入力可能（ただし BWF においては 55 文字までが有効となります）。拡張子 “.wav ” は自動的に付加されるため、入力の必要はありません。初期設定のシーン・ネームは “ SCENE ” になっています。

- 8) シーン・ネームの入力後、[ENTER/YES] キーを押します。  
 SCENE NAME が確定され、続いて Take Number が入力可能になります。



- 9) [MENU] ダイアルまたは 10 キーで Take Number を入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

**入力可能な Take Number**

001 ~ 999 の範囲で入力可能（初期設定：001）

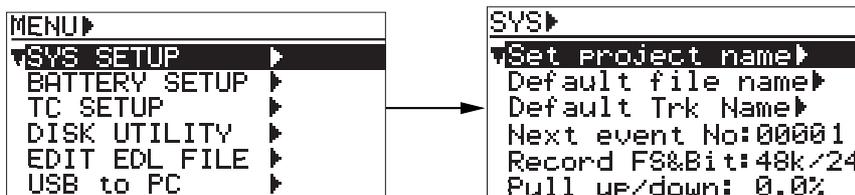
<注意> : Take Numer に 000 は設定できません。000 を入力して設定しても 001 に設定されます。

- 10) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

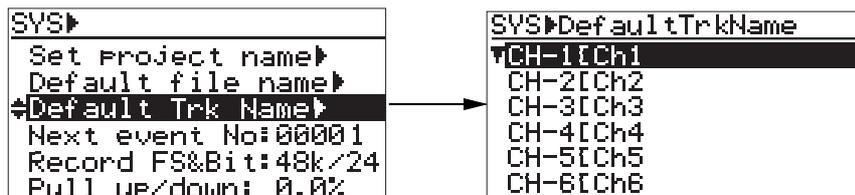
## デフォルト・トラック・ネームの設定 ( Default TrkName )

記録時、作成される BWF ファイルのデフォルト・トラックネームを設定します。  
 あらかじめ設定したトラック・ネームは、オーディオ・ファイルが作成されるたびに、自動的に付加されていきます。このデータは、BWF BEXT Chunk Description の “ fTRKn ” 情報として、各ファイルに記録されません。

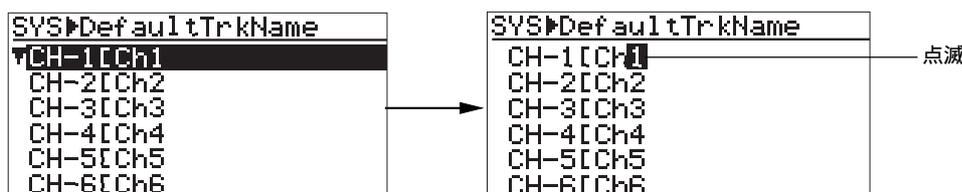
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “ SYS SETUP ” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
 SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “ Default TrkName ” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 現在設定されているトラック・ネームが表示されます。



- 4) [MENU]ダイアルでトラック番号を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 トラック・ネームの入力が可能になります。



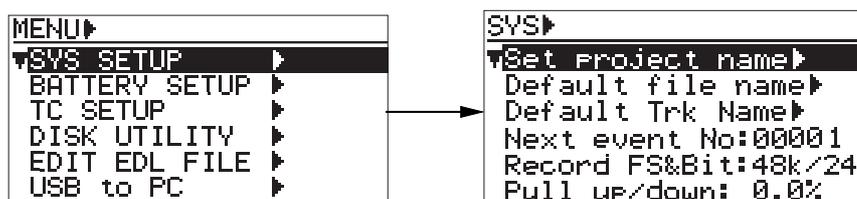
- 5) [MENU]ダイアルまたは10キーでトラック・ネームを入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。  
 カーソルは [←→] キーで移動し、[CLEAR] キーを押すとカーソル位置の文字がクリアできます。入力の詳細は、前述 137 ページを参照してください。
- 6) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

**<注意>** : デフォルト・トラックネームが付加されたファイルのトラックネームを変更するには、後述 “ DISK UTILITY ” メニューにある “ File Info. ” の Edit descriptor で行なえます ( 195 ページを参照 )。

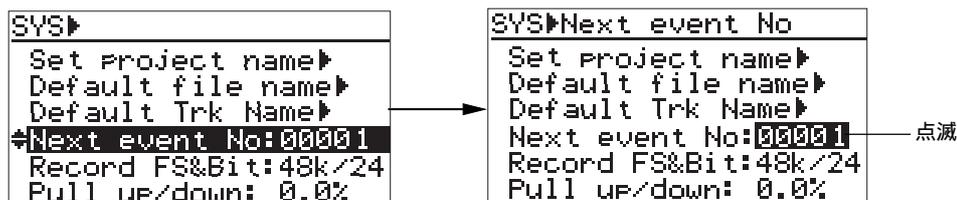
## イベント・ナンバーの設定 (Next event No)

オーディオ・ファイルの Description 情報にあるイベント・ナンバーを設定します。  
このデータは、BWF BEXT Chunk Description の “ fEVENT ” 情報として、各ファイルに記録されます。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “ SYS SETUP ” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “ Next event No ” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在設定されているイベント・ナンバーが点滅し、エディット可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルまたは 10 キーでイベント・ナンバーを入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

入力可能なイベント・ナンバー
00001 ~ 99999 の範囲で選択可能 (初期設定 : 00001)

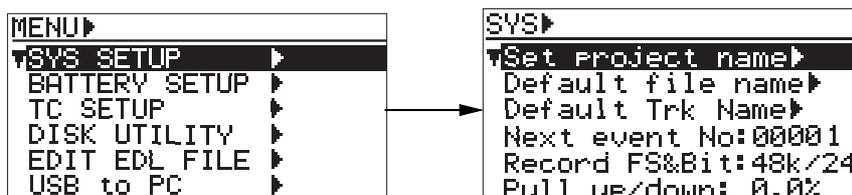
**<注意>** : 変更した値は、次回新たな記録を開始するオーディオ・ファイルから影響され、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルには影響ありません。なお、イベント・ナンバーが99999以上になった場合は、桁上がりして下5桁が出力されます。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

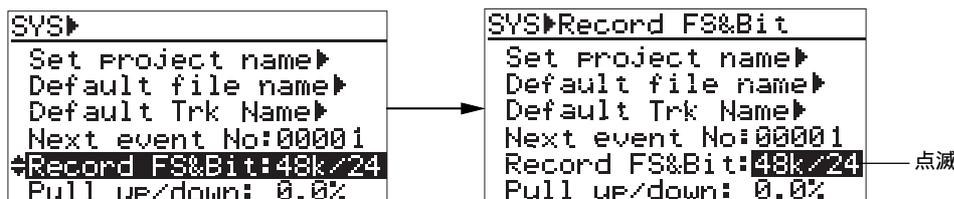
## 記録時のFS/BIT レート設定 (Record FS&Bit)

記録時のサンプリング周波数とBit レートを設定します。この設定は、Home 画面上におけるクイック・セットアップ・モードでも可能です。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Record FS&Bit” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在設定されている FS/BIT が点滅し、エディット可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。  
設定内容は、ディスプレイの “FS/BIT” 表示部に点灯します。

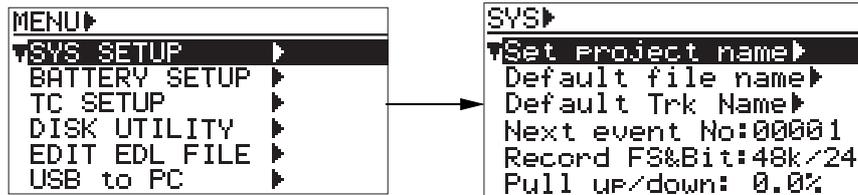
選択可能なFS/BIT
44k/16, 48k/16, 44k/24, 48k/24, 88k/24, 96k/24, 176/24, 192/24 (初期設定 : 48k/24)

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

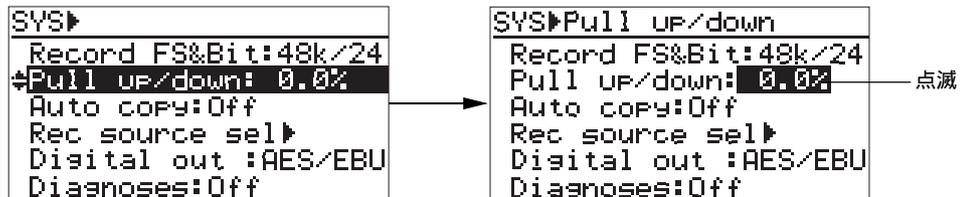
## クロック Pull Up/Down の設定 ( Pull up/down )

Internal Clock 動作時における、サンプリング・クロックの Pull Up/Down を設定します。この設定は、Home 画面上におけるクイック・セットアップ・モードでも可能です。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “ Pull up/down ” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅してエディット可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。  
設定内容は、ディスプレイの “ UP/DW ” 表示部に点灯します。

TC フレーム・レートの連動性を制限			
-0.1%、0.0%または +0.1 が選択可能 ( 初期設定 : 0.0% )			
0.0%	+ 0.1%	- 0.1%	
23.97 FPS	24 FPS	23.976 FPS	プルアップ時のみ TC フレームが変化します。
24 FPS	24 FPS	23.976 FPS	プルダウン時のみ TC フレームが変化します。
25 FPS	設定不可能	設定不可能	
29.97 FPS	30 FPS	29.97 FPS	プルアップ時のみ TC フレームが変化します。
30 FPS	30 FPS	29.97FPS	プルダウン時のみ TC フレームが変化します。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

<注意> : 上記表にあるように、25 FPSのプルアップ / プルダウンは設定できません。万一設定を行っても、ディスプレイの “ UP/DW ” 表示部には無効を示す “ +0.1% ” または “ -0.1% ” を表示します。

<注意> : プルアップ / プルダウン時の EXT CLOCK (Video、Frame pulse、Field pulse)の同期は、上記表にあるフレーム周期の Pulse に対してロックが可能です ( +/- 100PPM )

<注意> : システムのクロックが、外部入力または内部クロックに対してロックできないときは、ディスプレイ上に右記ポップアップ表示が現れます。この表示が現れるときは機器の故障が考えられますので、当社サービス部門へご相談ください。

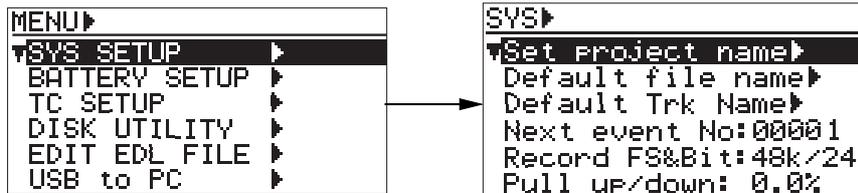
---CAUTION---

SYSTEM UNLOCKED!

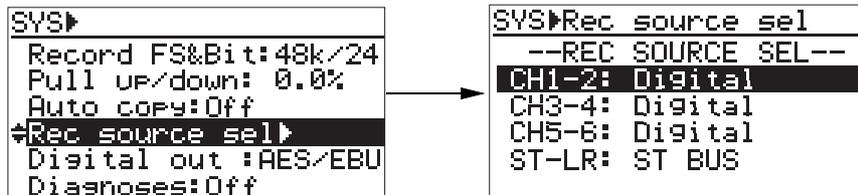
## 記録ソースの設定 (Rec source sel)

デジタル・オーディオ信号の記録時、デジタル・インを受け付ける入力チャンネルを設定します。  
 設定したチャンネルにデジタル信号が入力されロックすると、自動的にデジタル信号の記録が可能になります。  
 記録ソースは、2チャンネルごとに設定が可能です。

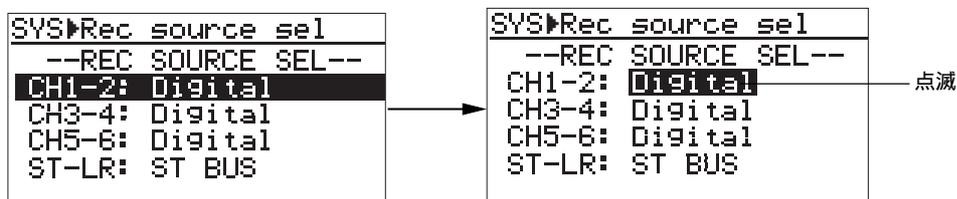
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
 SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Rec source sel” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 入力チャンネルを選択する表示に変わります。



- 4) [MENU] ダイアルで希望の入力チャンネルを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 現在の設定が点滅してエディット可能になります。



- 5) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な記録ソース	
CH1-2、CH3-4、CH5-6 : Digitalまたは Analog が選択可能 (初期設定 : 全て Digital)	
ST-LR : Digitalまたは ST BUS が選択可能 (初期設定 : ST BUS)	
CH1-2、CH3-4、CH5-6	
Digital	設定したチャンネルがデジタル・インを受け付け、チャンネルに対応したトラックへ記録できます。
Analog	デジタル・インを受け付けません。
ST-LR	
Digital	デジタル・イン7と8を受け付け、ダイレクトに ST BUS トラックへ記録できます。
ST BUS	CH1 ~ 6 をミックスして ST BUS トラックへ記録できます。

**<注意>** : ST-LR を “ Digital ” に設定したときは、CH1 ~ CH6 をミックスした信号を ST BUS トラックへ記録できません。

- 6) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

<注意> : デジタル入力時、記録ソースの設定状況はディスプレイの“INPUT”表示部に下記のように表示されます。デジタル信号のフォーマット (“AES/EBU” または “S/P DIF”) は、自動的に選択されます。なお、入力チャンネルがデジタル・インにロックしていないときは、設定に関わらずアナログ入力が優先になります。



<初期設定時>



< CH1-2, 3-4 を Digital に設定 >



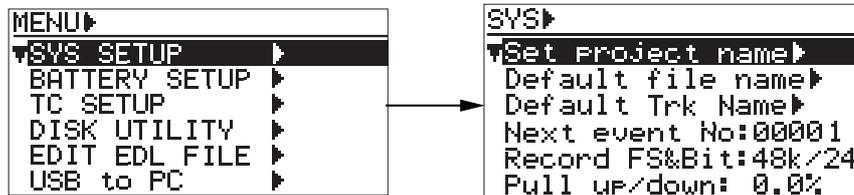
<全てを Digital に設定 >

CH1 ~ CH6で “Analog” に設定されているチャンネルは、アナログ入力が可能です。

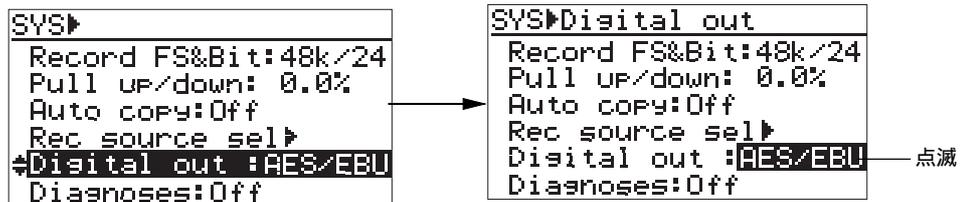
## デジタル出力信号のフォーマット設定 (Digital out)

[DIGITAL OUT] 端子から出力する、デジタル信号のフォーマット (AES/EBU / S/P DIF) を設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで “Digital out” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

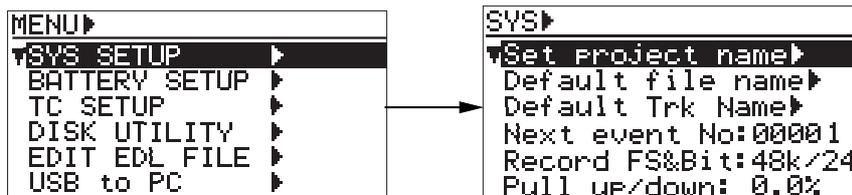
選択可能な出力フォーマット	
AES/EBU または S/P DIF が選択可能 (初期設定 : AES/EBU)	
AES/EBU	IEC 60958 Part 3 (AES/EBU)フォーマットのデジタル信号を出力します。
S/P DIF	IEC 60958 Part 2 (S/P DIF)フォーマットのデジタル信号を出力します。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

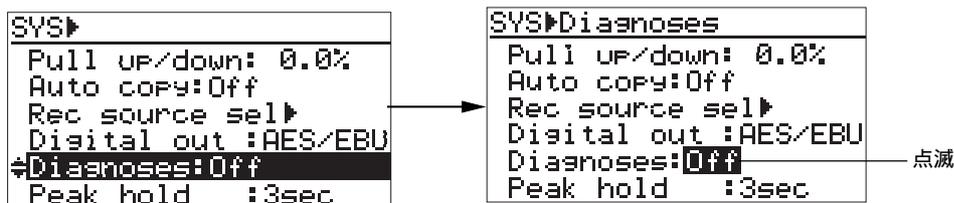
## Diagnoses の On/Off 設定 ( Diagnoses )

記録中に発生するエラーなどを、Diagnoses File として記録に残すか、残さないかを設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Diagnoses” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

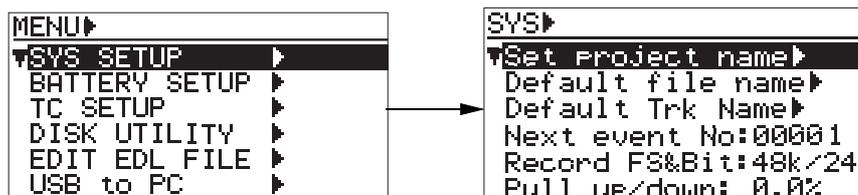
選択可能な項目	
On または Off が選択可能 ( 初期設定 : Off )	
On	記録中発生したエラーなどを、Diagnoses File として記録に残します。
Off	記録中エラーなどが発生しても、記録に残しません。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

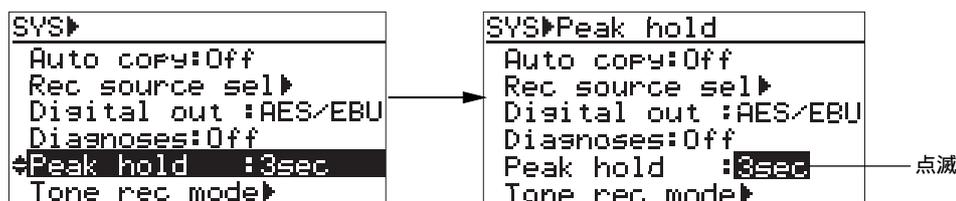
## ピーク・ホールド時間の設定 (Peak hold)

レベル・メータのピーク・ホールド時間を設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで “Peak hold” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な時間
0 ~ 9 秒 (1 秒ステップ) または “ ” (無限) が選択可能 (初期設定 : 3 秒)

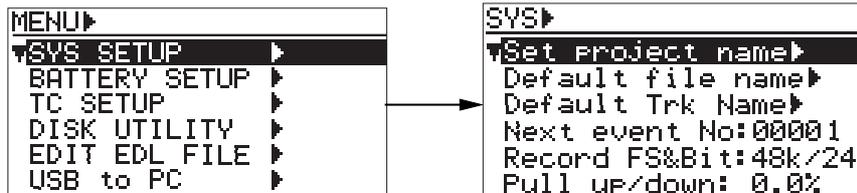
“ ” 設定時のピーク・ホールドは、[CLEAR] キーを押すとクリアできます。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

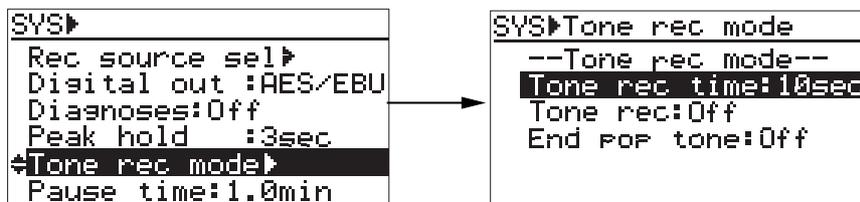
## スレート・トーン / ポップ・トーンの記録設定 (Tone rec mode)

記録時、ファイルの先頭に記録するスレート・トーンの記録時間 / 記録モード、および記録終了時におけるポップ・トーンの記録モードを設定します。本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブメニューを選択する画面に変わります。

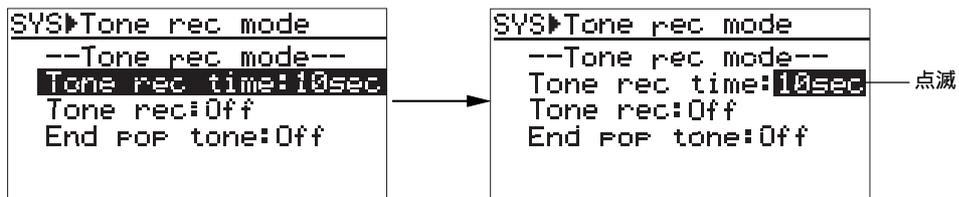


- 3) [MENU] ダイアルで “Tone rec mode” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



### Tone rec time の設定

“Tone rec time” が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押すと現在の設定が点滅し、選択可能になります。

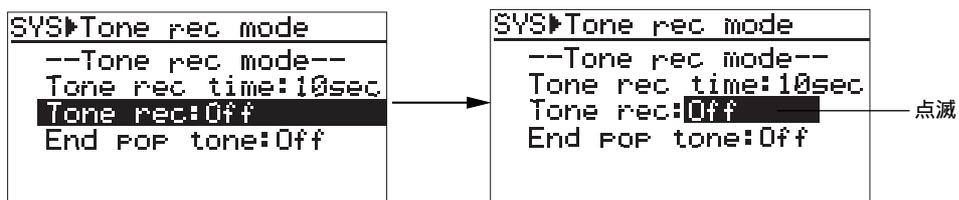


[MENU] ダイアルまたはUSBキーボードで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な時間
1 秒 ~ 30 秒の範囲を 1 秒ステップで選択可能 (初期設定 : 10 秒)

### Tone Rec の On/Off 設定

“Tone rec” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと現在の設定が点滅します。

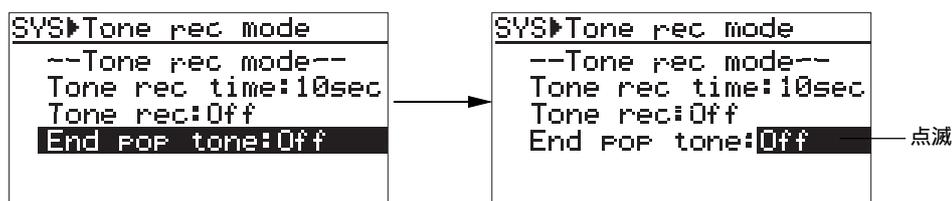


[MENU] ダイアルまたはUSBキーボードで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
Off、TONE または 4POP TONE が選択可能 (初期設定 : Off)	
Off	何も記録しません。
TONE	基準レベル 1kHz のスレート・トーンを、設定した時間だけ記録します。
4 POP TONE	基準レベル 1kHz のポップ・トーンを、0.5 秒発信 + 0.5 秒無音の行程を 4 回繰り返し替えて記録します。

#### End pop tone の On/Off 設定

“End pop tone” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと現在の設定が点滅します。



[MENU] ダイアルまたはUSBキーボードで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

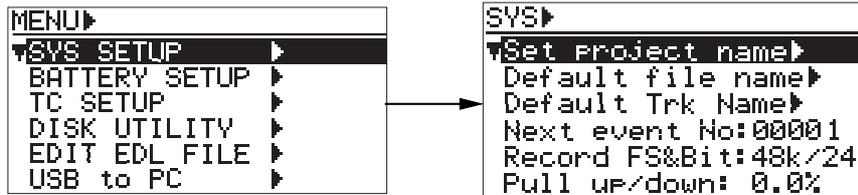
選択可能な項目	
On または Off が選択可能 (初期設定 : Off)	
On	記録終了時 1kHz のポップ・トーンを記録します。
Off	ポップ・トーンを記録しません (初期設定)。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

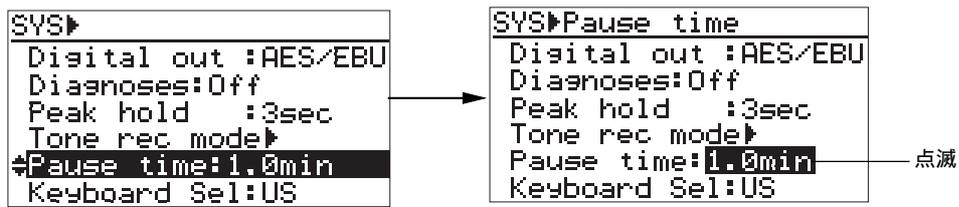
## ポーズ解除時間の設定 (Pause time)

ポーズの解除時間を設定します。本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Pause time” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

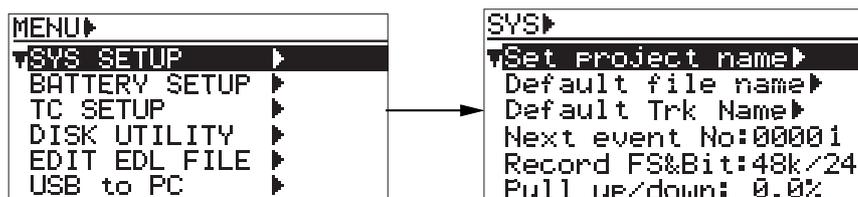
選択可能な時間
0.1分～9.9分の範囲（0.1分ステップ）または“ ”（無限）が選択可能（初期設定：1分）

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

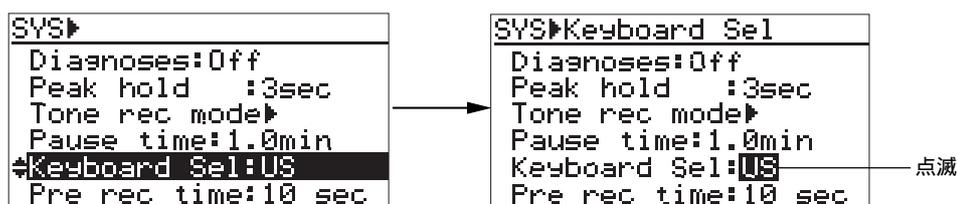
## USB キーボード・タイプの設定 (Keyboard sel)

本機左サイド・パネル部の [USB (KYBD)] ポートに接続する、USB キーボードのタイプを設定します。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで “Keyboard sel” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

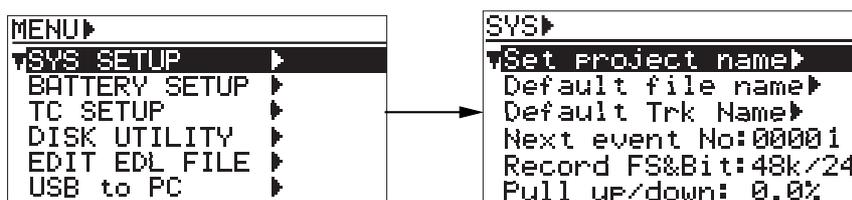
選択可能なタイプ	
US または JAPAN が選択可能 (初期設定 : US)	
US	US 仕様のキーボードが使用できます。
JAPAN	JAPAN 仕様のキーボードが使用できます。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

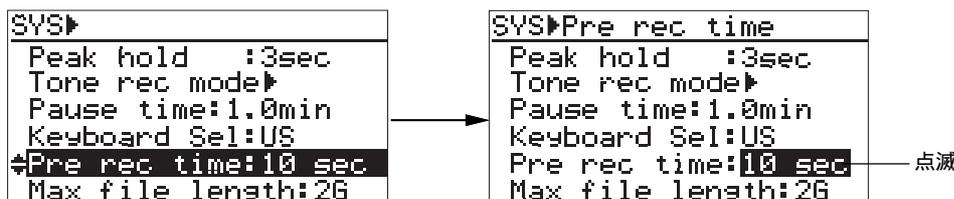
## プリ・レコーディング時間の設定 (Pre rec time)

本機のバッファに蓄えられる、オーディオ・データの時間を設定します。  
 本機の [PRE REC] モードを ON にして記録 (プリ・レコーディング) を開始すると、あらかじめバッファに蓄えられたオーディオ・データも含めて記録していきます。このプリ・レコーディング機能を使うことで、記録開始時に「記録もれ」などを防止することができます。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
 SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Pre rec time” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な時間
1 ~ 10 秒の範囲を 1 秒ステップで選択可能 (初期設定 : 10 秒)

**<注意>**: 記録時の FS を “ 88.2k ” または “ 96k ” に設定してプリ・レコーディングを実行するときは、自動的に Pre Rec Time は設定値の 1/2 に制限され、“ 176.4k ” または “ 192k ” に設定したときは 1/4 に制限されます。例えば、FS が “ 88.2k ” で Pre Rec Time を 10 秒に設定していた場合は 5 秒のオーディオ・データしか蓄えられず、“ 192k ” で Pre Rec Time を 10 秒に設定していた場合は 2.5 秒のオーディオ・データしか蓄えられません。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

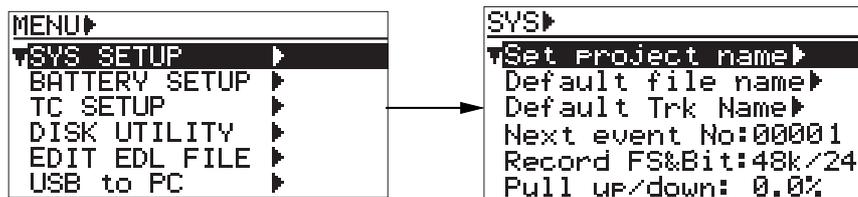
## ファイルの最大記録容量設定 ( Max file length )

1 ファイルに記録可能な最大容量を設定します。

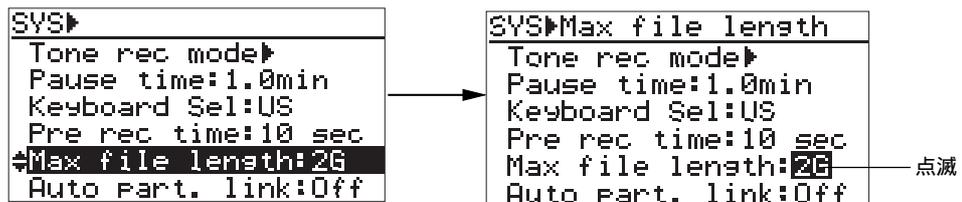
この設定は、特に本機で記録したオーディオ・ファイルのデータを PC へ取り込む際に重要です。

つまり、お使いになる PC によって、取り込み可能な記録容量に制限があるため、あらかじめ PC に合わせた最大記録容量の設定が必要です。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Max file length” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な容量
2GB または 4GB が選択可能 ( 初期設定 : 2GB )

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

**< 注意 >** : 記録中表示されるファイルの記録可能な領域 ( 時間 ) は、“Max file length” の設定値を基準にして算出されています。例えば、ディスク全体の記録可能な領域が 4GB 以上ある状態で “Max file length” の設定値が 4GB に設定されているときは、ファイルのリメインは 4GB を基準に算出して表示します。ただし、ディスク全体の残容量が設定値より小さい場合は、ディスクの残容量を基準として算出します。つまり、“Max file length” の設定値が 4GB であっても、ディスクの残容量が 2GB しかない場合は、2GB を基準に算出してディスプレイに表示します。

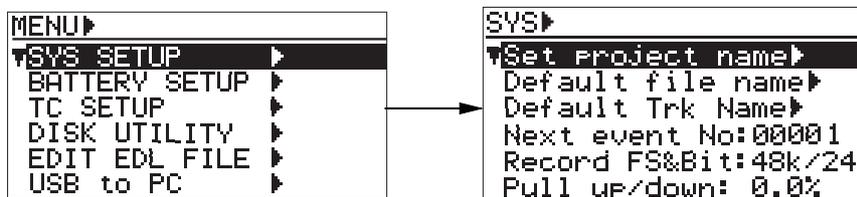
**< 注意 >** : “Max file length” で設定されている最大記録容量まで記録が達すると、自動的に次のファイルを作成して記録を続けます。また、内蔵 HDD のパーティションへの記録時、次ページ記載の “Auto part. link” が “On” に設定されていると、パーティションのリメインが無くなるまで記録すると自動的につぎのパーティションへ記録を続けます。詳細は 157 ページを参照してください。

## 連続記録機能の On/Off 設定 ( Auto part. link )

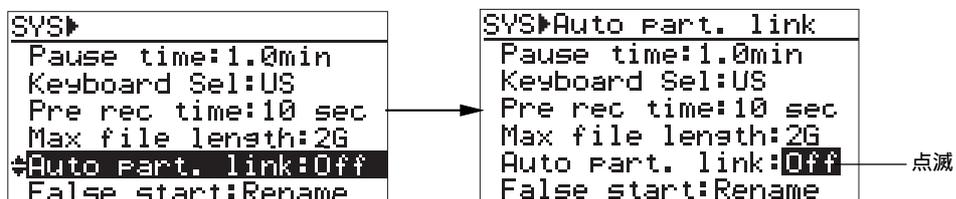
内蔵HDDのパーティションを超えた連続記録を可能にするかを設定します。あらかじめこのメニューを“On”(初期設定はOff)に設定しておく、パーティションの最大記録容量(約4.5GB)に達しても記録を停止することなく、次の空きパーティションへ新たなファイルを作成して連続記録することができます。最大記録容量を超えるような長時間の記録でも、安心して行うことができます。

**<注意>**: 連続記録は、内蔵HDDのパーティションへ記録するときのみ有効です。DVD-RAMディスクへの記録時は機能しません。また、オート・コピーおよびデュアル・ドライブ・レコーディング実行時も機能しませんので、ご注意ください。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Auto part. link” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
OnまたはOffが選択可能(初期設定: Off)	
Off	パーティションの記録領域が無くなると同時に、記録を終了して停止します。
On	パーティションの記録領域が無くなっても停止することなく、連続して次のパーティションへ記録を継続します。

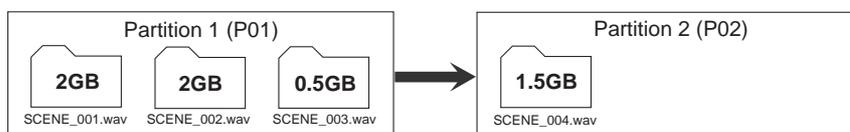
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

**<注意>**: 連続記録は、現在記録中のパーティションに連続した次のパーティションで、かつ記録可能な領域が十分確保されていることが必要です。したがって、連続記録を可能にするためには、次のパーティションには何も記録しておかないことをお勧めします。なお、このメニューを“On”に設定した場合の連続記録は、同じく“SYS SETUP”メニューにある“Max file length”(ファイルの最大記録容量)の設定によって、下記例のように記録されていきます。

下記例は、6GBあるオーディオ・データをパーティション1(P01)に記録することを前提としています。

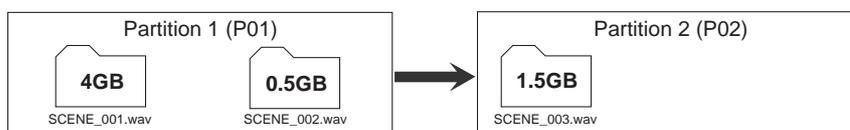
**“Max file length”の設定が“2GB”の場合：**

パーティション1には、記録領域が無くなるまで“2GB”のファイルが2つと、“0.5GB”のファイルが記録され、残り“1.5GB”のデータが次のパーティション2(P02)へ記録されて終了します(作成されるオーディオ・ファイルは連続したファイル・ネームになります)。



**“Max file length”の設定が“4GB”の場合：**

パーティション1には、記録領域が無くなるまで“4GB”のファイルと“0.5GB”のファイルが記録され、残り“1.5GB”のデータが次のパーティション2(P02)へ記録されて終了します(作成されるオーディオ・ファイルは連続したファイル・ネームになります)。

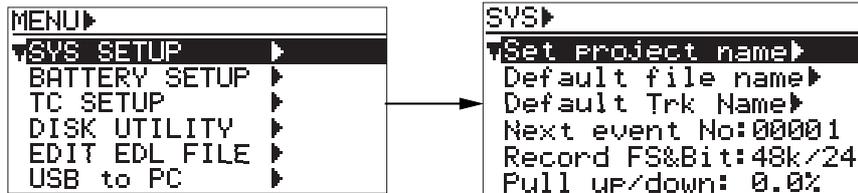


上記例の場合、パーティション2(P02)にも記録しきれない場合は、同じ要領でパーティション3(P03)へ記録されていきます。ただし、Auto new partがOffまたは次のパーティションに記録可能な領域が無い場合は、連続記録することなく記録は終了します。

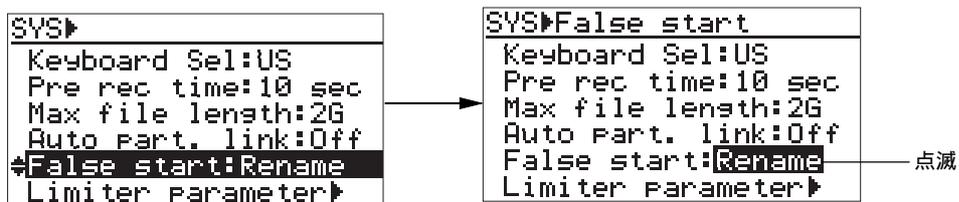
## False start 機能の設定 ( False start )

記録終了後False startを実行したとき、記録に失敗したオーディオ・ファイルをディスク(またはパーティション)から完全に消去するか、保存するかを設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “ False start ” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
Rename または Delete が選択可能 ( 初期設定 : Rename )	
Rename	<p>False startを実行するとTakeナンバーは1つ前の番号に戻り、取り消したファイルのファイル・名前頭に “ ~nn ” が自動的に付加されて保存されます( ~nn は、~ から~99 の最大100個まで保存されます)。例として、繰り返しFalse startを実行すると、保存されるファイルのファイル・名前は、以下のようになります。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <p>1回目の False start : Scene1_001.wav   -&gt; ~Scene1_001.wav</p> <p>2回目の False start : Scene1_001.wav   -&gt; ~1Scene1_001.wav</p> <p>100回目の False start : Scene1_001.wav   -&gt; ~99cene1_001.wav</p> <p>*保存されたファイルは、[FILE SEL] キーを押してファイル・セレクト表示で確認できます。</p>
Delete	<p>False start 実行後、失敗したファイルを完全に消去し、ディスク(またはパーティション)の記録領域を解放します。Takeナンバーは1つ前の番号に戻ります。</p>

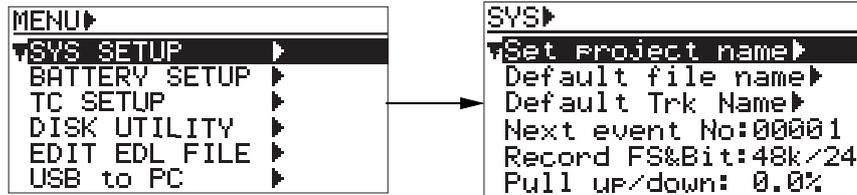
**<注意>**：“Rename” に設定されているときは、False start を繰り返すごとにディスク(またはパーティション)の記録可能な領域が減少します。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

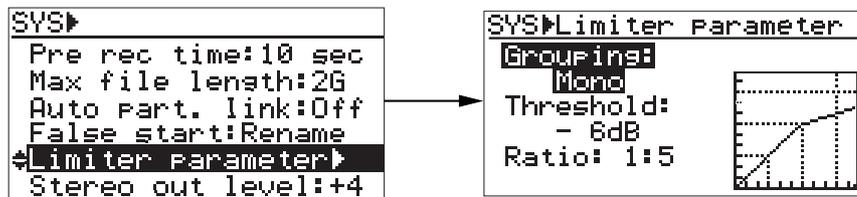
## リミッターのパラメータ設定 (Limiter parameter)

内蔵リミッタのパラメータを設定します。設定内容は、本機 Flash ROM に保存されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。

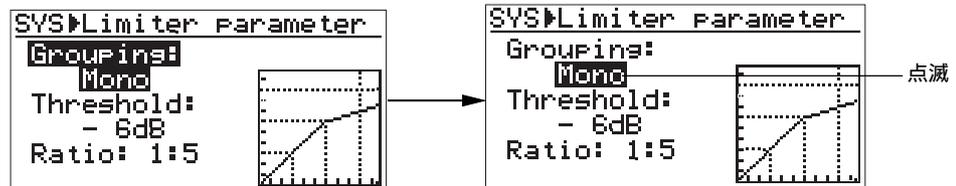


- 3) [MENU] ダイアルで “Limiter parameter” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
設定項目を選択する画面に変わります。



### グルーピングの設定時

“Grouping:” を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して設定可能になります。



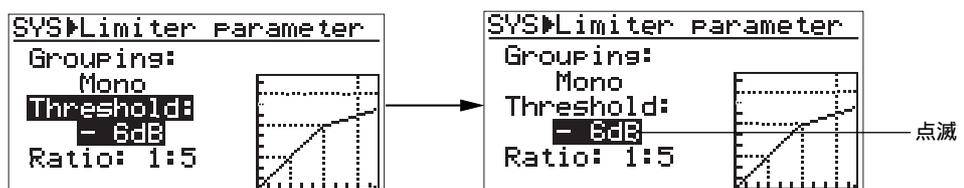
[MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能なグルーピング
Mono または 1-6 が選択可能 (初期設定 : Mono)

\* ST BUS のリミッターは、L / R で LINK 固定になっています。

### スレッシュホールド・レベルの設定時

“Threshold:” を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して設定可能になります。

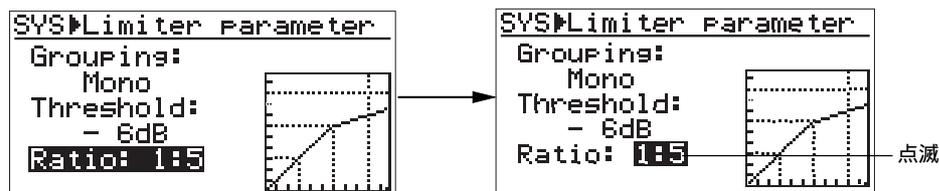


[MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能なレベル値
-12dBFSまたは -6dBFS が選択可能 (初期設定 : -6dBFS)

#### レシオの設定時

“Ratio:” を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して設定可能になります。



[MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

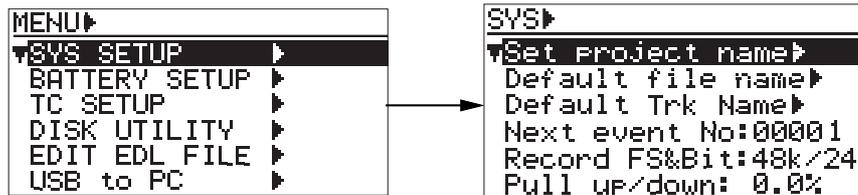
選択可能なレシオ値
1:3 または 1:5 が選択可能 (初期設定 : 1:5)

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

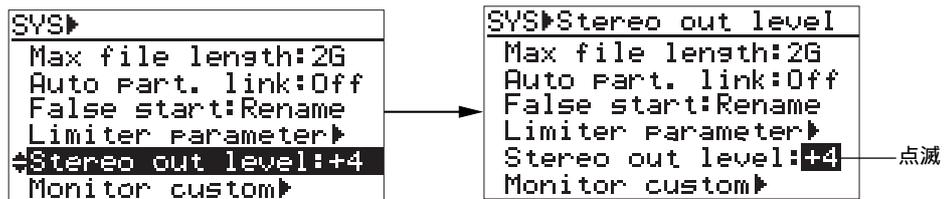
## ST BUS OUT の基準出力レベル設定 (Stereo out level)

本機左サイド・パネル部に搭載されている [ST BUS OUT] の、基準出力レベルを設定します。  
 [ST BUS OUT] 端子に接続する外部機器の入力に合わせて、最適な出力レベルに設定してご使用いただけます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
 SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで “Stereo out level” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 現在の設定値が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な出力レベル
+4dBu、-10dBu または -60dBu が選択可能 (初期設定 : +4dBu)

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

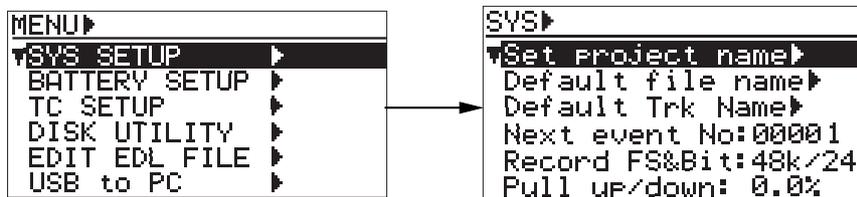
## モニター信号のアサイン (Monitor custom)

入力チャンネルおよび再生トラックの音声を、本機のモニター切り換えスイッチの“C1～C4”ポジション(下記表のグレー部分)へ任意にアサインします。

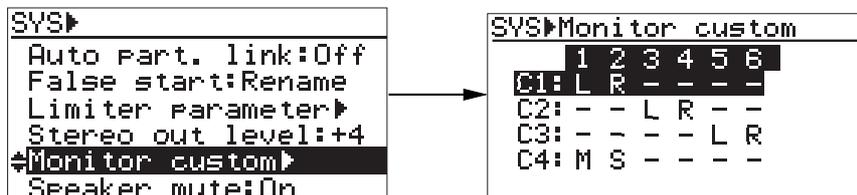
	SOLO		ST		MONO	
	INPUT	再生	INPUT	再生	INPUT	再生
1 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">1/3/5+2/4/6</span>	CH1		L: CH1+3+5 R: CH2+4+6		CH1+2+3+4+5+6	
2 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">ST BUS</span>	CH2		L: BUS L R: BUS R		BUS L+R	
3 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">READY TRK</span>	CH3		Ready Track	ファイル中に記録されている Ready Track	Ready Track	ファイル中に記録されている Ready Track
4 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C1</span>	CH4		CUSTOM 1		CUSTOM 1	
5 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C2</span>	CH5		CUSTOM 2		CUSTOM 2	
6 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C3</span>	CH6		CUSTOM 3		CUSTOM 3	
L <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">C4</span>	BUS L		CUSTOM 4		CUSTOM 4	
R <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">MS</span>	BUS R		L: MS L R: MS R		MS L	

(\*) MS L : (M+S) MS R : (M-S)

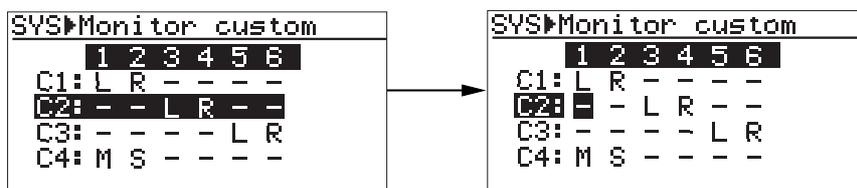
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUPのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Monitor custom” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
アサインするポジション (C1～C4) が選択可能になります。

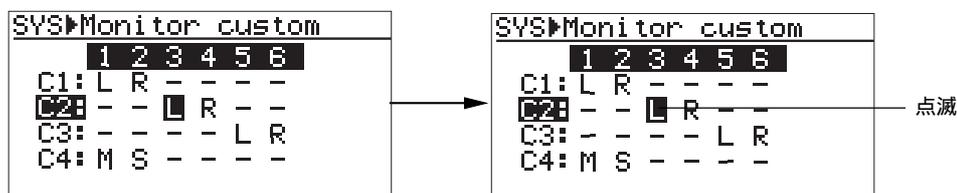


- 4) [MENU] ダイアルで希望のポジション (C1～C4) を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
選択したポジションにアサインする入力チャンネル/再生トラックが選択可能になります。



- 5) [MENU] ダイヤルで希望の入力チャンネル / 再生トラックを選択して [ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定が点滅して任意に設定が可能になります。



- 6) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
“- ”、“L”、“R”、“M”または“S”が選択可能	
-	何も出力されません。
L	ヘッドホンのL側に出力します。
R	ヘッドホンのR側に出力します。
M	MSマイク使用時のM側のモニターが可能です (CH1、3、5に設定可能)。
S	MSマイク使用時のS側のモニターが可能です (CH2、4、6に設定可能)。

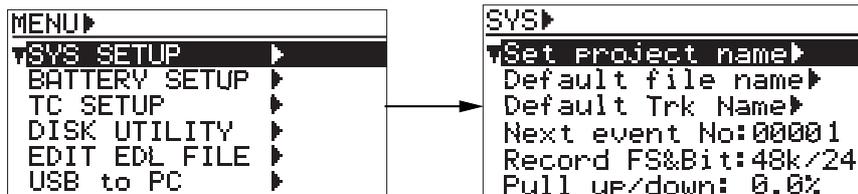
**<注意>**: MまたはSの設定は、1-2、3-4、5-6ペアで自動的に設定されます。  
 例えば、チャンネル3にMを選択して設定した場合、自動的にチャンネル4がSに設定されます。  
 同様に、チャンネル2にSを選択して設定すると、自動的に1チャンネルはMに設定されます。

- 7) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

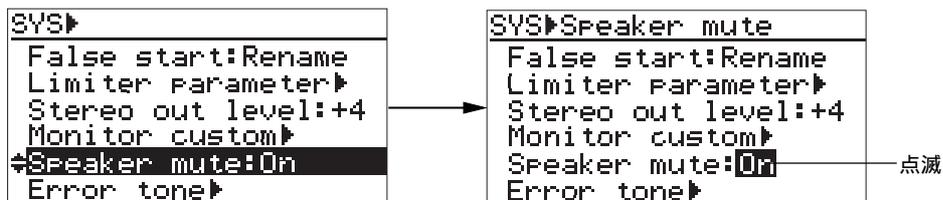
## モニター・スピーカのミュート On/Off 設定 ( Speaker mute )

再生時以外、内蔵モニター・スピーカをミュートするかどうかを設定します。設定内容は、本機Flash ROMに保存されます。

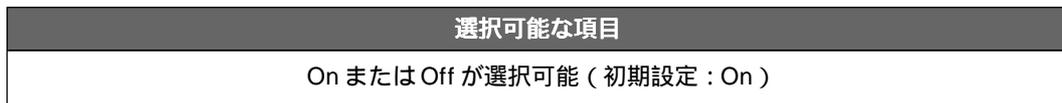
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Speaker mute” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。



- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

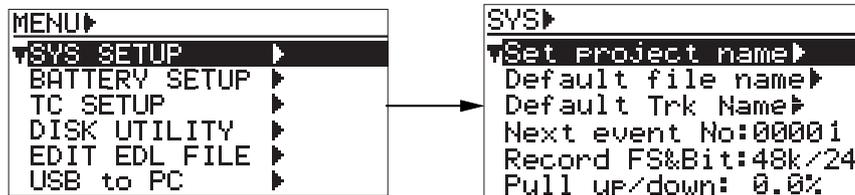
## エラー・トーン出力の設定 (Error tone)

各種エラー・トーンを出力するための On/Off、または時間を設定します。

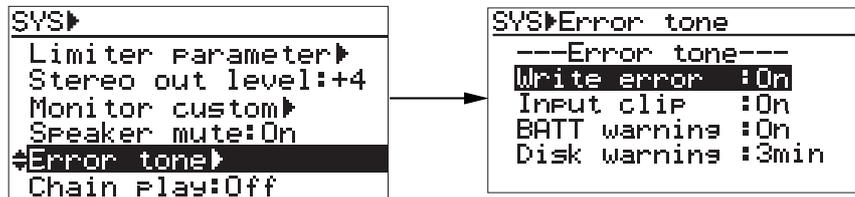
エラー・トーンは本機がつぎの状態になったとき出力させることができ、設定は他の項目と共通、ROM に保存されます。

1. 記録中に書き込みエラーが発生したとき
2. 記録中にアナログ入力信号がクリップ (または ST BUS の記録 PCM がピークに達したとき)
3. バッテリーの残量が設定電圧に達したとき
4. 記録中、ディスク (またはパーティション) の残量が設定時間未満になったとき

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。

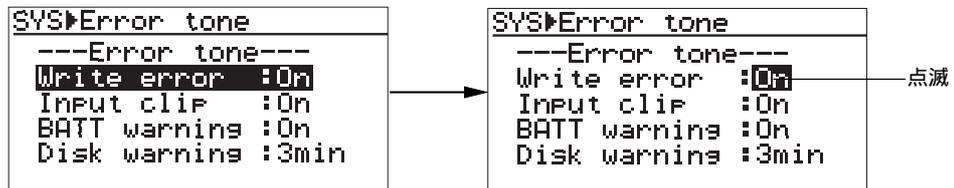


- 3) [MENU] ダイヤルで “Error tone” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
設定項目を選択する画面に変わります。



### Write error の設定時

“Write error” が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して任意に設定可能になります。

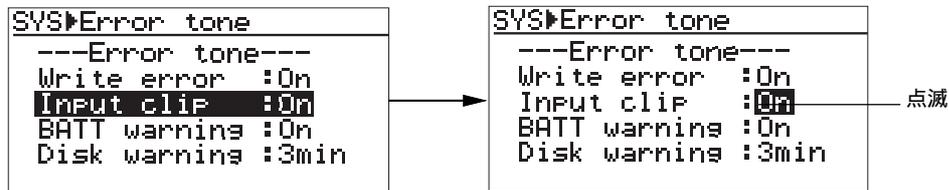


[MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目
On または Off が選択可能 (初期設定 : On)
“On” 設定時、記録中の書き込みエラーが発生すると右記 _____ パターンの警告音を出力します。

**Input clip の設定時**

“Input clip” を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して任意に設定可能になります。

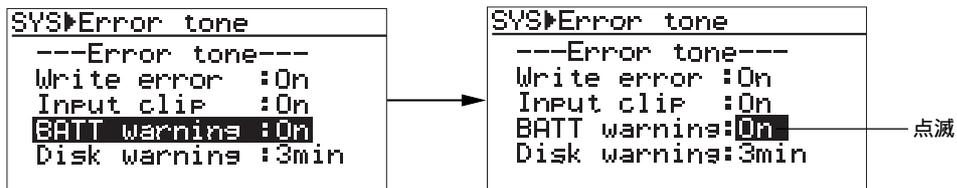


[MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
On または Off が選択可能 (初期設定 : On)	
“On” 設定時、記録中に入力がクリップしたり、ピークに達すると、右記パターンの警告音を出力します。	— — — — —

**BATT warning の設定時**

“BATT warning” を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して任意に設定可能になります。



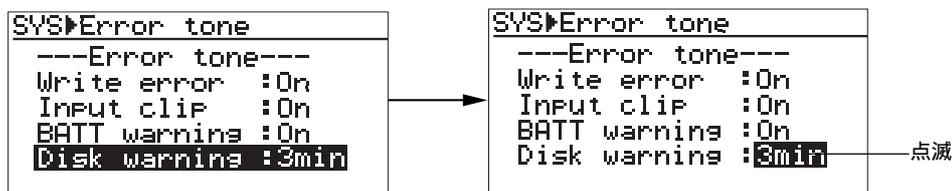
[MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
On または Off が選択可能 (初期設定 : On)	
“On” 設定時、BATTERY SETUPメニューで設定されているバッテリー使用時のワーニング電圧を下回ったとき、右記パターンの警告音を出力します。 なお、記録中に上記警告音が出力された場合、警告音発生後1分経過すると、自動的に記録を停止します。	— — — — —

**<注意>**: バッテリー使用時のワーニング電圧設定については、164 ページの “ BATTERY SETUP ” メニューにある “ BATT warning ” を参照してください。

**Disk warning の設定時**

“Disk warning” を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して任意に設定可能になります。



[MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

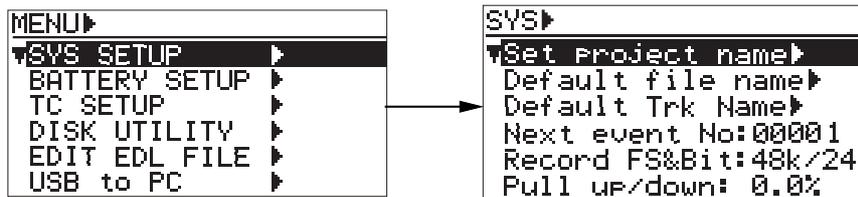
選択可能な項目	
Off または 1 分 ~ 9 分の範囲を 1 分単位で設定可能 (初期設定 : 3 分)	
ディスク (またはパーティション) の記録可能な残量が設定値未満に達すると、右記パターンの警告音を出力します。	— — — — —

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

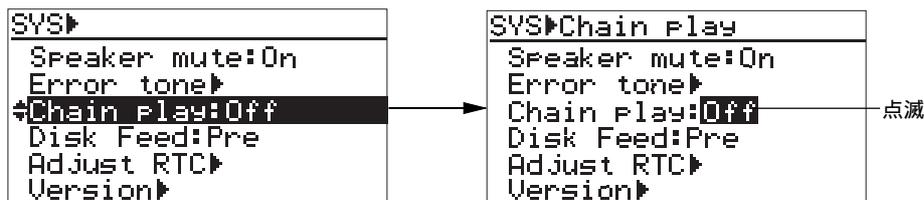
## チェーンプレイ・モードの設定 (Chain play)

オーディオ・ファイルの再生終了後、本機にどのような動作をさせるか設定します。  
 初期設定の状態では、再生が終了したポイントで停止するようになっていますが、つぎに再生するファイルの先頭でポーズにしたり、ディスク(またはパーティション)に記録されている全てのオーディオ・ファイルを、ファイル・ナンバー順に連続再生させることが可能になります。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
 SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Chain play” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
 現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルでモードを選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

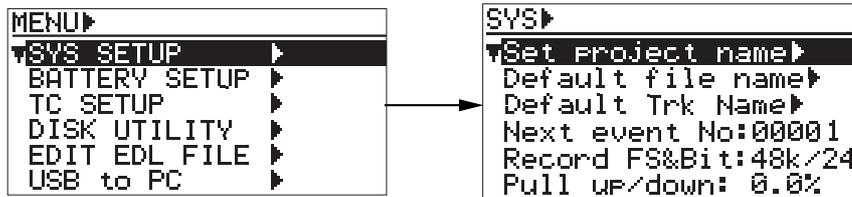
選択可能な項目	
Off、PauseまたはAutoPlyが選択可能(初期設定: Off)	
Off	1つのオーディオ・ファイルの再生が終了すると、停止します。
Pause	1つのオーディオ・ファイルの再生が終了すると停止し、つぎのファイルが存在する場合はつぎのファイルの先頭でポーズになります。
AutoPly	現在立ち上がっているオーディオ・ファイルを先頭に、ファイル・ナンバー順に連続再生します。最終ファイルの再生が終了すると停止します。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

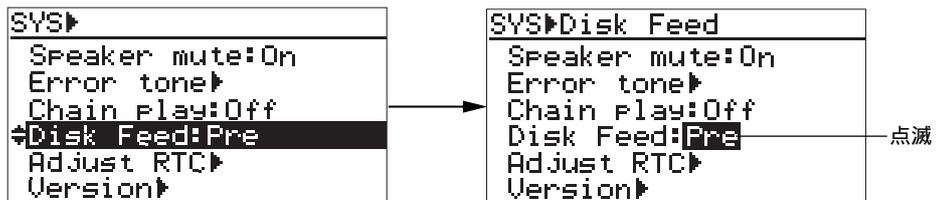
## プリ・フェーダー / ポスト・フェーダーの設定 (Disk Feed)

トラック1～6へ記録する際、記録する信号をプリ・フェーダーにするかポスト・フェーダーにするかを設定します。初期設定はプリ・フェーダーになっており、[SEND LEVEL] つまみの影響を受けない信号が記録できるようになっています。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



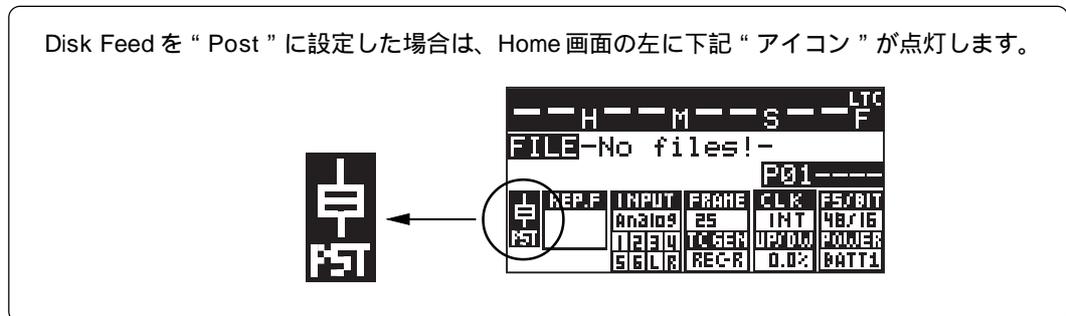
- 3) [MENU] ダイアルで “Disk Feed” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルでモードを選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目	
Pre または Post が選択可能 (初期設定 : Pre)	
Pre	[SEND LEVEL] つまみの影響を受けない信号が記録されます。
Post	[SEND LEVEL] つまみで調整された信号が記録されます。

Disk Feed を “ Post ” に設定した場合は、Home 画面の左に下記 “アイコン” が点灯します。

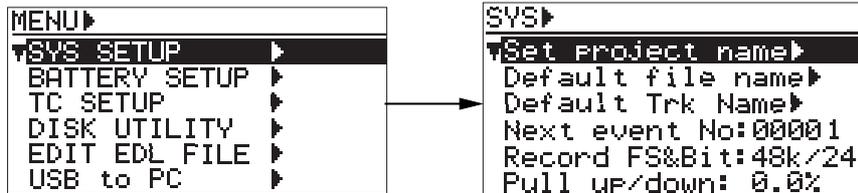


- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

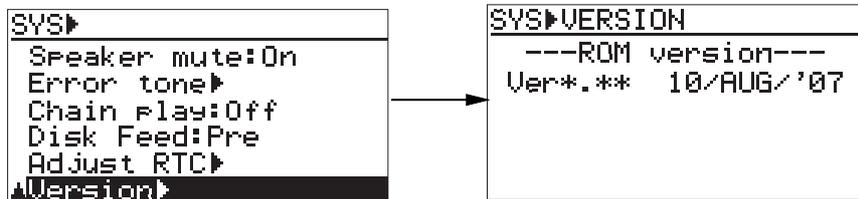
## システム・バージョンの確認 (Version)

本機のシステム・バージョンを確認します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押します。
- 2) “SYS SETUP”が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。  
SYSTEM SETUP のサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Version” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在のシステム・バージョンが表示されます。



- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

# BATTERY SETUP メニュー

“ BATTERY SETUP ”メニューでは、バッテリーの残量時間を警告するための設定や、バッテリーの使用優先順位を設定、およびバッテリーの各種ステータスを確認するための、下記サブ・メニューが搭載されています。

メニュー項目	機能の詳細
BATT. warning	バッテリー使用時の、ワーニング電圧を設定します。
DC-IN warning	DC-IN 使用時の、ワーニング電圧を設定します。
Power priority	電源（DC-IN またはバッテリー）の消費優先順位を設定します。
Active battery	複数バッテリー使用時の、消費優先順位を設定します。
BATT. Remain	BATT. warning の設定値に達するまでの時間を表示します。
BATT. Status	BMS 機能の付いたバッテリーのデータを読み込み、各種情報を表示します。

\* BMS : Battery Management Systemの略で、バッテリーの容量・電圧・消費電流などの情報をデータとしてバッテリーが記憶しており、その情報データを本機で利用することで、バッテリーの詳細な管理が可能になります。

## バッテリーのワーニング電圧設定 ( BATT. warning )

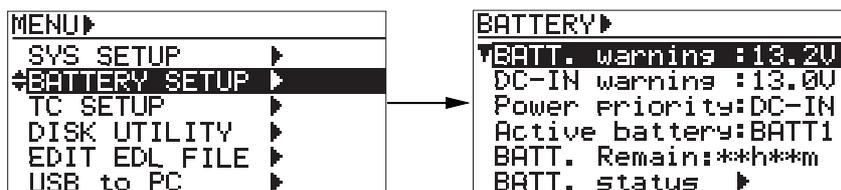
バッテリー使用時の、ワーニング電圧を設定します。

バッテリーの電圧がワーニング電圧に達した場合、ヘッドホンで警告音がモニターできます。

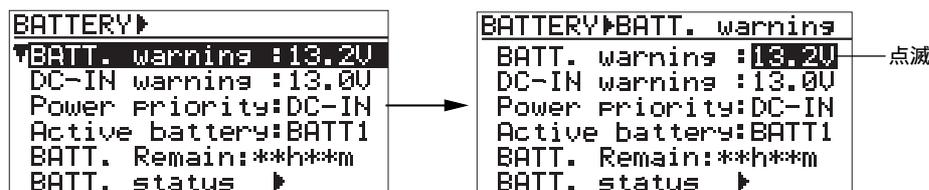
警告音は、MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Error tone”の“BATT warning”が“On”に設定されていることが必要です（初期設定はOnになっています。詳細は165ページを参照してください）。

また、ワーニング電圧に達するまでの残量は、この後178ページ記載の“BATT. Remain”で確認できます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“BATTERY SETUP”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
BATTERY SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“BATT. warning”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在設定されているワーニング電圧の値が点滅し、使用するバッテリーによって以下の電圧値が選択できます。



BMS 機能付きバッテリー使用時の、選択可能なワーニング電圧
12.0V、12.3V、12.6V、12.9V、13.2V、13.5V、13.8V (初期値 : 13.2V) : 12.9 以上を推奨
BMS 機能無しバッテリー使用時の、選択可能なワーニング電圧
10.5V、11.0V、11.5V、12.0V、12.3V、12.6V、12.9V、13.2V、13.8V (初期値 : 13.2V)
使用するバッテリー・タイプによって、下記電圧を目安に設定することをお勧めします。
NiCad バッテリー使用時 : 10.5V
Litium Ion バッテリー使用時 : 12.9V 以上

- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

<注意> : BMS 機能付きのバッテリー使用時では、設定電圧になるまでの残時間が1分未満になった時点でWarningをディスプレイに表示し、更に1分経過した後自動的に記録を停止します。また、BMS 機能無しバッテリーの使用時では、設定電圧になった時点でWarningをディスプレイに表示し、更に1分経過した後自動的に記録を停止します。なお、消費中のバッテリー以外に電源が接続されている場合は、Warningを表示した時点でポップアップ表示して自動的に次の電源に切り替り、記録中であれば記録を継続します。

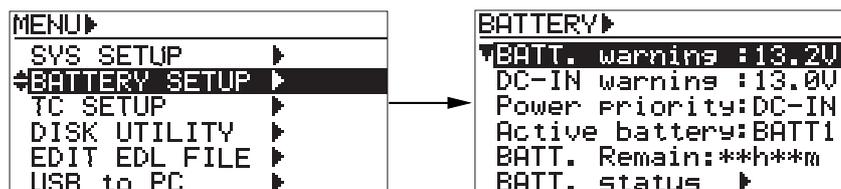
なお、本機でLitium ionを使用した場合、12.9V以下になると急激に電圧が低下していくため、ワーニング電圧を12.9V付近の値に設定することをお勧めします。

## DC-IN のワーニング電圧設定 ( DC-IN warning )

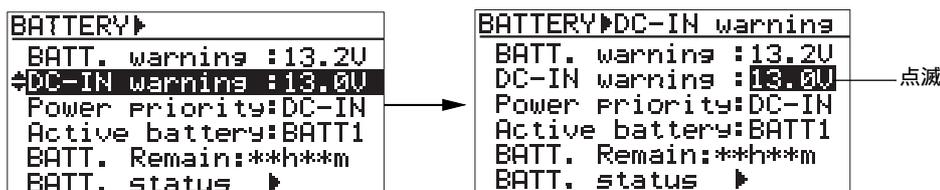
DC-IN に外部バッテリーなどを使用する際に、ワーニング電圧を設定します。

DC-IN の電圧がワーニング電圧に達した場合、ヘッドホンで警告音がモニターできます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで “ BATTERY SETUP ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
BATTERY SETUP メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “ DC-IN warning ” メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在設定されているワーニング電圧の値が点滅し、任意に設定が可能になります。初期設定では “ 13.0 ” が点滅します。



### 選択可能なワーニング電圧

10.5 ~ 13.5V の範囲を 0.5V ステップで選択 ( 初期設定 : 13.0V )

DC-IN に使用する外部バッテリーによって、下記電圧を目安に設定することをお勧めします。

NiCad バッテリー使用時 : 10.5V 以上

Lithium Ion バッテリー使用時 : 12.5 ~ 13.0V 以上

- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

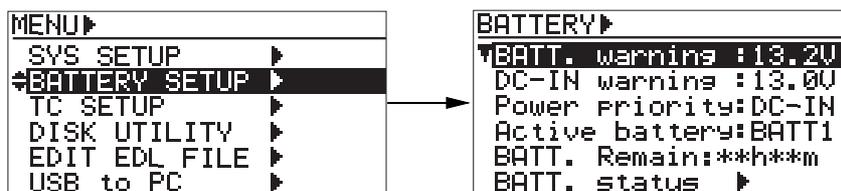
**< 注意 >** : DC-IN から電源を供給 ( POWER PRIORITY: DC-IN ) して記録中、設定電圧を下回るとディスプレイに Warning を表示し、更に 1 分経過した後自動的に記録を停止します。ただし、DC-IN 以外にバッテリーが搭載され “ POWER priority ” が “ DC-IN ” に設定されていれば、Warning を表示した時点で自動的にバッテリーへ切り替り、記録を継続することができます。

## 電源の消費優先順位を設定 ( Power priority )

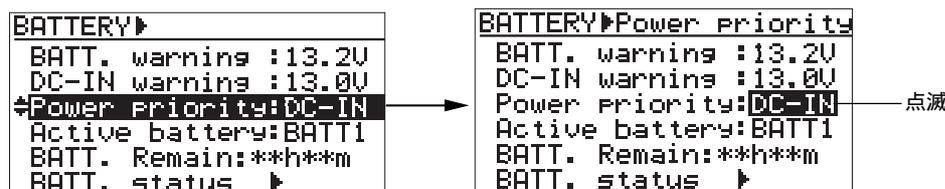
DC-IN およびバッテリーの双方を接続時、優先して使用したい電源を設定します。

つまり、使用する環境に合わせてDC-INを優先したり、またはバッテリーを優先して使用することができます。例えば、常にDC-INで本機を駆動し、バッテリーは停電時などのバックアップというような運用が可能です。設定の利用方法については176～177ページ記載の「バッテリーの運用例」を参照してください。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“BATTERY SETUP”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
BATTERY SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Power priority”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して任意に設定が可能になります ( 初期設定では“DC-IN”が点滅 )



### 選択可能な優先順位

“DC-IN”または“BATT.”が選択可能 ( 初期設定 : DC-IN )

**<注意>** : DC-INまたはバッテリーのいずれかのみが接続されている状態では、設定に関係なく現在接続されている電源が優先されます。

**<注意>** : “Power priority”を“DC-IN”に設定した場合は、“DC-IN warning”で設定されているワーニング電圧に達したときやDC-INが外れたときなど、自動的にバッテリーへ切り替ります。

**<注意>** : “Power priority”を“BATT.”に設定した場合は、“BATT. warning”で設定されているワーニング電圧に達したとき、もう一方のバッテリーに自動的に切り替ります。バッテリーが搭載されていない場合は、DC-INへ切り替ります。

なお、バッテリーからDC-INに切り替るとバッテリーの負荷が軽くなり、一時的にバッテリーの電圧が復帰しますが、再度バッテリーに切り替ることはありません。ただし、フルに充電されたバッテリーに交換した時点で、自動的にDC-INからバッテリーに切り替ります。

- 4) [MENU] ダイアルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## バッテリーの消費順を設定 (Active battery)

BATT1 / BATT2 双方のバッテリーを搭載時、先に消費するバッテリーを設定します。設定の利用方法については176～177ページ記載の「バッテリーの運用例」を参照してください。

設定内容は、ディスプレイの“POWER”表示部に反映します。なお、“Active BATT”の設定はクイック・セットアップ・モードでも可能です(77ページ参照)。

**<注意>** : 先に消費しているバッテリーの電圧が“BATT warnig”で設定されたワーニング電圧に達すると、以下の動作でつぎのバッテリーに切り替えます。なお、切り替ると同時に連動して“Active battery”の設定も変わります。

**BMS 機能付きのバッテリー :**

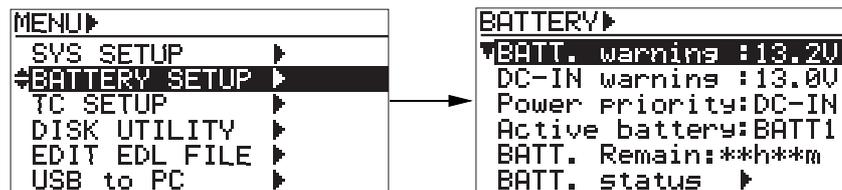
ワーニング電圧に達するまでの時間が1分未満になると、自動的に切り替えます。

**BMS 機能無しのバッテリー :**

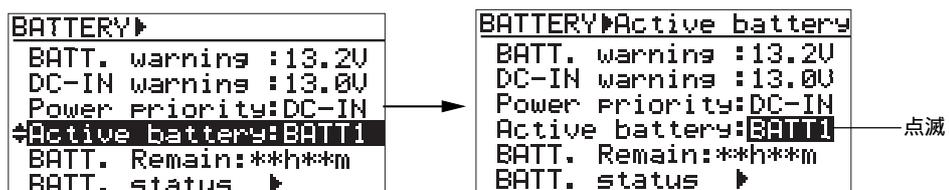
ワーニング電圧に達するとディスプレイに warning を表示した後、自動的に切り替えます。

ただし、先に消費したバッテリーを新たなバッテリーに交換しても、設定は元に戻りません。交換したバッテリーを Active にするには、再度設定が必要です。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイヤルで“BATTERY SETUP”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
BATTERY SETUP メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで“Active battery”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります。初期設定では“BATT1”が点滅します。



### 選択可能な優先順位

“BATT1”または“BATT2”が選択可能(初期設定: BATT1)

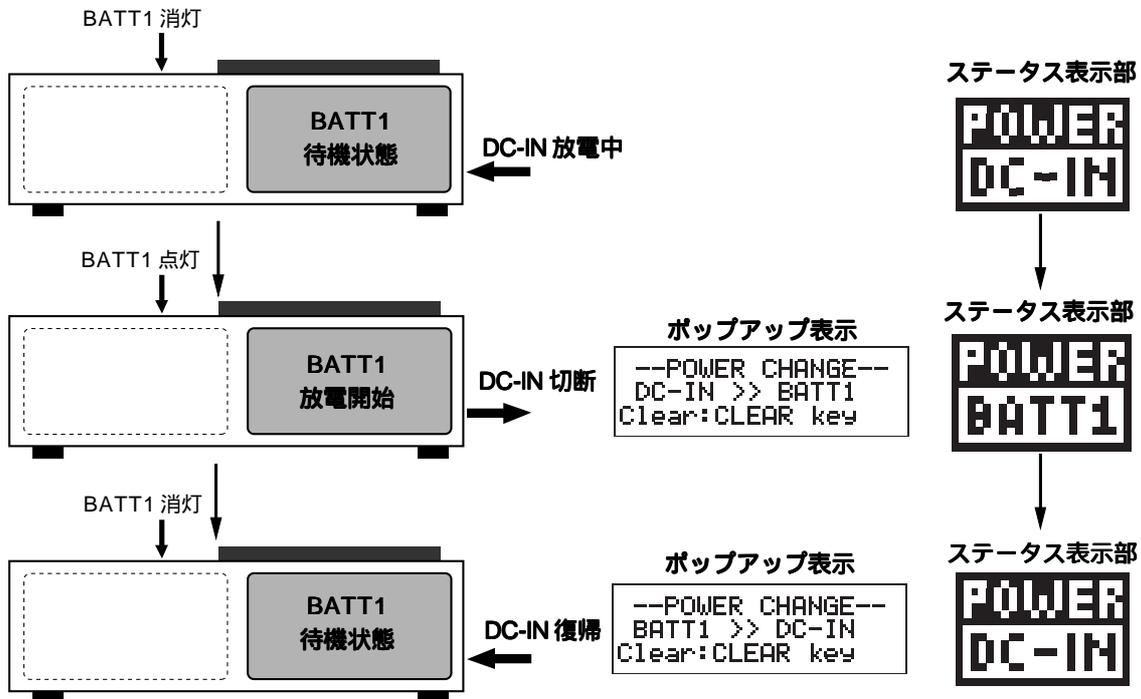
**<注意>** : “BATT warning”で設定された電圧より下回っているバッテリーは選択できません。

**<注意>** : どちらか一方のバッテリーしか接続されていない場合、およびDC-INのみで使用中は選択できません。

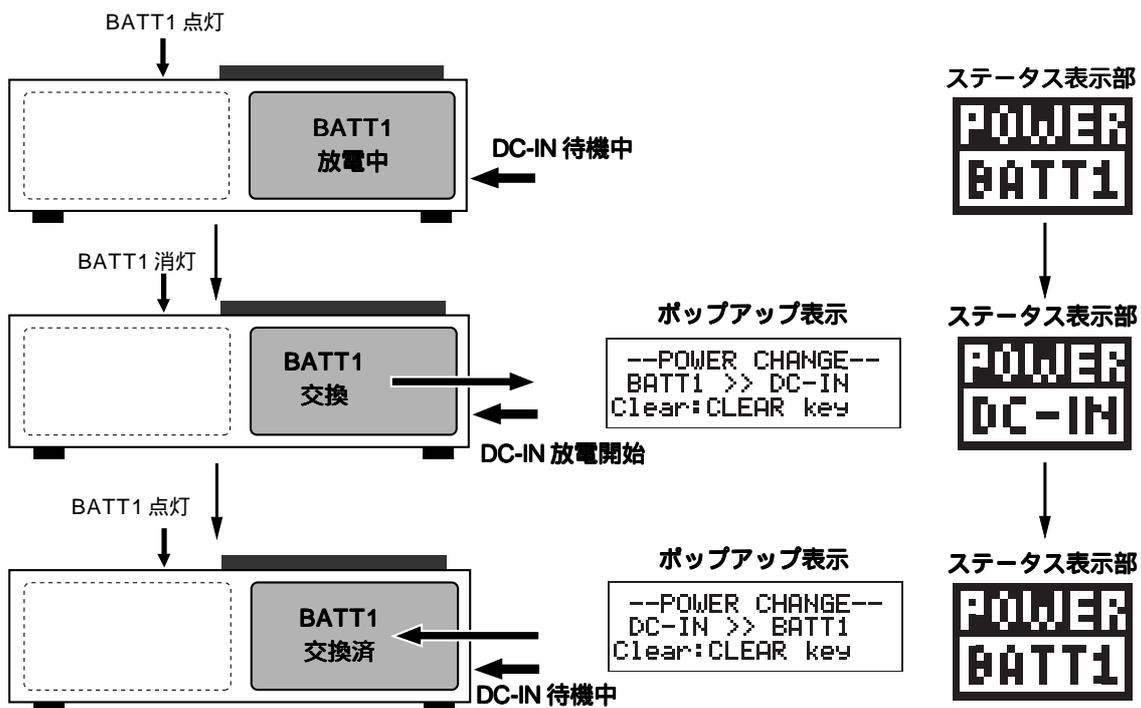
- 4) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

### < バッテリーの運用例 >

<運用列1> : DC-IN で常に駆動し、バッテリーは非常時のバックアップ  
 Power priority : DC-IN  
 Active battery : BATT1 (バッテリーがマウントされている側)



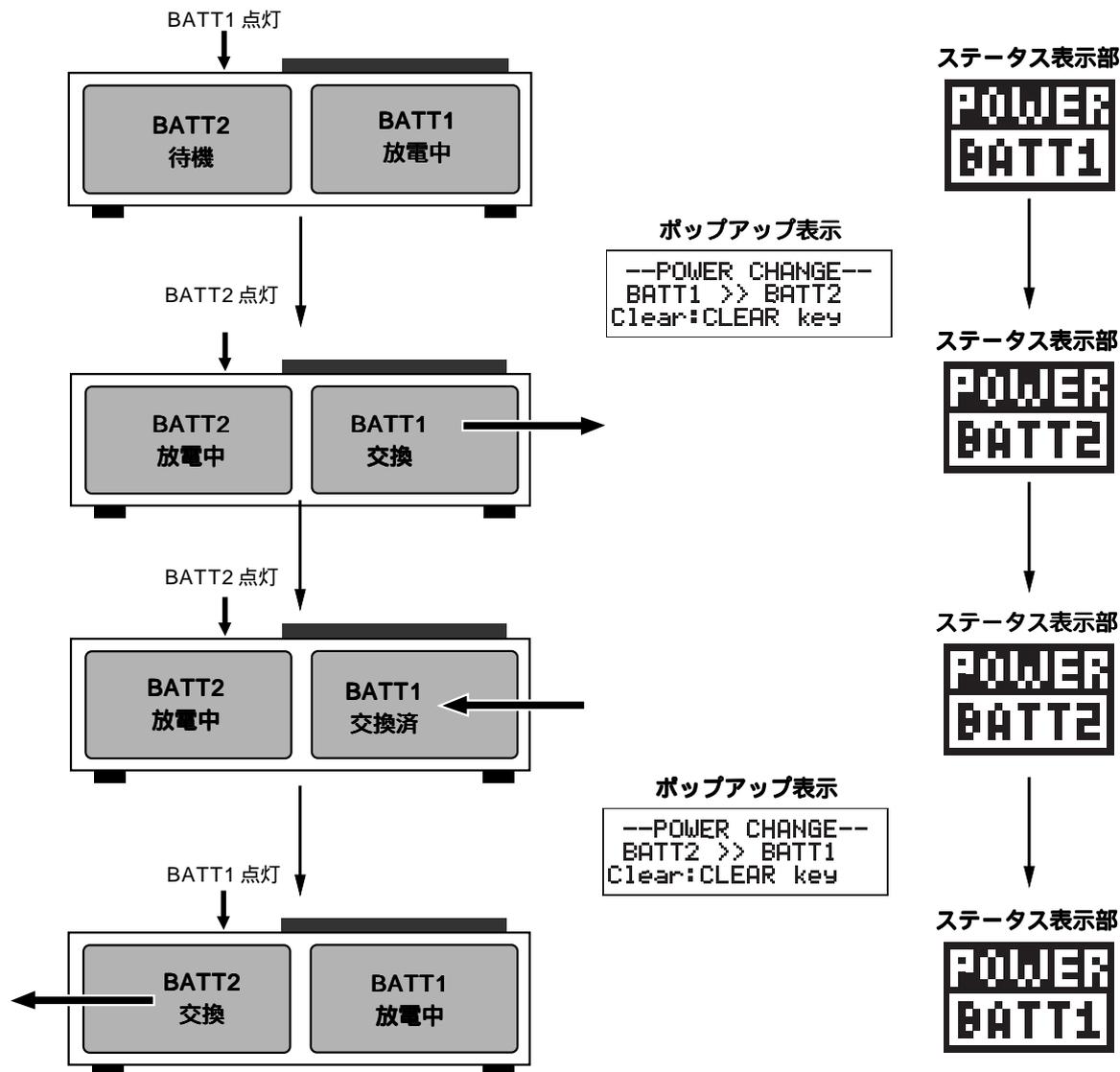
<運用列2> : バッテリーで常に駆動し、DC-INはバッテリー交換時のバックアップ  
 Power priority : BATT.  
 Active battery : BATT1 (バッテリーがマウントされている側)



<運用列3> : 2本のバッテリーをマウントし、順番に交換して連続駆動

Power priority : BATT. (DC-INが無ければ、どちらでも可)

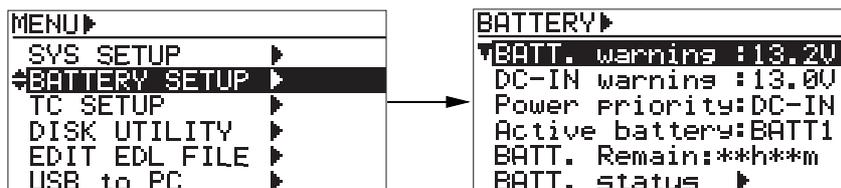
Active battery : BATT1 (最初に放電させたいバッテリーを指定。その後は、手動で設定しない限り、交換する度に切り替ります)



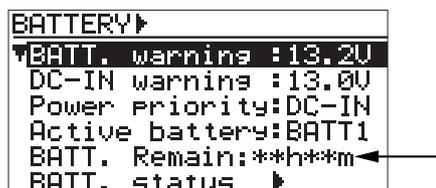
## ワーニング電圧に達するまでの残時間を表示 ( BATT. Remain )

BMS (Battery Management System) 機能付きバッテリーを使用中、“ BATT warning ”で設定したワーニング電圧に達するまでの残時間を、1分単位で表示します。なお、ここで表示する残時間は、次項の“ BATT. status ”の階層画面でも表示されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“ BATTERY SETUP ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
BATTERY SETUP メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



ワーニング電圧に達するまでの残時間は、1分単位で下記矢印部分に表示されます。



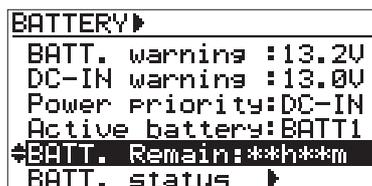
< 注意 > : 表示される時間は、瞬間の消費電力から算出しているため、動作状態により変化します。また、時間はあくまでも目安として表示しており、動作可能な時間を保証するものではありません。

< 注意 > : BMS 機能無しバッテリーまたはDC-INで駆動中は、リメインが表示されません。BMS 機能無しバッテリー使用時は“- -h -m”が表示され、DC-IN使用時は“<DC-IN>”が点灯します。

< 注意 > : バッテリーが並列接続 ( Power Link ) になっている場合は、バッテリー側で計算された平均値を表示します。

< 注意 > : “ Active BATT ”でバッテリーの優先順位が設定されている場合は、最初のバッテリーの残時間を表示し、バッテリーが切り替った時点で次の残時間を表示します。

< 注意 > : “ BATT. Remain ”では、残時間を1分単位で表示するだけのメニューです。他のメニューと同様、下記図のようにカーソルを移動して [ENTER/YES] キーを押しても画面は変化しません。

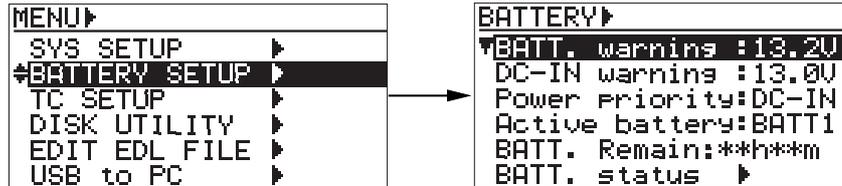


- 3) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

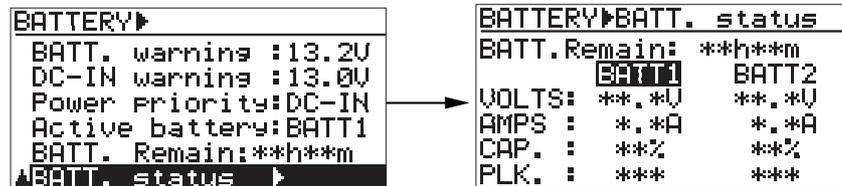
## バッテリーの各種情報を表示 ( BATT. status )

BMS (Battery Management System) 機能付きバッテリーの情報を読み込んで表示します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイヤルで “ BATTERY SETUP ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
BATTERY SETUP メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで “ BATT. status ” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
BMS 機能付きバッテリーのデータを読み込み、以下の各種情報を表示します。



BATT. Remain	<p>ワーニングを出力する電圧に到達するまでの残時間を分単位で表示します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>&lt;注意&gt; : バッテリーが並列接続 ( Power Link ) になっている場合は、バッテリー側で計算された平均値を表示します。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>&lt;注意&gt; : “ Active BATT ” でバッテリーの優先順位が設定されている場合は、最初のバッテリーの残時間を表示し、バッテリーが切り替った時点で次の残時間を表示します。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;注意&gt; : BMS 機能無しのバッテリーから供給しているときは “ - - h - - m ” 表示になり、DC-IN から供給しているときは “ &lt;DC-IN&gt; ” が点灯します。</p> </div>
BATT1/BATT2	BATT1 または BATT2 の反転が、放電中のバッテリーを示します。
VOLTS	バッテリーの電圧値を表示します。 BMS 機能無しのバッテリーでは、本機 CPU が測定した電圧値を表示します。
AMPS	バッテリーの消費電流値を表示します。 BMS 機能無しのバッテリーでは “ -.-A ” 表示になります。
CAP.	バッテリーの容量値を表示します。 BMS 機能無しのバッテリーでは “ -.% ” 表示になります。
PLK.	Power Link の有無を表示します ( ON : 有、OFF : 無 ) * バッテリーが消費されているとき ( Active ) のみ、ON を表示します。 BMS 機能無しのバッテリーでは “ - - - ” 表示になります。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

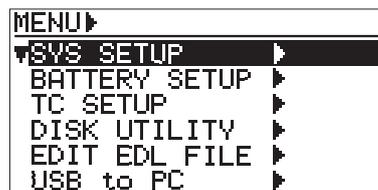
# TC SETUP メニュー

TC SETUP メニューには、タイムコードの記録 / 再生や、外部機器と同期走行させる場合に必要な、下記サブ・メニューが搭載されています。

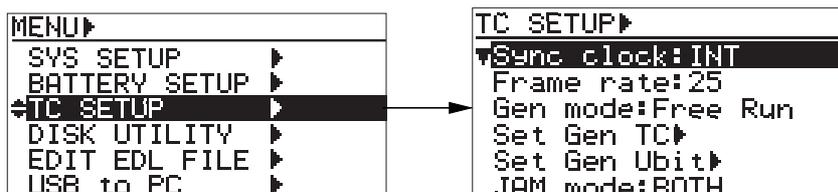
サブ・メニュー	設定 / 機能の詳細
Sync Clock	本機を動作させるシステム・クロックを設定します。
Frame Rate	タイムコードのフレーム・レートを設定します。
Gen Mode	内蔵 TC ジェネレータの、ジェネレート・モードを設定します。
Set Gen TC	Gen mode が Free Run/Rec Run 時の、TC ジェネレータを設定します。
JAM mode	外部 TC から Free Run に対する JAM モードを設定します。
Set Gen Ubit	出力 TC の UBIT を設定します。
Sel. TC OUT	出力 TC のソースを設定します。
Default LTC start	外部 TC が無いときの、LTC スタート初期値を設定します。
Edit LTC Start	再生するオーディオ・ファイルの LTC スタート時間を編集します。
Rep TC Ubit	再生タイムコードの UBIT を設定します。
Rep Pause TC	PAUSE 時の TC 出力 On/Off を設定します。
Recln via ext TC	外部 TC による自動記録モードの On/Off を設定します。
TC PWR Timer	本体の電源 OFF 後、内蔵 TC ジェネレータ部の電源が OFF になる時間を設定。

<注意> : TC SETUP メニューに入るには、次ページから記載されている方法以外に、下記操作でも行なえます。

- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- (2) [MENU] ダイアルで “TC SETUP” を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
TC SETUP メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



## システムの動作クロック設定 ( Sync clock )

本機を外部機器と同期させる、システム・クロックのマスターとなる信号を設定します。  
動作クロックの設定は、クイック・セットアップ・モードでも設定可能です (75 ページ参照)。

接続する外部機器に同期クロック信号の出力機能が搭載されていない場合は、本機のシステム・クロックを“ INT ” (Internal)に設定して、本機の内蔵クロックを使用します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

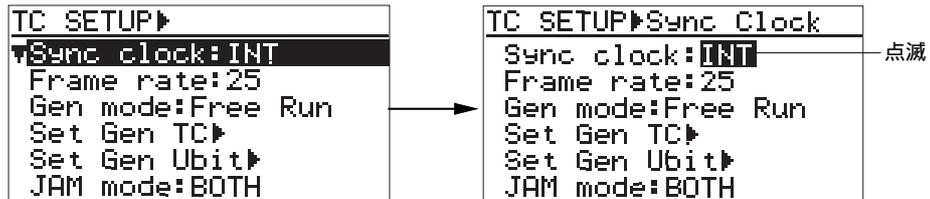
MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
    
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“ Sync clock ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能なクロック (初期設定 : INT)	
INT	内部クロック・モードで動作します。
Video	外部 Video クロックにロックして動作します。
Word	外部 Word クロックにロックして動作します。
Digi in	外部 Digital In のクロックにロックして動作します。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## TC フレーム・レートの設定 (Frame rate)

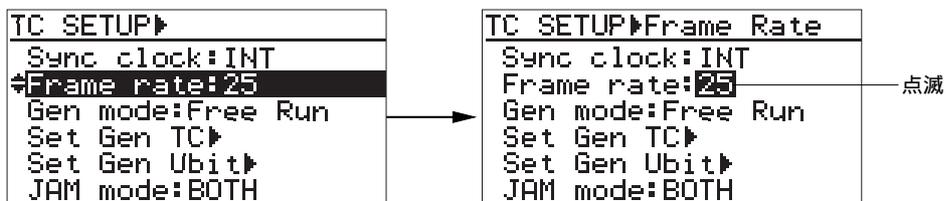
内蔵 TC ジェネレータで記録時の、TC フレーム・レートを設定します。  
 TC フレーム・レートの設定は、クイック・セットアップ・モードでも設定可能です (75 ページ参照)。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。  
 MENUモードの TC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
    
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“Frame rate”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 現在の設定が点滅して選択可能になります。



- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能なフレーム・レート (初期設定 : 25)	
23.97	23.976FPS, Film -0.1%
24	24FPS, Film
25	25FPS, European PAL-SECAM video
29.97ND	29.97FPS, NTSC color
29.97DF	29.97FPS, NTSC color with real time adjust
30	30FPS, NTSC video
30DF	30FPS, NTSC video

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 内蔵TCジェネレータのジェネレート・モード設定 (Gen mode)

タイムコード記録時の、ジェネレート・モードを設定します。

ジェネレート・モードはクイック・セットアップ・モードでも設定可能です (76 ページ参照)。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“ Gen mode ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定が点滅して選択可能になります。

<pre>TC SETUP▶ Sync clock:INT Frame rate:25 *Gen mode:Rec Run Set Gen TC▶ Set Gen Ubit▶ JAM mode:BOTH</pre>	→	<pre>TC SETUP▶Gen mode Sync clock:INT Frame rate:25 Gen mode:Rec Run Set Gen TC▶ Set Gen Ubit▶ JAM mode:BOTH</pre>	←点滅
---	---	--	-----

- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な Gen mode (初期設定 : Rec Run)	
Rec Run	ニュー・ファイルに記録する際、その前のファイルが記録終了したときのタイムコードに引き続き、連続したタイムコードをスタート・タイムとして記録します。
Ext Run	外部から入力するタイムコードを、スタート・タイムとして記録します。 なお、外部TCの入力が無いときは、常にDefault LTCスタート時間が記録されます。
Free Run	内部ジェネレータをFree Runモードで動作させ、内部ジェネレータの時間をスタート・タイムとして記録します。
24h Run	本機リアルタイム・クロックの時間を、タイムコードのスタート・タイムとして記録します。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 内蔵 TC ジェネレータのエディット (Set Gen TC)

内蔵 TC ジェネレータの GEN モード設定および TC 値を確認するとともに、GEN モードが“ Free Run ”または“ Rec Run ”モード設定時における、TC スタート・タイムの編集が可能です。特に“ Rec Run ”モード設定時において、ディスクの交換（またはパーティーションの切り換え）時、最後の LTC 時間をセットして引き続き Rec Run で記録を行うと、異なったディスク（またはパーティーション）においても連続した LTC の記録が可能になります。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

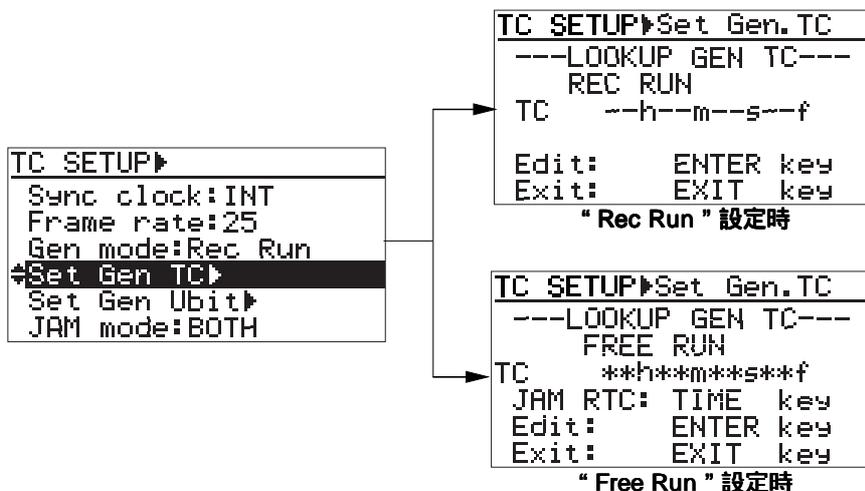
MENUモードの TC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“ Set Gen TC ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

Set Gen TCメニューの第2階層画面に変わり、現在設定されているGENモードにおける内蔵TCジェネレータの情報（GENモード / TC スタート・タイム）が表示されて確認できます。

Rec Run 設定時では、TC 表示が“ --H--M--S--F ”になります。



**< 注意 >** : GENモードが“ Ext Run ”設定時で外部TCの入力が無いときは、“ <<No EXT TC!>> ”を表示します。

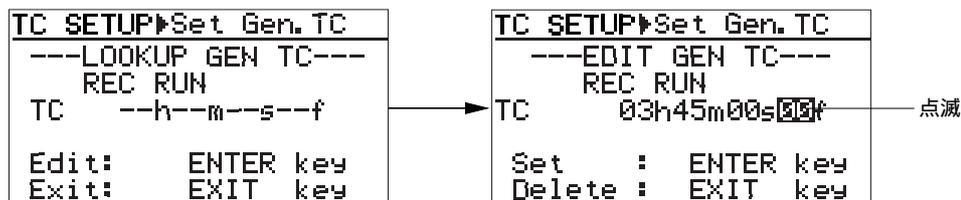
**< Rec Run 時の TC 初期値について >**

これは、Rec Run モードで記録すると最終ファイルのLTCに連続して記録されていくことを示しています。ただし、カレント・ドライブ（DVDまたはパーティーション）に何も記録されていない“ No Files! ”の状態からはじめて記録を開始したときは、Default LTC startの時間がLTCスタート時間として記録されていきます。また、その後引き続き新たな記録を行うと、常に最終ファイルのREC ENDからJAMを行い、連続したLTCが記録されていきます。なお、このTC初期値を任意にエディットすることで、記録開始時に記録するLTCのスタート時間を変えることが可能になります。

情報の確認のみで終了するには、[EXIT] キーを押していきTC SETUPメニューから抜け出します。GENモードが“Free Run”または“Rec Run”になっているときは、次の操作へ進んでTCスタート・タイムの編集が行なえます。

### REC RUN 設定時における TC 値のエディット

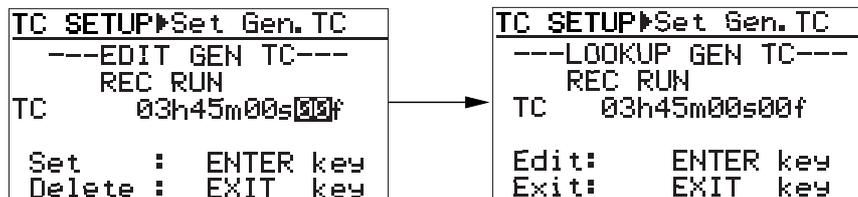
確認画面の状態から [ENTER/YES] キーを押すと、現在立ち上がっている最終ファイルの REC END の TC 値が表示されると同時に、エディット可能な画面に変わります。



現在表示されている TC 値を次に記録するファイルの LTC スタート時間にしたい場合は、上記画面の状態から [ENTER/YES] キーを押し、任意に変更したい場合は希望の TC 値を入力した後 [ENTER/YES] キーを押します。

<入力方法> : [←] / [→] キーで編集ポイントを移動し、[MENU] ダイアル (または 10 キー) で数値を入力します。

現在表示のまま (または任意に TC 値を入力した後) [ENTER/YES] キーを押すと、LTC のスタート時間が登録され確認表示に変わります (下記例は、表示している値を登録した場合の画面です)。



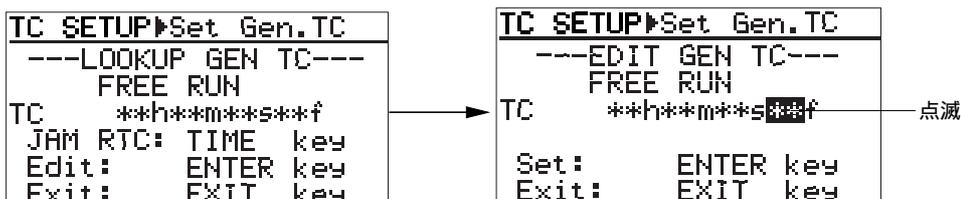
### <登録した TC 値を初期値に戻すには>

エディットして設定した TC 値を “--H--M--S--F” に戻すには、上記右の確認画面が表示されている状態で [ENTER/YES] キーを押した後、[EXIT] キーを押してください。設定した TC 値がデリートされて、初期値が再度 “--H--M--S--F” に設定されます。

<注意> : TC の初期値を設定した後電源をオフすると、Set Gen TC の初期値は “--H--M--S--F” に戻ってしまいます。

### FREE RUN 設定時における TC 値のエディット

確認画面の状態から [ENTER/YES] キーを押すと、現在表示されている TC 値が、エディット可能な画面に変わります。



上記「REC RUN 設定時のエディット」と同じ要領で任意の TC 値を入力し、入力後 [ENTER/YES] キーを押して確定します。

**FREE RUN 設定時における TC 値の JAM :**

確認画面 (LOOKUP GEN TC) の状態で [TIME] キーを押すと、LTC のスタート時間が本機内蔵のリアルタイム・クロックのタイム・データにジャムして設定されます。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

**出力 TC の UBIT 設定 (Set Gen Ubit)**

後述の TC SETUPメニューにある “Sel TC Out” の設定が “Gen” に設定されているとき、[TIME CODE OUTPUT] に出力するタイムコードの Ubit モードおよびユーザー・ビットを設定します。

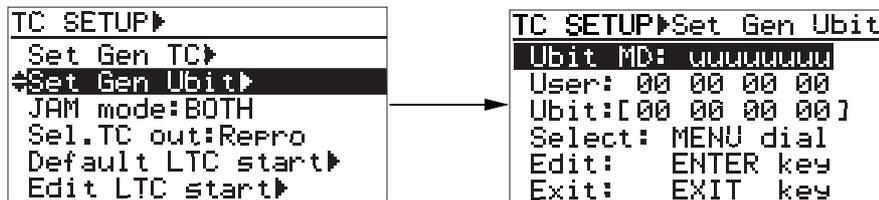
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENUモードの TC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
  ◀Sense clock:INT
  Frame rate:25
  Gen mode:Free Run
  Set Gen TC▶
  Set Gen Ubit▶
  JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで “Set Gen Ubit” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

TC の Ubit モードおよびユーザー・ビットを設定する画面に変わり、Ubit モードやユーザー・ビットの設定が行なえます。



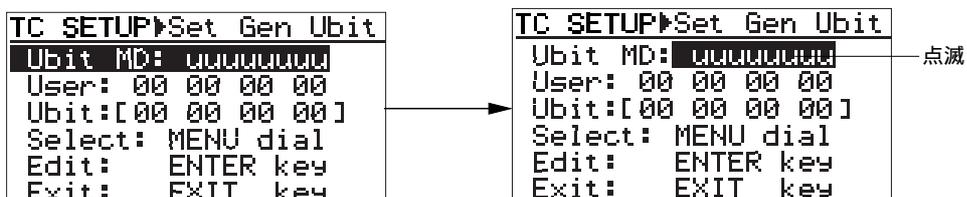
ユーザーが任意に設定します。任意に設定したユーザー・ビットの下二桁は、Ubit modeを “uu uuuuuu” 以外に設定していても反映されません。

Ubitモードを設定します。選択可能なUbitモードは、下記表を参照してください。初期設定は “uu uuuuuu” になっていて、“0000 0000” が初期値に設定されています。

設定したUbitモードに基づいて、実際に出力されているユーザー・ビットを表示します。

**Ubit モードの設定**

“Ubit MD: uuuuuuuu” が反転している状態で [ENTER] キーを押すと、現在設定されている Ubit モードが点滅して選択可能になります (初期設定では “uuuuuuuu” が点滅)。



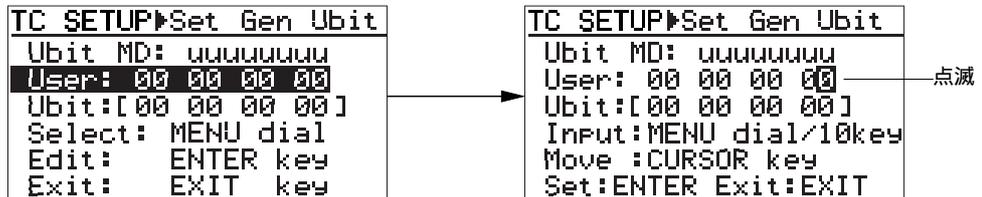
“Ubit MD” は、初期設定の “uuuuuuuu” 以外に下記モードが選択できます。  
 [MENU] ダイアルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な Ubit モード (初期設定 : <User>)	
uu uu uu uu	初期値データ : 00 00 00 00
MMDDYY00	BG_76: MM (月)/BG_54: DD (日)/BG_32: YY (年)/BG_10: uu (US)
DDMMYY00	BG_76: DD (日)/BG_54: MM (月)/BG_32: YY (年)/BG_10: uu (EUR)

上記表中 “BG-10: uu” の “uu” には、直接ユーザーが入力したユーザー・ビット・データが設定され、それ以外は自動的にリアルタイム・クロックの日付 (年/月/日) が設定されます。

### 任意にユーザ・ビットを設定

[MENU] ダイアルで “User: 00 00 00 00” を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、現在設定されているユーザー・ビットの右端が点滅してエディット可能になります (初期設定では “0” が点滅)。



カーソルが点滅している箇所まで10キー、[MENU] ダイアルを使って入力します。カーソルは [||<<] / [>>|] キーで移動します。

- 3) 設定後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 4) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

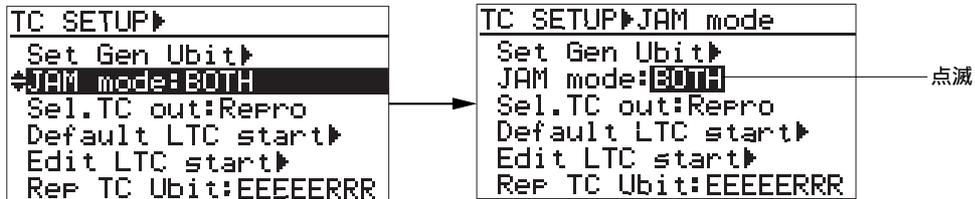
## ジャム・モードの設定 ( JAM mode )

外部入力タイムコードから GEN モード “ Free Run ” に対する、ジャム・モードを設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。  
MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで “ JAM mode ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅してエディット可能になります。



- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な JAM モード ( 初期設定 : BOTH )	
BOTH	TC/U-BIT とともにジャムします。
TC	TCのみをジャムし、U-BIT は内蔵 TC ジェネレータのデータを優先します。
UBIT	U-BIT のみをジャムし、TC は内蔵 TC ジェネレータのデータを優先します。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 出力 TC のソース設定 ( Sel. TC Out )

[TIME CODE OUTPUT] 端子に出力するタイムコードのソースを Repro TC にするか、内蔵 TC ジェネレータの TC にするかを選択します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。  
MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
  
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“ Sel. TC Out ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅してエディット可能になります。

<pre> TC SETUP▶ Set Gen.TC▶ Set Gen Ubit▶ JAM mode:BOTH ▼Sel. TC out:Repro Default LTC start▶ Edit LTC start▶           </pre>	→	<pre> TC SETUP▶Sel. TC Out Set Gen.TC▶ Set Gen Ubit▶ JAM mode:BOTH Sel. TC out:Repro Default LTC start▶ Edit LTC start▶           </pre>	—点滅
--	---	--	-----

- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な出力タイムコード ( 初期設定 : Repro )	
Repro	再生タイムコードを出力します。
Gen	内蔵 TC ジェネレータが生成するタイムコードを出力します。

<注意> : GENモードが“ EXT Run ”モードに設定されている場合は、TCソースを“ Gen ”に設定しても、内蔵 TC ジェネレータのタイムコードは出力されません。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## デフォルト LTC スタート時間の設定 (Default LTC start)

本機の TC 記録モード (GEN モード) が “Ext Run” 設定時、外部からの LTC 入力がない場合のデフォルト LTC スタート時間 (初期設定では “1h 00m 00s”) をエディットします。

**<注意>** : 外部から入力されているタイムコードが Pause TC のときは、正しい TC 入力と判断せず 2 フレーム以上連続加算したときのみ、LTC スタート時間として記録します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENUモードの TC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
    
```

- 2) [MENU] ダイアルで “Default LTC Start” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在設定されているデフォルト LTC スタート時間が表示されます (初期設定では “01h 00m 00s” を表示します)。

<pre> TC SETUP▶ Set Gen Ubit▶ JAM mode:BOTH Sel.TC out:Repro ▼Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR                 </pre>	→	<pre> TC SETUP▶Default TC --LOOKUP DEFAULT TC-- 01h00m00s Edit:    ENTER Key Exit:    EXIT Key                 </pre>
--	---	---

- 3) 再度 [ENTER/YES] キーを押します。

現在設定されているデフォルト LTC スタート時間の秒の値が点滅して、エディットが可能になります。

<pre> TC SETUP▶Default TC --LOOKUP DEFAULT TC-- 01h00m00s Edit:    ENTER Key Exit:    EXIT Key                 </pre>	→	<pre> TC SETUP▶Default TC ---EDIT DEFAULT TC--- 01h00m00s Rewrite: ENTER Key Exit:    EXIT Key                 </pre>	点滅
---	---	---	----

- 4) デフォルト LTC スタート時間をエディットした後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

エディット・ポイントは [◀◀] / [▶▶] キーで移動し、[MENU] ダイアルまたは 10 キーを使って数値を入力します。設定したデフォルト LTC スタート時間は、本機の Flash ROM に保存されます。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## LTC スタート時間のエディット (Edit LTC start)

再生するオーディオ・ファイルの、LTCのスタート時間を編集します。  
エディットしたLTCのスタート時間は、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルに記録されます。

<注意> :LTCはスタート時間のみ記録し、そのスタート時間を元にジェネレートして出力しています。  
BWFファイルでは、“Broadcast Audio Extension Chunk”内の“Time Reference”に記録されます。  
したがって、DigidesignのPro ToolsでこのLTCを使用したい場合には、オーディオ・ファイルをインポートした後、User Time Codeを有効にしてください。

1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

2) [MENU] ダイヤルで“Edit LTC start”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在ファイルに記録されているLTCのスタート時間を表示します。

<pre>TC SETUP▶ Default LTC start▶ ▼Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min</pre>	→	<pre>TC SETUP▶LTC Start --LOOKUP LTC START-- **h**m**s**f**sf Edit:  ENTER key Exit:  EXIT key</pre>
---	---	--

3) 再度 [ENTER/YES] キーを押します。

現在記録されているLTCスタート時間のサブフレームの値が点滅し、スタート時間のエディットが可能になります。

<pre>TC SETUP▶LTC Start --LOOKUP LTC START-- **h**m**s**f**sf Edit:  ENTER key Exit:  EXIT key</pre>	→	<pre>TC SETUP▶LTC Start ---EDIT LTC START--- **h**m**s**f**sf Rewrite: ENTER key Exit:  EXIT key</pre>
--	---	--

点滅

4) LTCスタート時間をエディットした後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

エディット・ポイントは [◀◀] / [▶▶] キーで移動し、[MENU] ダイヤルまたは10キーを使って数値を入力します。設定したLTCスタート時間は、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルに記録されます。

5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 再生 TC の UBIT 設定 ( RepTC Ubit )

“ Sel TC Out ”メニューが“ Repro ”に設定されているとき、[TIME CODE OUTPUT] 端子へ出力するタイムコードのユーザー・ビットを選択します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENUモードの TC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```

TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
    
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“ Rep TC Ubit ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在設定されている TC-UBIT が点滅して選択可能になります ( 初期設定では“ EEEEEERR ”が点滅 )。

<pre style="margin: 0;"> TC SETUP▶ Default LTC start▶ Edit LTC start▶ ▶Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min                 </pre>	→	<pre style="margin: 0;"> TC SETUP▶Rep TC Ubit Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min                 </pre>
--	---	--

—点滅

- 3) [MENU] ダイヤルで選択後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な Ubit ( 初期設定 : EEEEEERR )	
EEEEERRR	BG_76543: EEEEE / BG_210: RRR
MMDDYYff	BG_76: MM (月)/BG_54: DD (日)/BG_32:YY (年)/BG_10: ff (US)
DDMMYYff	BG_76: DD (日)/BG_54: MM (月)/BG_32:YY (年)/BG_10: ff (EUR)
SSSSSSRR	BG_756432: SSSSSS / BG_10: RR
RRREEEEE	BG_756: RRR / BG_54321: EEEEE
SSSSSTT	BG_756432: SSSSSS / BG_01: TT
<BWF UBIT>	BWF の Descriptor 情報の U-BIT を出力
EEEE: EVENT No	BWF に記録されている Event 情報の下 5桁の数字情報のみ右詰めで出力します。
RRR: REEL No	BWF に記録されている Reel No 情報の下 3桁の数字情報のみ右詰めで出力します。
RR: REEL No	BWF に記録されている Reel No 情報の下 2桁の数字情報のみ右詰めで出力します。
SSSSSS: SCENE No	BWF に記録されている Scene 情報の下 6桁の数字情報のみ右詰めで出力します。
TT: TAKE No	BWF に記録されている Take No 情報の下 2桁の数字情報のみ右詰めで出力します。
ff: File No (10進数、01 ~ 99)	
<p><b>&lt;注意&gt;</b> : DATE (年月日) は、オーディオ・ファイルのオリジナル DATE です。                  また、上記 “ EVENT No ”、“ SCENE No ”、“ REEL No ” および “ TAKE No ” は、事前に各メニューで設定されていることが必要です。</p>	

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## ポーズ時の TC 出力設定 (Rep pause TC)

本機がPAUSEモードのとき、[TIME CODE OUTPUT] 端子からタイムコードを出力するかしないかを設定します。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。  
MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“Rep pause TC”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して選択可能になります（初期設定では“Off”が点滅します）。

<pre>TC SETUP▶ Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR ▼Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min</pre>	→	<pre>TC SETUP▶Rep Pause TC Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min</pre>	点滅
---	---	--	----

- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目（初期設定：Off）	
On	“Sel TC Out”メニューが“Repro”に設定されているとき、本機がSTOP（またはPAUSE）の状態でも、同一時間のPAUSE TCを[TIME CODE OUTPUT]端子から出力します。
Off	“Sel TC Out”メニューが“Repro”に設定されていて本機がSTOP（またはPAUSE）の状態でも、PAUSE TCは出力しません。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 外部TCによる自動記録のOn/Off設定 (RecIn via ExtTc)

外部TCの入力に合わせて、本機が自動的に記録を開始するかしないかを設定します。

このメニューを“On”(初期設定:Off)に設定しておくことで、同じくTC SETUPモードにある“Gen mode”を“EXT (External Run)”に設定して外部TCをスタート・タイムとして記録する場合、本機のフレーム・レート設定と同じフレーム・レートの外部TCが入力されたとき、本機が自動的に記録を開始することができます。

<注意> : 自動記録を開始させるには、本機で設定するTCフレーム・レートと、外部TCのフレーム・レートが一致している必要があります。記録を行う前に双方のフレーム・レートが一致しているかを確認してください。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENUモードのTC SETUPメニューへ入り、TC SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“RecIn via ExtTc”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定が点滅して選択可能になります(初期設定では“Off”が点滅します)。

<pre>TC SETUP▶ Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off ▶RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min</pre>	→	<pre>TC SETUP▶RecIn via Ex Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min</pre>	点滅
---	---	--	----

- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な項目 (初期設定 : Off)	
On	本機のフレーム・レート設定と同じ外部TCが入力されると同時に、自動的に記録を開始します。
Off	本機のフレーム・レート設定と同じ外部TCが入力されても、自動的に記録を開始しません。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 内蔵 TC ジェネレータの OFF タイマー設定 ( TC PWR Timer )

本体の電源を OFF した後、内蔵 TC ジェネレータの電源が OFF になるまで時間を設定します。

初期設定では OFF タイマーが“ 5 分 ”に設定されており、PD606 本体の電源を OFF にしても設定した時間省電力で内蔵 TC ジェネレータが連続稼動するようになっています。用途に応じて OFF タイマーを設定することができます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[TIME/TC SET] キーを押します。

MENU モードの TC SETUP メニューへ入り、TC SETUP メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
TC SETUP▶
▼Sync clock:INT
Frame rate:25
Gen mode:Free Run
Set Gen TC▶
Set Gen Ubit▶
JAM mode:BOTH
```

- 2) [MENU] ダイヤルで“ TC PWR Timer ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定が点滅して選択可能になります ( 初期設定では “ 5min ” が点滅します )。

<pre>TC SETUP▶ Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off ▲TC PWR Timer: 5min</pre>	→	<pre>TC SETUP▶TC PWR Timer Default LTC start▶ Edit LTC start▶ Rep TC Ubit:EEEEERRR Rep pause TC:Off RecIn via ExtTc:Off TC PWR Timer: 5min</pre>	点滅
---	---	--	----

- 3) [MENU] ダイヤルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

選択可能な時間 ( 初期設定 : 5min )
0min、5min、10min、15min、30min、1hour、2hour、4hour、8hour、Cont. (連続)

< 注意 > : “ 0min ” 以外に設定されている状態では、PD606 の電源をオフしてもディスプレイが薄暗い明るさでゆっくり点滅し、内蔵 TC ジェネレータが省電力で機能していることを示しています。なお、バッテリー使用時には、必要以外に長い時間を設定しないようお勧めします。

- 4) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## DISK UTILITY メニュー

“DISK UTILITY”メニューには、記録メディアや記録したオーディオ・ファイルに必要な、下記サブ・メニューが搭載されています。

**<注意>**：下記サブ・メニューにある“File copy”については112ページを参照し、“Disk copy”については109ページを参照してください。

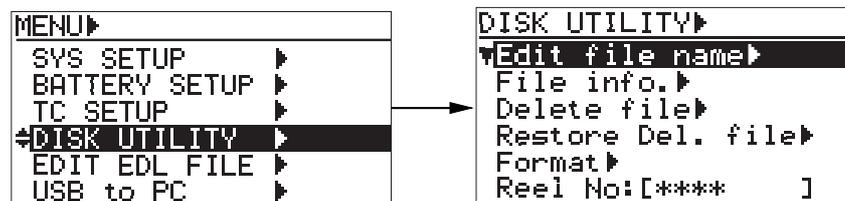
メニュー項目	設定 / 機能の詳細
Edit file name	オーディオ・ファイルのファイル・ネームをエディットします。
File info.	オーディオ・ファイルの各種情報の確認と、Descriptor 情報 / IXML Chunk 情報をエディットします。
Delete file	不要なオーディオ・ファイルを削除します。
Restore Del. file	削除したオーディオ・ファイルを復活させます。
Format	DVD-RAM ディスク / HDD のパーティションをフォーマットします。
Reel No.	オーディオ・ファイルの Reel No (ボリウム・ラベル) をエディットします。
Rec protect	オーディオ・ファイルのプロテクト機能 ON/OFF を設定します
Resume	オーディオ・ファイルのレジューム機能 ON/OFF を設定します。
Part. protect	パーティションのプロテクト機能 ON/OFF を設定します。
File copy	DVD-RAMディスクとパーティション間、あるいは異なったパーティション間で、ファイル単位のオーディオ・データをコピーします。
Disk copy	DVD-RAMディスクとパーティション間、あるいは異なったパーティション間で、ディスク（またはパーティション）単位のオーディオ・データをコピーします。
HDD Ope. Time	内蔵 HDD のオペレーション時間（通電時間）を表示します。

## ファイル・ネームのエディット (Edit file name)

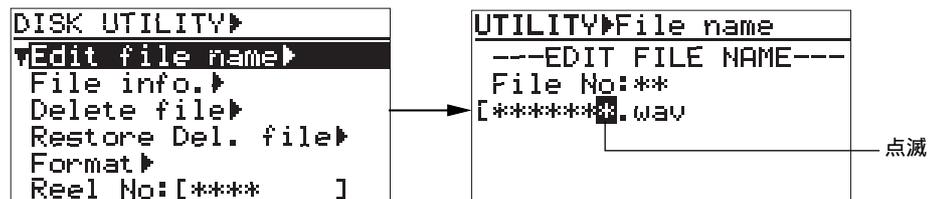
現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの、ファイル・ネームをエディットして再登録します。

本機で記録を開始したとき作成されるオーディオ・ファイルのファイル・ネームは、“SYS SETUP”メニューにある“Default file name”で設定されている、ファイル・ネームが付加されます(140ページ参照)。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Edit file name”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
Edit file nameメニューの第2階層画面に変わり、現在設定されているファイル・ネームのエディットが可能になります。



- 4) 希望のファイル・ネームを入力します。  
カーソルは [◀◀] / [▶▶] キーで移動し、[MENU] ダイアル(または10キー)を使ってファイル・ネームを入力します。

[CLEAR] キーを押していくと、カーソル以降のネームがクリアできます。

<注意> : ネーム末尾の「拡張子 (.wav)」は、自動的に付加されますので、入力の必要はありません。

- 5) ファイル・ネームを入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。  
MENUモードから抜け出し、Home画面に変わります。

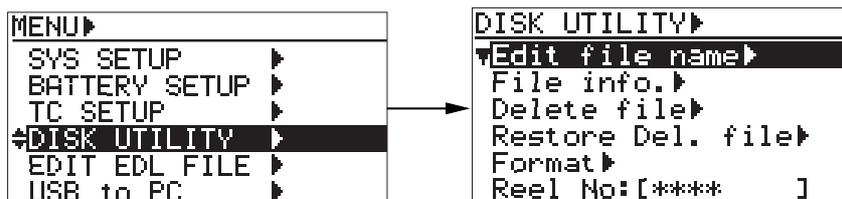
<注意> : ディスク上にある、既存のファイル・ネームと同じファイル・ネームを入力して確定しようとしても、“Illegal Name”が表示され操作は無効になります。  
再度入力する前の画面に戻りますので、再度入力し直してください。

## ファイル情報の確認とエディット (File info.)

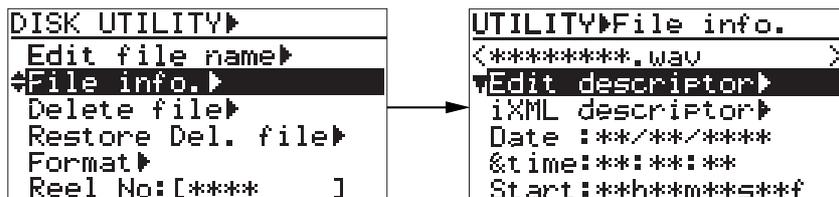
File Infoメニューでは、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの下記情報を確認するとともに、Descriptor情報およびiXML Chunk情報は、必要に応じてエディットすることができます。

- 1) オーディオ・ファイルのファイル・ネーム情報
- 2) BWFのSound Sequence情報
- 3) iXML Chunkデータ情報
- 4) ファイルの作成年月日と作成時間情報
- 5) LTCのスタート・タイム情報 (記録開始時のLTC時間)
- 6) LTCのエンド・タイム情報 (記録終了時のLTC時間)
- 7) デュレーション情報 (オーディオの領域 / TCで表示)
- 8) ファイルの記録容量情報

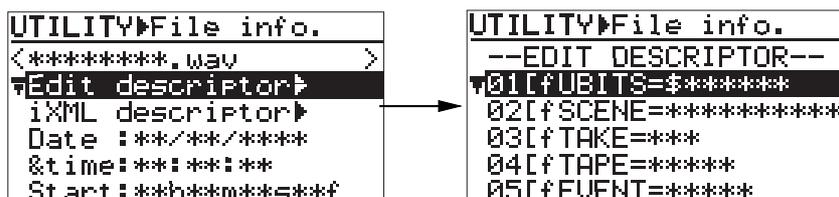
- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“File Info.”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
File Infoメニューの第2階層画面に変わり、各ファイル情報が表示されます。  
Descriptor情報はつぎの階層で確認でき、それ以外の情報は [MENU] ダイアルでスクロール表示できます。



- 4) [MENU] ダイアルで“Edit descriptor”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
Descriptor情報の第2階層画面に変わり、BWFのSound Sequence情報を表示します。  
“Edit descriptor”はEdit Sequence Descriptor機能で、BWFファイルのSound Sequence情報を記録したエリア (BWFで規定されたDescription Area: 最大265文字) の、確認と編集が可能です。



5) [MENU] ダイアルを回していき、Sound Sequence 情報をスクロール表示します。

表示される Sound Sequence 情報の詳細については、次ページ表を参照してください。

BWF ファイルの Sound Sequence 情報には以下の項目があり、必要に応じて任意にエディットすることができます。なお、一番下にある“<New line>”は、Descriptor 情報のエディット時に、新たな行を追加するときに使用します。次ページからの「Descriptor 情報の編集」を参照してください。

```
UTILITY>File info.
--EDIT_DESCRIPTOR--
01[fUBITS=$*****
02[fSCENE=*****
03[fTAKE=***
04[fTAPE=*****
05[fEVENT=*****
06[fSPEED=*****
07[fTRK1=*****
08[fTRK2=*****
09[fNOTE=
10[<New line>
```

下記表は、上記表示例を元にした Fostex であらかじめ登録している、Descriptor 情報の詳細です。これらの情報は、AVIDのALEファイルの作成に使用したり、USB経由(またはディスク単位)でAVIDシステムにそのままインポートされます。

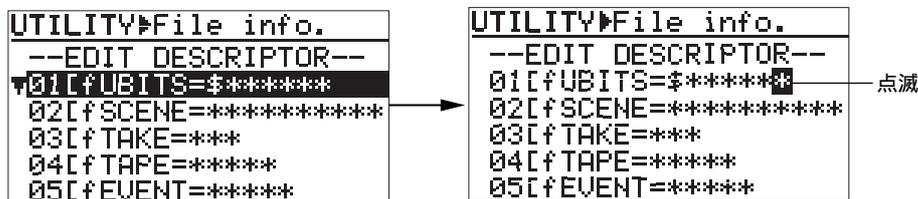
**<注意>**：“ = ”の前にある表示は、現在使用できるメタ・データの「ヘッダID」を示しています。

行	表示	詳細
01	fUBITS=\$	タイムコードを記録したときの、UBIT が初期値として記録されます。
02	fSCENE=*****	ファイル作成時は、ファイル・ネーム前半の文字列で“ - ”の前までを、SCENE として初期設定されます。
03	fTAKE=***	ファイル作成時は、ファイル・ネームの“ - ”から後半、および拡張子“ . ”の手前までの数字 3 桁が初期設定されます。
04	fTAPE=*****	ファイル作成時は、ディスクの Reel Number (Volume Label) が初期設定されます (最大 8 桁まで)。
05	fEVENT=*****	MENU モードの System Setup メニューにある、“ Next Event No ”で設定された 5 桁の数字が初期設定されます。
06	fSPEED=*****	MENU モードの System Setup メニューにある、“ Frame rate ”で設定されたフレーム・レートが初期設定されます。
07	fTRK1=*****	各トラックのトラック・ネームで、最大 16 文字までのデフォルト・トラックネームが記録されます。上記例は、2TRK で記録された場合の表示で、トラック数が増えることに表示する行も増加します。
08	fTRK2=*****	
09	fNOTE=	コメント欄で、初期設定では「空欄」になっています。

## Sound Sequence情報の編集

- 1) [MENU] ダイアルで編集するSound Sequence情報を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。

選択したSound Sequence情報の先頭が点滅し、エディット可能になります。



- 2) [◀▶▶▶] キーを押してカーソルを“=”の右へ移動し、“=”以降の部分を編集します。
- 3) [MENU] ダイアル(または文字/記号入力キー)で、新たな情報を書き込みます。

カーソルがSound Sequence情報の先頭にある状態で [CLEAR] キーを押していくと、カーソル位置から右にある文字/記号がクリアできます。

- 4) 新たな情報を書き込んだ後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 5) 他のSound Sequence情報を編集するには、上記操作と同じ要領で繰り返します。

## Sound Sequence情報の追加

現在記録されているSound Sequence情報に、新たな情報を追加します。

- 1) 一番下にある“<New line>”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
情報の入力が可能になりますので、上記入力方法と同じ要領で新たな情報を書き込みます。

<注意> : 新たな行を追加するときは、必ず「メタ・データのヘッダID」を入力してから、情報を入力してください。

- 2) 新たな情報を書き込んだ後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

## Sound Sequence情報の削除

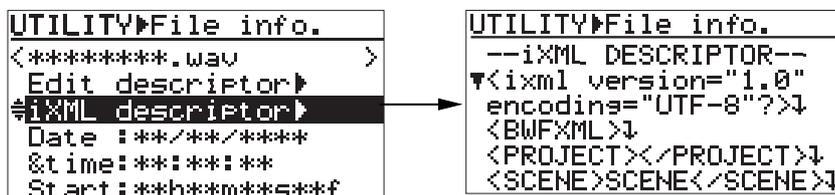
不要になったSound Sequence情報を削除します。

- 1) 削除したいSound Sequence情報の行を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
前述と同様、Sound Sequence情報がエディット可能になります。
- 2) [CLEAR] キーを押していき、すべての情報をクリアした後、[ENTER/YES] キーを押します。  
選択したSound Sequence情報が削除されるとともに、下にある行は繰り上がります。

## iXML Chunk データ情報の確認

“iXML descriptor”では、iXML Chunk データの確認と編集が可能です。

- 1) “iXML descriptor”を選択して [ENTER/YES] キーを押します。  
iXML 情報の第2階層画面に変わり、最大20桁単位でiXML Chunk データを表示します。

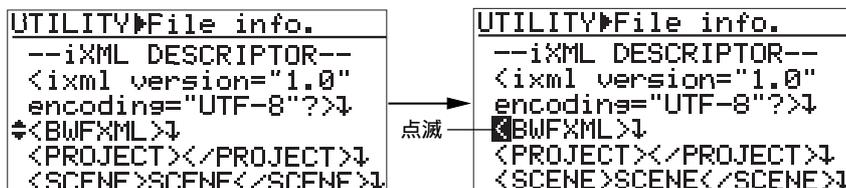


- 2) [MENU] ダイアルを回してき、iXML Chunk データの情報をスクロール表示します。

## iXML Chunk データ情報の編集

任意のiXML Chunk データを編集します。

- 1) [MENU] ダイアルで編集したいデータの行を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
選択した行の左端でカーソルが点滅し、編集が可能な画面に変わります。



- 2) 10 キーまたは [MENU] ダイアルを使って、任意の情報を入力します。  
カーソルは [I<<] キー / [>>] キーで移動します。また、USB キーボードの [Enter] キーで “ ” マークを付加して改行します。
- 3) 編集の終了後、USB キーボードの [ESC] キー、 [HOME] キー、または本機の [STOP] キーを押します。  
このとき、実際にiXML Chunk データの編集が行われていた場合には、下記例のポップアップ画面が表示されます。  
編集したデータに更新したいときは [ENTER/YES] キーを押し、更新しないときは [EXIT] キーを押します。

```

Changed iXML data
Are you sure?
Yes:ENTER No:EXIT
  
```

<注意> : iXML Chunk データを更新してセーブした後、 [STOP] キーまたは USB キーボードの [HOME] キーを押すと、ダイレクトに Home 画面へ戻ります。

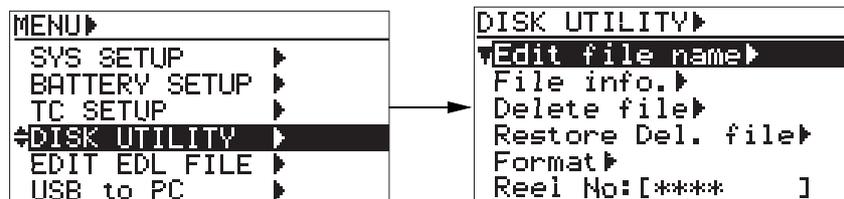
## 不要なオーディオ・ファイルの削除 (Delete file)

記録済みの不要なオーディオ・ファイルを削除します。

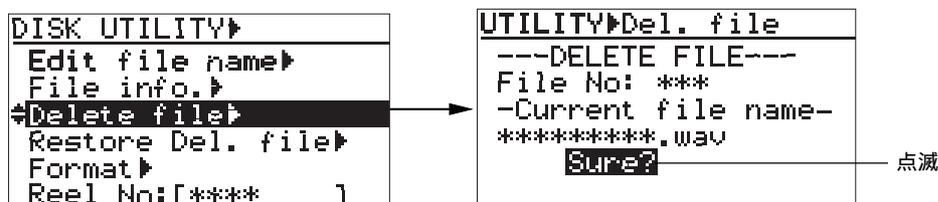
削除できるのは、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルのため、あらかじめ希望のオーディオ・ファイルを立ち上げておきます。

**<注意>**：“Delete File”メニューで削除したオーディオ・ファイルは、削除後でも“<Hidden File>”（隠しファイル）としてディスク上に残っています。そのため、次項「削除したオーディオ・ファイルの復活」（Restore Del Fileメニュー）で、復活させることが可能です。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Delete file”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
Delete Fileメニューの第2階層画面に変わり、カレント・ファイルのファイル・ナンバー / ファイル・ネームが表示され、“Sure?” が点滅します。



**<注意>**：削除の実行中は中止することができません。削除を中止するには、“Sure?” が点滅している状態で [EXIT] キーを押してください。

- 4) [ENTER/YES] キーを押します。  
現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの削除を開始し、実行中は“Please Wait!” が点滅します。

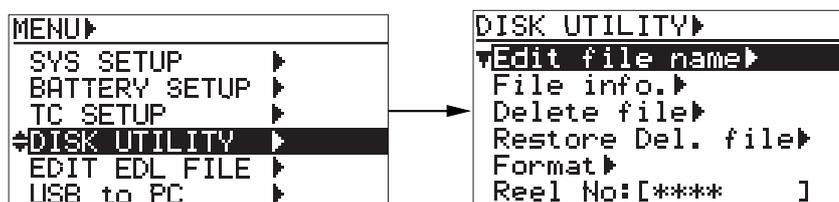
削除が完了すると同時に“Completed!” が点灯して、自動的にMENUモードから抜け出します。

## 削除したオーディオ・ファイルの復活 ( Restore Del. file )

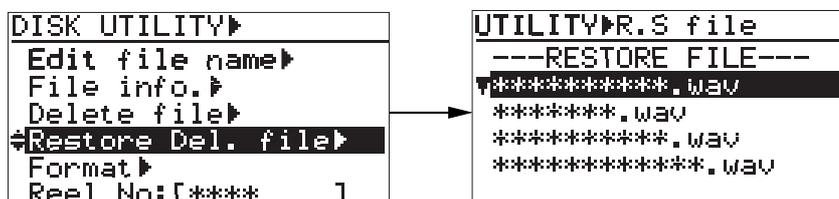
“ Delete File ” メニューで削除したオーディオ・ファイル ( Hidden File ) を復活させます。

**<注意>** : コンピュータ側で削除したオーディオ・ファイルも復活できませんので、ご注意ください。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“ DISK UTILITY ”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“ Restore Del. file ”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
Restore Del fileメニューの第2階層画面に変わり、過去に削除されたオーディオ・ファイル ( Hidden file ) のリストが表示されます。  
復活可能な Hidden File が存在しない場合は、“ No Deleted File! ”が表示されます。



- 4) [MENU] ダイアルで復活させたいファイル・名前を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
選択したオーディオ・ファイルの復活が行われ、完了を示す“ Completed! ”を表示した後、第1階層画面に変わります。

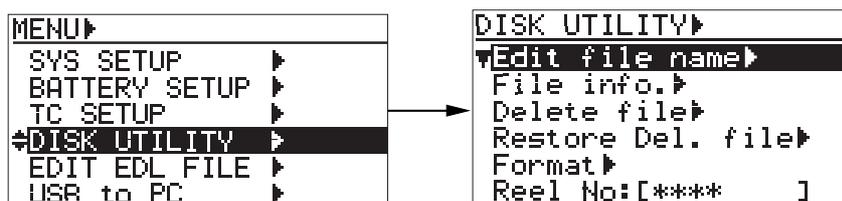
**<注意>** : 復活させたオーディオ・ファイルは、削除したときと同じファイル・ナンバーで復活します。

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

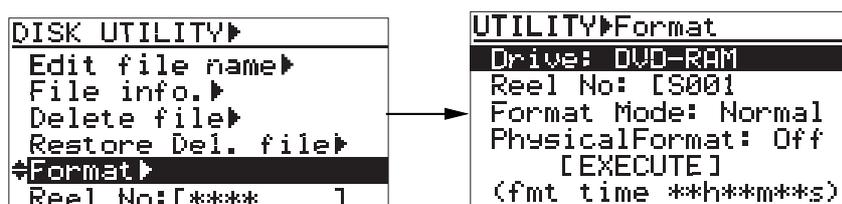
## ディスク（またはパーティション）のフォーマット（Format）

記録済みのDVD-RAMディスク、または内蔵HDDのパーティションを再フォーマットします。  
未フォーマットのDVD-RAMディスクのフォーマットについては、「ご使用になる前に」の34ページを参照してください。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Format”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
Formatメニューの第2階層画面に変わり、フォーマットに必要な各設定項目が表示されます。



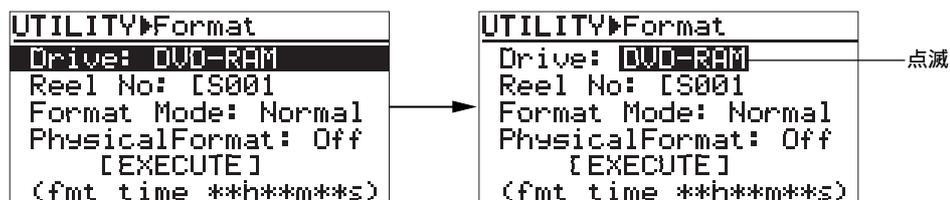
第2階層画面では、用途に応じて以下の設定を行います。

Drive	フォーマットするドライブを選択します。 標準搭載のDVDドライブ（DVD-RAM）、またはHDDのパーティション（PT01 HD～PT16 HD）が選択できます（標準搭載のパーティションでは、パーティションが16に分割されています）。
Reel No	選択したドライブ（またはHDDのパーティション）のReel Number (Volume Label)を任意に入力できます。初期設定のReel Numberは、選択したドライブによって以下の番号が表示されます。  <b>DVD-RAM- &gt; S001</b> <b>HDD - &gt; PT01 HD: S002、PT02 HD: S003.....</b>
Format Mode	フォーマット・モードを選択します。 フォーマット・モードには“Normal”モードと“DDR”モードがあり、用途に応じて選択します。“DDR”モードは、HDDのパーティションをドライブに選択したときのみ選択でき、内蔵HDDのパーティションとDVD-RAMディスクを対象とした、デュアル・ドライブ・レコーディングを実行する際に使用します。
Physical Format	DVD-RAMディスク（またはHDDのパーティション）を、物理フォーマットするかしないかを選択します。

## 4) 用途に応じた項目を選択して設定します。

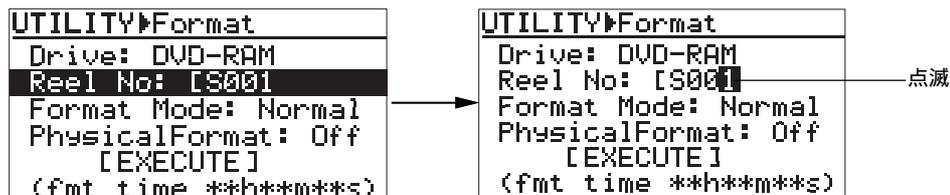
## ドライブの選択：

前述の第1階層画面の“Drive”が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押します。現在選択されているドライブ(またはパーティション)が点滅し、[MENU] ダイアルで希望のドライブ(“DVD-RAM”、“PT01 HD”～“PT16 HD”)が選択できます。選択後 [ENTER/YES] キーを押して確定すると、自動的に次項の“Reel No”が反転します。



## ボリューム・ラベルの設定：

“Reel No”が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押します。現在のボリューム・ラベルの右端(初期設定では“1”)が点滅し、[MENU] ダイアルまたは10キーで任意に入力できます。カーソルは [←←→→] キーで移動でき、最大8桁まで入力可能です。



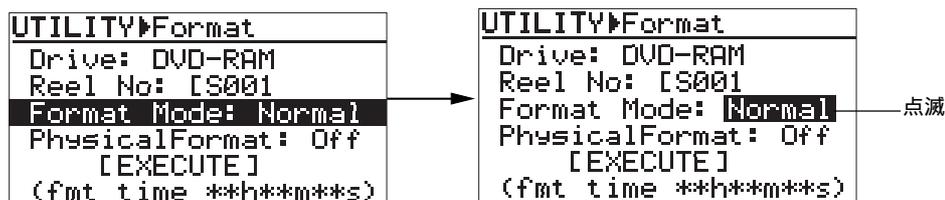
入力後 [ENTER/YES] キーを押して確定すると、自動的に次項の“Format Mode”が反転します。ボリューム・ラベルは初期設定のままでも構いません。フォーマット後であっても、同じ“DISK UTILITY”メニューにある“Reel No”メニューで再設定が可能です(208ページ参照)。

<注意>：不当なボリューム・ラベルを入力して確定しようとしても、“Illegal Name!”が表示されて設定は無効になります。

## フォーマット・モードの設定：

“Format Mode”が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押します。現在のフォーマット・モード(初期設定では“Normal”)が点滅し、“Normal”の他に“DDR”が選択できます。[MENU] ダイアルで希望のモードを選択後 [ENTER/YES] キーを押して確定します。

<注意>：ドライブを“DVD-RAM”に設定したときは、“DDR”が選択できません。



モード	詳細
Normal	<p>選択したディスク(またはパーティション)を、New Fileの作成モードでフォーマットします。通常の記録/再生を行うときに選択します(注意1を参照)。</p> <p>モードの設定後は、Physical FormatのOn/Offが設定可能になります。</p>
DDR	<p>デュアル・ドライブ・レコーディングを実行する際に選択し、HDDのパーティションをドライブに選択したときのみ選択が可能です(注意2を参照)。</p> <p>このモードでパーティションをフォーマットすると、DVDドライブのディスクが同時にフォーマットされ、デュアル・ドライブ・レコーディング時のミラー・ディスクが作成されます。その結果、パーティション内と同じデータをディスクへ同時に記録することができます。つまり、<b>“DDR”モードでフォーマットするときは、必ずミラー・ディスクとなるDVD-RAMディスクがドライブにセットされていなければなりません。</b></p> <p>モードの設定後は、Physical FormatのOn/Offが設定可能になります。</p>

**<注意1>** : DVD-RAMディスクを“Normal”モードでフォーマットする際、物理フォーマットを“Off”にしても「簡易ゴミ付着検査」および「Defect検査」を行います。しかし、全てのゴミや欠陥を検出できるものではありませんので、ご承知置きください。

**<注意2>** : デュアル・ドライブ・レコーディングを実行するためのパーティションおよびDVD-RAMディスクは、あらかじめ“Normal”モードでフォーマットした後、再度“DDR”モードでフォーマットすることをお勧めします。

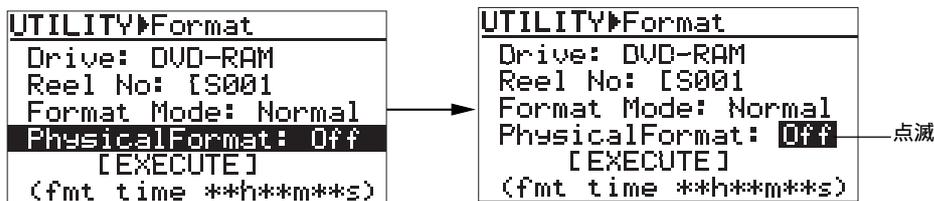
**<注意3>** : “DDR”モードでパーティションをフォーマットしたとき、ミラー・レコーディング用のミラー・ディスクには単独で直接記録することはできません。記録可能にするには、そのディスクを“Normal”モードで再フォーマットしてください。

**物理フォーマットのOn/Off設定:**

“Normal”モードまたは“DDR”モードでフォーマットするとき、物理フォーマットのOn/Offが設定できます。

“Physical Format”が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押します。

現在の設定(初期設定では“Off”)が点滅し、[MENU]ダイヤルで“On”に設定できます。



On	DVD-RAMディスク(またはHDDのパーティション)全体の物理フォーマットを実行します。フォーマットには時間がかかりますが、使い込んだディスク(またはパーティション)に対して、適正な再フォーマットが行えます。
Off	DVD-RAMディスク(またはHDDのパーティション)の簡易フォーマットを実行します。比較的新しいディスク(またはHDDのパーティション)をフォーマットするのに適しています。特にDVD-RAMディスクのフォーマット時では、簡易的なゴミ付着/欠陥検出などを行ってフォーマットします。

**<注意>** : 物理フォーマットの実行中は、絶対に電源を切らないでください。

**<注意>**：物理フォーマットには長い時間を必要とします。  
 通常使用時、音飛びなどDVD-RAMディスクまたはHDDのアクセスが遅くなって来た場合には、物理フォーマットを実行してください。  
 比較的新しいディスクの物理フォーマットは必要ありませんが、“Normal”または“DDR”モードに関わらず自動的に物理フォーマットが“On”に設定され、“Off”に設定できなくなることがあります。これは、本機が現在フォーマットしようとしているDVD-RAMディスク、またはHDDの物理フォーマットが必要と判断しています。このような場合には、必ず物理フォーマットを実行するようにしてください。

設定後 [ENTER/YES] キーを押すと、自動的に “[EXECUTE]” が反転する画面に変わります。

```
UTILITY▶Format
Drive: DVD-RAM
Reel No: [S001
Format Mode: Normal
PhysicalFormat: Off
[EXECUTE]
(<fmt time **h**m**s>)
```

5) “[EXECUTE]” が反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。

警告表示に変わり、“Are you sure?” が点滅します。  
 フォーマットを中止するときは [EXIT] キーを押してください。

```
UTILITY▶Format
Drive: DVD-RAM
Reel No: [S001
Format Mode: Normal
PhysicalFormat: Off
[EXECUTE]
(<fmt time **h**m**s>)
```

→

```
UTILITY▶Format
---CAUTION---
If ENTER key is push-
ed, will start format-
ting and delete INT
DVD-RAM area data.
Are you sure?           
```

点滅

6) 続けて [ENTER/YES] キーを押します。

フォーマットの進行を示す画面に変わり、終了と同時に “Fmt Completed!” が点灯します。

```
UTILITY▶Format
---FORMATTING!---
Drive: DVD-RAM
Time: **H**M**S
0            50            100%
█          |          |          |
```

→

```
UTILITY▶Format
---FORMATTING!---
Fmt Completed!
```

**<注意>**：処理状況を示すリメイン値やバーグラフは、おおよその目安として表示しています。“Completed!” が点灯するのを確認してから次の操作を行ってください。

7) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

**<注意>**：パーティションが立ち上がっている状態でDVD-RAMディスクをフォーマットしても、フォーマット後DVDドライブが立ち上がることはありません。なお、DVDドライブが立ち上がっている状態で任意のパーティションをフォーマットした場合は、フォーマット終了後MENUモードから抜け出すと、自動的にパーティションが立ち上がります。

## リール・ナンバーのエディット (Reel No)

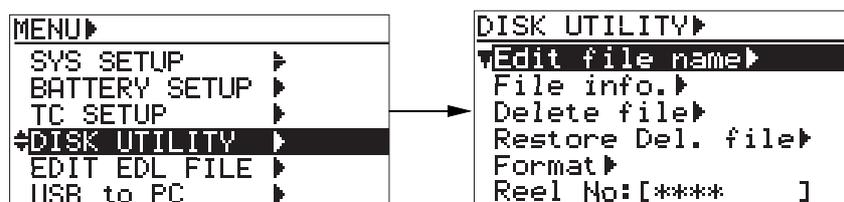
既に登録されているDVD-RAMディスク(またはパーティション)の、Reel Numberを任意に編集して、再登録します。ここで設定するReel Numberは、Volume Labelにも反映されます。

なお、Reel Numberの変更は、現在ドライブに設定されているDVD-RAMディスク(またはパーティション)に対して有効です。

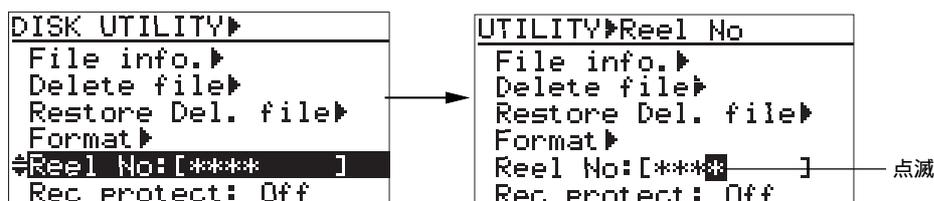
下記操作は、あらかじめReel Numberを編集したいディスク(またはパーティション)が立ち上がっていることを前提にしています。

**<注意>** :デュアル・ドライブ・レコーディングを行ったパーティションのReel Number (Volume Label)を変更した場合、変更した内容はデュアル・ドライブ・レコーディング対象のDVD-RAMディスクに対しても反映されます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイヤルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで“Reel No”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在設定されているReel Numberの右端が点滅し、リール・ナンバーの編集が可能になります。



- 4) [MENU] ダイヤルまたは10キーを使って、希望のReel Numberを入力します。  
カーソルは[←] [→] キーで移動します。文字/数字の入力キーで入力する場合には、押すキーが変わると自動的にカーソルが移動します。Reel Numberは最大8桁まで入力できます。

[CLEAR] キーを押すと、カーソルより右にある文字/数字がクリアできます。

- 5) リール・ナンバーを入力後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。
- 6) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

## 記録禁止の On/Off 設定 (Rec protect)

オーディオ・ファイル単位で、記録禁止（プロテクト）の On/Off を設定します。  
設定可能なファイルは、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルです。

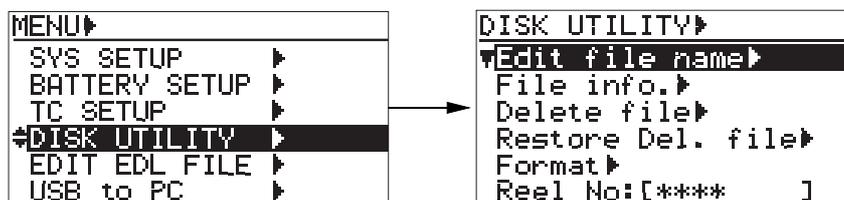
下記操作は、プロテクトをかけたいオーディオ・ファイルが立ち上がっていることを前提にしています。

<注意>：プロテクトのかかったオーディオ・ファイルでは、ファイルに対する編集は行なえません。

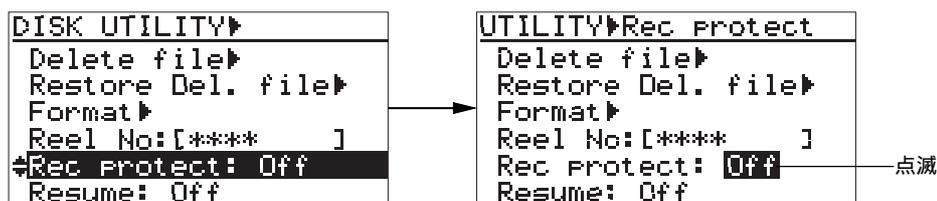
<注意>：ドライブに選択されている DVD-RAM ディスク（またはパーティション）に何もオーディオ・ファイルが無い状態では、“Rec Protect”メニューの表示は“**Rec Protect: ---**”となります。これは、対象となるオーディオ・ファイルが見当たらないことを示しており、実行しようとしても“**Void!**”が表示されて設定することができません。

<注意>：本機では、内蔵 HDD の各パーティションにもプロテクトをかけることができます。詳細は次項の“**Part Protect**”メニューを参照してください。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Rec protect”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅して、記録禁止機能が選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。



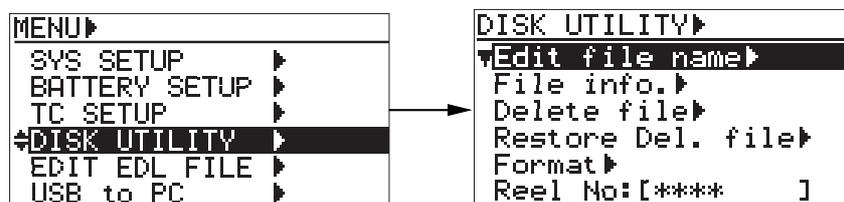
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## レジューム機能の On/Off 設定 (Resume)

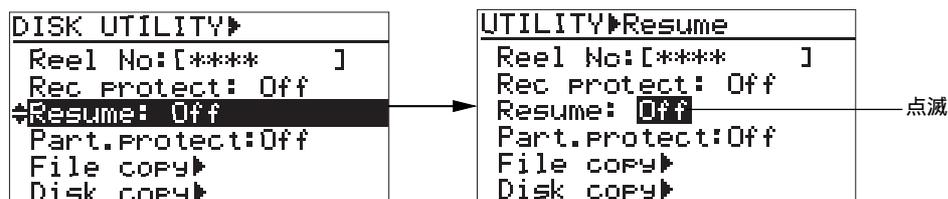
レジューム機能とは、DVD-RAMディスクをイジェクトするときに(またはパーティションを切り替える)現在立ち上がっているオーディオ・ファイル、および停止位置を Resume ファイルに保存するか、しないかを設定する機能です。

この機能を ON に設定しておく、Resume ファイルに保存されている情報を基に、初期ロードすることができます。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITY メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Resume”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅してレジューム機能が選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

設定項目
“On” または “Off” が選択可能 (初期設定 : Off)

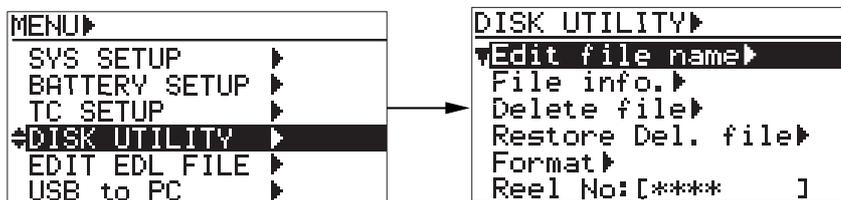
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## パーティションのプロテクト設定 (Part. protect)

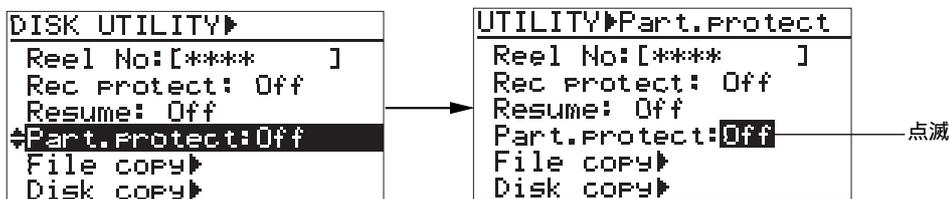
内蔵HDDのパーティションがドライブに選択されているとき、そのパーティションに対してソフト・プロテクトをかけることができます。下記操作は、プロテクトをかけたいパーティションが、記録ドライブとして選択されていることを前提にしています。

**<注意>** : パーティションが記録ドライブに選択されていないときは、“Part. protect: ---”表示になります。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで “DISK UTILITY” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで “Part. protect” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅してプロテクト機能が選択可能になります。



- 4) [MENU] ダイアルで選択した後、[ENTER/YES] キーを押して確定します。

設定項目
“ On ” または “ Off ” が選択可能 (初期設定 : Off)

- 5) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

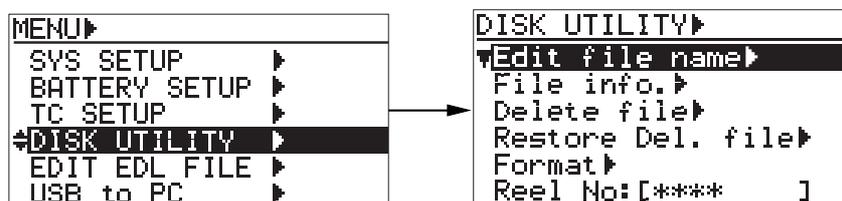
**<注意>** : プロテクトがONに設定されたパーティションのHome画面、およびドライブ・セレクト画面において、プロテクトがかかっていることを示す、「鍵マーク (🔒)」が点灯します。

## 内蔵HDDのオペレーション時間表示 (HDD Ope. Time)

内蔵HDDのオペレーション時間（通電時間）を表示します。

**<注意>**：内蔵HDDおよび交換用のオプションHDD (Model EX-HD1)は、工場出荷時にイニシャル・フォーマットされています。そのため、ここで表示する時間は工場出荷前のフォーマットや検査などに要した時間も含まれています。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
DISK UTILITYメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“HDD Ope. Time”を選択すると、現時点におけるHDDの通電時間が表示されます（下記矢印部分）

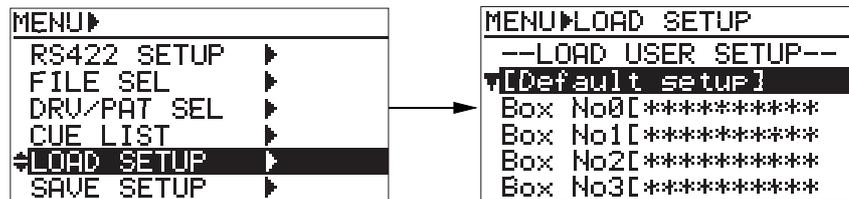


- 4) 確認後 [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。

# LOAD SETUPメニュー

“LOAD SETUP”メニューでは、次項の「SAVE SETUPメニュー」においてセーブされている、セットアップ・データをロードします。あらかじめセーブしたユーザー・セットアップ・データ (Box No0 ~ Box No6) と、デフォルト・セットアップ・データから任意に選択してロードが可能です。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“LOAD SETUP”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
ロードしたユーザー・ボックス (またはデフォルト・セットアップ) を選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで希望のユーザー・ボックス (または “[Default setup]”) を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
速やかにロードが行われ、“Completed!” が点灯した後 MENU モードのメイン・メニュー選択画面に変わります。

<注意> : “[Default setup]” を選択してロードしたときは、“SYS SETUP”メニューの設定は全て初期化されます。なお、“[Default setup]”以外のユーザー・ボックスをロードしたときには、セーブされている設定がロードされます。

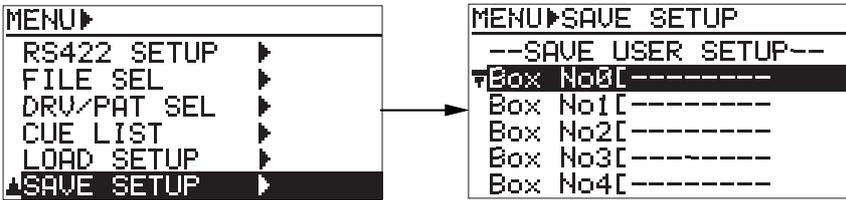
- 4) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

# SAVE SETUPメニュー

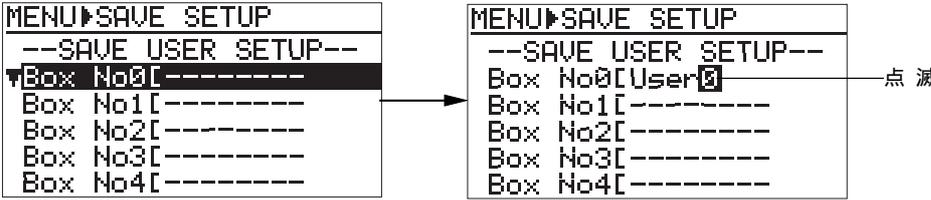
“SAVE SETUP”メニューでは、設定したセットアップ・データを一括してユーザー・ボックスへセーブします。セーブしたセットアップ・データは、必要に応じて前述の“LOAD SETUP”メニューを使って、任意にロードすることができます。

**<注意>**：デフォルト・ファイル・ネーム / デフォルト・トラック・ネーム、およびイベント・ナンバーの設定は、セーブされません。

- 1) 停止状態で [SHIFT] キーを押した後、[ENTER/YES] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで“SAVE SETUP”を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
セーブするためのユーザー・ボックスを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで希望のユーザー・ボックスを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
ユーザー・ボックスのネームを入力する画面に変わります (例：User0 の “0” が点滅します)。



**<ユーザー・ボックスの選択>**

**設定範囲**

ボックス・ナンバー 0 ~ 6 (Box No0 ~ Box No6) から任意に選択可能。

**<ネームの入力>**

**設定範囲**

最大8桁までのASCII文字が入力できます。カーソルは [←] / [→] キーで移動し、[CLEAR] キーを押すと現在表示されているネームがクリアできます。カーソル位置で、[MENU] ダイアルまたは 10 キーで、ネームが入力できます。

- 4) ボックス・ネームを入力した後、[ENTER/YES] キーを押してセーブします。  
速やかにセーブが行われ、“Completed!” が点灯した後 MENU モードのメイン・メニュー選択画面に変わります。
- 5) [EXIT] キーを押していき、MENU モードから抜け出します。

## 第9章 製品の主な仕様

## 入出力

\* 0dBu = 0.775Vrms、0dBV = 1Vrms 基準レベル : -20dBFS

ANALOG INPUT (CH1 ~ 6)	コネクタ	: XLR-3-31 タイプ ( バランス、2 番ホット )
	LINE	入力インピーダンス : 10k 以上
		基準入力レベル : +4dBu ~ -32dBu
		最大入力レベル : +24dBu
	MIC	入力インピーダンス : 2k 以上
	基準入力レベル : -34dBu ~ 70dBu	
	最大入力レベル : -14dBu	
ANALOG OUTPUT (TRK1 ~ 6)	コネクタ	: XLR-3-32 タイプ ( バランス、2 番ホット )
	適合負荷インピーダンス	: 10k 以上
	基準出力レベル	: +4dBu
	最大出力レベル	: +24dBu
STEREO BUS OUT	コネクタ	: XLR-5-32 5PIN タイプ ( バランス )
	適合負荷インピーダンス	: 10k 以上
	基準出力レベル	: +4dBu/-10dBu/-60dBu ( MENU モードの " Stereo out level " で切り換え可能 )
	最大出力レベル	: +24dBu
PHONES	コネクタ	: 6mm ステレオ・フォン・ジャック
	適合負荷インピーダンス	: 32 以上
	最大出力レベル	: 200mW ( 32 )
DIGITAL IN/OUT	コネクタ	: D-sub 25pin
	フォーマット	
	< 入力 >	: IEC60958 Part 2 ( S/P DIF ) / IEC 60958 Part 3 ( AES/EBU ) を自動判別
	< 出力 >	: IEC60958 Part 2 ( S/P DIF ) / IEC 60958 Part 3 ( AES/EBU ) を MENU モード の " Digital out " で設定
TIME CODE IN	コネクタ	: XLR-3-31 タイプ ( バランス、2 番ホット )
	フォーマット	: SMPTE/EBU
	入力インピーダンス	: 20k 以上
	基準入力	: 2V p-p
	最小入力レベル	: 0.25V p-p
TIME CODE OUT	コネクタ	: XLR-3-32 タイプ ( バランス、2 番ホット )
	フォーマット	: SMPTE/EBU
	出力インピーダンス	: 1k 以下
	基準出力	: 2V p-p
	適合負荷インピーダンス	: 600 以上
VIDEO/WORD IN	コネクタ	: BNC タイプ ( 自動切換え )
	基準入力レベル	: TTL レベル ( 75 Ω ターミネート SW 付 )
WORD OUT	コネクタ	: BNC タイプ
	基準出力レベル	: TTL レベル
PARALLEL REMOTE	コネクタ	: MINI DIN 8pin ( メス )
9P-REMOTE	コネクタ	: D-sub 9pin
USB (KYBD)	コネクタ	: USB Series A Receptacle
USB (PC)	コネクタ	: USB Series B Receptacle
USB (HOST)	コネクタ	: USB Series A Receptacle
DC IN	コネクタ	: XLR-4-32 タイプ ( オス )
	入力電圧	: DC12V ~ 24V

DC OUT	コネクタ	: Hirose 4pin (メス)
		適合プラグ: HIROSE HR10A-7P-4P
	出力電圧	: DC12V ~ 24V (Max.0.5A)

## 記録 / 再生

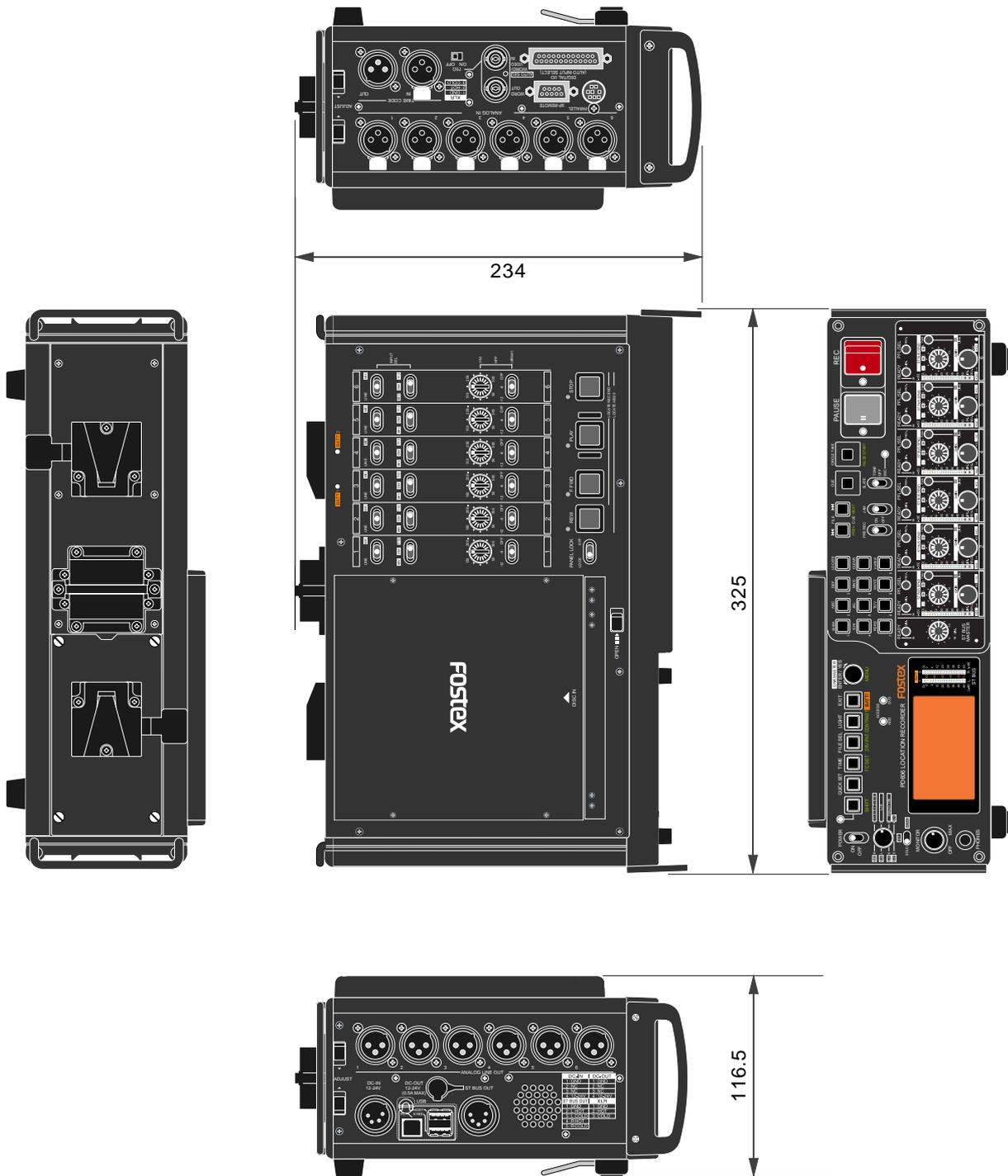
記録媒体	: DVD-RAM、DVD-R/RW、CD-R/RW (DVD-R/RW、CD-R/RWはデータ・バックアップのみ対応)
	: 1.8 インチ ハードディスク・ドライブ
FS / 量子化ビット数	: 44.1kHz/48kHz 16bit
	: 44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz/176.4kHz/192kHz 24bit
記録トラック	: 最大 8 トラック
トラック・モード	: 1 track: 44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz
	2 track: 44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz
	3 track: 44.1/48/88.2/96kHz
	4 track: 44.1/48/88.2/96kHz
	5 track: 44.1/48kHz
	6 track: 44.1/48kHz
	1 track+ST BUS: 44.1/48kHz
	2 track+ST BUS: 44.1/48kHz
	3 track+ST BUS: 44.1/48kHz
	4 track+ST BUS: 44.1/48kHz
	5 track+ST BUS: 44.1/48kHz
	6 track+ST BUS: 44.1/48kHz
記録 / 再生周波数	: 20Hz ~ 20kHz ± 1dB (FS 44.1/48kHz)
	: 20Hz ~ 40kHz ± 2dB (FS 88.2/96kHz)
	: 20Hz ~ 70kHz ± 3dB (FS 176.4/192kHz)
S/N (ADC DAC 間、24bit、Ref: -20dBFS、Fs: 48kHz)	: 107dB (Typical)
LINE (INPUT GAIN: +4dBu)	: 107dB (Typical)
ダイナミック・レンジ (ADC DAC 間、24bit、Ref: -20dBFS、Fs: 48kHz、LINE)	: 105dB (Typical)
リファレンス・レベル	: -20dBFS
T. H. D.	: 0.003% 以下 (1kHz, -1dBFS, ADC-DAC, 24bit REF.: -20dBFS fs: 48kHz) (Typical)
ロケート・メモリー	: CUE ポイント 100 個

## 一般

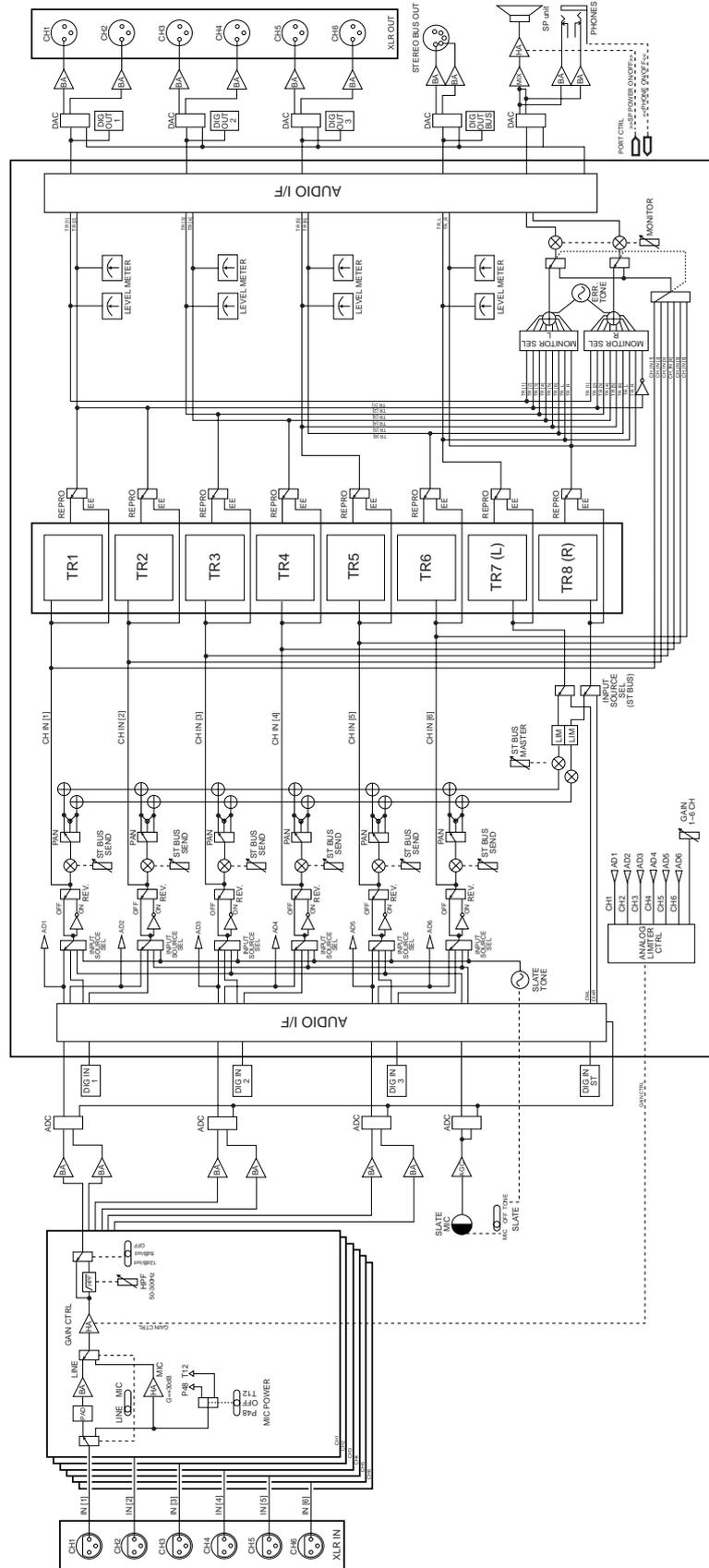
外形寸法	: 116.5 (H) × 325 (W) × 234 (D) mm
本体質量	: 約 3.4kg
電源	: 専用 AC アダプタ、DC11.5V ~ 24V
	: IDX エンデュラ・バッテリー (別売)
消費電力	: 約 19W 15V, 約 1.3A

- \*  は、DVD フォーマット ロゴ ライセンシング株式会社の登録商標です。
- \* 製品の外観や規格は、改良のため将来予告なく変更することがあります。
- \* IDX、IDX (ロゴ)、ENDURA、V-Mount、V-Plate、Digi-View、i-Trax は、アイ・ディー・エクス社の登録商標です。

# 外觀図



# ブロック・ダイアグラム



# 索引

## <あ (ア) >

IDX.....	22
アクセスLED.....	47
アナログ信号の接続.....	62、65
アナログ・オーディオ信号の記録.....	86
iXML Chunkデータ.....	198
@マーク.....	128
イジェクト・レバー.....	27
位相.....	81
一番最後にロケートした位置へ再ロケート.....	101
Immediately.....	106
INT (Internal).....	181
イベント・ナンバー.....	143
エラー・トーン.....	78、165
LTCスタート時間.....	190、191
ALEファイル.....	123
オート・コピー.....	106
オート・コピー・モード.....	107
オーバー・ロード.....	88
ACアダプタ.....	22、28
エンデュラー・バッテリー.....	22
オプション.....	19
オペレーション時間.....	212

## <か (カ) >

カレント・ドライブ.....	58、86
記録前の準備.....	74
鍵マーク.....	58、211
記録のやり直し.....	88、152
キーボード.....	66、153
記録ソース.....	77、146
記録禁止.....	209、211
書き込みエラー.....	165
基準出力レベル(ステレオ・バス).....	161
キュー・モードの再生.....	99
CUEポイントの記録.....	95
CUEポイントの編集.....	96
記録トラック.....	85
CUEポイントのスキップ.....	100
グルーピング.....	159
クイック・セットアップ・モード.....	74
コントローラの接続.....	68
コントラスト.....	30

## <さ (サ) >

再生.....	98
Sound Sequence情報.....	200
サンプリング周波数.....	76、91、144
再生TCのUBIT.....	192
最終記録位置へのロケート.....	101
サイド・パネル(左).....	40
サイド・パネル(右).....	42

最大記録容量.....	78、155
Circle Take(サークル・テイク).....	128
初期フォーマット.....	34
シーン・ネーム.....	141
ジャム・モード.....	188
収録時の接続.....	70、71
スピーカのミュート.....	164
スレッシュホールド・レベル.....	159
スレート・トーン.....	90、150
スレート・マイク.....	90
スキップ.....	99
ステレオ・バス.....	65、83
ステータス表示.....	57
Safe/Ready.....	84
セットアップ・データの保存.....	214
セットアップ・データのロード.....	213
接続.....	61
ゼロ・クロス.....	81

## <た (タ) >

タイムコード入力による自動記録.....	93、194
タイムコードの出力.....	65、93、189
タイム表示.....	56
タイムコードの接続.....	63、65
タイム・データのロケート.....	102
タイムコードの記録.....	92
タイムコードの記録モード.....	78、92、183
チャンネルのリンク.....	82
通電時間.....	212
DDRモード.....	115、206
Digi in.....	181
電源の優先順位.....	174
ディスク・エラー.....	167
デジタル信号のフォーマット.....	147
Date.....	140
Take.....	140
デュアル・ドライブ・レコーディング.....	115
ディスク・コピー.....	109
デジタル・オーディオ信号の記録.....	91
デジタル入力チャンネル.....	91、146
電源の接続.....	69
デジタル信号の接続.....	63、65
ディスプレイ.....	56
ディスク・リメイン.....	58
ディスク.....	33
トップ・パネル.....	53
ドライブの選択.....	86、106、109、112
トラック・ネーム.....	142
同期信号.....	63、65
動作クロック.....	75、91、181

## <な (ナ) >

内蔵TCジェネレータのOFFタイマー.....	195
-------------------------	-----



**Fostex** フォステクス カンパニー

国内営業グループ

196-0021 東京都昭島市武蔵野 3-2-35

042-546-6355 FAX. 042-546-6067

## Model PD606 取扱説明書

<バージョン 1.03 対応 追補版>

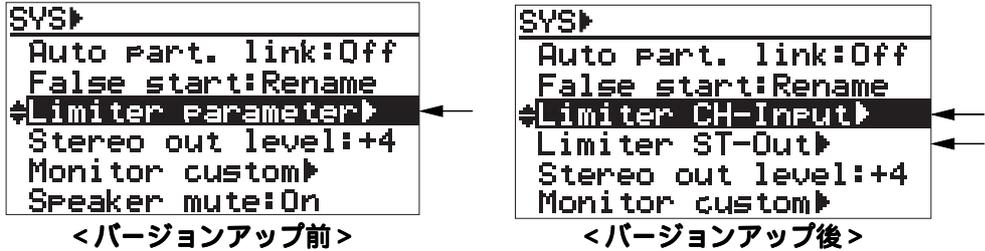
この製品はソフトウェアがV1.03にバージョンアップされ、下記機能が拡張/変更されています。

- (1) MENUモードのSYS SETUPメニューにある、リミッターのパラメータ設定を拡張
- (2) ディスク・コピーを実行するときの、キー操作を変更

内蔵リミッターのパラメータを設定する場合、またはディスク・コピーを実行する場合は、取扱説明書・本文と併せてこの追補版をお読みください。

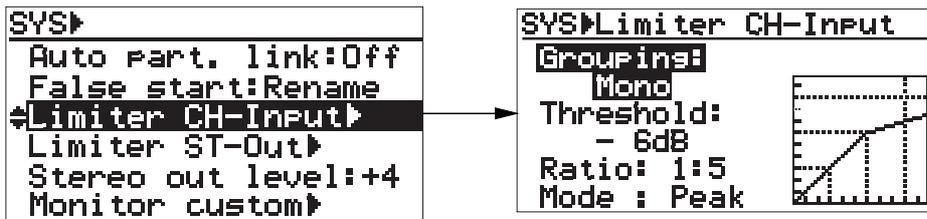
# リミッターのパラメータ設定

MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Limiter parameter”(リミッターのパラメータ設定)を拡張し、インプット・チャンネル1～6に機能するパラメータとST BUSチャンネルに機能するパラメータを、個々に設定することが可能になりました。これにより、取扱説明書・本文(159ページ)に記載されているSYS SETUPメニューの選択画面にある“Limiter parameter”を、“Limiter CH-Input”と“Limiter ST-Out”に変更しました。



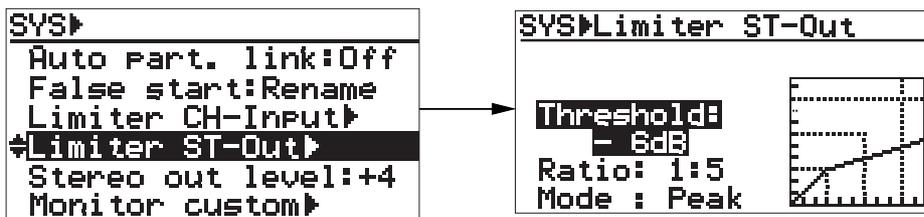
### チャンネル1～6のパラメータを設定 (Limiter CH-Input)

SYS SETUPメニューの選択画面から“Limiter CH-Input”を選択して、[ENTER/YES]キーを押します。パラメータを設定する画面に変わり、「グルーピング」、「スレッシュホールド・レベル」、「レシオ」および「リミッターのレベル検出モード」が設定できます。



### ST BUSチャンネルのパラメータを設定 (Limiter ST-Out)

SYS SETUPメニューの選択画面から“Limiter ST-Out”を選択して[ENTER/YES]キーを押します。パラメータを設定する画面に変わり、「スレッシュホールド・レベル」、「レシオ」および「リミッターのレベル検出モード」が設定できます。



<注意> : ST BUSのリミッターは常にL/Rがグルーピングされているため、Limiter ST-Outにはグルーピングの設定項目がありません。

### グルーピングの設定 (Limiter CH-Input 選択時のみ)

“Mono”または“1-6”が選択可能(初期設定: “Mono”)	
Mono	各インプット・チャンネルのリミッター・レベルに合わせて、個々にリミッターがかけられます。
1-6	チャンネル1～6がグルーピングされ、グループ内で一番レベルの高いチャンネルのリミッター・レベルが、他のグループ・チャンネルにも反映されます。これにより、リミッターが機能しても全チャンネルが同様に減衰されるため、ステレオなどの定位が移動することはありません。

## スレッシュヨルド・レベルの設定

“-6dBFS” または “-12dBFS” が選択可能 (初期設定: “-6dBFS”)

## レシオの設定

“1:3” または “1:5” が選択可能 (初期設定: “1:5”)

## リミッターのレベル検出モード設定

“Peak” または “RMS” が選択可能 (初期設定: “Peak”)

<b>Peak</b>	選択したスレッシュヨルド・レベルに対し、Peak レベル値でリミッターが動作します。スレッシュヨルド・レベルが “-12dBFS” でこのモードを選択すると、従来のアナログ方式のリミッターと比べて、リミッターのかかりがより強く感じます。そのため、このモードで使用するときは、スレッシュヨルド・レベルを “-6dBFS” に設定することをお勧めします。
<b>RMS</b>	選択したスレッシュヨルド・レベルに対し、RMS レベル値でリミッターが動作します。このモードではVUレベルに近いレベルでリミッターが動作するため、従来のアナログ方式のリミッターに近似したリミッターがかけられます。

**<注意>** : RMS モードで動作できるのはFSが最大48kHzまでで、それ以上のFSでは設定に関わらず Peak モードで動作します。

## ディスク・コピー実行時のキー操作

「ディスク・コピー」を実行する場合の、キー操作を変更しました。ディスク・コピーの詳細については、取扱説明書・本文の109ページをお読みください。

### 変更前のキー操作 (本文111ページ記載の操作方法)

下記警告メッセージを確認後、**[ENTER/YES]** キーを押します。

```

---CAUTION---
If ENTER key is push
-ed, will start Disk
Copying and delete
DVD-RAM area data.
Are you sure?
Finish time:01M13S

```

### 変更後のキー操作

下記警告メッセージを確認後、**[REC]** キーを右へスライドさせながら **[ENTER/YES]** キーを押します。

```

---CAUTION---
If REC+ENTER key is
pushed, will start Dis
-k Copying and delete
DVD-RAM area data.
Are you sure?
Finish time:01M13S

```

**Fostex**

フォステクス カンパニー

国内営業・企画販促グループ

196-0021 東京都昭島市武蔵野 3-2-35

042-546-6355

FAX. 042-546-6067

フォステクス ホーム・ページ <http://www.fostex.jp>

## Model PD606 取扱説明書

<バージョン 1.10 対応 追補版>

ソフトウェアを 1.10 にバージョンアップして PD606 が ES-BUS 対応となり、MENU モードの RS422 SETUP メニューが機能するとともに、同じく MENU モードの SYS SETUP メニューにある “Default file name” の設定項目を拡張しました。

さらには、「Free Runモードにおける内蔵TCジェネレータの補間機能」と「Post Recordingのキャンセル機能」を追加しました。

本書ではバージョンアップに伴う新たな機能についてのみ記載していますので、取扱説明書・本文およびその他の追補版と併せてお読みください。

# 目 次

<b>Default file nameメニュー</b> .....	<b>3</b>
Default file nameメニューの操作手順.....	3
Default file nameメニューの設定項目.....	3
<b>RSS422 SETUPメニュー</b> .....	<b>4</b>
RS422 SETUPメニューの操作手順.....	4
RS422 SETUPメニューの設定項目.....	4
<b>ESマスター-スレーブ・コントロール機能</b> .....	<b>6</b>
ESマスター-スレーブ設定時のディスプレイ.....	6
マスター機からスレーブ機に発行されるコマンド.....	6
アプリケーション.....	8
1.同時レコーディング.....	8
2.同時再生(通常のソング再生).....	9
3.ファイルのリネーム.....	10
4.False Start.....	10
<b>内蔵TCジェネレータの補間機能</b> .....	<b>10</b>
<b>Post Recordingのキャンセル機能</b> .....	<b>10</b>

## Default file name メニュー

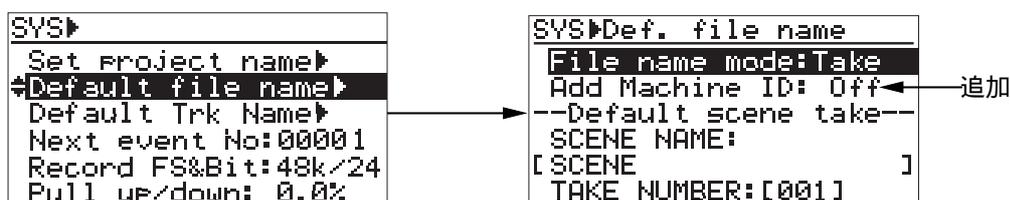
MENUモードの“SYS SETUP”メニューにある“Default file name”を拡張し、“Add Machine ID”のON/OFF設定項目を追加しました。

これは、V1.10のPD606がES-BUS対応になるため、複数台のPD606（またはPD204、DV824との複数）を同時に記録開始した場合、全てのファイルが同一のファイル・ネームになることを防ぐための設定です。

“Add Machine ID”を“On”にしておくと、個々のファイル・ネームの拡張子の前にDevice IDが自動的に付加され、複数台同時に記録しても個々のファイルを区別して管理することが可能になります。

### < Default file name メニューの操作手順 >

停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押して MENU モードへ入り、“SYS SETUP”メニューにある“Default file name”を選択して [ENTER/YES] キーを押すと、下記 Default file name の設定画面に変わります。下記画面にある“Add Machine ID: Off”が追加された設定項目です（注意：取扱説明書・本文にはバージョンアップ前の画面が記載されています）。



### < Default file name メニューの設定項目 >

#### File name mode

“File name mode: Take”が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押すと、ファイル・ネーム・モードの選択が可能になり、[MENU] ダイアルで下記いずれかのモードが選択できます。

<b>Date</b>	RTCのタイム・データがファイル・ネームに設定されます。
<b>Take</b>	“Scene name” + “Take number” がファイル・ネームに設定されます（初期設定）。
<b>Reel</b>	“Reel Number” + “File number” がファイル・ネームに設定されます。

\* 詳細は、取扱説明書・本文の140ページを参照してください。

#### Add Machine ID（新たに追加された項目）

MENUモードの“RS422 SETUP”メニューで設定するES Device IDを、ファイル・ネームに付加するかしないかを設定します。“Add Machin ID: Off”を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、On/Offの設定が可能になります（初期設定はOff）。“Add Machin ID: Off”をOnに設定するとDevice IDがファイル・ネームに付加され、Home画面上に表示します（次ページ参照）。設定内容はFlash ROMに保存されます。

#### SCENE NAME

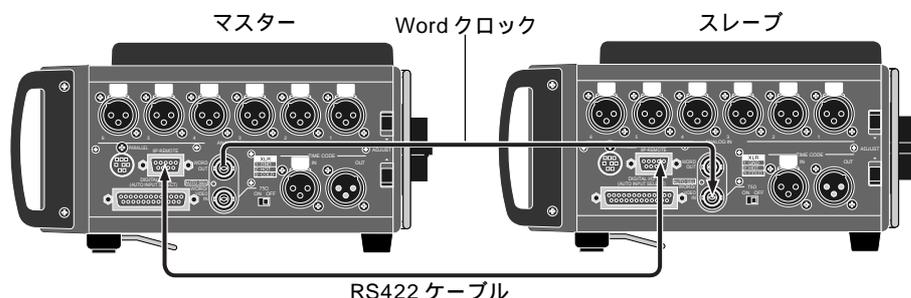
“SCENE NAME:”を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、Scene nameの入力が可能になります。本機で設定するScene nameは最大17文字までで、10キー / [MENU] ダイアル / USBキーボードで入力が可能です。入力方法の詳細は、取扱説明書・本文の140ページを参照してください。

#### TAKE NUMBER

Scene nameを入力後 [ENTER/YES] キーを押すと、Take numberの入力が可能になります。初期設定値は“001”で、10キー / [MENU] ダイアル / USBキーボードで入力できます。このTake numberは、File name modeが“Take”時のファイル・ネームの一部として利用される以外に、メタデータのTakeデータとして全てのFile name modeで使用されます。また、新たな記録を実行するごとにナンバーが一つずつ増えていきます。詳細は、取扱説明書・本文の140ページを参照してください。

# RS422 SETUP メニュー

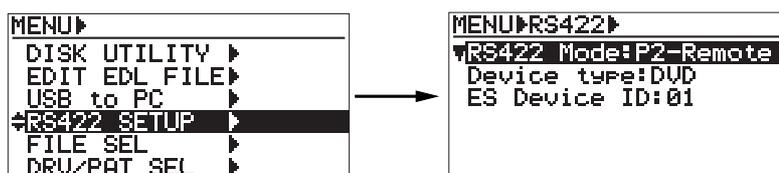
V1.10のPD606がES-BUS対応となり、MENUモードにある“RS422 SETUP”メニューが機能するようになりました。これにより、下記図例のように複数のPD606（またはPD204、DV824との複数）を接続し、RS422を介して同時記録/再生が可能になります。“RS422 SETUP”メニューでは、「RS422モード」、「デバイス・タイプ」、「ESデバイスのID」を用途に応じて設定できます。



\* ES-BUSでの接続では、上図のようにRS-422ケーブルの接続とともにマスターからスレーブへWordクロックを供給することをお勧めします。

## < RS422 SETUP メニューの操作手順 >

停止状態で [SHIFT] キーを押した後 [ENTER/YES] キーを押して MENU モードへ入り、“RS422 SETUP”メニューを選択して [ENTER/YES] キーを押すと、RS422 SETUP メニューの設定項目が表示されます。

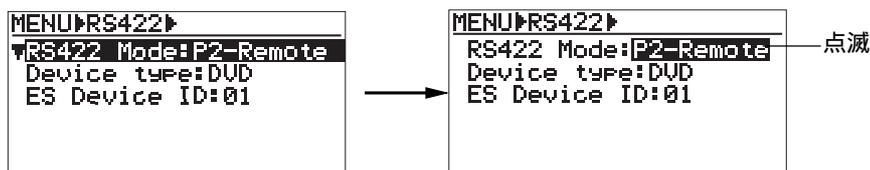


## < RS422 SETUP メニューの設定項目 >

### RS422 Mode

本機のコントロール先を設定します。

“RS422 Mode: P2-Remote” が反転している状態で [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して選択可能になります。[MENU] ダイアルで選択し、[ENTER/YES] キーを押して確定します。



RS422 Mode は初期設定の “P2-Remote” 以外に、下記いずれかのモードが選択できます。

<b>P2-Remote</b>	SONY P2 プロトコル準拠。PD606 本体の操作キー、および SONY P2 プロトコルの Controlled Device として機能します（初期設定）。次ページ記載の <注意> を参照。
<b>Local</b>	PD606 本体の操作キーのみを受け付け、RS422 は無視されます。
<b>ES-Slave</b>	ES-BUS + Fostex Exclusive Slave。PD606 本体のトランスポート操作キー、および ES-BUS のスレーブが有効となります。
<b>ES-Master</b>	ES-BUS + Fostex Exclusive Master。PD606 本体および ES スレーブ全てに対して、レコード・コントロールが可能です。

(\*) PD606 本体の操作キーを無効にする場合は、本体トップ・パネル部にある [PANEL LOCK] スイッチを “LOCK” に切り替えてください。

**<注意>**

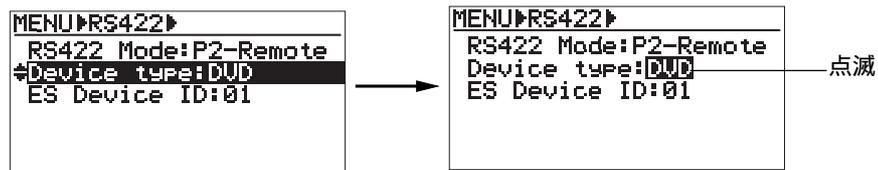
ES-Masterに設定した本機がSTOP状態では、Home画面上のファイル・ネーム表示部に“ -ES MASTER- ”が点灯します（ただし、PAUSEまたはREC中は、通常のファイル・ネーム表示に変わります）。

P2-RemoteはSONY P2プロトコルに準拠していますが、外部エディターには対応していません。PD606同士（またはPD204、DV824と接続）およびPCなどからの簡易コントロールのみが可能です。

## Device Type

使用するPD606のデバイス・タイプを設定します。

[MENU]ダイヤルで“ **Device type: DVD** ”を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して選択可能になります。[MENU]ダイヤルで選択し、[ENTER/YES] キーを押して確定します。



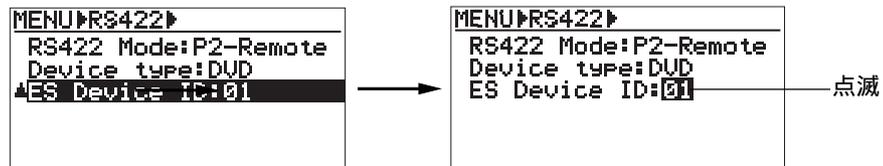
デバイス・タイプは、初期設定の“ **DVD** ”以外に“ **BVW75** ”が選択できます。

<b>DVD</b>	デバイス・タイプがPD606用に設定されます（初期設定）。
<b>BVW-75</b>	デバイス・タイプがBVW-75用に設定されます。

## ES Device ID

ES-BUSによる複数のPD606を接続する場合、それぞれのPD606に個々のDevice IDを設定します。

[MENU]ダイヤルで“ **ES Device ID: 01** ”を反転させて [ENTER/YES] キーを押すと、現在の設定が点滅して選択可能になります。[MENU]ダイヤルで選択し、[ENTER/YES] キーを押して確定します。



Device IDは、01～99の範囲で任意に設定できます。

ここで設定するDevice IDは、前述説明したDefault file nameに追加した“ Add Machine ID ”を“ On ”に設定することで、Home画面のファイル・ネームに反映されます（下記例を参照）。



ES Device IDを“ 01 ”に設定したHome画面



ES Device IDを“ 03 ”に設定したHome画面

**<注意>**

ES-BUSによってマスターおよびスレーブでコントロールされるデバイスは、全て固有のDevice IDを設定することをお勧めします。

ES-BUSでマスター・スレーブによるリンクでコントロールする際、Device IDをファイル・ネームに付加するためには、マスター側のDefault file nameにある“ Add Machine ID ”を“ On ”に設定する必要があります。

## ES マスター - スレーブ・コントロール機能

ES マスター - スレーブ・コントロールは、マスターに設定された 1 台の PD606 から、ES-BUS 接続されている全てのスレーブ機に対し、同時記録 / 同時再生を実行する機能を提供します。

この場合、ES マスターと ES スレーブは基本的に同一の Word クロックまたは Video Sync が接続され、同期信号にロックしていることが必要です（あるいは、ES マスターの Word Out に全ての ES スレーブをロックさせても構いません）。クロック・ロックを掛けないとマスターとスレーブ間で徐々にアドレス誤差が生じるため、注意が必要です。なお、PD606 では 1PPM の偏差精度が保証されます。

**<注意>** : ES-BUS での接続は、マスター / スレーブ 1 対 1 の接続が理想的ですが、ES マスター - スレーブ・コントロールのシステムにおいては複数台（2 ~ 3 台）パラレル接続しても、動作に支障を与えることはありません。

### ES マスター - スレーブ時のディスプレイ

#### ES-Master 設定時 :

本機が ES-Master に設定されて停止しているときは、ディスプレイの Home 画面ファイル・ネーム表示部に “-ES MASTER-” が点灯します。ただし、本機が PAUSE および REC 中は NEXT ファイル・ネーム（または記録中のファイル・ネーム）が表示されます。



#### ES-Slave 設定時 (グループ接続):

本機が ES-Slave に設定され、かつ ES-MASTER によってグループ（2 台以上）で BUS 接続されているときは、ディスプレイの Home 画面ファイル・ネーム表示部に “-ES GRP SELECTED-” が点灯します。



### マスター機からスレーブ機に発行されるコマンド

PLAY キー	<b>Instant Play コマンド</b> ES マスター、ES スレーブ全てが、同一アドレスから同じタイミングで再生を開始します。
STOP キー	<b>Stop + Set Song Position or Instant Locate コマンド</b>
PAUSE キー	Stop or Pause 時 : <b>Bus Select + Standby ON コマンド</b> ES マスターより Bus Select が実行され、すべてのスレーブを SONY P2 プロトコルで接続して Pause 状態に入ります。 Stop、Pause 時以外 : <b>Stop + Set Song Position or Instant Locate コマンド</b>
ABS 0 LOCATE	<b>Instant Locate コマンド</b>
ABS END LOCATE	<b>Instant Locate コマンド</b>

REC キー	<p><b>Set New File Name + Instant Rec コマンド</b> ES スレーブ機に対して、同一のファイル名または同一のファイル名 +ES Device ID のファイル名が、ES マスターより提供されます。</p> <p><b>Set LTC Start Position コマンド</b> 記録開始直後、ES マスター、スレーブ同一の LTC Start Position が、ES マスターより供給されます。</p>
CUE キー	<p><b>Instant Locate コマンド ( CUE Search )</b> 再生時の、ロケートのみが対応になります。</p>
LOCATE キー	<p><b>Instant Locate コマンド</b></p>
FALSE START キー	<p><b>False Start コマンド</b> ES マスターの False Start モードと同様の設定で、ES スレーブに対して False Start を実行します。</p>
<< FILE >>  キー	<p><b>Load Song File コマンド ( File Skip )</b></p>
PREV CUE NEXT キー	<p><b>Instant Locate コマンド ( CUE Skip )</b> 再生時の、ロケートのみが対応となります。</p>
FILE SEL キー	<p><b>Bus Select + Load Song File コマンド</b> ES マスターよりオーディオ・ファイルを選択し、実際のファイル・ロード開始に、前もって全ての ES スレーブに対して BUS SELECT が実行され、スレーブを SONY P2 プロトコルで接続します。次いで、ES スレーブに対して同一のオーディオ・ファイル名のロード・コマンドが発行され、ファイルのロードが行われます。ただし、“ ( {Machine ID} ) ” の部分は“ ( * ) ” のワイルド・カードに変換され、異なった ID のファイル名もロードの対象になります。 同一のファイル名が存在しないときは、直ちに ES-BUS の接続を IDLE 状態に戻し、以後新たな BUS-SELECT が実行されるまで、ES マスターのコマンドは受信できません。</p>
F FWD キー REW キー	<p><b>STOP コマンド</b> ES マスターが F FWD や REWIND 動作に入ったときは、それが CUE スピードの再生であっても、ES スレーブは STOP で待機します。</p>
PRE REC スイッチ	<p><b>Set Pre-Rec コマンド</b> ES マスターに設定されている Pre-Rec 時間も含め、ES スレーブに対して同一の設定コマンドを発行します。ただし、PD606 では Pre-Rec 時間のみの設定で、Rre-Rec モードの ON/OFF は無視されます。Rre-Rec モードの ON/OFF は、本体の [PRE REC] スイッチで手動で設定してください。</p>
PRE REC TIME Set	<p><b>Set Pre-Rec コマンド</b> MENU モードの SYS SETUP メニューにある “ Pre rec time ” の設定が、同時に BUS 接続されている ES スレーブに対しても同一の設定が行なえます。</p>
FS/BIT Set PULL UP/DOWN Set	<p><b>Set FS/BIT PULL UP/DOWN コマンド</b> MENU モードの SYS SETUP メニューにある “ Record FS&amp;Bit ” 設定と “ Pull up/down ” の設定が、BUS 接続されている ES スレーブに対して同一の設定が行なえます。</p>
EDIT FILE NAME Set	<p><b>Rename File Name コマンド</b> DISK UTILITY メニューの File name edit の編集結果に対して、BUS 接続されている ES スレーブのカレント・ファイル名に対し同一のファイル・ネーム変更が行なえます。ただし、“ ( {Machine ID} ) ” 部分はコマンド転送時 “ ( ## ) ” に変換されて送信されます。受信する ES スレーブでは、“ ## ” 部分を ES スレーブ機の Machine ID に置き換えてリネームされます。</p>

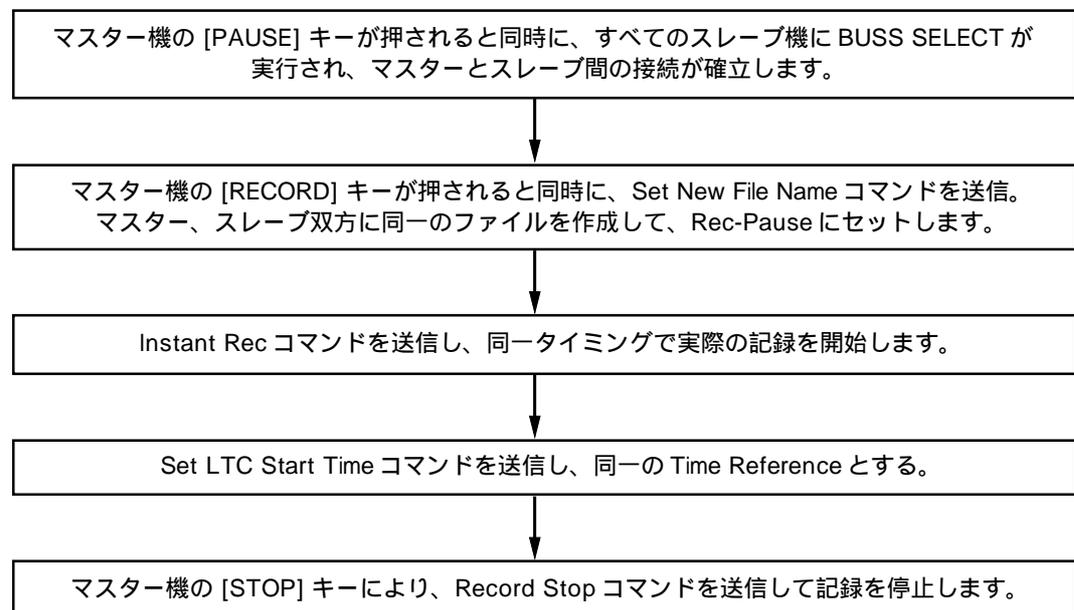
# アプリケーション

## 1. 同時レコーディング

1台のマスターがレコード・モードに入ると、接続されている全てのESスレーブに設定されている機器に対し、同様のRecordコマンドが発行される。なお、このときのルールは以下のようになります。

- 1-1. 接続されているスレーブ機とのBUS接続は、マスター機の [PAUSE] キーをONにすることで、全てのスレーブ機に対してGroup Bus Selectされ、ESCコマンドによってSONY P2プロトコルで片方向のみの接続が確立されます。
- 1-2. 全ての機器は、マスター機で決定される同一のファイル名が付加されます。ただし、Default file nameのAdd Machine IDがOnに設定されると、マスターおよびスレーブそれぞれのファイル名の拡張子の前には、固有のDevice IDがファイル名として付加されます。これにより、同一のファイル名が作成されることを防止できます。
- 1-3. 機器全てのBEXT ChunkのTime reference (LTC Time) は、マスター機によって決定される同一のTime Referenceが記録されます。したがって、全ての機器が同一時間に記録が開始されることを意味し、その誤差はES-Busの受信処理遅延誤差内となります(100 μ sec以内)。
- 1-4. マスター機からのコマンドは基本的にすべてがBroadcastで送信され、各スレーブのステータスには対応しません。

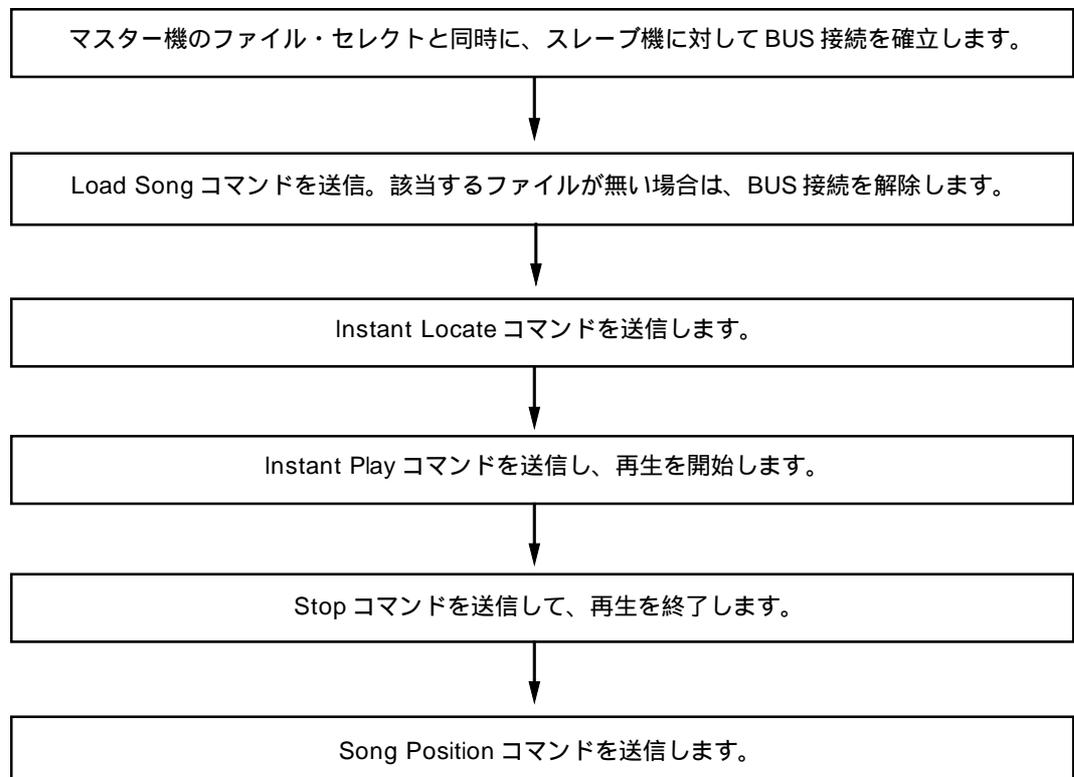
### Record の手順 : マスター機よりコマンドを発信



## 2. 同時再生 (通常のソング再生)

スレーブ機とマスター機はあらかじめ電源が入っていて、スレーブ機にはマスター機が再生するソングと同一のソングまたはパーティションを立ち上げておく必要があります。

- 2-1. マスター機は、ソングのファイル・セレクトを実行すると同時に、スレーブ機に対して Group Select による BUS 接続が行われ、片方向の SONY P2 プロトコルで接続されます。次いで、Load Song File コマンドでマスター機と同一ファイル名の Song Load を行います。このとき、目的のファイルが存在しないスレーブ機は、BUS 接続を解除します。  
ファイル名の“(XX)”が付加された部分は、“(\*\*)”に変換されて送信され、ワイルド・カード扱いとなります。
- 2-2. 再生目的のポジションにロケートを実行すると同時に、スレーブ機に対して Instant Locate コマンドを発行します。マスター機は十分なロケート時間を確保し、スレーブ機はいつ次の Instant Play コマンドが発行されてもいいように、ロケートを実行します。
- 2-3. Instant Play コマンドを発行し、受信のタイミングでマスター/スレーブ機ともに一斉に再生を開始します。
- 2-4. Stop コマンドの発行で、マスターおよびスレーブ機全ての機器が停止します。
- 2-5. スレーブ機に対し、正確な停止位置確保のため Song Position コマンドを発行します。
- 2-6. 必要に応じて 2-2、2-3 を繰り返し、再生時に確実なマスター-スレーブ(複数)のロックを補償します。



### 3. ファイルのリネーム

ES-BUS に接続されているスレーブ機は、マスターとファイルが同期（同一サウンド・トラック）のとき、マスターのファイル名を編集すると同時にスレーブ機に対しても Rename File Name コマンドが送信され、スレーブ機のファイルが編集されます。このとき“(##)”を設定すると、マスター/スレーブ双方において“(Device ID)”が自動的に付加されます(ただし、前もってBUS接続が確立していることが必要です)。

Rename コマンドを送信します。

### 4. False Start

マスターおよびスレーブ機の同時記録に対して、False Start が実行できます。マスター機は自分に対して False Start を実行すると同時に、スレーブ機にも同一の False Start モードで False Start コマンドを発行します。

## 内蔵 TC ジェネレータ の補間機能

通常 Free Run モードにおける内蔵 TC ジェネレータは、本機の電源をオフしても常に正確な時間を刻んでいますが、本機からバッテリーを外したり DC-IN を外してすべての外部電源が供給されない状態では、内蔵 TC ジェネレータは完全に停止してしまいます。

そのため、再度本機に外部電源を接続して電源を入れると、Free Run モードにおける内蔵 TC ジェネレータは再び“00h 00m 00s 00f”からスタートするため不連続となっていました。

このような状態を解消する目的で、内蔵 RTC に TC ジェネレータの補間機能を持たせました。

この機能は、上記のような状態で TC ジェネレータが停止した時点で、自動的に内蔵 RTC が RTC のクロック精度で TC ジェネレータを補間する機能です。これにより、再度外部電源を接続して電源を入れた場合でも、時間が途切れることなく連続した時間で TC ジェネレータがスタートします。

**<注意>**：PD606 の電源をオフした後すべての電源（AC アダプタ、バッテリー）が供給されていないと、Free Run モードの TC は RTC で補間されるのに対して、電源が供給されている状態では内蔵 TC ジェネレータが Free Run TC をジェネレートし続けます。しかし、RTC と内蔵 TC ジェネレータの精度には差があるため、再び電源をオンした際リスタートする TC の値には若干の誤差を生じることがあります。

## Post Recording のキャンセル機能

本機搭載の Pre Recording 機能では、記録終了時に Post Recording を実行した後自動的に停止するようになっていきます。また、Post recording 中はディスプレイにポップアップ画面が表示され、Post recording が終了するまでいずれの操作キーも受け付けませんでした。

バージョンアップにより、Post recording 中に [REC] キーの操作のみを受け付けるようにし、[REC] キーを押すと Post recording をキャンセルして通常の記録モードに戻すことができます。つまり、Post recording 中を示すポップアップ画面が表示されている間に [REC] キーを押すことで、同一ファイルの連続記録を可能にしました。

この機能は、本機を用いた ES-BUS 上でも機能します(ただし、ES-BUS で接続される DV824 には搭載されていないので、PD606 や PD204 と同様の動作は行えません)。

**<注意>**：Post Recording の時間は、MENU モードの“SYS SETUP”メニューにある“Pre rec time”で設定した時間実行されます(初期設定：10 秒)。  
“Pre rec time”が2秒や3秒という短い時間に設定されている場合はポップアップ画面の表示も短いため、Post Recording をキャンセルするには速やかに [REC] キーを押してください。



**Fostex** フォステクス カンパニー

国内営業グループ

196-0021 東京都昭島市武蔵野 3-2-35  
042-546-6355 FAX. 042-546-6067

## Model PD606 取扱説明書

<バージョン 1.30 対応 追補版 >

バージョン 1.30 の PD606 は USB メモリー対応となり、[USB (HOST)] ポートが使用可能になりました。これにより、FAT16/FAT32 の USB メモリーを使ってオート・コピーやファイル・コピーなどが実行できます(詳細は3ページからの説明をお読みください)。

また、本機で記録するオーディオ・ファイルを格納するためのフォルダーが、記録時自動的に作成される“BWFF”フォルダー以外に、手動で作成可能になりました(注意:USBメモリーでは実行できません、詳細は9ページからの説明をお読みください)。

本書ではバージョンアップに伴う新たな機能についてのみ記載していますので、本機をご使用いただくには取扱説明書・本文と併せてお読みください。

# 目 次

USBメモリーを使った機能について.....	3
[USB (HOST)] ポートの使用について.....	3
USBメモリーを使ったオート・コピー.....	4
USBメモリーを使ったファイル・コピー.....	5
USBメモリーにコピーしたオーディオ・ファイルの再生.....	6
USBメモリーのフォーマット.....	7
USBメモリーを使ったバージョンアップ.....	8
記録用フォルダーの作成.....	9
新規にフォルダーを作成する.....	9
フォルダー・ネームを編集する.....	10

## USB メモリーを使った機能について

本機が USB メモリー対応となり、FAT16/FAT32 の USB メモリーを使って以下の操作が可能になりました。

(1) オート・コピー / ファイル・コピーのコピー先に、USB メモリーが使用可能 ( 4、5 ページ )

(2) USB メモリーにコピーしたオーディオ・ファイル (BWF ファイル) の再生が可能 ( 6 ページ )

< 注意 > : USB メモリーへリアルタイムに記録することはできません。

(3) 本機 MENU モードの “ DISK UTILITY ” にある “ Format ” メニューで、USB メモリーのフォーマットが可能 ( 7 ページ )

< 注意 > : 本機で行う USB メモリーのフォーマットは、既にフォーマットされている FAT16 / FAT32 のまますべてのデータを消去 ( All Erase ) して、新たな Reel Number を付加します。

(4) USB メモリーを使って、本機ソフトウェアのバージョンアップが可能 ( 8 ページ )

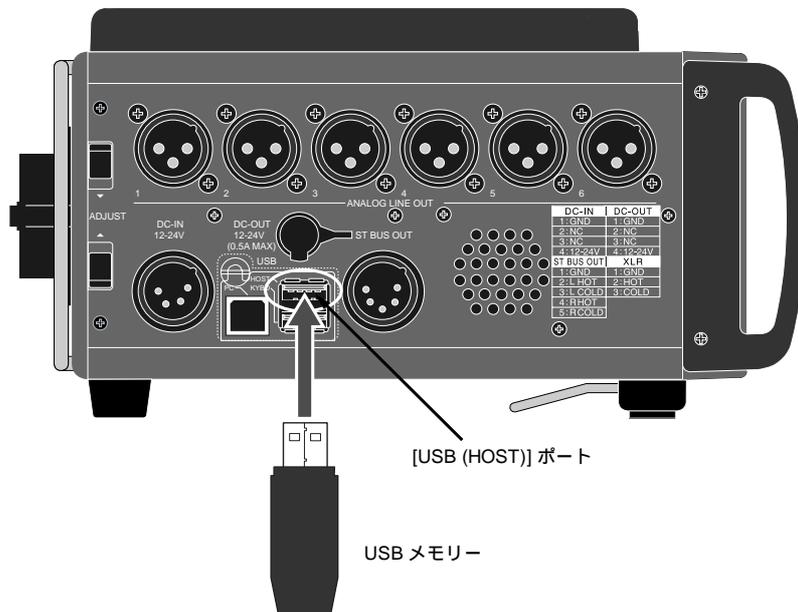
## [USB (HOST)] ポートの使用について

FAT16/FAT32 の USB メモリーを、本機左サイド・パネル部にある [USB (HOST)] ポートへ接続して使用します。USB メモリーは本機電源の ON/OFF に関わらず接続可能ですが、接続および取り外しする場合には下記事項にご注意ください。

< 接続時の注意 > : USB メモリーは、必ず上側の [USB (HOST)] ポートへ接続してください。下側の [USB (KYBD)] ポートは USB キーボード接続用のポートです。また、[USB (HOST)] ポートと [USB (PC)] ポートは、同時に接続しないでください。[USB (PC)] ポートに USB ケーブルが接続されている状態では、[USB (HOST)] ポートに接続する USB メモリーが認識されません。

< 取り外し時の注意 > : USB メモリーを [USB (HOST)] ポートから外す場合は、必ず USB メモリーのアクセスが停止していることを確認してから行ってください。メモリー内のデータ消失や、故障の原因となることがあります。

< USB メモリーに関する注意 > : ご使用いただく USB メモリーのコントローラとの相性によっては、本機で認識できなかったり、動作が不安定になる場合があります。あらかじめ使用する USB メモリーの動作をご確認の上ご使用ください。



# USB メモリーを使ったオート・コピー

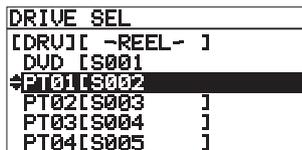
オート・コピーとは、内蔵HDDのパーティションへ記録するとき、記録するオーディオ・データと同様のファイルをDVD-RAMディスクへ自動的にコピーする機能ですが、バージョンアップによりコピー先のドライブにUSBメモリーが使用できるようになりました。これにより、パーティションへの記録時に加え、DVD-RAMディスクへの記録時にもUSBメモリーを使ってオート・コピーが実行できます。下記操作は、[USB (HOST)] ポートにUSBメモリーがマウントされていることを前提にしています。なお、DVD-RAMディスクを使ったオート・コピーについては、取扱説明書・本文の106ページをお読みください。

**< Memo >** : USBメモリーを使ったオート・コピーでは、コピー元となるパーティションやDVD-RAMディスク側のファイル・ネームのリネーム、FALSE START、CIRCLE TAKE、DISK UTILITYメニューにあるFile info内のEdit descriptor/XLM descriptor、およびフォルダー・ネームの変更を行った場合、USBメモリー側のデータにも反映されます。

**< Memo >** : USBメモリーを使ったオート・コピーでは、パーティション(またはDVD-RAMディスク)への記録が終了し、本機がSTOPモードになった時点でUSBメモリーへのコピーを実行します。なお、万一USBメモリーのセットを忘れていても、パーティション(またはDVD-RAMディスク)への記録中または終了後セットすることでコピーを開始します。

**< 注意 >** : USBメモリーをセットする前に本機の電源を切ると、USBメモリーにはコピーされません。

- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。カレント・ドライブのセレクト画面に変わります。



- (2) [MENU] ダイアルで記録するパーティションを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。ここでは例として、未記録のパーティション1(PT01)を選択し、下記Home画面が表示されていることを前提にします。



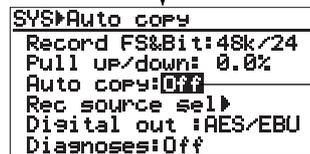
- (3) [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- (4) "SYS SETUP" メニューが反転している状態で、[ENTER/YES] キーを押します。SYS SETUPメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



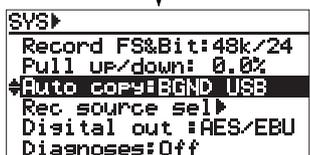
- (5) [MENU] ダイアルで "Auto copy" メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。現在設定されているオート・コピー・モードが点滅する画面に変わります(初期設定では "Off" が点滅します)。



オート・コピー・モードは、初期設定の "Off" 以外に "IMME" (Immediatelyモード)、"BGND" (Backgroundモード)、またはバージョンアップで追加した "BGND USB" (Background USBモード)が選択できます。

"IMME" と "BGND" はDVD-RAMディスクを使うときに選択し、USBメモリーを使うときは "BGND USB" を選択します。

- (6) [MENU] ダイアルでオート・コピー・モードに "BGND USB" を選択して [ENTER/YES] キーを押します。"Ready auto copy" を一瞬表示して、"BGND USB" モードが設定されます。



- (7) [EXIT] キーを押していき、MENUモードから抜け出します。MENUモードに入る前のHome画面に変わり、ディスプレイのステータス表示部下に "USB" マークが点灯します。



- (8) 記録するチャンネルの [READY] キーを押して、SAFE/READY を ON にした後 [REC] キーをスライドして記録を開始します。  
パーティーションのリメイン表示と、USBメモリーのリメイン表示が交互に点滅した状態で記録を開始します。
- (9) [PAUSE] キーを押して、記録を終了します。  
パーティーションへの記録が終了すると自動的にUSBメモリーへのコピーを開始し、開始時には “ Backup copy start!” を数秒点灯し、コピーが終了すると “ Backup copy Finished!” が点灯してHome画面に変わります。

<注意> :USBメモリーは、オート・コピー終了後USBメモリーのアクセスが完全に停止している状態で外してください。

<注意> : オート・コピーを必要としない場合は、“ Auto copy ”メニューを “ Off ” に設定し直してください。

<注意> :パーティーション (またはDVD-RAMディスク) への記録終了後USBメモリーへコピーが行われている間、あるいはUSBメモリーが未セットの状態パーティーション (またはDVD-RAMディスク) への記録終了後は、パーティーションの切り換えはできません (切り換えようとしても下記ポップアップが表示され、操作は無効となります)。

```
-- Busy ----
Pls wait & retry
```

他のパーティーションなどへの切り換えは、USBメモリーへのコピーが終了した時点で可能になります。

<Memo> :USBメモリーへのコピー実行中またはUSBメモリーをセットする前にオート・コピーを中止したい場合は、速やかにMENUモードの “ Auto copy ”メニューを “ Off ” に設定し直してください。

## USBメモリーを使ったファイル・コピー

ファイル・コピーとは、DVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのパーティーションに記録されているオーディオ・ファイルを、DVD-RAMディスクとパーティーション間 (または異なるパーティーション間) でファイル単位でコピーする機能ですが、コピー先にUSBメモリーが使用できるようになりました。ここではUSBメモリーを使ったファイル・コピーの操作手順のみを記載していますので、その他のファイル・コピーについては取扱説明書・本文の112ページを参照してください。

<注意> :USBメモリーを使ったファイル・コピーは、DVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのパーティーションとの間で実行できますが、あくまでもファイル・コピーのコピー先としてのみ使用でき、コピー元に使用することはできません。つまり、USBメモリー内にあるオーディオ・ファイルをDVD-RAMディスクや内蔵HDDのパーティーションへコピーすることはできませんのでご注意ください。

<注意> :DVD-RAMディスク (またはUSBメモリー) へのコピー時、コピー先と同じ名前のファイルが存在する場合は、コピーの対象に選択したファイルはキャンセルされてしまいます。また、同じ名前のALEファイルが存在する場合は、常にオーバー・ライトされALEファイルは更新されます。このようなことから、下記操作手順の (5) において “ <All Select> ” を選択することで効率良くフォルダー以下のコピーが作成できます。

下記操作は、カレント・ドライブのパーティーション1に記録されているオーディオ・ファイルを、USBメモリーへファイル単位でコピーすることを前提としています。

なお、DVD-RAMディスク (またはパーティーション) に複数のフォルダーが作成されている状態からコピーするフォルダーを選択するには、後述9ページに記載されている「任意のフォルダーを選択する」を参照して、事前に希望のフォルダーを選択してください。

- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```
MENU▶
SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
```

- (2) [MENU] ダイアルで “ DISK UTILITY ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“ DISK UTILITY ” メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
MENU▶
SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
```

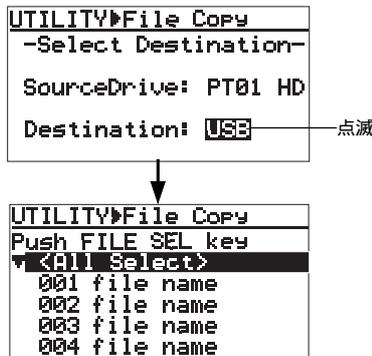
```
MENU▶DISK UTILITY▶
Edit file name▶
File info.▶
Delete file▶
Restore Del. file▶
Format▶
Reel No:[**** ]
```

- (3) [MENU] ダイアルで “ File copy ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
コピー先のドライブ (またはパーティーション) を選択する画面に変わります。

```
MENU▶DISK UTILITY▶
Part. protect:Off
File copy▶
Disk copy▶
Make folder▶
Edit folder name▶
HDD Ope. Time:***H
```

```
UTILITY▶File Copy
-Select Destination-
SourceDrive: PT01 HD
Destination: [UD] 点滅
```

- (4) [MENU] ダイアルでコピー先のドライブに “ USB ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
コピーするオーディオ・ファイルの選択画面に変わります。



(5) コピーするファイルを選択します。

全ファイルを選択する場合：  
 “<All Select>” が反転している状態で [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押すと、全ファイル・リストの先頭に「チェック・マーク」が付加されます。



個々のファイルを選択する場合：  
 [MENU] ダイアルで任意のファイルを選択して [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押すと、選択したファイル・リストのみに「チェック・マーク」が付加されます。



< Memo > : チェック・マークを解除するには、[MENU] ダイアルでファイル・リストを選択して再度 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押してください。

(6) ファイルの選択後、[ENTER/YES] キーを押します。  
 パーティション1からUSBメモリーへのファイル・コピーを開始し、終了すると“Completed!”が点灯します。



< Memo > : コピー先のUSBメモリーには、コピー元で選択したフォルダーと同名のフォルダーが作成され、そのフォルダーに選択したオーディオ・ファイルがコピーされます。また、ALEファイルは“Info”フォルダーにコピーされます。

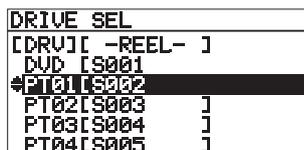
(7) [EXIT] キーを押して MENU モードから抜け出します。

## USBメモリーにコピーしたオーディオ・ファイルの再生

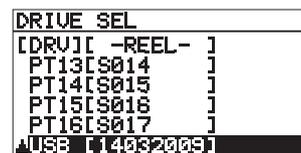
前述の「ファイル・コピー」や「オート・コピー」で、USBメモリーへコピーしたオーディオ・ファイル (BWFファイル) を再生して確認することができます。下記操作手順は、現在内蔵HDDのパーティション1 (PT01) に記録されているオーディオ・ファイルが立ち上がり、「ファイル・コピー」や「オート・コピー」でコピーしたUSBメモリーが [USB (HOST)] ポートにマウントされていることを前提にしています。

<注意> : PC側にあるオーディオ・ファイル (BWF) をUSBメモリーへコピーして本機で再生するには、再生するファイルが格納されているフォルダーごとコピーするか、ファイル単体をUSBメモリー内にある既存のフォルダーへコピーしてください。万一下図のようにオーディオ・ファイルのみをUSBメモリーにコピーした場合は、本機で認識できず再生することができません。

(1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。  
 カレント・ドライブのセレクト画面に変わります。



(2) [MENU] ダイアルを右 (時計方向) へ回していき、“USB” をカレント・ドライブに選択します。  
 マウントされたUSBメモリーは、ドライブ・セレクト画面の一番最後尾に表示されます。



(3) [ENTER/YES] キーを押します。  
 カレント・ドライブにUSBメモリーがセレクトされ、USBメモリー内のフォルダー・選択画面に変わります。



<注意> : USBメモリー内に“BFFF (bwff)” というネームのフォルダーしかない場合は、前述の「ディレクトリーのセレクト画面」を表示することなく、“BFFF (bwff)” フォルダー内に一番最初に格納されたオーディオ・ファイル (BWF) のHome画面で立ち上がります。

(4) [MENU] ダイアルで希望のフォルダーを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
 フォルダー内の一番最初にエントリされているオーディオ・ファイルが立ち上がり、再生が可能になります。



ドライブ・ネーム  
(USB)とファイル  
番号を表示します。

< Memo > : 選択したフォルダー内に格納されている任意のオーディオ・ファイルを選択するには、[◀◀] / [▶▶] キーを押して選択するか、[FILE SEL/DRV.PAT] キーを押した後ファイル・セレクト・モードを使って選択します (ファイル・セレクトの詳細については、取扱説明書・本文の 98 ページを参照してください)。

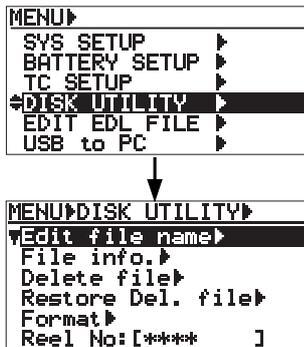
## USB メモリーのフォーマット

MENU モードの “DISK UTILITY” メニューにある “Format” メニューで、USB メモリーのフォーマットが可能になりました。USB メモリーのフォーマットは、既にフォーマットされている FAT16/FAT32 のまま、USB メモリー内にある全データを消去 (All Erase) して新たな Reel Number を付加します。ここでは USB メモリーのフォーマット手順を記載していますが、DVD-RAM ディスクおよび内蔵 HDD をフォーマットするには、取扱説明書・本文の 204 ページを参照してください。なお、下記操作は内蔵 HDD のパーティション 1 がカレント・ドライブにセレクトされ、本機の [USB (HOST)] ポートにフォーマットすべき USB メモリーがマウントされていることを前提としています。

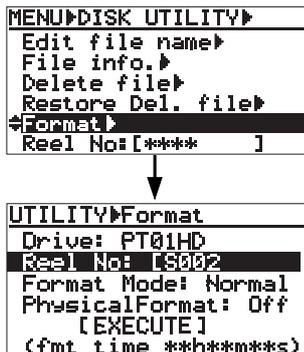
- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、Shift モードを ON した後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



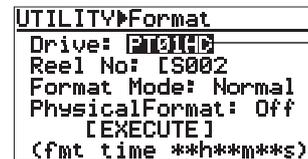
- (2) [MENU] ダイアルで “DISK UTILITY” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“DISK UTILITY” メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- (3) [MENU] ダイアルで “Format” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
フォーマットに必要な設定画面に変わります。



- (4) [MENU] ダイアルで “Drive: PT01HD” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
現在の設定が点滅し、ドライブの選択が可能になります。



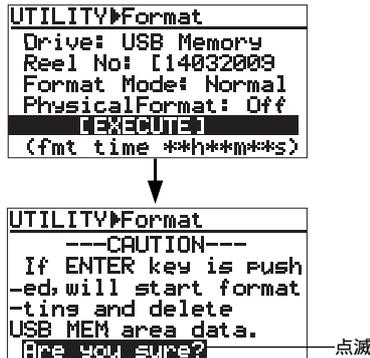
- (5) [MENU] ダイアルで “USB Memory” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
USBメモリーのReel Numberが反転する画面に変わります。初期設定のReel Numberは、USBメモリーをセットした年月日を8桁の数字で表示します。



ここでは、現在表示されている Reel Number のままつぎの操作へ進みます。任意に Reel Number を編集するには、取扱説明書・本文の 205 ページを参照してください。

< Memo > : USB メモリーのフォーマットでは、“Format Mode” (“Normal”) と “Physical Format” (“Off”) は現在表示されているモードで固定され、任意に選択することはできません。

- (6) [MENU] ダイヤルで “[EXECUTE]” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
警告画面に変わり、“Are you sure?” が点滅します。



- (7) [ENTER/YES] キーを押します。  
フォーマットが実行され、終了すると“Fmt.Completed!” が点灯します。



- (8) [EXIT] キーを押して MENU モードから抜け出します。  
カレント・ドライブがUSBメモリーに切り替わり、下記“-No files!” が点灯する Home 画面に変わります。



< Memo > : カレント・ドライブに内蔵HDDのパーティションが立ち上がっている状態でUSBメモリーをフォーマットすると、フォーマット後はUSBドライブで立ち上がります。

< 注意 > : フォーマットしたUSBメモリーには、リアルタイムに記録することはできません。  
本機で新たな記録を行うには、カレント・ドライブを切り換えてご使用ください。

## USBメモリーを使ったバージョンアップ

DVD-RAM ディスク / CD-ROM と同じ要領で、USBメモリーを使ってソフトウェアのバージョンアップが実行できます。  
バージョンアップを実行するためには、事前に当社ホームページ (<http://www.fostex.jp>) からバージョンアップ用のファイル (“PD606V\*\*\*.MOT”) をダウンロードして、PC側でUSBメモリーにファイルをコピーしてください。

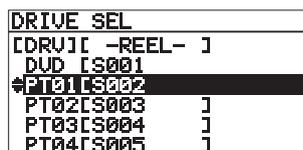
下記操作は、現在カレント・ドライブに内蔵HDDのパーティション1がセレクトされ、下記例のようなHome画面が立ち上がっていることを前提にしています。



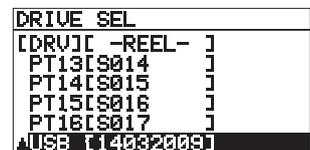
- (1) [USB (HOST)] ポートに、バージョンアップ用のファイルがコピーされたUSBメモリーをセットします。  
下記ポップアップ画面が一瞬点灯して、USBメモリーがマウントされたことを示します。

USB mem.attached

- (2) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。  
カレント・ドライブの選択画面に変わります。



- (3) [MENU] ダイヤルで “USB” をカレント・ドライブに選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
USBメモリー内のバージョンアップ用ファイルを読み込み、つぎの画面に変わります。



バージョンアップしない場合は、上記画面の状態で [EXIT] キーを押してください。

- (4) [ENTER/YES] キーを押します。  
バージョンアップが開始され、実行中を示すポップアップ画面が順に点滅して表示されます。  
終了するまでしばらくお待ちください。  
バージョンアップが終了と同時に、USBメモリーのHome画面に変わります。

< Memo > : USBメモリー内にバージョンアップ用のファイルしかない場合、バージョンアップ終了後のHome画面には “-No files!” が表示されます。

- (5) PD606 本体の電源を入れ直します。

## 記録用フォルダーの作成

未記録のDVD-RAM ディスク（または内蔵HDDのパーティション）に初めて記録すると自動的に“BWFF”フォルダーが作成され、記録したオーディオ・ファイルはその“BWFF”フォルダー内に格納されていましたが、バージョンアップにより記録したオーディオ・ファイルを格納するフォルダーをPD606本体で任意に作成することが可能になりました。

また、作成するフォルダーにはオリジナルのフォルダー・ネームも付けられ、フォルダー作成後も編集が可能です。

フォルダーの作成およびフォルダー・ネームの編集は、MENUモードの“DISK UTILITY”メニューに追加した“Make folder”メニューおよび“Edit folder name”メニューで実行できます（下記操作方を参照してください）。

### 新規にフォルダーを作成する

下記操作は、内蔵HDDのパーティション1がカレント・ドライブにセレクトされ、パーティション内の“BWFF”フォルダーに格納されているオーディオ・ファイルが立ち上がっていることを前提としています。

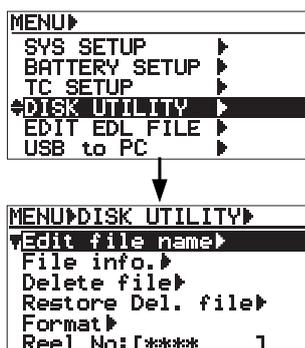
**<Memo>**：フォルダーは、自動的に作成されるBWFFフォルダーを含め最大32個まで作成可能です。これにより、記録可能なオーディオ・ファイル（BWF）は、250 × フォルダー数に拡張されました。

**<注意>**：USBメモリーには本機でフォルダーを作成できません。作成できるのは、カレント・ドライブにセレクトされたDVD-RAMディスクまたは内蔵HDDのパーティションです。

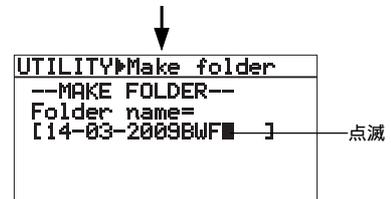
- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、ShiftモードをONにした後 [ENTER/YES] キーを押します。  
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- (2) [MENU] ダイアルで“DISK UTILITY”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
“DISK UTILITY”メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- (3) [MENU] ダイアルで新たに追加した“Make folder”メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。  
新たに作成するフォルダーのフォルダー・ネームを入力する画面に変わります。



- (4) 下記操作例を参照して、フォルダー・ネームを入力します。最大16文字まで入力が可能です。

#### カーソルを左右に移動する

[◀◀] キー / [▶▶] キーを押します。

#### 文字 / 記号などを入力する

カーソル位置で [MENU] ダイアルを操作するか、10 キーを押します。

#### カーソル位置の文字を消去する

[CLEAR] キーを押します。

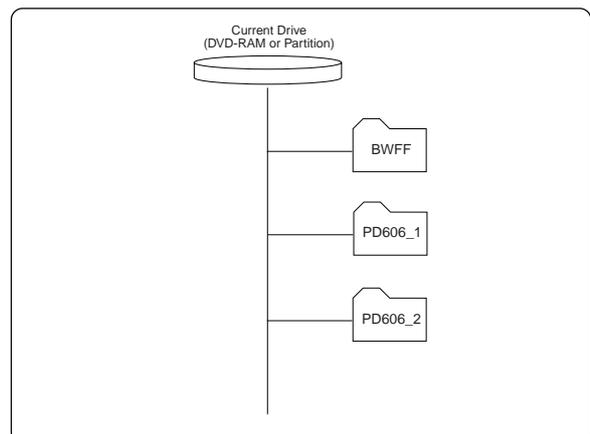
**<Memo>**：フォルダー・ネームを任意に編集せず、初期設定のまま作成することも可能です。フォルダー作成後にネームを編集するには、次項の「フォルダー・ネームの編集」を参照してください。

- (5) 入力終了後 [ENTER/YES] キーを押します。  
入力したフォルダー・ネームが確定し、MENUモードに入る前のHome画面に変わります。

### 任意のフォルダーを選択する

カレント・ドライブ（DVD-RAMまたは内蔵HDDのパーティション）に作成した複数のフォルダーから、記録/再生するフォルダーを選択します。

ここからの操作は、内蔵HDDのパーティション1に“BWFF”フォルダー以外に、“PD606\_1”フォルダーと“PD606\_2”フォルダー（いずれも仮名）が作成されていることを前提としています。



- (1) [SHIFT] キーを押して Shift モードを ON にした後、[FILE SEL/DRV.PAT] キーを押します。カレント・ドライブの選択画面に変わります。

```
DRIVE SEL
[DRV] [ -REEL- ]
DUD [S001
*PT01[S002
PT02[S003 ]
PT03[S004 ]
PT04[S005 ]
```

- (2) [MENU] ダイアルで “ PT01 [S002] ” を選択して、[ENTER/YES] キーを押します。パーティション 1 (PT01) 内に作成されている、フォルダーの選択画面に変わります。

```
DIRECTORY SEL
[DIRECTORY NAME]
*001 BWFF
002 PD606_1
003 PD606_2
```

**<Memo>**：上記フォルダーの選択画面例では、“ 001 BWFF ” が初めて記録したとき作成された BWFF フォルダーで、“ 002 PD606\_1 ” と “ 003 PD606\_2 ” が新規に作成したフォルダーを示しています。

- (3) [MENU] ダイアルで希望のフォルダーを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。選択したフォルダーに一番最初に格納されたオーディオ・ファイルの Home 画面に変わります。

**<注意>**：選択したフォルダー内にオーディオ・ファイルが存在しない場合は、下記例のように “ No files! ” を表示します。

```
--H--M--S--LTC
FILE-No files!-
P01-----
REF INPUT FRAME CLK FEEDBT
Analog ES INT 48/16
TERR TCERR UP/DW POWER
SERIAL RECR D.OZ BATT4
```

**<Memo>**：現在どのフォルダーが選択されているか確認するには、ファイルの Home 画面を表示している状態で [FILE SEL/DRV.PAT] キーを押してください。ファイル・セレクト画面 “ FILE SEL> ” の右 (下記矢印部分) に現在セレクトされているフォルダー名を表示します。下記例は、現在 BWFF フォルダーがセレクトされていることを示しています。

```
FILE SEL>BWFF ← BWFF
[FN0] [FILE NAME]
*001 Action-001.wav
002 Action-002.wav
003 Action-003.wav
004 Action-004.wav
005 Action-005.wav
```

## フォルダー・ネームを編集する

既存のフォルダー・ネームを編集して、再登録します。

**<注意>**：フォルダー・ネームの編集は、カレント・ドライブ内であらかじめ選択されたフォルダーのみ可能です。事前に編集するカレント・ドライブとフォルダーを選択してから下記操作を行ってください。

- (1) 停止状態で [SHIFT] キーを押して、Shift モードを ON にした後 [ENTER/YES] キーを押します。MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。

```
MENU▶
*SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
```

- (2) [MENU] ダイアルで “ DISK UTILITY ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。“ DISK UTILITY ” メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。

```
MENU▶
SYS SETUP ▶
BATTERY SETUP ▶
TC SETUP ▶
*DISK UTILITY ▶
EDIT EDL FILE ▶
USB to PC ▶
```

```
MENU▶DISK UTILITY▶
*Edit file name▶
File info.▶
Delete file▶
Restore Del. file▶
Format▶
Reel No:[***** ]
```

- (3) [MENU] ダイアルで新たに追加した “ Edit folder name ” メニューを選択して、[ENTER/YES] キーを押します。カレント・フォルダーのフォルダー・ネームを入力する画面に変わります。

```
MENU▶DISK UTILITY▶
Part. protect:Off
File copy▶
Disk copy▶
Make folder▶
*Edit folder name▶
HDD Ore. Time!***H
```

```
UTILITY▶Folder name
--EDIT FOLDER NAME--
[BWFF ]
```

カーソル点滅

- (4) 任意のフォルダー・ネームに編集します。前述 9 ページ記載の入力方法を参照してください。
- (5) ネーム入力終了後、[ENTER/YES] キーを押します。入力したフォルダー・ネームが確定し、MENU モードに入る前の Home 画面に変わります。

**Fostex** フォステクス カンパニー

国内営業グループ

196-0021 東京都昭島市武蔵野 3-2-35  
042-546-6355 FAX. 042-546-6067